

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 20 号 (2014 年度)

KPMNH Yearbook

No. 20

2014.4 – 2015.3

Web版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Nov. 2015

ごあいさつ

日頃より、当館の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
さて、当館の昨年度（2014年度）の様々な活動の記録をまとめた、年報第20号
を刊行することができました。

当館は、1995年の開館以来、博物館法による登録博物館として神奈川県条例に基づき、その使命を果たすべく運営・活動を続けています。当館の基本的な活動は、神奈川を中心に国内外の自然史資料を収集・収蔵管理し（集める）、それらの資料を基にした調査・研究活動を行い（調べる）、その成果を展示活動や普及活動で利用者に伝える（伝える）ことです。ここではまず2014年度の活動実績を簡単に紹介します。収集・収蔵管理活動では、年間登録点数は約46,000点で、総登録点数が約65万点になりました。調査研究活動では、館内の研究課題だけでなく文部科学省科学研究費など外部資金による研究課題を推進し、その成果が60編以上の論文をはじめとして、多数の学会発表などにより公表されました。そして、これまでの資料収集、調査研究の活動を基にして、特別展「どうする?どうなる!外来生物」や企画展「恐竜の玉手箱」などの展示活動や、シンポジウムや講演会、講座、野外観察会など多様な普及活動を実施しました。一方、資料の同定や質問など外部からの問い合わせに対応するレファレンスも随時行いました。これらの博物館利用者は、2014年度では32万人を越えました。

本年（2015年）8月には総入館者数が600万人を超え、様々な場面で多くの方のお役に立ててきたと自負しています。しかし、博物館の評価軸は入館者数だけではありません。博物館活動の根幹である資料収集活動（集める）や調査研究活動（調べる）、そして特別展や企画展などの各種展示活動、さらには各種講座や観察会、レファレンスなど様々な普及活動（伝える）も評価軸とすべきものです。2015年3月に当館で開催したミューズフェスタ2015では、当館の20年間の活動を振り返ることから、博物館の評価軸を考える機会としました。今後も、評価軸についての検討を進めていきます。

当館は、これまでと変わらず自然の証拠である自然史資料の蓄積と研究を継続的に進め、その成果を展示や普及活動に活かしながら、貴重な資料を将来・未来につなぐことを務めていきます。今後も皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いします。

2015年11月
神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 平田 大二

— 神奈川県立生命の星・地球博物館の使命 —

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として

地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ	1	5.6. 博物館のボランティア活動.....	69
神奈川県立生命の星・地球博物館の使命	2	5.7. 広報	72
シンボルマーク・ロゴタイプ	2	6. 刊行物	74
I 沿革	4	6.1. 定期刊行物	74
1. 沿革	4	6.2. 刊行物販売状況	75
2. 2014 年度の主な出来事	5	7. 情報システム	76
II 機能	6	7.1. システムの概要	76
1. 運営管理機能	6	7.2. サブシステムの紹介	77
1.1. 事業体系	6	7.3. インターネットの利用	78
1.2. 組織	7	7.4. 情報提供	78
1.3. 職員名簿	8	8. 連携機能	79
1.4. 利用者	8	8.1. 友の会	79
1.5. 歳入歳出決算	9	8.2. サロン・ド・小田原	81
2. 情報発信機能	9	8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	82
2.1. 常設展示	9	8.4. 館内施設等の状況	83
2.2. 特別展示	12	III 資料	85
2.3. 活動報告展およびその他の展示	14	1. 条例・規則	85
2.4. SEISA ミュージアムシアター	15	1.1. 神奈川県立の博物館条例	85
2.5. ミューズ・フェスタ 2015	17	1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	86
3. シンクタンク機能	19	1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則	86
3.1. 調査研究事業	19	2. 館年表	88
3.2. 研究発表会	20	2.1. 再編整備決定から開館まで	88
3.3. 研究助成金による研究	20	2.2. 開館から 2014 年度末まで	88
3.4. 著作活動・学会発表等	21	3. 統計資料	91
3.5. レファレンス件数	33	3.1. 利用者状況	91
3.6. 各種委員・役員・非常勤講師	34	3.2. 年度別利用者数の推移	92
3.7. 講師依頼等	36	3.3. 特別展・企画展開催実績	93
3.8. 学術交流	38	3.4. 資料登録実績	95
3.9. 他施設・団体への協力	39	3.5. ホームページアクセス実績	96
3.10. 外部研究者の受け入れ	40	3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	96
3.11. 名誉館員	41	3.7. FishPix のアクセス実績	96
4. データバンク機能	41	3.8. WESCAMS ミュージアム・リレー開催記録	97
4.1. 資料概況	41	3.9. 来館者アンケート	101
4.2. 図書資料収集状況	49	4. 調査研究関連資料	102
4.3. 資料利用状況	50	4.1. 研究成果	102
4.4. 資料燻蒸	51	4.2. 研究成果（外部資金助成・共同研究等）	109
5. 学習支援機能	52	5. 施設概要	112
5.1. 生涯学習への対応	52	5.1. 土地・建物	112
5.2. 学校教育への対応	59	5.2. 設備	113
5.3. 博物館実習	64	5.3. 面積表	115
5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	65	5.4. 平面図	116
5.5. 学習指導員による学習支援活動	65	ご利用案内	118

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇陛下・皇后陛下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。 斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達（4,863 日目）
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達（5,183 日目）
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達（5,716 日目）
	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
	4 月 1 日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任

2. 2014 年度の主な出来事

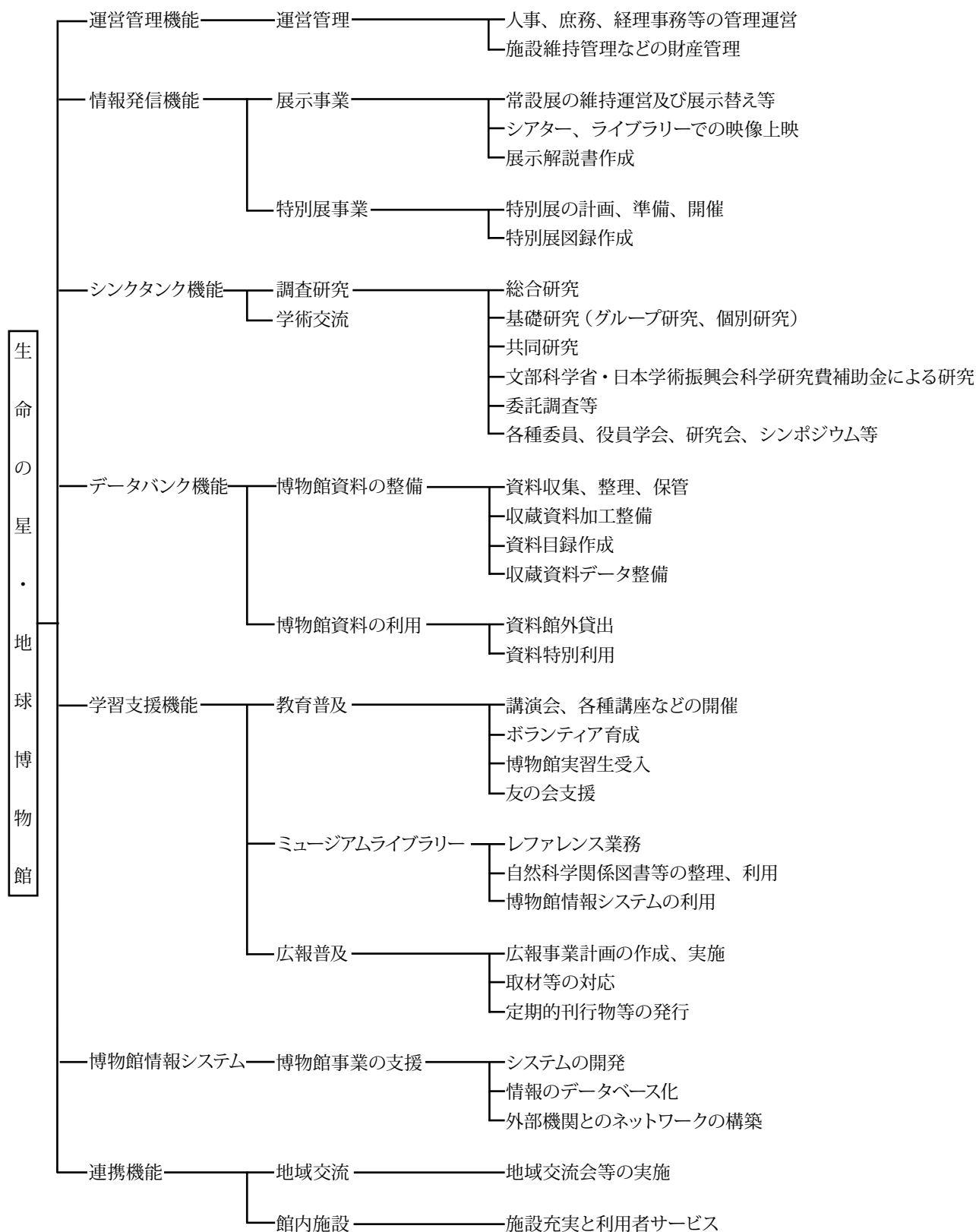
2014年	4月 1日	定期人事異動
	4月19日～5月25日	企画展「学芸員の活動報告」
	5月16日	ミュージアム・リレー200走
	5月24日	サロン・ド・小田原「自然界の“エイリアン”寄生バチの驚くべき世界」
	6月14日	サロン・ド・小田原「身近な水辺に棲む魚たちの保全」
	6月24日～27日	燻蒸
	7月19日～11月 3日	特別展「どうする？どうなる！外来生物 とりもどそう私たちの原風景」
	7月21日～ 8月31日	夏休み期間中無休開館期間
	9月 6日	サロン・ド・小田原「西へ東へ！カナダガン追っかけ10年間の記録」
	9月 9日	防災訓練
	10月18日	特別展関連 講演会「外来生物対策の現場から」
	10月18日	サロン・ド・小田原「たかがタネ、されどタネ - 種子散布の世界 - 」
	11月14日～17日	日本魚類学会
	12月 6日	サロン・ド・小田原「現生動物を使った絶滅は虫類の復元」
	12月13日～3月 1日	企画展「恐竜の玉手箱」
2015年	1月17日	地震津波シンポジウム・特別企画展示
	2月 7日	サロン・ド・小田原「“恐竜の玉手箱”を楽しむ」
	2月 8日～22日	博物館ボランティア入門講座（3～5日間）
	2月18日・19日	定期監査（平成26年度対象）
	3月14日・15日	ミューズ・フェスタ2015
	3月21日～4月 5日	子ども自然科学作品展

博物館の再編整備の決定以降、2014 年度までの出来事の
詳細に関しては、資料の項（88～90 ページ）に掲載した。

II 機能

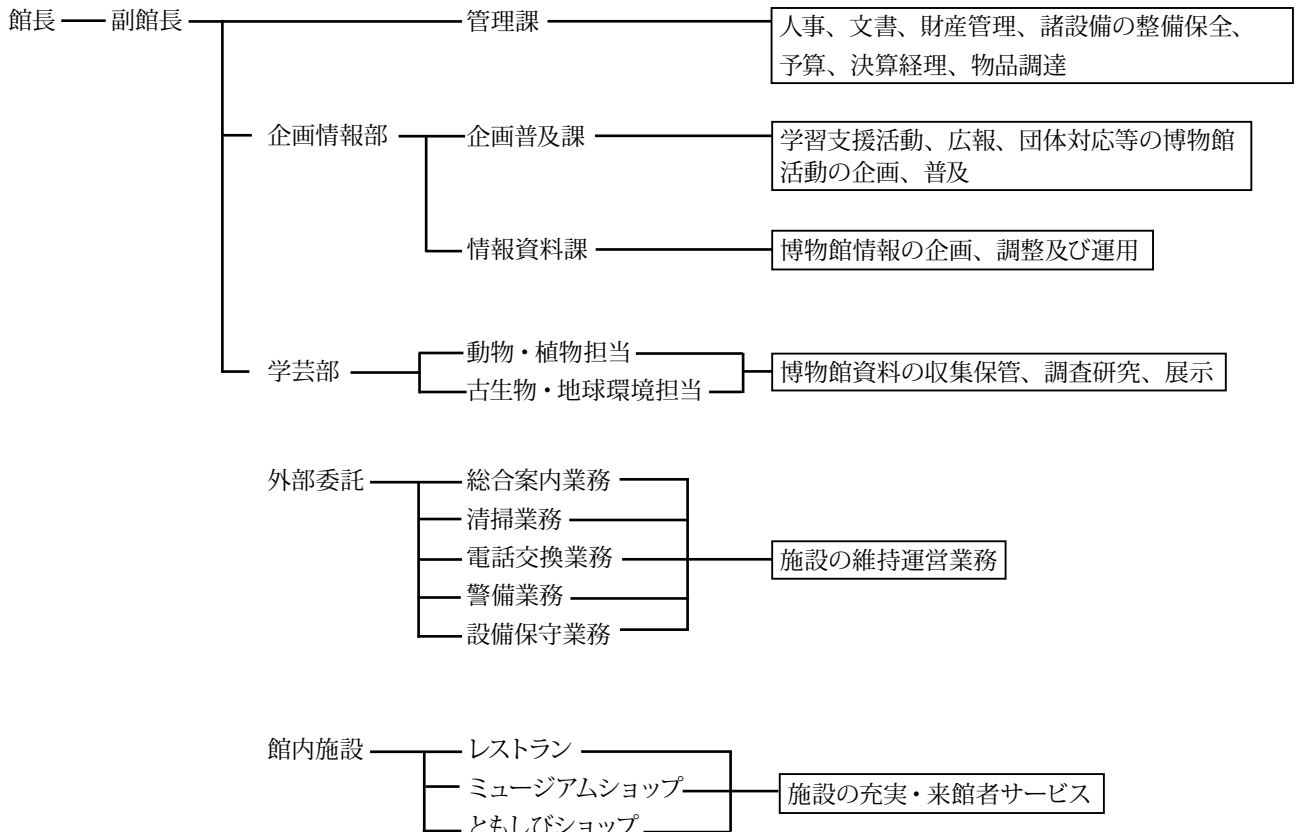
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

[平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日]												
区分	常勤					非常勤					合計	
	館長	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員	名誉館長	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員
名誉館長							1					1
館長	1											1
副館長		1										1
管理課		9	1									10
企画情報部	部長	1										1
	企画普及課	3		4	2		1		1		4	15
	情報資料課	1		2	1		1			1		6
	小計	5		6	1	2	2		1	1	4	22
学芸部	部長			1								1
	動物・植物			5						1		6
	古生物・地球環境			5								5
	小計			11						1		12
合計	1	15	1	17	1	2	1	2		2	1	4
	37					10					47	

指導員＝博物館学習指導員
再任用職員は常勤に含む

1.3. 職員名簿

掲載省略

1.4. 利用者

2014年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。詳細な利用者統計に関しては、個別に掲載（学芸員によるレファレンス対応数は33ページ、それ以外の利用者状況詳細は91～92ページ、開館以来の入館者実績は92ページ）。

◆博物館利用者 326,030 人

2014年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「学芸員への質問・相談利用者」の合計（開館時間以外に利用された場合も含む）。

◆入館者 310,088人（1,069人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。「常設展入場者」＋「特別展・企画展入場者」＋「ライブラリー利用者」の合計から重複を除いた実入館者数に概ね一致。

◆常設展入場者 227,354人（784人／開館日）

発券数により集計。

◆特別展・企画展等入場者 117,841人

展示室入口に設置したカウンターにより集計。「特別展」、「企画展」を主とした、特別展示室入場者数。（詳細は92ページ参照。）

◆ライブラリー利用者 92,401人

ミュージアムライブラリーの利用者合計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。ライブラリーに設置したカウンターにより集計。

◆講座・観察会・研修等参加者 14,631人

講座・観察会・講演会、研修・出前講座（館主催でないものを含む）、サロン・ド・小田原、ミュージズフェスタなどの参加者。

◆学芸員への質問・相談者 3,766人

学芸員によるレファレンス対応人数（来館・電話・FAX・手紙・Eメールなどによる。マスコミ取材・企業・自治体からの質問・相談を含む。詳細は33ページ参照。）。

1.5. 歳入歳出決算

平成26年度歳入

科目	金額（千円）	内訳
教育財産使用料	1,972	レストランほか建物等使用料
博物館使用料	44,936	観覧料収入
		常設展 40,455
		特別展 4,481
立替収入	1,777	レストランほか電気・ガス・水道
雑入	1,606	展示解説書等販売収入 ライブラリー複写代等
合計	50,291	

平成26年度歳出（人件費を含まず）

科目	金額（千円）	内訳
維持運営費	170,994	館の維持管理及び事業運営
展示事業費	10,911	総合案内業務 特別展の開催
調査研究事業費	1,240	総合研究・基礎研究 調査研究報告書の作成
資料整備費	2,074	博物館資料収集 収蔵展示資料修繕・加工
学習支援事業費	1,584	各種講座・講演会等の開催・図書等資料 整備・広報資料作成
情報システム整備費	2,011	データ入力等
合計	188,814	

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映するSEISAミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールでは、地球の環境に生息していた生物を代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トウブクサーラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を

繰り返し上映している。この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障害者への対応を行っているが、2006年7月より日本語字幕を追加した。

また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

展示室1「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

展示室2「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

展示室3「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

展示室4「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2014年度の展示変更および更新

「生命を考える」展示室・「昆虫の世界」展示更新

[展示期間] 2015年1月7日～

「展示概要」

生命展示室の昆虫の多様性の展示にて、新規標本を追加した。

[展示内容]

フンコロガシ類

オウサマダイコクコガネ 4頭

ムラサキオオダイコクコガネ 10頭

テリオウニジダイコク 7頭

カブトエンマコガネ 10頭

メキシコニジダイコク 7頭

ツノセンチコガネ 5頭

[担当] 渡辺恭平・苅部治紀

[協力] 学芸員実習生

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（春の植物）』

[展示期間] 2014年4月4日～2014年7月18日

[展示内容] 初夏は樹木の花盛り

原色標本：コゴメウツギ・ガクウツギ・ヒメウツギ・マルバウツギ・ミツバウツギ・ミズキ・クロモジ・ヤマツツジ・コバノガマズミ・ジャケツイバラ・アマドコロ・ニリンソウ・セントウソウ・ミツバツチグリ・ヨゴレネコノメキジムシロ・フデリンドウ・ジュウニヒトエ・ミヤマキケマン・ホウチャクソウ・オドリコソウ・ムラサキケマン・ナズナ・トウダイグサ・タネツケバナ・キュウリグサ・スズメノヤリ・ヒメオドリコソウ・ホトケノザ・オヘビイチゴ・オニタビラコ
模型：ニシキウツギ・ゴヨウツツジ・トウゴクミツバツツジ・バイカツツジ・スミレ・マルバスマレ・アカネスミレ・タチツボスマレ・タガラシ・カタクリ・イチリンソウ

[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘

[協力] 植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（夏の植物）』

[展示期間] 2014年7月18日～2014年11月14日

[展示内容] 夏の草原の草花

原色標本：オオダイコンソウ・キオン・ヨツバヒヨドリ・クサレダマほか

[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘

[協力] 植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（冬の植物）』

[展示期間] 2014年11月14日～2015年3月6日

[展示内容] 冬の野山で“たね”をさがそう！

原色標本：ヤブマメ・ノササゲ・コブナグサ・トキリマメ・エノキ・ダンコウバイ・エビヅル・ゲンノショウコ・アマチャヅル・フジ・ハス・ネムノキ・ウバユリ・カゼクサ・エノコログサ・ガマ・セイタカアワダチソウ・ツルヨシ・テイカカズラ・ガガイモ・コボタンヅル・センニンソウ・スダジイ・マテバシイ・クリ・クヌギ・オニグルミ・トチノキほか

[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘

[協力] 植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（春の植物）』

[展示期間] 2015年3月6日～2015年6月12日

[展示内容] 春に咲く樹の花、スミレ！

原色標本：ヤマザクラ・オオシマザクラ・ヤマツツジ・ミツバツツジ・ツクバネウツギ・オオツクバネウツギ・モミジイチゴ・クサイチゴ・ミツデカエデ・イタヤカエデ・イロハモミジ・チドリノキ・クヌギ・クマシデ・エイザンスミレ・アメリカスミレサイシン・

エゾノタチツボスミレ・スミレ・タチツボスミレほか
模型：マルバスミレ・スミレ・エイザンスミレ・アケ

ボノスミレ・アカネスミレ・シコクスミレ・ナガバノ
スミレサイシン

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」前にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報を提供する企画展示コーナーが設置されている。

情報展示パネル

〔展示内容〕 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

〔展示更新〕 随時

〔担当〕 博物館友の会広報部

企画展示コーナー

最長3カ月を目安に、最新の情報を提供することを目的として展示替えを行った。

「自然科学のとびら」77号とその関連資料の紹介

〔展示内容〕 拡大印刷した本誌とその内容に沿って、名倉コレクション（貝類）の一部や構造色を発するタマムシやチョウ、各地の博物館の図録などを合わせて展示した。

〔開催期間〕 平成26年8月8日～平成26年8月31日

〔担当〕 大島光春・佐藤武宏・渡辺恭平

たかがタネ、されどタネー種子散布の世界ー

〔展示内容〕 生物は子孫を残すために様々な工夫をこらしており、植物のタネにも様々な戦略が見られる。それぞれに散布に適した多様なタネ自身のスタイル（形）を紹介した。

〔開催期間〕 平成26年9月28日～平成26年11月1日

〔展示資料〕 カントウタンポポ、イロハモミジ、ライオンゴロシ、フタゴヤシなど160種。

〔担当〕 野田啓司（海老名市立海老名中学校）、田口公則（受入担当）

市街地と里山の外来生物

〔展示内容〕 私たちにとって最も身近な環境である市街地と里山で見られるハクビシンやガビチョウ、ミシシippアカミミガメ、シンテッポウユリ、アカボシゴマダラといった外来生物を標本や模型、解説パネルで紹介した。

〔開催期間〕 平成26年11月8日（土）～平成27年1月8日（木）46日間

〔展示資料〕 哺乳類本はく製3点・鳥類本はく製3点・爬虫類本はく製2点・植物模型1点・アメリカザリガニ液浸標本1点・昆虫標本80点

〔担当〕 大西 亘・折原貴道・渡辺恭平・大坪 奏・加藤 ゆき

2014年度昆虫採集講座 活動報告 ～学生が作成した昆虫標本～

〔展示内容〕 2014年度に博物館で学生を対象に行われた、昆虫採集講座の活動報告と、講座に参加した学生が作製した昆虫の標本を展示した。学生達の野外活動の成果を示した。

〔開催期間〕 平成27年1月12日～平成27年2月22日

〔展示資料〕 学生が作製した昆虫標本約80点
解説・写真パネル 7点

〔担当〕 渡辺恭平

あの日を忘れないためにー2011年東北地方太平洋沖地震と東日本大震災

〔展示内容〕 2011年3月11日午後2時46分に起きた東北地方太平洋沖地震（マグニチュード9.0）は、東日本全体で大きな揺れによる被害が起きただけでなく、東北地方から北関東地方の太平洋沿岸に巨大津波が押し寄せ、過去に例を見ない大災害となった。展示では4年前におきた未曾有の大災害を忘れないために、当時の被災地で行われた救援活動の写真パネルを中心に展示した。

〔開催期間〕 2015年3月11日～2015年3月29日

〔展示資料〕 パネル8点、図書18点

〔担当〕 平田大二（協力：東北大学）

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2014年度は特別展を1回、企画展を1回開催した。

2.2.1. 特別展

特別展 どうする？どうなる！外来生物 とりもどそう
私たちの原風景

〔開催期間〕 2014年7月19日（土）～11月3日（月・祝）97日間

〔会場〕 特別展示室

〔後援〕 神奈川新聞社

〔協力〕 荒谷邦雄・安西 航・石井 隆・池内俊雄・石田晃浩・石浜佐栄子・伊藤誠人・石原龍雄・稲葉重樹・上野高敏・岡野美佐夫・奥島雄一・押上真一・川島逸郎・呉地正行・佐伯真美・佐野真吾・重永明生・篠田授樹・嶋津信彦・白井 啓・須田真一・高田昌彦・田口公則・田口勇輝・田中徳久・一寸木 肇・西原昇吾・葉山佳代・葉山久世・深野祐也・藤井 幹・町田 誠・松尾和典・松本令以・間野隆裕・森 英章・焼田理一郎・大阪市立自然史博物館・小笠原自然文化研究所・カナダガン調査グループ・京都水族館・丹沢湖ビジターセンター・日本森林技術協会・広島市安佐動物公園・琵琶湖を戻す会

〔展示担当〕 加藤ゆき・苅部治紀・勝山輝男・広谷浩子・瀬能 宏・佐藤武宏・松本涼子・大坪 奏・大西 亘・折原貴道・渡辺恭平

〔解説パネルイラスト〕 星野美和子

〔展示サポート〕 相川 稔・岩本哲郎・加賀玲子・木村元美・木村洋子・佐藤友記・高橋里恵・高橋律子・渡邊かをり

〔資料点数〕

解説パネル95点、標本600点、生体10種40点

〔展示内容〕

近年、各地で問題になっている「外来生物」をテーマに、その由来や生息状況をはじめ、実際に定着した外来生物が引き起こしている様々な事例と対策を紹介した。写真や解説パネルのほか、外来種であるホテイアオイやアメリカザリガニ、ミシシippアカミミガメ、在来種オオサンショウウオと外来種チュウゴクオオサンショウウオの交雑個体の生体展示を行った。

◎シンボル展示

ワニガメやオオクチバス、アライグマ、アカボシゴマダラ、アメリカザリガニ、ソウシチョウといった代表的な外来生物の剥製や模型を展示、その由来や生息状況を紹介した。

◎外来生物ってなあに？

外来生物について、その概要や導入の歴史、由来、関

連する法律などを紹介。国外由来の外来生物だけではなく、国内由来のものについても標本と解説パネルで紹介した。

◎あなたも当事者？ペットの放野

カブトムシやグッピーなど、ペット動物として人気の生きものを野外に放す行為が増えている。ペットにとって良かれと思ってやった行為が、新たな外来生物を生みだした事例を標本と解説パネルで紹介した

◎あらゆる環境で見られる外来生物

いまや河川敷や湖沼、私たちの家の周りや里山、そして海にも外来生物は見られる。展示ケースをジオラマに見立て、それぞれの環境で見られる外来生物を標本や模型と解説パネルで紹介した。

◎外来生物対策の現場から

日本だけではなく、世界各地で外来生物による生態系への影響が出始めている。ここでは、各地で行われている外来生物の対策事例を標本と解説パネルで紹介した。

◎とりもどそう私たちの原風景

展示のまとめとして、私たちが取り戻すべき原風景とはどのようなものなのか、解説パネルで紹介した。

◎子どもコーナー

次世代を担う子どもたちに外来生物への認識を深めてもらうために、子ども向け展示パネルや体験コーナーを設けた

◎生きもの展示

侵略的外来種アメリカザリガニやミシシippアカミミガメ、ホテイアオイ、在来種オオサンショウウオと外来種チュウゴクオオサンショウウオの交雑個体などの生体を展示した。「カメをさがそう」の水槽では、外来種と在来種のカメを見比べることができ、野外で両者を見分けるポイントをクイズやパネルで紹介した。10月10日からは、日本の在来種オオサンショウウオと中国原産の外来種チュウゴクオオサンショウウオとの交雑種を京都水族館から借用、展示した。

〔展示解説書〕 編集：加藤ゆき・松本涼子・大西 亘
編集協力：高桑正敏 表紙原画：小川元気 デザイン：加藤ゆき 執筆：安西 航・石田晃浩・稲葉 重樹・大西 亘・岡野美佐夫・勝山輝男・加藤ゆき・苅部治紀・川島逸郎・佐藤武宏・嶋津信彦・白井 啓・須田真一・瀬能 宏・高桑正敏・高田昌彦・田口勇輝・一寸木肇・西原昇吾・葉山久世・広谷浩子・深野祐也・藤井

幹・松本涼子・間野隆裕・森 英章・渡辺恭平
 [ポスター・ちらし・招待券] 小川元気(原画)・木村恭子(デザイン)
 [入場者数] 74,252人
 [関連行事]
 ◎外来生物のすんでいる池を訪ねよう [室内実習と野外観察]
 【日時】2014年4月26日(土)・5月10日(土)・6月15日(日)・9月21日(日)・10月18日(土) 各9時30分～16時
 【場所】川崎市麻生区
 【協力】はるひ野里山学校
 【講師】荻部治紀・勝山輝男・広谷浩子・佐藤武宏・加藤ゆき・大坪 奏
 【参加者数】合計72人
 ◎外来生物問題について考えよう [講義]
 【日時】2014年8月16日(土) 10時～16時
 【場所】当館講義室・特別展示室
 【講師】勝山輝男・広谷浩子・荻部治紀・佐藤武宏・加藤ゆき
 【参加者数】47人

◎特別展関連講演会「外来生物対策の現場から」
 【日時】2014年10月18日(土) 13時30分～16時
 【場所】当館SEISAミュージアムシアター
 【演者】高田昌彦(琵琶湖を戻す会 代表)・田口勇輝(広島市安佐動物公園 飼育技師)・西原昇吾(東京大学大学院)
 【参加者数】103人
 ◎ミニワークショップ「がいらいせいぶつのシール絵本づくり」
 【日時】2014年7月26日(土)・8月2日(土)・8月9日(土)・8月23日(土) 各13時～15時
 【場所】当館特別展示室
 【対応】大坪 奏・広谷浩子・加藤ゆき・木村恭子・加賀玲子・木村元美・木村洋子
 【参加者数】合計281人
 ◎第112回サロン・ド・小田原「西へ東へ! カナダガン追っかけ10年間の記録」(友の会共催)
 【日時】2014年9月6日(土) 17時30分～18時30分
 【場所】当館講義室
 【話題提供】加藤ゆき(当館鳥類担当学芸員)
 【参加者数】43人

2.2.2. 企画展

企画展 恐竜の玉手箱

[開催期間] 2014年12月13日(土)～2015年3月1日(日) 53日間
 [会場] 特別展示室
 [協力] 林原自然科学博物館、小田急グループ、文化堂印刷
 [展示担当] 大島光春、田口公則
 [展示分担・体験アクティビティ協力] 広谷浩子、加藤ゆき、星野美和子、大坪 奏、小柳建興、高橋里恵、相川 稔、加賀玲子、木村洋子、碓 京子、雨宮千嘉、井島真知、山田洋子
 [ボランティア] 安藤登茂子、飯嶋 晃、飯島俊幸、石渡弘英、磯崎 誠、内野 哲、加賀玲子、川名ひろみ、北澤敬子、木村洋子、小柳建興、末永葉子、高橋里恵、竹中隆次、立松義康、柳井光子、山崎 亨、山田洋子
 [展示内容] 林原自然科学博物館より受贈した教育用標本・資料(主に恐竜に関連した化石・レプリカ標本)と当博物館所蔵標本で展示構成し企画展を開催した。また、体験アクティビティを併設実施した。
 [展示項目]
 導入
 ◎走馬燈ー恐竜の動く影ー(教材5件)
 ◎あいさつ
 展示コーナー
 ◎しっぽゾーン: ステゴサウルスのスパイク、しっぽバルーンなど(標本4点、教材3件)

◎あしゾーン: ヴェロキラプトル、ティラノサウルスの後肢、アロサウルスの足跡など(標本22点、教材2件)
 ◎どうたいゾーン: ヘスペロサウルスの背板、鎧竜のスキュートなど(標本6点、教材4件)
 ◎あたまゾーン: ティラノサウルス、タルボサウルス、サイカニア、トリケラトプス(クリーニング中)など(標本57点、教材3件)
 ◎実物大復元画コーナー: 実物大恐竜復元画の垂れ幕(4件)
 ◎カセキットコーナー: 人類展示、アンモナイト、教育用標本を用いたワークショップ紹介など(標本155点、教材21件)・恐竜化石産地大判プリント(14件)体験アクティビティ
 「展示標本と復元画を行き来する」、「やってみよう! フクワライサウルス」、「恐竜フロッタージュ」、「恐竜の名前スタンプ」、「恐竜の目はどこ?(なんちゃってAR)」、「トリプリント(3Dプリント・フットプリント・スプリント)」、「足跡型押し(エンボッサー)」、「ダイノロイド(しっぽ体験)」(8件)
 [関連行事]

第115回サロン・ド・小田原『“恐竜の玉手箱”をたのしむ』を2015年2月7日(土)に実施
 [ポスター・ちらし] 田口公則
 [入場者数] 30,786人

2.3. 活動報告展およびその他の展示

特定の調査研究や資料収集に限らず、広く博物館活動を紹介し、また地域との連携協力の結果としての展示を、当館特別展示室を中心として行っている。

2.3.1. 活動報告展

博物館業務は、調査研究、資料収集、教育普及、展示など、多岐にわたっているが、展示を除いて、その内容を紹介する機会は少ない。そこで、年間の活動を報告する機会を設け、博物館活動、特に学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として、活動報告展を実施している。

活動報告展（2013年度の活動報告）

〔開催期間〕 2014年4月19日（土）～5月25日（日）
29日間

〔会場〕 特別展示室

〔入場者数〕 11,626人

〔企画担当〕 大西 亘

〔展示担当〕 石浜佐栄子・大島光春・大坪 奏・大西亘・折原貴道・笠間友博・勝山輝男・加藤ゆき・苅部治紀・佐藤武宏・瀬能 宏・田口公則・田中徳久・樽創・新井田秀一・平田大二・広谷浩子・松本涼子・山下浩之・渡辺恭平（以上学芸員）、小坂井千夏（特別研究員）・宮崎佑介（特別研究員）、中島淳志（外来研究員）・矢野倫子（外来研究員）

〔内容〕

各学芸員が特に1つの事業を選んで紹介し、全体として、博物館活動、学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として展示を行った。

ただし、個別研究の最終年度にあたっての学芸員については、その成果を発表することを必須とした。

また、博物館教育普及事業に関連して、博物館ちよこっと体験コーナーの活動報告を紹介する展示を行った。

1. 資料収集事業の紹介

「大井町メガソーラー工事現場で出現した箱根東京テフラ」「2013オマーン調査報告」「ホタテの仲間を集めました」「電子百科に公開！「神奈川の空から見た景観写真」」

2. 調査研究事業の紹介

「有孔虫から見た過去13万年の日本海の環境変動とガスハイドレート」「東京湾の沿岸で発見されたイノシシ化石」「植物体内に潜む「見えないきのこ」を調べる」「イグチ科における地下生トリュフ型菌の未知系統の探索と分類」「ネパールのスゲ属植物」「外来種カナダガンはどこにいる？～追跡調査の結果から～」」「神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大についてーホソミイトンボ県東部へ、台湾ンウチワヤンマ定着か？ー」「干潟のチゴガニのウェイピング行動」「相模湾の沿岸魚類相：過去3年間の成果を振り返る」「古瀬コレクションに含まれるタイプ標本」「神奈川県内の第四系産微化石資料（貝形虫）」「レーザー測量による箱根周辺の詳細な地形」「2013年度連続講座「地球46億年ものがたり」ー展示室で読み解く地球史ー（仮題）」「おもしろい展示か？ ためになる展示か？ ー展示のことばと来館者行動の調査スタートアップ報告ー」「現生動物を使った絶滅動物の動きの復元」「南フィリピン海パレスベラ海盆における海洋コアコンプレックス形成末期に産する深成岩類の岩石学的研究」「日本産ハマキヤドリヒメバチ（昆虫、ハチ目）の多様性解明 ～新種も多数見つかりました～」「小田原でミカン果実から発見された、生える「エサ」によって形態が様々に変化するアオカビの一種」「真鶴半島の変形菌相」「ツキノワグマ新聞③ 特定鳥獣保護管理計画って、なぁに？」」「WEB上に散在する魚類の潜在的な自然誌資料の発掘とその活用に関する技法」

3. 教育普及事業の紹介

「博物館展示を動機とした”おとな向け”「調べもの学習」の試み」

2.3.2. その他の展示

子ども自然科学作品展

〔開催期間〕 2015年3月21日（土・祝）～4月5日（日）開催日数16日（2014年度内は10日間）

〔会場〕 1F 特別展示室

〔企画担当〕 高橋正彰（企画普及課）

〔展示担当〕 佐藤武宏（学芸部）

磯崎和美、廣澤瀧男、西野宣雄、松本康孝、滝沢 博、小宮孝俊（学習指導員）

〔入場者数〕 5,816人（3月21～31日までは3,208人）

〔内容〕 児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取

り組みへの支援、奨励を目的に、自然科学分野における研究作品（夏休みの自由研究など）を当館に集めて、動物、植物など分野ごとに展示した。募集対象は県西部地区の小・中学校で、4校61名、1団体（科学部）の児童・生徒による61点の作品が寄せられた。内訳は小学校12校32点、中学校12校29点、また分野別でみると、動物8点、昆虫16点、植物22点、菌類2点、地学7点、環境3点、古生物2点、その他1点であった。各校教諭の指導・協力により選考されたものである。作品の中には、意外性のある発想や着眼点にもとづいた研究や継続的な観察や調査、中には市町や県の展覧会などで評価を受けたものや、精巧に模型や標本を作製したものもあり、様々であった。感心しながら見入る大人や、次年度の自由研究の参考にする子どもの姿が見受けられた。このような児童・生徒の取り組みに対して、博物館や学芸員が支援、奨励していく意味で、すべての作品には当館学芸員が講評のコメントを添えた。また「交流会」を開催して、児童・生徒と学芸員が、質問や助言など直接の交流を図った。この「子ども自然科学作品展」は開催期間が16日間と短い、今後も児童・生徒の自然科学への関心や取り組み

を支援し、子どもたちの可能性を育てる、という博物館としての役割を果たす機会として取り組んでいきたい。

交流会

〔日時〕 2015年3月21日（土・祝）14～15時

〔会場〕 1F 西側講義室および特別展示室

〔参加者数〕 64人（児童・生徒24人、保護者40人）

〔内容〕 作品展開始日に出品した児童・生徒及び保護者を含む関係者と、当館学芸員が直接交流できる場を設けた。今年度は例年になく数の参加が得られた。また当日は、西側講義室において、神奈川地学会、あしがらNST研究会共催の「神奈川の地学広場」が行われており、当会員にも同席いただく中、平田大二館長の挨拶、勝山輝男学芸部長の講評、神奈川地学会を代表して一寸木 肇氏の講話と進行的した。その後、特別展示室に場所を移し、出品者と学芸員が懇談した。参加者からは「学芸員と直接話せとても良かった」、「コメントが今後の励みになる」などの言葉もあり、相互に有意義な機会となったようである。（なお、この交流会は2013年度より、神奈川地学会と当館の共催で行われている。）

2.4. SEISAミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ）を上映している。また、学会や講演会開催時には主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011年4月1日から「SEISAミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

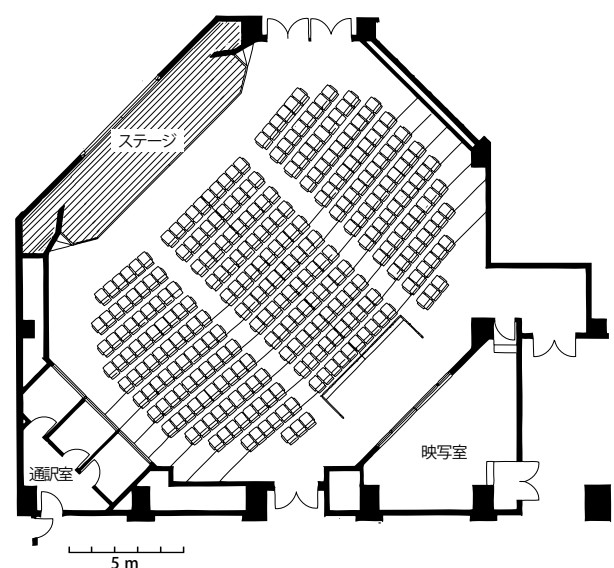
座席は308席。車椅子用のスペースは5席。中央部にある115席（車椅子用5席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の5選択押しボタンスイッチを設置している。

照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などを照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会、講演会時には、デジタル機器やパソコンなどをステージ上のコントロールパネルを接続し、簡単に操作することができる。

同時通訳用ブースを用意しており、国際的な催し物にも対応できる。同時通訳された内容は、ワイヤレス方式のレシーバーによって入場者に伝えられる。

シアター見取り図



2.4.2. シアターの上映番組

SEISAミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を3本と、インタラクティブ・クイズ映像を1本の計4種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は15分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013年8月3日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さら

に、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって世界に紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は20分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくといったストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。



インタラクティブクイズのコース別利用状況

テーマ番号	テーマ	テーマごとの人気		実際の上映テーマ		正答率		
		選択者数	選択率	上映回数	上映割合	第1問	第2問	第3問
1	地球は生きている	4,026	15.0%	26	5.3%	7.0%	15.8%	35.3%
2	植物は変身の天才だ!	2,785	10.4%	9	1.8%	0.0%	29.9%	2.0%
3	魚のサバイバル	7,588	28.3%	233	47.3%	68.3%	54.6%	33.4%
4	動物の足跡捜査隊	6,732	25.1%	143	29.0%	11.8%	59.5%	11.4%
5	ヒトの謎を科学する!	5,698	21.2%	82	16.6%	25.6%	44.6%	16.4%

※ミュージフェスタ時はテーマ固定の特別編成で上映した。テーマ6についてはミュージフェスタ時のみの上映。

インタラクティブクイズ観覧者と参加者の関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者数	17,280	18,634	12,673	21,336	42,337	15,953	25,631	20,188	9,852	9,709	13,246	20,533	227,372
実施回数	38	48	25	56	93	33	38	35	24	34	27	47	498
観覧者	2,785	3,312	1,776	3,815	8,485	2,346	2,563	2,168	1,346	1,936	1,794	2,965	35,291
観覧率	16.1%	17.8%	14.0%	17.9%	20.0%	14.7%	10.0%	10.7%	13.7%	19.9%	13.5%	14.4%	15.5%
クイズ参加者	2,427	2,833	1,563	3,459	7,023	2,096	2,305	2,007	1,261	1,736	1,626	2,619	30,955
参加率	87.1%	85.5%	88.0%	90.7%	82.8%	89.3%	89.9%	92.6%	93.7%	89.7%	90.6%	88.3%	87.7%

観覧率＝インタラクティブ観覧者数／総入館者数

参加率＝クイズ参加者数／インタラクティブ観覧者数

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

学校休業期と重なる多客期（4月1日～6日、4月

26日～5月6日、7月19日～8月31日、3月26日～31日）についてはインタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

シアター上映プログラム 2013年8月3日以降

	時間	タイトル		時間	タイトル
通常	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち	多客期	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞		10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根		10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ		11:30～11:50	インタラクティブ
	13:00～13:20	インタラクティブ		13:00～13:20	インタラクティブ
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち		13:30～13:50	インタラクティブ
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞		14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根		15:00～15:15	生命の星・地球 生命の輪舞
				15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

講演会に使用したり、学会などに会場を提供したりしている。シアターを講演会場などに使用している時

は、ハイビジョン映像をエントランスホールに置いたテレビジョンにて上映する。

2.5. ミューズ・フェスタ2015

「開かれた博物館」としての活動の充実と一層の発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

〔日時〕

2015年3月14日（土）、15日（日）の2日間

〔場所〕

エントランスホール、SEISAミュージアムシアター、特別展示室、講義室、実習実験室他

〔運営体制〕

参加団体：小田原市入生田自治会、小田原市郷土文化館、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

〔関連会議〕

・ミューズフェスタ2015実行委員会

第1回 2014年9月18日（木）：開館20周年を迎えてのフェスタへの取組、各団体の取組、今後のスケジュール等

第2回 2015年2月26日（木）：各催事の時間と場所、各団体の搬入・搬出時間と出入り口、駐車スペースの確認、前日までの事前準備の要・不要の確認等

2.5.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー 入生田祭囃子

（博物館・小田原市入生田自治会共催）

〔日時〕 2015年3月14日（土）9時30分～10時

〔場所〕 SEISAミュージアムシアター

〔内容〕 フェスタ2015の開催を祝って、地元の「入生田山神社子供祭囃子」のメンバーがお囃子を演奏

2. 童謡合唱 出演：クレヨンの森保育園

（博物館主催）

〔日時〕 2015年3月14日（土）11時～11時30分

〔場所〕 SEISAミュージアムシアター

〔内容〕 クレヨンの森保育園の園児による童謡の合唱

3. オカリナコンサート 出演：オカリナアンサンブル『にじ』（博物館主催）

〔日時〕 2015年3月14日（土）12時～13時

〔場所〕 講義室（東側）

〔内容〕 オカリナの優しい土の音色とキーボード・ギ

- ター・パーカッションとのコラボにより、春にふさわしい曲を演奏
4. 小田原フィルハーモニー交響楽団 出演：小田原フィルハーモニー交響楽団有志（博物館主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）13時30分～14時30分
 [場所] 講義室（東側）
 [内容] 小田原の市民オーケストラメンバーによる室内楽
5. モーニング・コンサート 出演：大井室内合奏団（博物館主催）
 [日時] 2015年3月15日（日）10時30分～11時30分
 [場所] 講義室（東側）
 [内容] バイオリン、フルートを中心とした、室内アンサンブルグループ『大井室内合奏団』の朝のコンサート
6. お昼休みミニ・コンサート（入生田自治会主催）
 [日時] 2015年3月15日（日）11時40分～12時50分
 [場所] SEISAミュージアムシアター
 [内容] 地元のコーラスグループ「エーデルワイス」による合唱
7. アフタヌーン・コンサート 出演：ライトハウス・アンサンブル（博物館主催）
 [日時] 2015年3月15日（日）13時15分～14時00分
 [場所] 講義室（東側）
 [内容] 「湘南の海を照らす江の島灯台（＝ライトハウス）のように、音楽の灯で街角を照らしてみたい…」心に共鳴する音楽の演奏
8. 子ども自然科学ひろば（博物館主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）10時～15時・15日（日）10時～12時
 [場所] 特別展示室、実習実験室、エントランスホール
 [内容] 随時実施される誰でも気軽に参加できる楽しいプログラム
- ・「ミクロな世界を記念撮影」
 - ・「骨パズル」
 - ・「のぞいてみよう！ちっちゃな世界」
 - ・「ミクロな貝化石をさがそう！」
 - ・「昆虫の切り絵を作ろう！」
 - ・「植物であそぼう！」
 - ・「砂でお絵かき」（15日も15時まで開催）
9. クイズでGO！（博物館主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～11時、12時～13時
 [場所] 常設展示室
 [内容] クイズに答えてスタンプを集めるイベントで、全問正解でオリジナルグッズをプレゼント
10. 折り紙ひろば（博物館主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] エントランスホール
 [内容] 学習指導員のアドバイスを受けながらの恐竜折

- り紙の作成と折り紙作品のプレゼント
11. 展示「生命の星・地球博物館の20年のあゆみ」（博物館主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 特別展示室
 [内容] 博物館20年のあゆみを資料やポスター、グラフで振り返る展示
12. 生命の星・地球博物館開館20周年記念シンポジウム「自然史系博物館のあるべき姿と評価軸－生命の星・地球博物館の活動から－」（博物館主催）
 [日時] 2015年3月15日（日）13時30分～16時30分
 [場所] SEISAミュージアムシアター
 [内容] 自然史系博物館があるべき姿と評価軸を生命の星・地球博物館の20年の活動から探る
13. 友の会コーナー
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 講義室（西側）
 [内容] これまでの友の会の活動を一堂に会した展示
14. 展示「来て・みて・知ろう！小田原用水」（小田原市郷土文化館主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 講義室（西側）
 [内容] 小田原用水に関連する写真や絵図、発掘で出土した関係資料などを中心に展示します
15. 入生田自治会習字作品展（入生田自治会・博物館共催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 講義室（西側）
 [内容] 地域子ども達書いた箱根ジオパークに関連したお題の習字作品展
16. (独) 海洋研究開発機構（JAMSTEC）「南海トラフをみてみよう」（JAMSTEC主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 講義室（西側）
 [内容] 最新の地形や地球内部の調査についての紹介
17. 地元入生田物産コーナー（入生田自治会主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 講義室前
 [内容] 地元で採れた農作物の販売
18. 手作り民芸品コーナー（入生田自治会主催）
 [日時] 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時
 [場所] 講義室
 [内容] 手作り民芸品の展示即売

19. ミュージアムショップ

〔日時〕 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時

〔内容〕 商品お買い上げの方にオリジナルグッズプレゼントの実施

20. レストラン「フォーレ」

〔日時〕 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時

〔内容〕 全メニュー10%引き。その場で当たるスピードくじの実施

21. ともしびショップ「喫茶あーす」

〔日時〕 2015年3月14日（土）・15日（日）10時～15時

〔内容〕 手作りクッキーやサンドウィッチ、ラスクの販売

2.6. 開館20周年記念事業

2015年3月で、開館20周年を迎えるにあたり、以下の事業を実施した。

2.6.1. 開催概要

〔日時〕

2015年1月31日（土）～3月31日（火）、

〔場所〕

エントランスホール、SEISAミュージアムシアターおよび神奈川県立歴史博物館

〔内容〕

神奈川県立歴史博物館と共同で、博物館紹介パネルの相互展示、両館来館者への観覧料の相互割引と記念品のプレゼントを実施。

記念品は、高校生以下を対象とし、歴史博物館では缶バッジ、生命の星・地球博物館ではサハラ砂を記念

品とした。期間中、歴史博物館では16個、生命の星・地球博物館では、80個を配布。

また、ミューズフェスタ2015（2015年3月14日（土）～15日（日））において、神奈川県立生命の星・地球博物館 開館20周年記念シンポジウム「自然史系博物館のあるべき姿と評価軸—生命の星・地球博物館の活動から—」、20周年記念展示「神奈川県立生命の星・地球博物館20年のあゆみ」、両日の入館料無料サービス、歴史博物館のイメージキャラクター「パンチの守」（14日）による広報活動を実施した。

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館を支える学芸員は、県内はもとより、国内外のシンクタンクとして様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的には当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。しかし、記録の困難性から取り上げなかった活動も多い。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究2テーマ、個別研究20テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

勝山輝男・田中徳久・大西 亘・神奈川県植物誌調査会：最新版「神奈川県植物誌」の編纂・刊行のための植物相調査

石浜佐栄子・山下浩之・笠間友博・新井田秀一・大島光春・田口公則・平田大二：地質情報の保存と活用に関する調査研究～「地層剥ぎ取り標本」コレクションの付帯情報の統合整備を例として～

個別研究

瀬能 宏：相模湾およびその隣接海域における沿岸魚類の分類および生物地理学的研究

広谷浩子：早川水系を中心としたカワネズミ

（*Chimarrogale platycephala*）の生息状況について
荻部治紀：神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大について3

佐藤武宏：チゴガニのシンクロナイズドウェイビングに対する個体群密度の影響と同調性の評価について

加藤ゆき：外来種カナダガンの移動実態と繁殖生態に関する研究
 渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究
 勝山輝男：日本に産するイネ科モンツキガヤ属とオニササガヤ属の再検討
 田中徳久：神奈川県植生体系の再検討
 大西 亘：海岸植物多様性の分布評価手法の開発と実践
 折原貴道：島嶼における系統地理に基づく、シクエストレート菌の多様性解明と進化
 樽 創：下顎結合における線維性結合と骨性結合の臼歯の摩耗形態に関する研究
 大島光春：東アジアにおけるトガリネズミ類（真無盲腸類）化石の分類学的研究
 田口公則：伊豆、今井浜の白浜層群産貝類化石群集

平田大二：丹沢・伊豆地塊衝突帯と房総・三浦付加体にみられる火成活動の時空変遷
 笠間友博：三浦半島南部に分布する箱根東京テフラの研究
 新井田秀一：デジタル標高モデル（DEM）や地球観測衛星画像を用いた神奈川の地形解析
 山下浩之：南フィリピン海パレスベラ海盆およびマリアナトラフに産する斑れい岩類の岩石学的研究
 石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔虫を用いたメタン湧出イベントの検出と日本海の古海洋環境の復元
 松本涼子：“基盤の四肢動物～両生類”の捕食メカニズムの多様性とその進化
 大坪 奏：植物病原菌アオキオチバタケ *Marasmius aucubae* の生活環とアオキ落葉の分解における役割

3.2. 研究発表会

前項（3.1.）の調査研究事業に関して、その研究計画発表会を、2014年4月24日（木）に博物館会議室で開催した。
 また、2014年度の研究成果については2015年4月23日（木）に博物館会議室において発表した。研究成果の報告は本誌資料の項（102～109ページ）に掲載した。

3.3. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成金をはじめ、外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者（研究代表者を除く当館の分担者、連携研究者＊または研究協力者＊＊）：研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、本誌資料の項（109～110ページ）に掲載した。

3.3.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究（S）

小川義和ほか（平田大二**）：知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究

基盤研究（A）

五島政一ほか（平田大二）：子どもの科学的リテラシーを育成する教育システムの開発に関する実証的研究

松本良ほか（石浜佐栄子）：表層型ガスハイドレート賦存域にみられる低速度異常とガス量のその場測定

基盤研究（B）

松浦啓一ほか（瀬能 宏）：黒潮の流路変動と屋久島周辺の魚類相：海中の見えざる障壁を探索

鷲谷いずみほか（宮崎佑介）：里地・里山の生物多様性・生態系サービス指標および評価手法の開発

基盤研究（C）

佐藤武宏（田口公則）：貝殻でつなぐ学校と博物館ー貝殻を利用した自然史学習プログラムの開発ー
 勝山輝男（田中徳久・大西 亘）：博物館における市民

が参加しての長期継続型植物相調査

瀬能 宏：博物館における海洋環境変動の影響把握に寄与するダイバー撮影画像の情報化

大島光春（広谷浩子・田口公則・石浜佐栄子）：自然系博物館における「動く展示」・「動いて見る展示」の開発と新たな評価方法の試み

広谷浩子（加藤ゆき）：博物館展示における「ことば」の役割に関する研究 ー情報量基準化の試みー

加藤ゆき（広谷浩子・大島光春）：誰もが楽しめる安全な展示手法の検討 ー特に幼児と高齢者へ配慮した展示を目指してー

田口公則（大島光春）：博物館体験を共有するパーソナル・ポートフォリオ学習の実践

若手研究（B）

石浜佐栄子：地層剥ぎ取り技法を用いた地球「現象」の実物標本化と博物館資料の新たな可能性

折原貴道：島嶼における系統地理から探る、きのこ類の収斂的な地下生化の起源

渡辺恭平：東アジア島嶼域におけるヒメバチ科寄生蜂

の多様性とその分布特性の解明

松本涼子：初期の四肢動物における頭骨形態と捕食メカニズムの適応進化

特別研究員奨励費

小坂井千夏：ツキノワグマの生態研究の成果を活かす

市民向け普及プログラムの開発

宮崎佑介：WEB上に散在する潜在的な自然史資料の発掘とその活用

*連携研究者

**研究協力者

3.3.2. 各種助成金による研究

環境研究総合推進費

川上和人ほか（荻部治紀）：小笠原諸島の自然再生における絶滅危惧種の域内域外統合的保全手法の開発

新技術開発財団植物研究助成

田中徳久：伊豆半島における外来植物群落の攪乱条件に対する植生学的評価

藤原ナチュラルヒストリー振興財団学術研究助成

松本涼子：手取層群桑島層（白亜紀前期）の食物連鎖、

捕食の痕跡物（糞・ペレット）の立体構造の解明とその堆積環境の復元

笹川科学研究助成金

松本涼子：絶滅脊椎動物の生態復元を目的とした基盤研究ー現生動物の首の運動メカニズムの研究ー

国立科学博物館ホットスポットプロジェクト

中江雅典ほか（瀬能 宏）：奄美大島およびその近海に出現する魚類の多様性と日本産固有魚類目録の作成

3.3.3. 共同研究・共同施設利用研究

高知大学海洋コア総合センター全国共同利用

石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔虫の安定同位体組成に基づく日本海の高知海洋環境の復元

3.4. 著作活動・学会発表等

斎藤靖二（さいとう やすじ） 地学（地質学）

[普及的著作]

斎藤靖二（監修）ポプラディア大図鑑WONDA地球。230pp.ポプラ社. 2014年7月

[学会発表等]

斎藤靖二・大石雅之：自然史研究の意義ー東日本大震災の標本のレスキュー活動に関連してー. 日本地球惑星科学連合2015大会, ユニオン・セッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?」, 2015年5月

平田大二（ひらた だいじ） 地学（鉱物）

[論文]

柴田健一郎・根本 卓・大島光春・平田大二・高橋直樹・森 慎一・堀田桃子・三森亮介・野田智佳代・岩瀬成知・馬場千尋・満澤巨彦・藤岡換太郎・KO-OHO-Oの会メンバー, 2015. 三浦海底谷と東京海底谷の海底地形・地質および生物の目視観察ーNT10-15 次航海Leg 3 ハイパードルフィン潜航調査報告ー. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (44) : 11-22, 神奈川県立生命の星・地球博物館

[普及的著作]

藤岡換太郎・平田大二編著, 2014. 日本海の拡大と伊

豆弧の衝突ー神奈川の大地の生い立ち. 有隣新書, 191pp, 有隣堂.

[学会発表等]

平田大二・五島政一, 2014.8. 展示室をフィールドとした双方向型地球史連続講座の実践とW型問題解決モデルによる分析. 平成26年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第68回全国大会札幌大会, 札幌学院大学.

平田大二・五島政一, 2014.9. 博物館の常設展示を活用した地球史連続講座の試みー地学リテラシー涵養のための学習プログラムの展開、日本地質学会第121回学術大会, 鹿児島大学.

藤岡換太郎・森 慎一・高橋直樹・平田大二・大島光春・柴田健一郎・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO-OHO-Oの会, 2014.9. 相模湾から新たに発見された三種類の玄武岩類のテクトニクスー火山とシート状溶岩と礫層としての玄武岩. 日本地質学会第121年学術大会日本地質学会, 鹿児島大学.

広谷浩子（ひろたに ひろこ） 動物学（哺乳類）

[普及的著作]

広谷浩子, 2014. 身近な外来哺乳類. 神奈川県立生命の星・地球博物館編「どうする？どうなる！外来生

物」pp.28-30. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
広谷浩子, 2014. ニホンザルに種存続の危機. どうする? どうなる! 外来生物その8. 神奈川新聞9月5日.

瀬能 宏 (せのう ひろし) 動物学 (魚類)

[論文]

Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide and H. Senou, 2014. Biological monitoring by citizens using Web-based photographic databases of fishes. Biodiversity and Conservation, Published online: DOI 10.1007/s10531-014-0724-4. (Printing version published as Volume 23, Issue 9, pp.2383-2391 at August, 2014)

Song, Y. S., H. J. Kwun, J.-K. Kim and H. Senou, 2014. A new record of juvenile *Chromis mirationis* (Perciformes: Pomacentridae) from Korea, revealed by molecular analysis, with a comparison to juvenile *Chromis notata*. Fisheries and Aquatic Science, 17 (2) : 263-267.

Shibukawa, K, T. Suzuki and H. Senou, 2014. *Dotsugobius*, a new genus for *Lophogobius bleekeri* Popta, 1921 (Actinopterygii, Gobioidae, Gobiidae), with re-description of the species. Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A, 40 (3) : 141-160.

Miyazaki, Y., M. Nakae and H. Senou, 2014. Ichthyofauna of the Kubo, Tochikura, and Ichinono river systems (Kitakami River drainage, northern Japan), with a comparison of predicted and surveyed species richness. Biodiversity Data Journal, 2: e1093, pp.1-77. doi: 10.3897/BDJ.2.e1093

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou, 2014. A natural history museum as a platform for accumulating verifiable information on non-native fishes: a Japanese example. Management of Biological Invasions, online, <http://dx.doi.org/10.3391/mbi.2015.6.1.08> (Print version published as Vol. 6, No. 1, pp.105-110 on March, 2015.)

Kuriwa, K., H. Arihara, S. N. Chiba, S. Kato, H. Senou and K. Matsuura, 2014. Checklist of marine fishes of the Zunan Islands, located between the Izu and Ogasawara (Bonin) islands, Japan, with zoogeographical comments. Check List, 10 (6) : 1479-1501.

金川直幸・板井隆彦・瀬能 宏, 2014. 淡水産希少ミミズハゼ属類似2種の識別. 日本生物地理学会会報, 69: 77-82.

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou, 2014. Citizen participation in augmenting a museum database enhances fish monitoring and public awareness. Journal of Aquatic Marine Environmental Education Research, 7 (1) : 22-26.

Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, R. Masui and H. Senou, 2015. Integrating and utilizing citizen biodiversity data on the web for science: an example of a rare triggerfish hybrid image provided by a sport fisherman. Journal of Coastal Research, doi: <http://dx.doi.org/10.2112/JCOASTRES-D-14-00170.1>.

Miyazaki, Y., Y. Ikeda and H. Senou, 2015. The northernmost records of *Chromis notata* and *Sagamia geneionema* from Hokkaido, Japan. Marine Biodiversity Records, doi: 10.1017/S1755267214001390; Vol. 8; e13.

鈴木寿之・渋川浩一・I-Shiung Chen・矢野維幾・千葉悟・内野啓道・高瀬 歩・瀬能 宏, 2015. 琉球列島から得られた日本初記録のハゼ亜目魚類8種. Fauna Ryukyuna, (18) : 9-38.

三井翔太・瀬能 宏, 2015. アシロ目魚類の2稀種, オオソコイタチウオとクロヨロイタチウオの再記載. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (44) : 71-78.

崎山直夫・瀬能 宏, 2015. 相模湾初記録となるアブラガレイ (カレイ目カレイ科) について. 神奈川自然誌資料, (36) : 59-62.

山川宇宙・瀬能 宏, 2015. 神奈川県内の河川におけるカワアナゴ属の分布. 神奈川自然誌資料, (36) : 63-68.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

竹内直子・瀬能 宏, 2014. 伊豆半島南東端の浅海魚類相の変移に関する調査報告書の作成. 公益財団法人自然保護助成基金編, プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成第22期助成成果報告書, pp.144-146. 公益財団法人自然保護助成基金, 東京.

瀬能 宏, 2015. コゲウツボ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, レッドデータブック2014, 日本の絶滅のおそれのある野生生物, 4, 汽水・淡水魚類, pp.10-11. 株式会社ぎょうせい, 東京; ナミダカワウツボ, *ibid.*, pp.12-13; ホシイッセンヨウジ, *ibid.*, pp.68-69; タニヨウジ, *ibid.*, pp.70-71; ヒメテングヨウジ, *ibid.*, pp.72-73; カワボラ, *ibid.*, pp.74-75; ヒゲソリオコゼ, *ibid.*, pp.78-79; ウラウチフエダイ, *ibid.*, pp.82-83; テッポウウオ, *ibid.*, pp.86-87; ヨコシマイサキ, *ibid.*, pp.88-89; ニセシマイサキ, *ibid.*, pp.90-91; シミズシマイサキ, *ibid.*, pp.92-93; ヒルギギンボ, *ibid.*, pp.96-97; カワギンボ, *ibid.*, pp.98-99; タイワンキンギョ, *ibid.*, pp.146-147; ドロクイ, *ibid.*, pp.150-151; アミメカワヨウジ, *ibid.*, pp.206-

- 207; ナガレフウライボラ, *ibid.*, pp.208-209; アカメ, *ibid.*, pp.216-217; トゲナガユゴイ, *ibid.*, pp.222-223; ナンヨウチヌ, *ibid.*, pp.300-301; コモチサヨリ, *ibid.*, p. 349; クルメサヨリ, *ibid.*, p. 350; アンピンボラ, *ibid.*, p. 363; オニボラ, *ibid.*, p. 364; カマヒレボラ, *ibid.*, p. 364; モンナシボラ, *ibid.*, p. 365; ミナミギンイソイワシ, *ibid.*, p. 366; ナンヨウタカサゴイシモチ, *ibid.*, p. 367; シラヌイハタ, *ibid.*, p. 367; ゴマクモギンボ, *ibid.*, p. 369; ナリタイトヒキヌメリ, *ibid.*, p. 370; 本州の太平洋側湖沼系群のニシン, *ibid.*, pp.380-381; 琵琶湖のコイ在来型, *ibid.*, pp.382-383; 有明海のスズキ, *ibid.*, pp.402-403; 沖縄島のクサフグ, *ibid.*, pp.406-407.
- [普及的著作]
- 瀬能 宏, 2014. ギンポを顔で見分ける. マリンダイビング, 46 (5) : 186.
- 瀬能 宏, 2014. 遙かなる東太平洋の魚. マリンダイビング, 46 (7) : 167.
- 瀬能 宏, 2014. 中津干潟に想うこと. 季刊エブオブ, 54: 7. (2014年夏号)
- 瀬能 宏, 2014. オニヒトデと人との意外な関係. マリンダイビング, 46 (9) : 189.
- 瀬能 宏, 2014. どうする? どうなる! 外来生物5. 神奈川新聞朝刊.
- 瀬能 宏, 2014. どうする? どうなる! 外来生物12. 神奈川新聞朝刊.
- 瀬能 宏, 2014. 珍魚の楽園. マリンダイビング, 46 (11) : 160.
- 瀬能 宏, 2014. 犯人は誰だ!?. マリンダイビング, 47 (1) : 160.
- 瀬能 宏監修, 2014. 「絶滅したか?」と思われていたが、実は生きていたクニマス. 神奈川県立生命の星・地球博物館監修, 改訂版理科の地図帳 (環境・生物編): 日本の環境と生物がまるごとわかる, pp.8-10. 技術評論社, 東京; 国外外来魚: すさまじい勢いで増えたブラックバス, *ibid.*, pp.56-57; 絶滅が心配される淡水魚の分布, *ibid.*, pp.100-101; 日本人にとって最も身近な淡水魚: “メダカ”が姿を消す?!, *ibid.*, pp.102-103; ウナギ、アナゴ、サケの回遊地図, *ibid.*, pp.104-105; 多くの魚が集まる日本列島周辺, *ibid.*, pp.106-107; 海はつながっているようで途切れている?!: 黒潮流域の沿岸魚類相のふしぎ, *ibid.*, pp.108-109; リュウグウノツカイ・メガマウスザメ, *ibid.*, p.111.
- 瀬能 宏監修, 2014. スミツキベラ, メガネスズメダイ, ミナミハコフグ, トカラベラ, ゴマハギ, キアンコウ, チョウチョウコショウダイ, ツユベラ, ホウボウ, ヒレナガスズメダイ, コロダイ, イロブダイ. No pagination in Palette 2015 Calendar, 株式会社大塚製薬工場.
- 瀬能 宏, 2015. 混迷?. マリンダイビング, 47 (3) : 142.
- Senou, H, 2015. In memoriam Muneo Okiyama. Stages, 36 (1) : 6.
- [学会発表等]
- Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou, 12 July 2014. Citizen participation in augmenting a museum's database enhances fish monitoring and public awareness. IPMEN 2014 (5th International Pacific Marine Educators Network Meeting). Suzuki Zenko Hall, Rakusui Kaikan, Tokyo University of Marine Science and Technology, Shinagawa.
- Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide and H. Senou, 15 August 2014. The monitoring functions of an internet community for non-native fish invasions and introductions. The 3rd International Marine Conservation Congress. Glasgow, Scotland.
- 瀬能 宏, 2014年9月19日. 自然史標本と博物館. 日本学術会議公開シンポジウム: 人類の財産を失わないために今なすべきこと. 日本学術会議講堂, 東京.
- Nakae, M., Y. Miyazaki, H. Senou and K. Matsuura, 23 October 2014. FishPix: Image database of fishes developed by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History and the National Museum of Nature and Science in Japan. Pacific Neighbourhood Consortium 2014. Museum computing: an approach to bridging cultures, communities and science. National Palace Museum, Taipei.
- 宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏, 2014年11月15日~16日. 外来魚類の再検証可能な情報集積場としての自然史博物館の役割. 2014年度日本魚類学会年会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 宮崎佑介・瀬能 宏, 2014年11月17日. 止まらないブラックバスの違法放流. 2014年度日本魚類学会年会シンポジウム: 日本の外来魚問題の現状を考える: 外来生物法制定から10年で何が変わったのか? 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 瀬能 宏, 2014年11月29日. 黒潮流域における沿岸魚類の生物地理. 公開シンポジウム: 黒潮と南日本の魚たち: 黒潮はベルトコンベヤーか障壁か? 高知大学朝倉キャンパス, メディアの森, 高知.
- 瀬能 宏, 2014年12月6日. 魚類写真資料データベース: 市民との協働で築かれた研究ツールとその応用. 第46回種生物学会シンポジウム: 市民調査~フィールド生物学と市民参加型科学の接点, その持続可能性を探る. 富士Calm, 富士吉田市.
- 瀬能 宏, 2015年1月10日. 国立自然史博物館に何を望むのか: 地方博物館からの視点. 日本分類学会連合主催公開シンポジウム: 国立自然史博物館の設立を望む. 国立科学博物館大講堂, 上野.
- Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou, 11-12 February

2014. A natural history museum as a platform for a accumulating verifiable information on non-native fishes: a Japanese example. Citizen Science 2015 Conference, Citizen Science Association. San Jose, CA.

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou, 15 February 2015. Integrating and utilizing citizen biodiversity data on the web for science: an example. The 2015 AAAS Annual Meeting. San Jose, CA.

渥美圭佑・馬淵浩司・瀬能 宏・井上広滋, 2015年3月19日. 隠れた外来種問題: コイの日本在来系統と導入系統の形態比較. 第62回日本生態学会大会. 鹿児島大学, 鹿児島.

清野聡子・竹内直子・瀬能 宏, 2015年3月30日. 対馬における海洋保護区設定にむけた協働型基礎調査① 魚類相 (予報). 平成27年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス, 東京.

苅部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類)

[論文]

Karube, H., & A. Sasamoto, 2014. *Borneogomphus teramotoi*, a new genus and species of Gomphid dragonfly from Borneo (Odonata: Gomphidae: Onychogomphinae). Tombo, 56: 65-72.

Karube, H., 2014. Vietnamese Odonata collected in 1992-2003 surveys. IV. Synlestidae. Tombo, 56: 73-76.

Karube, H., 2014. Vietnamese Odonata collected in 1992-2003 surveys. V. Gomphidae. Tombo, 56: 77-90.

苅部治紀・佐野真吾・長崎和則・長崎光則・二橋亮, 2014. 外来種リュウキュウベニイトトンボの南関東における分布拡散とその駆除試行について. Aeschna, 50: 139-144.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

苅部治紀, 2014. 青森県太平洋岸のスナアカネの記録. Aeschna, 50: 144.

苅部治紀・丸野内淳介, 2014. オツネントンボの変った越冬場所. Aeschna, 50: 78.

苅部治紀, 2014. 小笠原諸島の固有甲虫と外来種問題. 昆虫と自然, 49 (9) : 8-11.

苅部治紀, 2014. 日本のトンボ危機的現状. 昆虫と自然, 49 (7) : 2-3.

苅部治紀, 2014. トンボ類における最近の外来種問題. 昆虫と自然, 49 (7) : 16-19.

苅部治紀, 2015. 特集日本の世界遺産の昆虫と自然. 小笠原の昆虫. 昆虫と自然, 50 (5) : 16-19.

[普及的著作]

展示解説書 「どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景」

苅部治紀, 2014. 止まらない侵入 ニューフェイスた

ち 〜リュウキュウベニイトトンボの関東への定着 103-104; 水辺は外来生物だらけ16-20; ペット昆虫にご用心 54-56.

小笠原の外来種問題 60-66; 国内導入による遺伝的攪乱 〜ホテルの問題〜 77-78;

外来種の駆除とその副作用 80-82.

苅部治紀・西原昇吾, 2014. 侵略的外来種アメリカザリガニの駆除 93-95.

苅部治紀・須田真一, 2014. 河原も外来種でいっぱい 20.

渡辺恭平・高桑正敏・苅部治紀, 2014. 身近な外来昆虫 41-44.

苅部治紀・石田晃浩, 2014. アメリカザリガニとウシガエルの日本への導入の背景90.

神奈川新聞 9月12日 止まらない新たな侵入 (どうする? どうなる外来生物)

苅部治紀, 2014. 本当は怖いアメリカザリガニ. 自然科学のとびら, 20 (2) : 16.

苅部治紀, 2014. 消えたアカトンボ. 自然科学のとびら, 20 (3) : 20-21.

[学会発表等]

苅部治紀・油井雅樹・福井順治・吉田雅澄・神奈川トンボ調査・保全ネットワーク, 2014年11月16日. アメリカザリガニの大発生で絶滅した浜松市のベッコウトンボ産地. 日本トンボ学会兵庫大会, 兵庫県立人と自然の博物館博物館.

苅部治紀, 2014年3月18日. 海岸湿地の生物多様性を置かす外来生物種の脅威. 日本生態学会第62回大会, 鹿児島大学.

佐藤武宏 (さとう たけひろ) 動物学 (無脊椎動物)

[普及的著作]

佐藤武宏, 2014. 磯の生きものの姿かたちの不思議を知ろう. エデュコ, (35) : 14.

佐藤武宏, 2014. 名倉コレクションーある貝類愛好家と貝類を取り巻く人びととの交流の証一. 自然科学のとびら, 20 (2) : 10-11.

佐藤武宏, 2014. 船のバラスト水によって運ばれる生きもの. 2014年8月1日づけ神奈川新聞.

佐藤武宏, 2014. わたしの選ぶ“この一冊”『生物のかたち』. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 18 (3) : 7.

佐藤武宏, 2014. 読書のすすめ2014〜博物館員がつくる本〜. 全科協NEWS, 44 (6) : 6-7.

加藤ゆき (かとう ゆき) 動物学 (鳥類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

加藤ゆき, 2015. 研究と情報発信を担う自然史博物館の独自性ー外来生物展を軸とした取り組みー. 第22回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, pp27-33.

[普及的著作]

加藤ゆき, 2014. 外来生物をめぐる法律. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, どうする? どうなる! 外来生物: とりもどそう私たちの原風景, pp14-15. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

加藤ゆき, 2014. ここはどこ? 日本の空を舞う外来鳥類. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, どうする? どうなる! 外来生物: とりもどそう私たちの原風景, pp31-34. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

加藤ゆき, 2014. 特別展コラム「外来生物ってなんだろう」. 自然科学のとびら, 20 (2) : 14.

加藤ゆき, 2014. どうする? どうなる! 外来生物⑦ カナダガン対策の現場から. 2014年8月29日, 神奈川新聞.

[学会発表等]

加藤ゆき・重永明生・溝口文男, 2014年8月23日-25日. 出水地方における鳥インフルエンザ発生時のナベヅル*Grus monacha*の行動. 日本鳥学会2014年度大会, 立教大学.

加藤ゆき, 2015年2月27日. 研究と情報発信を担う自然史博物館の独自性—外来生物展を軸とした取り組み—. 第22回全国科学博物館協議会研究発表大会, 札幌市青少年科学館.

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類)

[論文]

Watanabe, K., 2014. Two species of the genus *Megarhyssa* Ashmead (Hymenoptera: Ichneumonidae: Rhyssinae) new to Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (1) : 7-8.

Watanabe, K. & K. Maeto, 2014. Revision of the genus *Teleutaea* Förster, 1869, from Japan (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (1) : 27-41.

Watanabe, K. & T. Yamauchi, 2014. Records of ichneumonid wasps (Hymenoptera) from Yakushima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (1) : 81-90.

渡辺恭平, 2014. 「あきつ賞」受賞サイト(16) ウェブサイト「Information station of parasitoid wasps」の紹介. 昆虫ニューシリーズ [Japanese Journal of Entomology (New Series)], 17 (3) : 121-124.

小西和彦・松本吏樹郎・芳田琢磨・渡辺恭平, 2014. 皇居の第Ⅱ期生物相調査で採集されたヒメバチ科およびカギバラバチ科. 国立科学博物館専報 (50) : 485-497.

Watanabe, K. & K. Achterberg, 2014. First discovery of *Stephanus* Jurine (Hymenoptera, Stephanidae)

in Japan, with description of a new species from Anijima Island of Ogasawara Islands. Entomological Science, 17 (3) : 330-335.

谷脇 徹・渡辺恭平, 2014. 捕食寄生蜂2種のブナハバチ繭への寄生生態. 昆虫ニューシリーズ [Japanese Journal of Entomology (New Series)], 17 (4) : 131-134.

Osawa, T., K. Watanabe, H. Ikeda & S. Yamamoto, 2014. New approach for evaluating habitat stability using scarce records for both historical and contemporary specimens: A case study using Carabidae specimen records. Entomological Science, 17 (4) : 425-431.

Watanabe, K., 2014. Discovery of the genus *Hellwigia* Gravenhorst, 1829, from Japan (Hymenoptera, Ichneumonidae, Ophioninae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (2) : 215-217.

Watanabe, K., 2014. Notes on a little known Ichneumonid wasps, *Torbda rufa* Uchida, 1956 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Cryptinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (2) : 273-275.

Watanabe, K., 2014. Taxonomic position of *Triclistus rubellus* Kusigemati, 1971 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Metopiinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (2) : 277-278.

Ito, M., K. Watanabe & K. Maeto, 2014. Revision of the genus *Arotes* Gravenhorst (Hymenoptera: Ichneumonidae: Acaenitinae) from Japan. Zootaxa, 3893 (2) : 196-208.

河野太祐・渡辺恭平, 2015. キマダラツチスガリとナガセツチスガリ (ハチ目, アナバチ科, フシダカバチ科) の奄美大島からの再発見. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) (44) : 95-98.

渡辺恭平・伊藤誠人, 2015. ウスタビガ (チョウ目, ヤママユガ科) の寄生蜂, ウスタビガフシヒメバチ (新称) *Gregopimpla ussuriensis* Kasparyan & Khalaim, 2007 (ハチ目, ヒメバチ科, ヒラタヒメバチ亜科) の日本からの発見. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) (44) : 87-93.

渡辺恭平, 2015. マイマイガの天敵寄生蜂, マイマイガチビアメバチ (新称) *Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983 とベレックチビアメバチ (新称) *Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965 (ヒメバチ科: チビアメバチ亜科) の本州からの新記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) (44) : 79-86.

Ohshima, I., K. Watanabe & T. Kawamura, 2015. Distinct parasitoid communities associated with host races of the leaf-mining moth *Acrocercops transecta* on distantly related host plants

- (Juglandaceae and Ericaceae). Journal of Natural History, 49 (13-14) : 815-828. (DOI: 10.1080/00222933.2014.953613)
- Kobayashi, C., K. Matsuo, K. Watanabe, N. Nagata, Y. Suzuki-Ohno, M. Kawata & M. Kato, 2015. Arms race between leaf rollers and parasitoids: diversification of plant-manipulation behavior and its consequences. Ecological Monographs, 85: 253-268. (<http://dx.doi.org/10.1890/14-0280.1>)
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 渡辺恭平, 2015. 鎌倉市におけるニッポンハナダカバチの採集記録. 神奈川虫報 (185) : 48.
- 渡辺恭平, 2015. 小田原市で真冬に活動していたシロテントガリヒメバチ. 神奈川虫報 (185) : 22.
- 渡辺恭平・甲斐達也・福富宏和・沼田紀義・松原 豊・荏部治紀, 2015. 山登明彦コレクションの甲虫目録 (テントウムシ科、テントウダマシ科、アカハネムシ科、タマムシ科). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) (44) : 99-112.
- 渡辺恭平, 2014. 小田原市で採集したサシガメ2種の記録. 神奈川虫報 (184) : 51-52.
- 山崎拓海・渡辺恭平, 2014. 小田原市でニッポンツノヤセバチ (和名新称) を採集. 神奈川虫報 (184) : 7.
- 辻井健太郎・渡辺恭平, 2014. クロシオセダカヤセバチ伊豆大島からの新記録と、寄主についての考察. つねきばち (25) : 39-40.
- 片山栄助・渡辺恭平, 2014. 栃木県産ハチ目の追加記録 (6). インセクト 65 (1) : 53-56.
- 渡辺恭平・市田忠夫, 2014. 青森県産ヒメバチ科目録. Cestraena (29) : 25-40.
- 渡辺恭平, 2014. ツマグロゼミのマンリョウへの産卵例. 月刊むし (524) : 51.
- 渡辺恭平, 2014. 日本産メンガタヒメバチ亜科 (ヒメバチ科) に関する覚書Ⅱ (*Colpotrochia* 属). 神奈川虫報 (183) : 59-66.
- 渡辺恭平・田塾 正・黒川秀吉・室田忠男・野坂千津子, 2014. 福井県における寄生蜂の採集記録 (その2). つねきばち (23) : 22-26.
- [普及的著作]
- 渡辺恭平, 2014. タマムシをさがしてみよう! 自然科学のとびら, 20 (2) : 12-13.
- 渡辺恭平・高桑正敏・荏部治紀, 2014. 身近な外来昆虫. 2014年度特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp. 41-44. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 渡辺恭平, 2014. 国内外来種としてのカブトムシ〜よく知られた昆虫が引き起こす問題〜. 2014年度特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp.105-106. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 渡辺恭平, 2014. ペット昆虫が引き起こす問題. 2014年8月8日, 神奈川新聞朝刊.
- [学会発表等]
- Ito M., K. Watanabe & K. Maeto, 20-25 July 2014. Molecular evidence resolves the confusion involving two ichneumonid species of Spilopteron (Hymenoptera) caused by marked geographical color variation. 8th International Congress of Hymenopterists, Cusco, Peru.
- 伊藤誠人・大塩拓美・平田宏伸・渡辺恭平, 2014年9月16日. 西表島におけるツマキツツアナバチの追加記録と生態の解明. 日本昆虫学会第74回大会 (口頭発表) 広島大学 (広島県)
- 清水 壮・渡辺恭平, 2014年9月16日. 日本から新たに発見されたオナガアメバチモドキ属 *Weisia* 亜属の分類学的研究 (ハチ目: ヒメバチ科: ハバチヤドリヒメバチ亜科). 日本昆虫学会第74回大会 (口頭発表) 広島大学 (広島県)
- 渡辺恭平, 2014年9月16日. 日本産ハマキヤドリヒメバチ族 *Glyptini* の分類学的研究 (その4) まとめ (ハチ目: ヒメバチ科: ウスマルヒメバチ亜科). 日本昆虫学会第74回大会 (口頭発表) 広島大学 (広島県)
- 清水 壮・渡辺恭平, 2014年12月6日. 日本から新たに発見されたアメバチ亜科 *Skiapus* 属の分類学的研究. 日本昆虫学会関東支部第51回大会 (口頭発表) 東京農業大学 (神奈川県)
- 渡辺恭平, 2014年12月6日. 日本におけるハエヒメバチ亜科 (新称) *Orthocentrinae* の多様性. 日本昆虫学会関東支部第51回大会 (口頭発表) 東京農業大学 (神奈川県)
- 松本涼子 (まつもと りょうこ) 動物学 (両生・爬虫類) [論文]
- Matsumoto, R, Manabe, M., Evans, SE. 2014. The first record of a long-snouted choristodere (Reptilia, Diapsida) from the Early Cretaceous of Ishikawa Prefecture, Japan. Historical Biology, 27: 583-594.
- [普及的著作]
- 真鍋 真 監訳, 藤原慎一, 松本涼子訳, 2015. 恐竜学入門—からだ・生態・絶滅— 396pp. 東京化学同人, 東京. Dinosaurs (second edition), D. E. Fastovsky and D. B. Weishampel.
- 松本涼子. 2004. ワニのようでワニではないコリストデラ類の発見. 白山市ライン博士顕彰会. pp23-25.
- 松本涼子. 2014. 日本初記録の絶滅した淡水生爬虫類 (コリストデラ類) の化石. 自然科学のとびら, 20 (2) : 15.
- 松本涼子. 2014. 身近な生き物から進化に思いを馳せる. 友の会通信, 18 (4) : 1-2.

松本涼子. 2014. 遠くからやってきた爬虫類と両生類. 神奈川県立生命の星地球博物館編, どうする? どうなる! 外来生物, とりもどそう私たちの原風景. pp.35-37. 神奈川県立生命の星地球博物館, 小田原.

松本涼子. 2014年8月22日. どうする? どうなる! 外来生物 (第6回). 神奈川新聞朝刊.

[学会発表等]

Matsumoto, R., Evans, SE. 6th, November, 2014. Functional morphology of the palatal dentition in the reptilian group, Choristodera. Society of Vertebrate Paleontology, Estrel Berlin, Germany.

Suzuki, D., Matsumoto, R. 8th, November, 2014. Tarsal bone morphology of crocodiles reveals the ankle joint mechanism. Society of Vertebrate Paleontology, Estrel Berlin, Germany.

松本涼子, 2015年1月31日. 淡水生爬虫類コリストデラ類における頸の動きの復元. 日本古生物学会, 豊橋市自然博物館, 愛知.

浦野雪峰・松本涼子・河部壮一郎・田上 響・藤原慎一. 2015年1月31日. クチバシの骨の形態は角質の形態に制約を与えるか. 日本古生物学会, 豊橋市自然博物館, 愛知.

小川琴奈・松本涼子, 2015年1月31日. 石川県白山市の下部白亜系桑島層より産出した生痕化石 bromalite. 日本古生物学会, 豊橋市自然博物館, 愛知.

藤原慎一・斎藤浩明・岩間由希・松本涼子, 2015年1月31日. モグラ科の特殊な胸郭構造は掘削のため? それとも側方型姿勢のため? 日本古生物学会, 豊橋市自然博物館, 愛知.

鈴木大輔, 松本涼子. 2014年6月28日. ワニの足関節の可動域. 日本古生物学会, 九州大学総合研究博物館, 福岡.

勝山輝男 (かつやま てるお) 植物学 (維管束植物)
[論文]

Kadoya, T., A.Takenaka, F.Ishihama, T.Fujita, M.Ogawa, T.Katsuyama, Y.Kadono, N.Kawakubo, S.Serizawa, H.Takahashi, M.Takamiya, S.Fujii, H.Matsuda, K.Muneda, M.Yokota, K.Yonekura & T.Yahara, 2014. Crisis of Japanese Vascular Flora Shown By Quantifying Extinction Risks for 1618 Taxa. Plos One (www.plosone.org), June 2014, Vol.9, Iss. 6, e98954.

Yano, O., T. Katsuyama, H. Ikeda, M. F. Watoson & K. R. Rajbahndari, 2014. Author Citation for *Carex henryi* (*Cyperaceae*) Revisited. Journal of Japanese Botany, 89: 262-265.

Yano, O., T. Katsuyama, H. Ikeda, C. A. Pendry & K. R. Rajbahndari, 2015. A New Record of *Eleocharis uniglumis* (Link) Schult. (*Cyperaceae*) from Nepal. Journal of Japanese Botany, 90: 58-60.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2015. フランシェとサヴァチュエが記載した神奈川県産シダ植物と単子葉植物の基準標本. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (44) : 23-48.

田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァチュエが採集した植物標本に残る神奈川県の絶滅植物. 神奈川自然誌資料, (36) : 11-20.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

勝山輝男, 2015. 神奈川県のベンケイソウ属 *Hylotelephium* H.Ohba. Flora Kanagawa, (79) : 935-937.

勝山輝男, 2015. 小田原市久野で採集されたりトウザンヨモギ *Artemisia anomala* S.Moore. Flora Kanagawa, (79) : 937-938.

勝山輝男・北川淑子, 2014. カヤツリグサ科ハンドブック. 88pp.文一総合出版, 東京.

勝山輝男, 2015. ユキヨモギ, 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原 淳監修, 永田芳男写真, 絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版. p.25; ヤマタバコ, 同. p.33; イズカニコウモリ, 同. p.34; イズコゴメグサ, 同. p.99; ハチジョウウコゴメグサ, 同. p.100; イナコゴメグサ, 同. p.101; アオホオズキ, 同. p.121; ハコネコメツツジ, 同. p.209; アマギツツジ, 同. p.213; ムラサキツリガネツツジ, 同. p.217; ヤマナシウマノミツバ, 同. p.230; ハコネグミ, 同. p.259; イヌハギ, 同. p.290; サンショウバラ, 同. p.306; ハコネシロカネソウ, 同. p.406; タンザワサカネラン, 同. p.515; クロミノシンジュガヤ, 同. p.522; タカネクロスゲ, 同. p.523; ヒメワタスゲ, 同. p.523; ハタベカンガレイ, 同. p.525; エゾワタスゲ, 同. p.525; イッスンテンツキ, 同. p.528; ハタケテンツキ, 同. p.528; コツブヌマハリイ, 同. p.530; ツクシオオガヤツリ, 同. p.531; トサノハマスゲ, 同. p.532; キシュウナキリスゲ, 同. p.532; アシボソスゲ, 同. p.534; ダケスゲ, 同. p.534; オハグロスゲ, 同. p.535; アカネスゲ, 同. p.535; ジョウロウスゲ, 同. p.536; クグスゲ, 同. p.536; ツシマスゲ, 同. p.537; ヒゲハリスゲ, 同. p.537; クロコウガイゼキショウ, 同. p.565; ミヤマイ, 同. p.566; タカネイ, 同. p.566; エゾノミクリゼクショウ, 同. p.567. 山と溪谷社, 東京.

[普及的著作]

勝山輝男, 2014. 奥山にも外来生物がいる. 加藤ゆき・松本涼子・大西 亘編, 特別展どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp.21-22; 博物館周辺の身近な外来生物. 同. pp.47-50. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

勝山輝男, 2014. どうする? どうなる! 外来生物2 河川環境の改変が影響. 2014年7月25日. 神奈川新聞.

勝山輝男, 2014. 2013年度後半と2014年度前半の植物誌勉強会から. Flora Kanagawa, (78) : 931-932.

勝山輝男・田中徳久・支倉千賀子, 2015. 2014年

9月から2015年1月までの植物誌勉強会. Flora Kanagawa, (79) : 948-949.

勝山輝男, 2014. ハコネオトギリ. 箱根を守る会会報 ブナだより, (5) : 3.

勝山輝男, 2014. サクラガンピ. 箱根を守る会会報 ブナだより, (6) : 2-3.

勝山輝男, 2014. ソナレマツムシソウ. 箱根を守る会会報 ブナだより, (7) : 3.

勝山輝男, 2015. キヨスミミツバツツジ. 箱根を守る会会報 ブナだより, (8) : 2-3.

勝山輝男, 2014. 箱根の植物 No.1 フォッサ・マグナ要素植物. 箱根ジオパーク新聞, (14) : 2.

勝山輝男, 2014. 箱根の植物 No.2 ケンペルとツェンペリー. 箱根ジオパーク新聞, (15) : 2.

勝山輝男, 2014. 箱根の植物 No.3 金時山に分布が限られる植物. 箱根ジオパーク新聞, (16) : 2.

勝山輝男, 2015. 箱根の植物 No.7 大涌谷から早雲山アカバナヒメイワカガミの群生地. 箱根ジオパーク新聞, (20) : 2

[学会発表等]

田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015年3月6日(金)～8日(日). サヴァチュが採集した植物標本に残る神奈川県の特産植物. 日本植物分類学会第14回大会, 福島大学.

田中徳久(たなか のりひさ) 植物学(植物生態)

[論文]

Ohashi, H., M. Yoshikawa, K. Oono, N. Tanaka, Y. Hatase and Y. Murakami, 2014. The Impact of Sika Deer on Vegetation in Japan: Setting Management Priorities on a National Scale. Environmental Management, 54: 631-640.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2015. フランシェとサヴァチュが記載した神奈川県産シダ植物と単子葉植物の基準標本. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (44) : 23-48.

田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァチュが採集した植物標本に残る神奈川県の特産植物. 神奈川県立自然誌資料, (36) : 11-20.

田中徳久, 2015. 『神奈川県植物誌2001』刊行後に記録された神奈川県新産の帰化植物. Flora Kanagawa, (79) : 929-931.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久, 2014. ボゴール植物園で観察した板根を持つ植物. 横浜植物会年報, (43) : 69-71. 横浜植物会, 横浜.

[普及的著作]

田中徳久, 2014. 堀川先生の思い出(博物館・宴席編). 横浜植物会年報, (43) : 20-22.

武智憲治・田中徳久, 2014. インドネシア植物観察の旅日記. 横浜植物会年報, (43) : Plate2-3, 61-68.

横浜植物会, 横浜.

田中徳久, 2014. タンザワウマノノスズクサその後. Flora Kanagawa, (78) : 929-930.

田中徳久, 2014. ケンペルの採集した植物標本. 自然科学のとびら, (20) 3: 24.

田中徳久, 2014. 箱根の植物No.4. 神奈川県唯一の湿原仙石原湿原. 箱根ジオパーク新聞, (17) : 3.

田中徳久, 2014. 箱根の植物No.6. 駒ヶ岳の風衝草原. 箱根ジオパーク新聞, (19) : 2.

[学会発表等]

田中徳久, 2014年10月17日(金)～21日(火). 伊豆半島東海岸の海岸植物群落. 植生学会第19回大会, 朱鷺メッセ(新潟).

田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015年3月6日(金)～8日(日). サヴァチュが採集した植物標本に残る神奈川県の特産植物. 日本植物分類学会第14回大会, 福島大学.

田中徳久, 2015年3月18日(水)～22日(日). 伊豆半島東海岸の海岸植物群落の構成要素. 第62回日本生態学会大会, 鹿児島大学.

大西 亘(おにし わたる) 植物学(維管束植物)

[論文]

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2015. フランシェとサヴァチュが記載した神奈川県産シダ植物と単子葉植物の基準標本. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (44) : 23-48.

田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァチュが採集した植物標本に残る神奈川県の特産植物. 神奈川県立自然誌資料, (36) : 11-20.

[普及的著作]

大西 亘, 2014. 日本にもあるよ! 大きな板根 ホルトノキ. 自然科学のとびら, 20(2) : 1.

大西 亘, 2014. タケノコは外来生物!?. 2014年度特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp.51.

大西 亘, 2014. まだまだ増える? 園芸由来の外来植物たち. 2014年度特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp.111.

大西 亘, 2014. 木になるナスビ! ? - 侵略を始めたナスの大王 -. 2014年度特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp.112.

大西 亘, 2014. スーパー外来植物! ? ナガミヒナゲシ. 2014年度特別展 どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景 展示解説書. pp.113.

大西 亘, 2014. 植物誌調査の便利帳～第2回インターネット地図がさらに便利に! ～. FLORA KANAGAWA, (78) 930.

大西 亘, 2014. 私たちにできることは? (連載 どうす

る？どうなる！外来生物). 神奈川新聞, 2014年9月26日朝刊

大西 亘, 2014. 箱根の植物 No.5 秋の真鶴海岸の植物. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 2014年11月15日.

大西 亘, 2015. 分布を拡大するヨシススキ. FLORA KANAGAWA, (79) 928.

大西 亘, 2015. オオチョウジガマズミ. 矢原徹一ら監修, 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ増補改訂版, pp.79.

[学会発表等]

大西 亘, 2014年12月6日. “神奈川県植物誌”における市民参加型調査の挑戦. 第46回種生物学シンポジウム「市民調査～フィールド生物学と市民参加型科学の接点、その持続可能性を探る」, 富士Calm (一般財団法人人材開発センター富士研修所).

大西 亘, 2015年2月13日. 市民がつくる神奈川県植物誌. 弘前大学 白神自然環境研究所主催セミナー「生物情報ネットワークを構築するためには」～青森県でみつけて、つないで、発信する～, 弘前大学.

田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015年3月6日(金)～8日(日). サヴァチェが採集した植物標本に残る神奈川県絶滅植物. 日本植物分類学会第14回大会, 福島大学.

折原貴道(おりはら たかみち) 菌類学

[論文]

折原貴道, 2014. イグチ科シクエストレート菌未知系統の探索と分類、および進化的・地理的起源の解明. IFO Research Communications, 28: 128.

矢野倫子, 矢野清志, 山本幸憲, 折原貴道, 2015. 富士山静岡県域の変形菌. 神奈川県立博物館研究報告, 44: 49-70.

中島淳志, 折原貴道, 2015. ミカン果実上のアジア新産種 *Talaromyces cecidicola* およびその基質依存的なシンネマの形態変化. 神奈川自然誌資料, 36: 1-6.

[普及的著作]

折原貴道, 2014. ニュージーランドの不思議な形のきのこを求めて. 神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会通信.

折原貴道, 2015. 私にとってのアルバン・ベルクと菌類研究. ベルク通信, 37: 4-5.

折原貴道, 2015. 地中に潜ったきのこ地上生きのこの意外な関係. 菌蕈, 61 (3) : 15-19.

[学会発表等]

折原貴道, 2014年6月5日. イグチ科シクエストレート菌未知系統の探索と分類、および進化的・地理的起源の解明. 公益財団法人発酵研究所 第8回研究助成報告会, 大阪.

大坪 奏, 折原貴道, 出川洋介, 2014年6月14～15日. 神奈川県博の今関六也コレクション. 日本菌学会第58

回大会, 小松.

大前宗之, 山本航平, 折原貴道, 2014年6月15日. チャワンタケ科シクエストレート菌 *Delastria* sp. の国内初報告および属内の系統的多様性. 日本菌学会第58回大会, 小松.

折原貴道, Teresa Lebel, Zai-Wei Ge, Matthew E. Smith, 2014年6月15日. 核およびミトコンドリア系統樹のトポロジー比較から探る, *Rossbeevera* およびその類縁菌の複雑な進化史. 日本菌学会第58回大会, 小松.

Orihara T, 2014年8月4～8日. Island phylogeography of truffles: incredibly high genetic diversity of *Octaviania* subg. *Parcaea* (Boletaceae) in the Japanese Archipelago. 10th International Mycological Congress (IMC10), The Queen Sirikit National Convention Center, Bangkok, Thailand.

Orihara, T, 2014年8月17日. Recent progress in systematics of *Leccinum*-related sequestrate fungi (Boletaceae, Boletales). Special seminar at Key Laboratory for Plant Diversity and Biogeography of East Asia, Kunming Institute of Botany, Chinese Academy of Sciences, Kunming, Yunnan, China.

折原貴道, 2014年11月8日. 地中に潜ったきのこ地上生きのこの深い関係, 鳥取大学ポストグローバルCOEプログラム「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」主催 公開シンポジウム『これもきのこ？ー菌類きのこの多様な生き様ー』, 鳥取県立博物館, 鳥取.

折原貴道, 2014年12月6日. 小学生と共に進める菌類調査から、真鶴半島お林の“いま”を知る. 第46回種生物学シンポジウム, 種生物学会, 富士吉田.

折原貴道, 2015年2月4日. 島の地下生菌に秘められた進化史. 琉球大学熱帯生物圏研究センター公開シンポジウム, 琉球大学, 沖縄.

矢野倫子, 矢野清志, 山本幸憲, 折原貴道, 2015年2月28日. 富士山静岡県域の変形菌. 日本変形菌研究会大会, 国立科学博物館, 東京.

樽 創(たる はじめ) 古生物学(哺乳類)

[普及的著作]

樽 創, 2014. 「鳥類学者 無謀にも恐竜を語る」友の会通信 18, (3) : 8.

[学会発表等]

樽 創, 2015年2月28日. 「残ったクジラと残したクジラ～化石記録を理解する方法～」第3回海と命をめぐる公開講演会, クジラが語る、海の生命の進化, 神奈川県立生命の星・地球博物館, JAMSTEC, 神奈川県立生命の星・地球博物館SEISAミュージアムシアター.

大島光春(おおしま みつはる) 古生物学(哺乳類)

[論文]

柴田健一郎・根本 卓・大島光春・平田大二・高橋直樹・森 慎一・堀田桃子・三森亮介・野田智佳代・岩瀬成知・馬場千尋・満澤巨彦・藤岡換太郎および KO-OHO-O の会メンバー, 2015, 三浦海底谷と東京海底谷の海底地形・地質および生物の目視観察ー NT10-15 次航海Leg 3 ハイパードルフィン潜航調査報告 ー. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (44) : 11-22. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

[普及的著作]

大島光春, 2014. アメリカ西部の自然系博物館を訪ねて. 自然科学のとびら, 20 (3) : 18-19. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

[学会発表等]

田口公則・大島光春, 2014年6月29日. 展示見学における写真ポートフォリオ作業の導入. 全日本博物館学会第40回研究大会, 明治大駿河台キャンパス.

藤岡換太郎・森 慎一・高橋直樹・平田大二・大島光春・柴田健一郎・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO-OHO-Oの会, 2014年9月15日. 相模湾から新たに発見された三種類の玄武岩類のテクトニクスー火山とシート状溶岩と礫層としての玄武岩ー. 日本地質学会第121年学術大会, 鹿児島大学.

大島光春・田口公則, 2015年2月27日. 受け継がれる標本と教育活動: 林原自然科学博物館から生命の星・地球博物館へ. 第22回全日本科学博物館協議会研究発表大会, 札幌市青少年科学館.

田口公則・大島光春, 2015年3月21日. 企画展「恐竜の玉手箱」から: 恐竜を持って町へ出かけよう. 神奈川地学会第3回神奈川の地学広場, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)

[論文]

Utsunomiya, M., R. Majima, K. Taguchi & H. Wada, 2015. An in situ Vesicomid-dominated Cold-seep Assemblage from the Lowermost Pleistocene Urago Formation, Kazusa Group, Forearc Basin Fill on the Northern Miura Peninsula, Pacific Side of Central Japan. Paleontological Research, 19 (1). 1-20.

[普及的著作]

田口公則, 2014. タブレット片手に毎日のりじお: 秦野ー小田原の車窓. 友の会通信, 18 (3). 1-2.

田口公則, 2015. モノ・コトの関係性を見抜く視点ー博物館の展示で編集力を養うー. Educo, (36). 18.

田口公則, 2014. 2014年度企画展「恐竜の玉手箱」への思い. かながわ MUSEUMS メール 2014/11/6 第35号.

[学会発表等]

田口公則・大島光春, 2014年6月29日. 展示見学における写真ポートフォリオ作業の導入. 全日本博物館学会第40回研究大会, 明治大駿河台キャンパス.

田口公則・門田真人, 2014年9月15日. 人の営みから身近な自然景観を俯瞰する: 丹沢・秦野の戸川砥を例として. 日本地質学会第121年学術大会, 鹿児島大学. 大島光春・田口公則, 2015年2月27日. 受け継がれる標本と教育活動: 林原自然科学博物館から生命の星・地球博物館へ. 第22回全日本科学博物館協議会研究発表大会, 札幌市青少年科学館.

田口公則・大島光春, 2015年3月21日. 企画展「恐竜の玉手箱」から: 恐竜を持って町へ出かけよう. 神奈川地学会第3回神奈川の地学広場, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

新井田秀一 (にいだしゅういち) 環境科学

[論文]

笠間友博・石浜佐栄子・新井田秀一, 2014. 平成23 (2011) 年東北地方太平洋沖地震での液状化に関連して行った博物館出張授業. 地学教育, 67 (4) : 157-170.

笠間友博 (かさま ともひろ) 地学 (火山)

[論文]

笠間友博・石浜佐栄子・新井田秀一, 2015. 平成23 (2011) 年東北地方太平洋沖地震での液状化に関連して行った博物館出張授業. 地学教育, 67 (4) : 157-170.

笠間友博・中村俊文・一寸木 肇, 2015. 大井町メガソーラー施設 (きらめきの丘おおい) 建設時に出現した露頭. 神奈川地学, (80) : 26-32.

山下浩之・笠間友博, 2015.3. 神奈川県湯河原町に産する通称“白丁場石”の岩石学的特徴. 神奈川県立博物館研究報告自然科学, 44: 1-10.

[普及的著作]

笠間友博, 2015. 箱根火山最大級の噴火の痕跡. 自然科学のとびら, 20 (3) : 1.

笠間友博・松島義章, 2015. 2014年度日本第四紀学会功労賞を受賞された安池直治氏. 神奈川地学, (80) : 3.

井上公夫・相原延光・笠間友博, 関東大震災・現地見学会 秦野駅から震生湖周辺を歩く. 地理. (715) : 2-10.

山下浩之 (やました ひろゆき) 地学 (岩石)

[論文]

山下浩之・笠間友博, 2015.3. 神奈川県湯河原町に産する通称“白丁場石”の岩石学的特徴. 神奈川県立博物館研究報告自然科学, 44: 1-10.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

山下浩之, 2015.3. 早川石丁場群周辺に産する石材の理化学分析. 小田原市文化財調査報告書第175集 早川石丁場関白沢支群分布調査報告書, 114-134. 小田原市教育委員会.

[普及的著作]

山下浩之, 2014.4. 神山の崩壊. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 4月15日.

[学会発表等]

山下浩之・小原泰彦・有馬眞, 2014.5. ゴジラメガムリオンと中央海嶺メガムリオンから探る海洋リソスフェアの斑れい岩類の岩石学. 日本地球惑星科学連合2014年大会, パシフィコ横浜会議センター.

石浜佐栄子 (いしはま さえこ) 地学 (堆積学)

[論文]

笠間友博・石浜佐栄子・新井田秀一, 2014. 平成23 (2011) 年東北地方太平洋沖地震での液状化に関連して行った博物館出張授業. 地学教育, 67 (4) : 157-170. 秋葉文雄・谷村好洋・大井剛志・石浜佐栄子・松本 良, 2014. 日本海最上部第四系コアの珪藻化石層序および珪藻起源の黒色粒子とその古海洋学的意義. 石油技術協会誌, 79 (2) : 130-139.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子, 2015. HR14白嶺航海で採取されたRC1408コア試料に含まれる浮遊性・底生有孔虫殻の酸素・炭素同位体組成からみた堆積年代と海洋環境変動、ハイドレート分解イベントの検出. 経済産業省表層メタンハイドレート資源量評価プロジェクト・平成26年度報告書.

[普及的著作]

石浜佐栄子, 2014. 自然史資料としての地層剥ぎ取り標本. 自然科学のとびら, 20 (3) : 23.

[学会発表等]

大井剛志・石浜佐栄子・秋葉文雄・沼波秀樹・松本良・長谷川四郎, 2014年4月29日. 日本海東縁メタン湧出海域における微化石層序研究及びUT13研究報告. 日本地球惑星科学連合2014年大会, パシフィコ横浜. 石浜佐栄子, 2015年1月30日. 最上トラフで採取されたHR14航海試料に含まれる浮遊性有孔虫殻の酸素・炭素同位体組成変動. 表層メタンハイドレート・フォーラム2014, 明治大学.

大坪 奏 (おおつぼ かなで)

[普及的著作]

大坪 奏, 2014. 書評『ちいさなちいさなーめにみえないびせいぶつのせかい』. 日本菌学会ニュースレター.

[学会発表等]

大坪 奏, 2015年1月17日. 今関図譜の全貌と学術的価値. 菌類学講座「菌類図譜を読み解く」. 大阪市立自然史博物館

大坪 (小出) 奏・折原貴道・出川洋介, 2014年6月14日. 神奈川県博の今関六也コレクション. 日本菌学会第58回大会. 石川県小松市.

日本学術振興会特別研究員

小坂井千夏 (こざかい ちなつ) 動物学 (哺乳類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

小坂井千夏・近藤麻実・中村幸子・中下留美子・有本 勲・伊藤哲治・後藤優介・間野 勉, 2014. クマ類の保護管理は進んだか? ~課題を整理して次のステップへ~. 哺乳類科学 54:141-144.

[学会発表等]

近藤麻実・小坂井千夏・中下留美子・間野 勉, 2014年9月4日~7日. 自由集会世話人 (クマ類の個体群動態モニタリング~地域の実情に応じた選択~). 日本哺乳類学会2014年度大会, 京都大学, 京都.

古坂志乃・小坂井千夏・根本 唯・原口拓也・山崎晃司・小池伸介, 2014年9月4日~7日. 直接観察法によるツキノワグマの春の採食物選択要因の解明. 日本哺乳類学会2014年度大会, 京都大学, 京都.

Furusaka, S., Kozakai, C., Nemoto, Y., Umemura, Y., Yamazaki, K., Koike, S., 2014年10月5-11日. Relationships between spring feeding behavior of Asiatic black bear and nutrition values of their foods by direct observation. 23rd International Association for Bear Research and Management. Thessaloniki, Greece.

Koike, S., Nakashita, R., Kozakai, C., Nakajima, A., Nemoto, Y., Yamazaki, K., 2014年10月5-11日. Regional difference in carbon stable isotope ratios of wild bears in Japan. 23rd International Association for Bear Research and Management. Thessaloniki, Greece.

Furusaka, S., Kozakai, C., Nemoto, Y., Umemura, Y., Yamazaki, K., Koike, S., 2015年3月20日-24日. Direct observation of bears' foraging behavior: factors affecting food selection of Asian black bears in spring. 第62回日本生態学会, 鹿児島大学, 鹿児島.

宮崎佑介 (みやざき ゆうすけ) 動物学 (魚類)

[論文]

Miyazaki, Y., A. Murase & H. Senou, 2015. A natural history museum as a platform for accumulating verifiable information on non-native fishes: A Japanese example. Management of Biological Invasions 6: 105-110.

Miyazaki, Y., Y. Ikeda & H. Senou, 2015. The northernmost records of *Chromis notata* and *Sagamia geneionema* from Hokkaido, Japan. Marine Biodiversity Records 8: e13.

Miyazaki, Y., A. Murase & H. Senou, 2014. Citizen participation in augmenting a museum database enhances fish monitoring and public awareness. Journal of Aquatic Marine Environmental Education Research, 7: 22-26.

- 宮崎佑介・村瀬敦宣, 2014. 三浦半島東部観音崎におけるトビイトギンボ *Zoarchias glaber* の体長組成の年間変動とその生活史について. 日本生物地理学会会報, 69: 213-216.
- Murase, A., A. Angulo, Y. Miyazaki, W. A. Bussing & M. I. López, 2014. Marine and estuarine fish diversity in the inner Gulf of Nicoya, Pacific coast of Costa Rica, Central America. Check List 10: 1401-1413.
- Miyazaki, Y., M. Nakae & H. Senou, 2014. Ichthyofauna of the Kubo, Tochikura, and Ichinono river systems (Kitakami River drainage, northern Japan), with a comparison of predicted and surveyed species richness. Biodiversity Data Journal 2: e1093.
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka, K. Kaifu, S. S. Matsuzaki & I. Washitani, 2014. Asymmetric dispersal structures a riverine metapopulation of the freshwater pearl mussel *Margaritifera laevis*. Ecology and Evolution, 4: 3004-3014
- Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide & H. Senou, 2014. Biological monitoring by citizens using Web-based photographic databases of fishes. Biodiversity and Conservation, 23: 2383-2391
- [普及的著作]
- 宮崎佑介, 2014. 新種が続出? イズハナダイ. つり情報, (871): 162
- 宮崎佑介, 2015. 白ヒゲを探せ! サクヤヒメジ. つり情報, (873): 162
- 宮崎佑介, 2015. 雌雄は別モノ!? コケギンボ. つり情報, (875): 162
- 宮崎佑介, 2015. 気候変動の使者!? カタボシイワシ. つり情報, (877): 162
- [学会発表等]
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka & S. S. Matsuzaki. A cryptic Allee effect: spatial contexts mask an existing fitness-density relationship. 日本生態学会第62回全国大会. 鹿児島大学, 鹿児島. 2015年3月. (口頭発表)
- Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, R. Masui & H. Senou. Integrating and utilizing citizen biodiversity data on the web for science: An example. American Association for the Advancement of Science (AAAS) 2015 Annual Meeting: Innovations, Information, and Imaging. San Jose, USA. February 2015. (Poster Session)
- Miyazaki, Y., A. Murase & H. Senou. A natural history museum as a platform for accumulating verifiable information on non-native fishes: A Japanese example. Citizen Science 2015 Conference. San Jose, USA. February 2015. (Poster Session)
- 宮崎佑介・瀬能 宏. 止まらないブラックバスの違法放流. 2014年度日本魚類学会年会公開シンポジウム「日本の外来魚問題の現状を考える: 外来生物法制定から10年で何が変わったのか?」. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. 2014年11月. (口頭発表)
- 宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能宏. 外来魚類の再検証可能な情報集積場としての自然史博物館の役割. 第47回日本魚類学会年会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. 2014年11月. (ポスター発表)
- Nakae, M., Y. Miyazaki, H. Senou & K. Matsuura. FishPix: Image database of fishes developed by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History and the National Museum of Nature and Science in Japan. Pacific Neighborhood Consortium 2014 Annual Meeting and Joint Meeting. Taipei, Taiwan. October 2014. (Oral Session)
- Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide & H. Senou. The monitoring functions of an Internet community for non-native fish invasions and introductions. 3rd International Marine Conservation Congress. Glasgow, UK. August 2014. (Poster Session)
- Miyazaki, Y., A. Murase & H. Senou. Citizen participation in augmenting a museum's database enhances fish monitoring and public awareness. 5th International Pacific Marine Educators Network Conference. Tokyo, Japan. July 2014. (Oral Session)
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka, K. Kaifu, S. S. Matsuzaki & I. Washitani. Asymmetric dispersal structures a metapopulation of the freshwater pearl mussel. 2014 Joint Aquatic Sciences Meeting. Portland, USA. May 2014. (Oral Session)

3.5. レファレンス件数

2014年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス件数

	植物	菌類	昆虫	その他動物	魚類	両生・爬虫類	鳥類	哺乳類	古生物	地学	地球環境	計
メール	169	107	365	103	819	42	149	22	297	82	3	2,158
電話	86	16	143	29	83	17	97	12	41	35	8	567
手紙	27	37	54	8	9	0	7	0	3	9	0	154
来館	113	57	91	50	86	38	29	18	65	103	9	659
出張	9	5	140	8	0	3	2	42	10	9	0	228
小計	404	222	793	198	997	100	284	94	416	238	20	3,766
同定標本数	298	132	10,070	133	1,065	31	242	3	49	141	13	12,177

マスコミに掲載された回数

	植物	菌類	昆虫	その他動物	魚類	両生・爬虫類	鳥類	哺乳類	古生物	地学	地球環境	計
掲載	2	0	4	1	6	8	4	0	1	0	0	26
放送・放映	7	1	2	3	12	2	0	1	2	1	0	31

マスコミ等の問い合わせ元（掲載未確認のものを含む）

植物	NHKさわやか日本百景／NHKさわやか日本百景／NHK横浜放送局／NHK BSプレミアム特集ニッポンの里山／NHK さわやか自然百景「八ヶ岳山麓 国蝶舞う里山」／NHK BSプレミアム「箱根ハイキング大百科」／NHK総合テレビ「さわやか自然百景 新春特集」／NHK ニッポン里山「軽井沢」／NHK BSプレミアム ニッポンの里山「ヤマアカガエルを育む里山の森」／NHK ニッポンの里山 相模原市青根／NHK さわやか自然百景「柿田川」／東京新聞
菌類	NHKグローバルメディアサービス「にっぽん百名山」「グレートサミッツ」／湯河原新聞
昆虫	読売新聞／日本経済新聞／テレビ朝日ミラクナイン／NHK／TOKYO FM／テレビ NHK NEWS WEB
その他動物	BS-TBS「ニュース少年探偵団」／NHKEテレ「すイエんサー」／NHK「首都圏ネットワーク」／テレビ東京「クロスロード」／フジテレビ「スーパーニュース」／日本テレビ「ZIP!」／NHK「さわやか自然百景」／NHK「さわやか自然百景新春特集」／テレビマンユニオン「食彩の王国」／NHK「ニッポンの里山」／鈴廣広報誌「ごとし」／フジテレビ「クイズ！それマジ！？ニッポン」兵庫県たつの市教育委員会
魚類	日本テレビ「No.1のナンバーワン」／日本テレビ「ニュースエブリィ」／NHK「ダーウィンが来た！」／テレビ朝日「くりいむクイズ ミラクル9」／伊豆新聞／NHK「すイエんサー」／日本テレビ「所さんの目がテン！」／TBS「林先生の痛快！生きざま大辞典」／朝日新聞／日本テレビ「ザ！鉄腕！DASH！」／NHK「首都圏ネットワーク」／TBS「アイ・アム・冒険少年」／NHKエンタープライズ制作本部／NHK放送センター／NHKワールド「サイエンスビュー」／日本経済新聞編集局／読売新聞横浜支局／テレビ朝日／テレビ東京「クロスロード」／フジテレビ「スーパーニュース」／テレビ朝日「よみこの無人島0円生活」／テレビ朝日「ナニコレ珍百景」／テレビ朝日「グッドモーニング」／読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」／TBS「Nスタ」／日本テレビ「PON」／日本テレビ「oha!4 NEWS LIVE」／テレビ朝日「いきなり！黄金伝説」／NHK「さわやか自然百景」／日本テレビ「超問クイズ」／テレビ朝日「マツコ＆有吉 怒り新党」／NHK「ニッポンの里山：ふるさとの絶景に出会う旅」／TBS「噂の現場直行ドキュメン ガンミ!!」／NHK BSプレミアム「ザ・プレミアム～深海のロストワールド 追跡！謎の古代魚」／日本テレビ「満点☆青空レストラン」／日本経済新聞／朝日新聞科学医療部／NHKエンタープライズ制作本部自然科学番組部／NHK沖縄放送局／NHK釧路放送局／NHK（首都圏センター）
両生・爬虫類	NHKの教育番組よりイシガメの問い合わせ／NHK：ダーウィンが来た／日本テレビ：ZIP
鳥類	産経新聞／山梨日日新聞／読売新聞／朝日新聞／NHK
哺乳類	NHK 世界遺産の番組／TBSひるおび／神奈川新聞
古生物	種名・標本委員会細則に関して（哺乳学会）／玉川大学出版会／テレビ東京系製作会社／横須賀市博物館／大阪府大東市立図書館／日テレ・ニュース エブリィ「立ち入り禁止 その先には」／琵琶湖博物館／茅ヶ崎市文化資料館／東京新聞／北九州市自然史博物館／豊橋市自然史博物館／産経新聞
地学	京都大学防災研究所／NHKエンタープライズ／NHK／神奈川新聞／読売新聞／大日本図書／テレビ朝日報道ステーション／フジテレビ／静岡第一テレビ／
地球環境	山梨県立富士山研究所

3.6. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「役職名「科目名」（学校名）」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

斎藤靖二

[委員・役員]

公益一般社団法人東京地学協会監事

公益一般社団法人東京地学協会伊能忠敬没後200年記念事業委員会委員

経産省地質図JIS改正原案作成委員会委員長

文部科学省科学技術・学術審議会海洋開発分科会深海掘削委員会・主査

総務省平和祈念館運営に関するアドバイザー

公益財団法人日本博物館協会理事

公益財団法人日本博物館協会「博物館研究」編集委員

公益財団法人日本博物館協会棚橋賞選考委員会委員

一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員会・会長

国際博物館会議（ICOM）大会招致準備委員会委員

独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園環境問題特別委員会委員

独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会委員

独立行政法人国立科学博物館民間競争入札評価委員会委員

理数系学会教育問題連絡会 日本地球惑星科学連合担当委員

NPO法人国際地学オリンピック日本委員会諮問委員・日本大会顧問

民連携による地域防災活動活性化研究」（略：文部科学省神奈川県防災データベース起爆剤研究会）運営委員

[非常勤講師]

玉川大学農学部非常勤講師

広谷浩子

[委員・役員]

小田原市郷土文化館協議会委員（小田原市教育委員会）

神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員（神奈川県環境農政局水・緑部自然環境保全課）

西湘地域鳥獣対策協議会委員（県西地域県政総合センター環境部）

大磯町郷土資料館運営委員（大磯町教育委員会）

[査読]

人と自然（兵庫県立人と自然の博物館研究紀要）

Primates（日本霊長類学会）

[非常勤講師]

桜美林大学非常勤講師 博物館実習「バリアフリー実習1・2」

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」

都留文科大学非常勤講師(前期)「博物館展示論」、「博物館資料保存論」

平田大二

[委員・役員]

全国科学博物館協議会理事

神奈川県博物館協会理事

小田原市市文化財審議会委員

相模原市文化財審議会委員

横須賀市文化財審議会委員

地質の日事業推進委員会委員長

日本地質学会理事

日本地質学会日本地学オリンピック支援委員

日本地学教育学会将来構想委員

日本地震学会・火山学会・地質学会子ども地震火山サマースクール支援委員

神奈川県立西湘高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営委員

玉川学園スーパーサイエンスハイスクール運営委員

教育自然学研究会世話人

日本大学文理学部地球システム科学科外部アドバイザー委員

文部科学省地域防災支援プロジェクト「神奈川県に係る防災研究データベースの活用を起爆剤とした官学

瀬能 宏

[委員・役員]

日本魚類学会評議員（日本魚類学会）

日本魚類学会自然保護委員希少海産魚問題検討部会委員（日本魚類学会）

日本魚類学会標準和名検討委員会委員長（日本魚類学会）

日本生物地理学会評議員（日本生物地理学会）

平成26年度海洋生物の希少性評価検討委員（環境省）

希少野生動植物種保存推進員（環境省）

[査読]

魚類学雑誌（日本魚類学会）

佐藤武宏

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」

加藤ゆき

[委員・役員]

神奈川県鳥類目録編集委員会委員（日本野鳥の会神奈川県支部）

神奈川県カワウ対策委員会委員（神奈川県水産課）
周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）
相模原市環境影響評価審査会委員（神奈川県相模原市）
〔査読〕
Strix（日本野鳥の会）

渡辺恭平

〔委員・役員〕
富士箱根伊豆国立公園箱根地域仙石原湿原におけるニホンジカ対策検討委員会委員
JBIFワーキンググループ メンバー
日本分類学界連合 国立自然史博物館新設 ワーキンググループ メンバー
〔査読〕
ZooKeys（Pensoft Publ., Bulgaria）

勝山輝男

〔委員・役員〕
絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物 I 分科会委員（環境省）
稀少野生動植物種保存推進員（植物）（環境省）
愛知目標達成のための侵略的外来種リストの作成に向けた植物ワーキンググループ会合の検討委員（財団法人 自然環境研究センター・環境省）
国内希少野生動植物（維管束植物）の選定に関する意見交換会委員（財団法人 自然環境研究センター・環境省）
平成26年度指定植物選定基準・方針等改訂検討会検討委員（財団法人 自然環境研究センター・環境省）
日本植物分類学会絶滅危惧植物検討委員会委員（日本植物分類学会）
河川水辺の国勢調査スクリーニング・グループ委員（植物）（財団法人リバーフロント整備センター）
丹沢大山自然再生委員会委員（丹沢大山自然再生委員会）
仙石原湿原保全管理検討委員会委員（環境省箱根自然環境事務所）
富士箱根伊豆国立公園箱根地域仙石原湿原におけるニホンジカ対策検討委員会委員（株式会社 野生動物保護管理事務所・環境省箱根自然環境事務所）
神奈川県生物多様性一次地域戦略検討委員会委員（神奈川県環境農政局 水・緑部 自然環境保全課）
川崎市青少年科学館協議会委員（川崎市教育委員会）
小田原市文化財保護委員（小田原市教育委員会）
史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会部委員（小田原市教育委員会）
湯河原町文化財保護委員長（湯河原町教育委員会）
熱海市文化財保護委員（熱海市教育委員会）
日本すげの会副会長（日本すげの会）
神奈川県植物誌調査会運営委員（神奈川県植物誌調査会）

田中徳久

〔委員・役員〕
神奈川県植物誌調査会運営委員（神奈川県植物誌調査会）
横浜植物会運営委員（横浜植物会）
神奈川県自然保護協会運営委員（神奈川県自然保護協会）
自然史学会連合博物館部会委員（自然史学会連合）
大和市文化財保護審議会委員（大和市）
大磯町環境審議会委員
寺家ふるさと村「四季の家」管理運営委員会委員
〔非常勤講師〕
横浜国立大学教育人間科学部非常勤講師（後期）「自然博物館学（博物館資料論）」
神奈川大学理学部非常勤講師（後期）「地域の自然史」
桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」

折原貴道

〔委員・役員〕
日本菌学会ニュースレター編集長
日本菌学会幹事（広報担当）
日本菌学会関東支部企画幹事（菌類観察会担当）
日本菌学会関東支部第2回勝本賞選考委員
2015年度日本菌学会菌類観察会役員
〔査読〕
Mycoscience（Mycological Society of Japan）
Mycotaxon（Mycotaxon Ltd., USA）

樽 創

〔委員・役員〕
日本哺乳類学会種名・標本委員会委員（日本哺乳類学会）
自然史学会連合運営委員（自然史学会連合）
日本古生物学会行事幹事（日本古生物学会）
神奈川地学会運営員（神奈川地学会）
あきる野市文化財保護審議会委員
〔非常勤講師〕
東京農業大学アロマセラピー学科非常勤講師（前期）
「動物形態・分類学」

大島光春

〔委員・役員〕
茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画策定支援アドバイザー会議 アドバイザー
全国科学博物館協議会「全科協ニュース」編集委員

田口公則

〔委員・役員〕
日本共生科学会学会誌編集委員（日本共生科学会）
神奈川地学会事務局（神奈川地学会）

新井田秀一

[非常勤講師]

日本大学生物資源科学部非常勤講師(後期集中)「博物館学各論」

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」

笠間友博

[委員・役員]

日本地質学会理事(日本地質学会)

日本地質学会関東支部幹事長(日本地質学会)

日本地質学会友の会検討委員(日本地質学会)

日本地質学会火山部会教育普及委員(日本地質学会)

日本火山学会事業委員(日本火山学会)

日本火山学会学校教育委員(日本火山学会)

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」

山下浩之

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

石浜佐栄子

[委員・役員]

明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所
客員研究員

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

神奈川地学会事務局(神奈川地学会)

[非常勤講師]

日本女子大学非常勤講師(前期)「博物館実習A」

小坂井千夏

[委員・役員]

日本哺乳類学会保護管理専門委員会・クマ保護管理
討作業部会事務局

日本クマネットワークニュースレター編集委員

松本涼子

[査読]

Palaeontological Research(日本古生物学会)

3.7. 講師依頼等

当博物館学芸員への講師依頼等を、学芸員ごとに講演、講座などの内容(テーマ)、依頼元、開催場所、実施日について記載した。なお、学校(小・中・高・大・養護等)への対応については、「5.2. 学校教育への対応」に記載した。

石浜佐栄子

「青少年のための科学の祭典」神奈川大会(神奈川県立青少年センター)場所:神奈川県立青少年センター(2014年8月3日)

独立行政法人国際協力機構(JICA)国家測量事業計画・管理研修([一財]日本地図センター)場所:当館(2014年10月7日)

大坪 奏

菌類学講座『菌類図譜を読み解く』:講演「今関六也菌類図譜 その全貌と学術的価値」(大阪市立自然史博物館)場所:大阪市立自然史博物館(2015年1月17日)

大西 亘

真鶴半島のイワタイダキ観察会(真鶴町立遠藤貝類博物館サポーターズ)場所:真鶴港~正源山~福浦カトラゴ往復(2014年5月17日)

真鶴町お林保全のための現地確認(真鶴町産業観光課)場所:県立真鶴半島自然公園(2014年7月25日,12月25日)

秋の自然ウォッチング(藤沢市湘南台文化センター子ども館)場所:藤沢市湘南台文化センター子ども館

(2014年11月9日)

「海のミュージアム」冬の『お林』ネイチャーウォーク(真鶴町立遠藤貝類博物館)場所:真鶴半島「お林」~番場浦遊歩道~三ツ石海岸~遠藤貝類博物館(2014年11月16日)

第46回種生物学シンポジウム「市民調査~フィールド生物学と市民参加型科学の接点、その持続性を探る」:「“神奈川県植物誌”における市民参加型調査の挑戦」(第46回種生物学シンポジウム実行委員会)場所:富士Calm(一財)人材開発センター富士研修所(2014年12月6日)

セミナー「生物情報ネットワークを構築するためには」~青森でみつくて、つないで、発信する~(弘前大学白神自然環境研究所)場所:弘前大学創立60周年記念会館(2015年2月13日)

真鶴町職員研修「海を活かしたまちづくり研修会~これからのお林を考える~」(真鶴町立遠藤貝類博物館)場所:真鶴町民センター、真鶴町立遠藤貝類博物館(2015年2月25日)

折原貴道

真鶴半島菌類相調査第1~4回(真鶴町立遠藤貝類博物館サポーターズ)場所:真鶴町立遠藤貝類博物館、

真鶴半島御林内（2014年5月25日,7月21日,10月27日,12月13日）

平成26年度第5回かながわ食の安全・安心基礎講座
（神奈川県保健福祉局生活衛生部 食品衛生課）場
所：当館（2014年10月5日）

鳥取大学ポストグローバルCOEプログラム「持続性社
会構築に向けた菌類きのこ資源活用」公開シンポジ
ウム“これもきのこ？”（鳥取大学農学部（鳥取大学
ポストグローバルCOEプログラム））場所：鳥取県
立博物館（2014年11月7日,8日）

第46回種生物学シンポジウム「市民調査～フィール
ド生物学と市民参加型科学の接点、その持続性を探
る」：「小学生と共に進める菌類調査から、真鶴半
島お林の“いま”を知る」（第46回種生物学シンポジ
ウム実行委員会）場所：富士Calm（一財）人材開発
センター富士研修所（2014年12月6日）

公開シンポジウム講演及びきのこ調査（琉球大学熱帯
生物圏研究センター）場所：琉球大学研究者交流施
設、名護（2015年2月3日,4日）

笠間友博

やまと市民大学講座：「相模野台地の地質・岩石」
（大和市文化スポーツ部）場所：大和生涯学習セ
ンター（2014年7月25日）

「青少年のための科学の祭典」神奈川大会（神奈川県
立青少年センター）場所：神奈川県立青少年セン
ター（2014年8月3日）

「火山学者と富士山をつくろう」（清水町生涯学習
課）場所：清水町公民館（2014年8月18日）

伊東自然歴史案内人養成講座「火山灰の中の鉱物観
察」（伊東市観光課）場所：当館（2014年8月27
日）

「火山と石材」（宇佐見江戸城石丁場遺跡保存会）場
所：宇佐見コミュニティーセンター（2014年10月
5日）

セミナー「秦野盆地の地質学的特徴」（有料老人ホー
ム サンシティ神奈川）場所：有料老人ホーム サン
シティ神奈川（2014年11月18日）

おおい自然園「火山灰を調べよう」（大井町教育委員
会）場所：大井町山田メガソーラー「きらめきの丘
おおい」（2015年1月24日）

勝山輝男

第28回ケンペル・バーニー祭記念講演「ツンベルクと
箱根の植物」（ケンペルとバーニーを讃える会）場
所：元箱根集会場（2014年4月12日）

自然科学教室『川の生物観察会』（湯河原町教育委員
会）場所：新崎川吉浜橋付近（湯河原町）（2014
年8月5日）

加藤ゆき

西湘科学研究発表会：記念講演「鳥類～神奈川の野鳥
と外来種」（西湘地区科学振興委員会）場所：当館
（2014年3月26日）

苅部治紀

酒匂平野の用水路のトンボ調査：用水路のサナエトン
ボなどの幼虫調査の指導（トンボ調査・保全ネット
ワーク）場所：小田原市、大井町の用水路（2014
年4月13日）

視察による校内ビオトープの環境改善指導（横浜市立
富岡小学校）場所：横浜市立富岡小学校（2014年
5月7日,24日）

桑原・鬼柳地区の自然－トンボとカエルを通して（メ
ダカサポーターの会）場所：城北タウンセンターい
ずみ（2014年10月25日）

佐藤武宏

科学ヘジャンプ・イン・東京2013：ワークショップ
「カニのからだのしくみを知ろう」（科学ヘジャン
プ・イン・東京2013実行委員会）場所：筑波大学
附属視覚特別支援学校（2014年12月7日）

瀬能 宏

視察調査：博物館における生物多様性保全に係る調査
研究活動について（石川県環境部自然環境課（のと
海洋ふれあいセンター））場所：当館（2014年6月
19日）

シンポジウム人類の財産を失わないために今なすべ
きこと：講演「自然史標本と博物館」（日本学術会
議）場所：日本学術会議講堂（2014年9月19日）

小笠原ビジターセンター特別展『小笠原の魚たち』：
講演「小笠原の魚たち：分布の研究からそのルーツ
を探る」（ポニインタープリター協会（BIO））場
所：小笠原ビジターセンター（2014年10月13日）

第46回種生物学シンポジウム「市民調査～フィール
ド生物学と市民参加型科学の接点、その持続性を探
る」：「魚類写真資料データベース：市民との協働
で築かれた研究ツールとその応用」（第46回種生物
学シンポジウム実行委員会）場所：富士Calm（一
財）人材開発センター富士研修所（2014年12月6
日）

日本分類学会連合第14回シンポジウムⅠ『国立自然史
博物館の設立を望む』：講演「国立自然史博物館に
何を望むのか：地方博物館の視点」（日本分類学会
連合）場所：国立科学博物館上野本館（2015年1
月10日）

田口公則

科学ヘジャンプ・イン・東京2013：ワークショップ
「アンモナイトは巻貝じゃないよ!」（科学ヘジャ

ンプ・イン・東京2013実行委員会) 場所: 筑波大学附属視覚特別支援学校 (2014年12月7日)

田中徳久

やまと市民大学講座「相模野台地の植物」(大和市文化スポーツ部) 場所: 大和市生涯学習センター (2014年7月29日)

やまと市民大学講座「相模野台地の植物群落」(大和市文化スポーツ部) 場所: 大和市生涯学習センター (2014年8月8日)

やまと市民大学講座「野外学習」(大和市文化スポーツ部) 場所: 大和市生涯学習センター (2014年9月5日)

子ども科学探検隊「博物館周辺の野外観察とバックヤード見学」(県立青少年センター) 場所: 県立青少年センター (2014年11月8日)

厚木市社会的な居場所づくり事業: 社会体験「バックヤード見学」(厚木市福祉部生活福祉課) 場所: 当館 (2014年11月15日)

例会講演「2014年の植物界の話題」「サヴァチュの採集した神奈川県産の植物標本」(横浜植物会) 場所: 横浜市こども植物園 (2014年12月21日)

樽 創

県立大磯城山公園主催イベント「小さな骨化石展～西小磯の脊椎動物化石～」(県立大磯城山公園) 場所: 旧吉田茂邸地区管理休憩棟 (2015年3月28日)

新井田秀一

新入生オリエンテーション講演「地球環境・人工衛星画像解析」(東京工芸大学工学部生命環境化学科) 場所: 当館 (2014年4月9日)

平田大二 (館長)

生命誕生の歴史と生物多様性に関する講座: 「地球&生命誕生の歴史」(NPO法人神奈川シニア自然大学校) 場所: 当館 (2014年9月3日)

講演「地球規模での温度変化の推移」(化学工学会) 場所: 当館 (2014年6月19日)

山のワークショップ「箱根の自然と石垣山一夜城の歴史にふれる」(教育自然学研究会) 場所: 当館および

び石垣山一夜城 (2014年7月13日)

広谷浩子

やまと市民大学講座「相模野台地の動物」(大和市文化スポーツ部) 場所: 大和市文化スポーツ部 (2014年8月29日)

科学ヘジャンプ・イン・東京2013: ワークショップ「からだからわかる私たちの進化」(科学ヘジャンプ・イン・東京2013実行委員会) 場所: 筑波大学附属視覚特別支援学校 (2014年12月7日)

松本涼子

特別講演「ネオコリストデラ類について」(白山市手取層群化石調査協議会) 場所: 白山恐竜パーク白峰(石川県) (2014年8月24日)

山下浩之

伊勢原サイエンスクラブ野外研修会「博物館バックヤードツアー」(伊勢原市立子ども科学館) 場所: 当館 (2014年8月6日)

文化歴史講座「箱根火山の岩石」(箱根コミュニティ・カレッジ) 場所: 当館 (2015年1月24日)

渡辺恭平

早雲寺樹林の生き物調べ「ヒメハル蟬のぬけ殻調べ」(NPO法人早雲寺ヒメハルゼミの会) 場所: 箱根町立湯本幼児学園、早雲寺樹林 (2014年7月1日)

早雲寺樹林の生き物調べ「ヒメハル蟬の鑑定」(NPO法人早雲寺ヒメハルゼミの会) 場所: 早雲寺壺中軒、早雲寺樹林 (2014年7月7日)

夏休み野外学習「生き物探検 昆虫編」(神奈川まちづかい塾) 場所: 鎌倉明月荘 (2014年7月21日, 8月2日)

ミュージアム・リレー204走「植物・昆虫の標本作製についての解説・実技」([一財]自然公園財団箱根支部) 場所: 環境省箱根ビジターセンター (2014年8月29日)

生命誕生の歴史と生物多様性に関する講座「なぜ生物多様性が必要なのか、保全の意味」(NPO法人神奈川シニア自然大学校) 場所: 当館 (2014年9月3日)

3.8. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会について、「それぞれの名称(担当者)と「実施日(場所)参加人数」について記載した。

神奈川県植物誌調査会総会(勝山輝男・田中徳久・大西亘) 2014年4月6日(土) 講義室(約60名)

平成25年度魚の会総会・平成26年度魚の会第1回講演会(瀬能 宏) 2014年5月18日(日) 講義室(総会:

23名；講演会：39名)

小田原市立城南中学校科学部同窓会（平田大二）2014年5月23日（金）講義室

第1回グロムス研究会（折原貴道）2014年5月31日～6月1日実習実験室および野外調査（10名）

湘南地球科学の会第166回講演会（平田大二・大島光春・山下浩之）2014年6月7日（土）講義室（15名）

菌類懇話会例会（合同観察会）（折原貴道）2014年7月5日実習実験室（16名）

東京大学地震研究所研究集会「Connecting the dots and lines in subduction volcanism and earthquakes」（平田大二・山下浩之）2014年7月9日（水）会議室他（15名）

フェリス女子大学施設見学（平田大二）2014年7月20日（日）館内

平成26年度第2回魚の会講演会（瀬能 宏）2014年8月24日（日）講義室（28名）

神奈川昆虫談話会例会（荻部治紀・渡辺恭平）2014年8月31日（日）講義室（51名）

科学研究費「情報アクセシビリティに配慮された科学系博物館の展示支援・学習支援の調査研究」研究集会（平田大二）2014年10月13日（日）会議室他（6

名）

東邦大学理学部地球化学科施設見学（平田大二）2014年10月30日（木）館内（7名）

ベトナム科学アカデミー・ベトナム国立自然史博物館職員視察（平田大二・吉田 弘）2014年11月26日（火）会議室他（9名）

平成26年度第3回魚の会講演会（瀬能 宏）2014年12月7日（日）講義室（19名）

神奈川昆虫談話会例会（荻部治紀・渡辺恭平）2014年12月14日（日）講義室（42名）

地震津波シンポジウム～かながわ発！地震・津波から「いのち」を守る！（斎藤靖二・平田大二・岩崎克彦・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子）2015年1月17日（金）SEISAミュージアムシアター・講義室

桜美林大学リベラルアーツ学群施設見学（平田大二）2015年2月7日（7名）館内

平成26年度第4回魚の会講演会（瀬能 宏）2015年2月22日（日）講義室（46名）

第2回グロムス研究会（折原貴道）2015年3月28日～3月29日実習実験室および野外調査（12名）

神奈川昆虫談話会例会（荻部治紀・渡辺恭平）2015年3月29日（日）講義室（約50名）

3.9. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、「協力先」「企画名」（期間）協力内容（担当者）を記載した。

開館45周年記念 サメ特別展—サメの知られざる世界（樽 創）2013年4月25日（木）～2014年4月6日（日）京急油壺マリンパーク。

金沢動物園企画展「奇蹄目展」（樽 創）2014年2月15日（土）～2014年5月18日（日）横浜市立金沢動物園。

日本地質学会執行理事会・理事会・総会（平田大二）2014年4月5日（土）地質学会事務局、5月24日（土）北とびあ、6月7日（土）地質学会事務局、7月12日（土）地質学会事務局、8月30日（土）地質学会事務局、9月12日（土）鹿児島大学、10月11日（土）地質学会事務局、11月8日（土）地質学会事務局、12月6日（土）北とびあ、2015年1月24日（土）地質学会事務局

神奈川県博物館協会理事会・総会（平田大二）2014年4月18日（金）、12月4日（木）、2015年1月16日（金）、神奈川県立歴史博物館

箱根ジオパーク推進協議会総会（斎藤靖二・平田大二・岩崎克彦・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子）2014年4月24日（金）SEISAミュージアムシアター

箱根ジオパーク推進協議会幹事会（岩崎克彦・笠間友

博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子）2014年4月16日（水）、5月16日（金）、7月8日（火）、9月10日（水）、11月27日（木）、2月20日（金）講義室等

南足柄市ジオパーク講演会（平田大二）2014年5月16日（金）南足柄市文化会館

防災だるま塾（平田大二）2014年5月30日（金）神奈川大学

全国科学博物館協議会理事会・総会（平田大二）2014年6月12日（木）独立行政法人国立科学博物館本館

横須賀市文化財審議会（平田大二）2014年6月23日（月）横須賀市役所、8月6日（水）横須賀米軍基地、12月24日（水）横須賀市役所、2015年1月28日（水）横須賀市役所

特別展「太古の哺乳類展—日本の化石でたどる進化と絶滅—」（樽 創）2014年7月12日（土）～2014年10月5日（日）国立科学博物館。

教育自然学研究会ワークショップ（平田大二）2014年7月13日（日）石垣山一夜城

小笠原ビジターセンター特別展「小笠原の魚：このふしぎな生き物たち」（ボニンインタープリター協会・神奈川県立生命の星・地球博物館・小笠原自然文化研究

所・東京都公園協会主催；葛西臨海水族園共催）2014年7月20日（日）～11月4日（火）展示協力（瀬能宏）

自然史系博物館長懇談会（平田大二）2014年7月23日（水）独立行政法人国立科学博物館本館、2015年3月4日（火）滋賀県立琵琶湖博物館

小田原市文化財審議会（平田大二）2014年8月7日（木）小田原市郷土文化館

石川県白山市ライン祭特別講演会（松本涼子）2014年8月25日（月）白山市恐竜パーク白峰、

湘南地球科学の会（平田大二・大島光春・山下浩之）

神奈川地学会（笠間友博・樽 創・田口公則・石浜佐栄子・平田大二）

二宮災害ボランティアネットワーク（平田大二）2014年9月6日（土）二宮町ラディアン（119名）

神奈川キノコの会（折原貴道）小田原市城山公園 野外勉強会, 2014年9月28日

箱根ジオパーク協議会「ジオパーク関東大会」（平田大二）2014年10月28日（火）箱根レイクアリーナ

文部科学省神奈川県防災データベース起爆剤研究会運営

委員会（平田大二）2014年11月7日（金）かながわ県民センター（12名）

神奈川県立川崎図書館, ミニ展示『キノコとその仲間たち』, 2014年11月14日～2015年2月11日 展示協力（折原貴道）

神奈川県立西湘高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営委員会（平田大二）2014年12月9日（火）、2015年3月24日（火）神奈川県立西湘高等学校

日本大学文理学部地球システム科学科外部アドバイザー委員会（平田大二）2014年12月20日（土）日本大学文理学部（15名）

文部科学省神奈川県防災データベース起爆剤研究会「神奈川県の学校防災教育研究集会」（平田大二）2015年1月31日（土）鎌倉商工会議所（85名）

玉川学園スーパーサイエンスハイスクール運営委員会（平田大二）2015年2月6日（土）玉川学園

小さな骨化石～西小磯の脊椎動物化石～（樽 創）2015年3月25日（水）～2015年4月19日（日）大磯城山公園。

3.10. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は日本学術振興会特別研究員2名、外来研究員15名を受け入れた。以下に「外部研究者氏名:研究テーマ（受け入れ担当者）」を掲載する。なお、今年度の研究成果に関しては、資料の項（102～109ページ）に掲載した。

小坂井千夏（特別研究員）：ツキノワグマの生態研究の成果を活かす市民向け普及プログラムの開発（広谷浩子）

宮崎佑介（特別研究員）：WEB上に散在する潜在的自然史資料の発掘とその活用（瀬能 宏）

青木雄司：神奈川県におけるムササビの分布状況の変化（広谷浩子）

山口喜盛：神奈川県におけるコウモリ類の分布について（広谷浩子）

長谷川嘉則：酒匂川流域における両生類の分布調査（加藤ゆき）

丸野内淳介：ウシガエルが消化していたカエルの解析、アメリカザリガニ生息地におけるアカハライモリの負傷状況の調査（加藤ゆき）

栗岩 薫：伊豆諸島一小笠原群島間における浅海性魚類の生物地理学的研究（瀬能 宏）

中村進一：神奈川県産R D種の蝶類の調査研究（苅部治紀）

加賀玲子：ウマノオバチ（*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre）の産卵行動について（3）（苅部治紀）

保科恵子：日本産ヤンマ科若齢幼虫（トンボ目、ヤンマ科）の発生・形態・生活史の研究（苅部治紀）

館野 鴻：ガロアムシ（*Galloisiana nipponensis* Caudell and King, 1924）を中心とした地下間隙の食物網について（苅部治紀）

支倉千賀子：神奈川県をタイプロカリティとするタケ・ササ類の比較分類学的研究（田中徳久）

矢野倫子：本州中部の変形菌相の研究（折原貴道）

陶山 舞：神奈川県における節足動物および両生・爬虫類腸内生接合菌相の解明（折原貴道）

門田真人：丹沢山地と伊豆半島の中新統の石灰岩より産出する化石群集から古環境を復元する（田口公則）

姉崎智子：神奈川県産のツキノワグマ頭骨の形態変異に関する研究（樽 創）

永幡寛三：山梨県富士河口湖町毛無山周辺に見られるザクロ石流紋岩岩体について（山下浩之）

3.11. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要項に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名（認定年月日）」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士（2000年4月1日）（2011年1月19日逝去）
青木淳一（2006年4月1日）

学芸員

高橋秀男（2000年4月1日）
村岡健作（2000年4月1日）

生出智哉（2000年4月1日）
松島義章（2002年4月1日）
中村一恵（2004年4月1日）
今永 勇（2005年4月1日）
奥野花代子（2009年4月1日）
山口佳秀（2012年4月1日）
高桑正敏（2012年4月1日）
新井一政（2013年4月1日）

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2015年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は右表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、資料の項（95ページ）に掲載した。

4.1.2. 購入資料

[魚類] 合計38点
世界の淡水魚類 カリクティス科など8目16科30種 38点
[昆虫] 合計42点
世界の昆虫 チベットミヤマクワガタなど28種 42点
[古生物]
恐竜の歯 カラマサウルスとディプロドクス、ドラコレックスの3種 2点
[地質・ボーリング] 合計1点
那須塩原の地層剥ぎ取り資料 1点
[衛星画像] 合計20点
地球観測衛星ASTER データ 20点

収蔵資料の登録実績

分野	2013年度までの登録数	2014年度の登録数	合計
哺乳類	4,495	207	4,702
鳥類	2,564	30	2,594
魚類	36,031	2,013	38,044
魚類写真	137,989	8,480	146,469
昆虫	29,028	8,846	37,874
軟体動物	22,030	700	22,730
甲殻類	14,250	3,190	17,440
甲殻類細密画	475	15	490
両生・爬虫類	785	101	886
動物その他	66	31	97
維管束植物	255,614	14,643	270,257
コケ	9,366	1	9,367
菌類・地衣類	24,083	1,677	25,760
藻類	4,336	0	4,336
植物その他	254	0	254
植生	175	89	264
植物標本	183	948	1,131
化石	12,676	481	13,157
岩石	6,376	205	6,581
鉱物	19,396	2,512	21,908
地質・ボーリング	2	0	2
はぎ取り	0	11	11
地学その他	0	17	17
衛星画像	998	55	1,053
衛星処理画像	153	1	154
景観画像	2,461	115	2,576
合計	583,786	44,368	628,154

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2014 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 点数（寄贈者（敬称略）」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄

贈資料をまとめ、代表する資料名、合計点数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には掲載していない。

[哺乳類] 合計185点

検体寄贈

ニホンザル59点
ニホンザル33点
ニホンザル12点
アナグマほか 6 点
ニホンザル 1 点
アナグマほか24点
ザトウクジラほか 3 点
ニホンイノシシほか17点
アカカンガルーほか22点
エリマキキツネザルほか 3 点
オオカンガルー 1 点
カナダカワウソ 2 点

標本寄贈

アメリカアカオオカミ1点
人体模型 1 点

[鳥類] 合計点 7 点

オオタカほか 6 点
チョウゲンボウ 1 点

[魚類] 合計1,914点

アブラボウズほか27点
コイ 7 点
ヨロイザメ 1 点
ライカジカほか561点
クモガクレほか 6 点
オオミミズハゼほか 3 点
アカメフグほか 4 点
カムルチー 4 点
オウギハゼほか 2 点
バケミミズハゼ 4 点
アイナメほか630点
アカハタほか41点
ミツクリザメほか 2 点
アオブダイほか29点
ツマリギンポ属の 1 種15点
トゲハナスズキほか 3 点
イバラタツほか 2 点
アカタナゴほか20点
アカメハゼほか12点

シンフィソドン・アエクイファスキアトウス10点

ダウリアチョウザメ 1 点

オニボラほか23点

クロムツほか 4 点

イドミミズハゼ 1 点

フウライチョウチョウウオほか 3 点

ヘラツノザメ 1 点

オビシメ 2 点

アオチビキほか51点

アヤメカサゴほか 9 点

クマサカフグほか 3 点

アカタチほか 8 点

イヒキヌメリ属未同定種 1 点

ウナギギンポほか 7 点

ブラウントラウト 2 点

アカササノハベラほか33点

アブラハヤほか15点

ミナミメダカ（地域型不明） 4 点

アケゴロモヘビギンポ・ハクテンヘビギンポ未確定種ほか 5 点

アブラハヤほか11点

ミヤコベラ 1 点

ツマグロスジハゼほか 4 点

ヌタウナギ属未同定種 1 点

ヤクシマイワシ 1 点

クレナイニセスズメ 1 点

アカアジほか45点

イチモンジタナゴ 3 点

アカエソほか38点

カエルウオほか 4 点

マダラロリカリア 2 点

ネズミフグ 1 点

オオカズナギほか 8 点

クサアジ 1 点

アングイラ・オーストラリスほか 3 点

シボリイソハゼ 3 点

ネコギギ 2 点

アズマハナダイほか 8 点

アカエソほか 3 点

イソギンポ 1 点

アカオビベラほか105点

ウツボほか 2 点

アカザほか7点
アオバラヨシノボリほか39点
スミツキハナダイ1点
アジメドジョウほか31点
アカメほか2点
アカカマスほか40点

[魚類写真] 合計7,747点

アカメバルほか14点
サケガシラ属未同定種1点
カミソリウオほか2点
キビレヘビギンポほか4点
キビレカワハギ1点
セジロノドグロベラ1点
ウシノシタ科の1種1点
ホシモンガラ1点
アカクジラウオダマシほか15点
ブルーギル1点
ウミショウブハゼ属未同定種ほか15点
ウミヘビ科の1種1点
ウルマカエルアンコウ1点
カクレウオ科未同定種1点
ウスメバルほか9点
ヒメシマガツオほか2点
アケボノハゼほか13点
タマカイほか3点
ゲンゴロウブナ2点
ハワイタツウミヘビ1点
アオダイほか28点
カタボシアカメバル1点
カエルアンコウ1点
ウナギギンポ1点
クジャクベラ1点
モヨウタツウミヘビ1点
アカブチムラソイ1点
サザン・デムワール1点
オウギハゼほか2点
ソメワケヤッコほか2点
ホソフウライウオ1点
ワモンフグ1点
ゴマモンガラほか2点
キスジトラギス1点
バケミミズハゼ1点
オオウミウマほか2点
イチモンジブダイ1点
アカササノハベラほか88点
ソメワケヤッコ1点
センウマヅラハギ1点
アカハタほか27点

ヒレボシミノカサゴ1点
インドアカタチ2点
アワセイトハゼ属の1種3(仮)ほか23点
ハゼ科未同定属未同定種1点
ツマリギンポ属の1種11点
カミソリウオ1点
アイゴほか144点
オビシメ1点
カンバチほか11点
ナソ・レティキュラタス1点
イイジマダルマガレイ属未同定種ほか10点
ヤイトハタ1点
ホシモンガラ1点
アカカマスほか161点
ハダカハオコゼ1点
ミナミホタテウミヘビ1点
ウツボ科未同定種1点
タツノイトコほか6点
アカメフグほか70点
マダラギンポ1点
オオモンカエルアンコウほか5点
ニシキブダイ1点
ナシフグほか2点
アカナマダ1点
チョウセンバカマ1点
オビシメ1点
ハゼ科未同定属未同定種2点
アカククリほか11点
シンフィソドン・アエクイファスキアトウス2点
ギンガメアジほか3点
アカネヒメジほか258点
サンゴタツ1点
ケショウフグほか4点
アカントスフェックス・レウリニスほか5点
アオハタほか107点
アサヒアナハゼほか4点
トビハタ1点
ウケグチイトウダイほか10点
ハゼ科未同定属未同定種1点
クサハゼ近似種2点
タナバタメギス属の1種1点
サンゴハナビヌメリほか3点
クロウミヘビほか4点
アカカマスほか2点
アカハナほか50点
イレズミハゼ属未同定種ほか2点
未同定1点

ヒフキヨウジ 1 点
フウライチョウチョウオほか 2 点
ウルマカサゴ 1 点
ハタタテハゼ 1 点
キントキダイ属の 1 種 1 点
アラ 1 点
フサイタチウオ科未同定属未同定種 3 点
アオハナテンジクダイほか 22 点
コクテンニセヘビギンポ 1 点
ハウセキカサゴほか 3 点
ヒスイズメダイ 1 点
アオサハギ属の 1 種ほか 3 点
アシシロハゼほか 4 点
ワニゴチ 1 点
アデイトベラほか 24 点
ニセボロカサゴ 1 点
ミナミメダカ（地域型不明） 1 点
ホソカマス 1 点
ヒメコトヒキ 1 点
コガシラベラ 1 点
ヒスイズメダイ 1 点
ヒメホソウミヤッコ 1 点
ナミダカサゴ 1 点
アイナメほか 104 点
ヒゲハギ 1 点
イズハナダイ属未同定種ほか 7 点
イソハゼ属未同定種ほか 5 点
スミレナガハナダイ 1 点
アカスジウミタケハゼほか 12 点
カクレウオ科未同定種ほか 16 点
アイゴほか 651 点
シンジュカクレウオほか 2 点
マハタ属未同定種 1 点
イトヒキヌメリ属未同定種ほか 8 点
ホシテンス 1 点
アジ科未同定種ほか 40 点
マダラフサカサゴ属未同定種 1 点
ヨロイザメ 1 点
未同定 1 点
ギバチ 1 点
ウスジマイシモチほか 7 点
イソカサゴほか 5 点
カスザメほか 2 点
テンジクダイ科未同定種 1 点
アンコウ・キアンコウ未確定種ほか 2 点
イチモンジタナゴ 2 点
クロメガネスズメダイ 1 点
アイスズメダイほか 2252 点
ムラサメモンガラ×タスキモンガラ 1 点

ベニハゼ属未同定種 1 点
ウケグチノホソミオナガノオキナハギほか 11 点
イトヒキヌメリ属未同定種 1 点
ブリコン・コスタリケンシス 1 点
アオブダイ属未同定種ほか 90 点
イトヒキブダイほか 4 点
ハゼ科未同定属未同定種 2 点
ネマトエレオトリス・エクシクイーシータほか 4 点
ウシノシタ科の 1 種 1 点
アカネキンチャクダイ 3 点
アミモンガラほか 8 点
イラ属未同定種 1 点
カサゴほか 3 点
アワセイソハゼ属未同定種 1 点
コクテンニセヘビギンポほか 2 点
オニカサゴほか 3 点
カシワベニハゼ 1 点
アカントスフェックス・レウリニス 1 点
アカナマダほか 3 点
コイ 1 点
アカメモドキほか 10 点
キツネウオ属未同定種ほか 2 点
ミナミキントキほか 2 点
アオサハギほか 3 点
ヒラテンジクダイ 2 点
キンチャクダイ 5 点
アカヒレイシモチほか 12 点
オオモンカエルアンコウほか 4 点
フカミズメダイほか 3 点
アオミシマほか 2 点
ウキゴリ 27 点
アンコウ科未同定属未同定種ほか 3 点
アラシウツボほか 3 点
アンコウ科未同定属未同定種ほか 37 点
アイゴほか 2282 点
アオイソハゼほか 459 点
ガラパゴスザメほか 2 点
アオスジテンジクダイほか 24 点
ボラ 2 点
アオサハギ属の 1 種ほか 132 点
イエローヘッド・ダムゼルフィッシュ 1 点
イソハゼ属未同定種ほか 9 点
シロクラハゼほか 3 点
ウミショウブハゼ属未同定種 1 点
アイナメほか 8 点
ウイゴンベ 1 点
アトヒキテンジクダイダマシほか 46 点
サギフエ 1 点

ヨソギ 1 点
アシロ 1 点
オヨギトラギス 1 点
ホタテツノハゼ属未同定種 1 点
ヒョットコオコゼ 1 点
未同定 1 点
ウツボ科未同定種 1 点
アカマツカサ属未同定種 1 点
タイワンイトマキエイ 1 点
アオブダイほか 2 点
アミメウツボ 1 点
ヒメオニハゼ 1 点
アミフエフキほか 14 点
セレベスヒレアナゴほか 2 点
タナバタウオほか 3 点
アゴアマダイ属未同定種 1 点
ヒスイスズメダイ 1 点
ナガツカ 1 点
エゾアイナメ 1 点
アカネキントキほか 4 点
タツノオトシゴ 2 点
キントキダイ科未同定属未同定種 1 点
ウチウミマダラエソほか 11 点
スミツキハナダイほか 3 点
ホソシンジュカクレウオ 1 点
ヒョットコオコゼ 1 点
ナガコバン属未同定種 1 点
アナゴ科未同定属未同定種ほか 7 点
イレズミハゼ属未同定種ほか 19 点
アシロ科未同定属未同定種ほか 10 点
キボ・ザブス 1 点
タナゴモドキ 1 点
ギンハダカ科未同定属未同定種 1 点
オオメカマスほか 2 点
アブラヒガイほか 38 点

〔昆虫〕 合計 5,982 点

〔軟体動物〕 合計 696 点
キムスメアワビ 7 点
セイヨウトコブシ 1 点
スルスミアワビ 2 点
マアナゴウほか 2 点
チイロアワビほか 6 点
ビクトリアアワビほか 37 点
ビクトリアアワビ 2 点
キムスメアワビほか 8 点
ウスヒラアワビ 1 点
スルスミアワビ 1 点
イボアナゴウほか 14 点

ガマノセアワビ 1 点
アカニシほか 225 点
カギイカ 1 点
トコブシ 1 点
カギイカ 2 点
カギイカほか 23 点
ヒラアナゴウ 2 点
チヒロダコ 1 点
オトメガサ 4 点
オネダカサルアワビ 1 点
フクトコブシ 1 点
ユウビシロスソカケガイほか 8 点
サルアワビ 8 点
オキナエビスガイ 1 点
イボアナゴウほか 11 点
ヒラアナゴウ 1 点
エゾアワビ 2 点
ムラサキウズほか 4 点
アカアワビほか 318 点

〔甲殻類〕 合計 2,908 点

チュウゴクモクズガニほか 3 点
オオヒライソガニほか 2 点
ヒラテコブシ 5 点
ムツピンノ 5 点
カバイロサンゴガニほか 16 点
ハクセンシオマネキ 4 点
アシハラガニほか 31 点
タンスイコシオリエビ属の一種 3 点
イボショウジンガニ 3 点
エンコウガニほか 19 点
オキナワミナミサワガニほか 4 点
オオシロピンノほか 21 点
アシハラガニほか 189 点
テナガエビ 1 点
アシナガケブカガニほか 19 点
オヨギピンノ 2 点
アシハラガニほか 13 点
オオケブカガニ 1 点
ワタリガニ科・種未同定 1 点
オオケブカガニ 2 点
イチョウガニほか 14 点
ミナミコメツキガニ 9 点
ノコハオウギガニ 1 点
タマヒヅメガニほか 13 点
イソオウギガニほか 9 点
アカカクレイワガニほか 33 点
アカイソガニほか 25 点
ウモレオウギガニほか 2 点

シワガザミ 9 点
キンチャクガニほか 4 点
コンジテンナガエビ 1 点
ヒシガニ科・種未同定ほか15点
ヒメアカイソガニ 2 点
カクベンケイガニ 1 点
アカイソガニほか56点
ケフサイソガニほか1518点
ツノメガニほか 7 点
サワガニほか 4 点
カクレガニ科・種未同定 2 点
アシハラガニほか 7 点
オヨギピンノほか12点
アシプトイトアシガニ 1 点)
ウカ・ラクテア・アンヌリペスほか16
ヒメモガニ 1 点
カノコオウギガニほか 2 点
サワガニほか 4 点
サンゴガニほか 5 点
サワガニ 8 点
アシナガケブカガニほか 7 点
アメリカザリガニほか126点
キンセンガニ 1 点
ヘパトゥス・エペリティクス 3 点
ホクロツノコシオリエビほか 2 点
ショウジンガニ 1 点
イワガニ科・種未同定ほか 3 点
メナガエンコウガニ 1 点
ヒメカクオサガニ 3 点
ゴカクエゾイバラガニ 1 点
カワスナガニ 2 点
メナガオサガニ 2 点
キンセンガニ 1 点
サワガニほか25点
チチュウカイミドリガニ 4 点
オオタマオウギガニ 1 点
カノコオウギガニほか18点
フシメクダヒゲガニ 4 点
イワガニ4点
アミメサンゴガニほか 7 点
モクズガニ 1 点
モクズガニ 2 点
アカテガニほか121点
メクラガニモドキ 1 点
アカイソガニ10点
カワスナガニほか 6 点
ミスジヒメカイエビ 4 点
甲殻類種未同定 3 点
アカイソガニほか419点

〔両生・爬虫類〕 合計89点
検体寄贈
タイマイ 1 点
アルダブラゾウガメほか 8 点
インドホシガメほか 4 点
カスミサンショウウオ 1 点
カブトニオイガメほか 2 点
カミツキガメ 1 点
カミツキガメ 2 点
カミツキガメほか 2 点
ガルフコーストウォータードッグほか 3 点
ニシアフリカコビトワニ 1 点

標本寄贈
クサガメ1点
モリアオガエルほか62点
オオサンショウウオ 1 点

〔動物その他〕 合計24点
トゲウミサボテン 7 点
アラサキガンガゼ 1 点
アラサキガンガゼ 1 点
Dendrophyllia属の一種 1 点
アオスジガンガゼほか 7 点
ウミシダ目・科未同定・種未同定 6 点
オオムカデ属の一種 1 点

〔維管束〕 合計14,211点

〔菌類・地衣類〕 合計1,531点
ウツボホコリ属の一種 1 点
クモノスホコリ 1 点
アラゲカワキタケ類似種ほか15点
ツヤウチワタケモドキほか 2 点
ネンドタケモドキ 1 点
ウチワタケほか 2 点
アミスギタケ 1 点
クロコバンタケ 1 点
アメリカウラベニイロガワリほか20点
アカヤマタケ属の一種 2 点
キクラゲ1点
アラゲキクラゲ 1 点

クジラタケ 1 点
ケフクロツチガキほか 11 点
ネンドタケ 1 点
カンゾウタケ 1 点
ニセキンカクアカビョウタケ 1 点
ケショウハツ 1 点
ナカグロモリノカサほか 5 点
ウチワタケ 1 点
マツカサキノコモドキ 1 点
ジクホコリ 1 点
クダホコリほか 2 点
Endogone flammicorona Trappe & Gerd. 1 点
イッポンシメジ属の一種ほか 6 点
アシナガイグチ 1 点
クリカワヤシャイグチ 1 点
ニガクリタケほか 2 点
ツリバリサルノコシカケほか 2 点
ウスベニタマタケ 1 点
モモイロモジホコリ 1 点
オニイグチほか 5 点
ニガクリタケ 1 点
ガマガチフクロホコリほか 3 点
アラゲコベニチャワンタケほか 7 点
ウチワタケ 1 点
ウチワタケ 1 点
チギレハツタケ 1 点
クチベニタケ（ホオベニタケ類似） 1 点
アシボソクリタケ 1 点
アラゲキクラゲほか 10 点
シイサルノコシカケ 1 点
ニオイドクツルタケ 1 点
クロムラサキニガイグチ 1 点
アシグロタケ類似種 1 点
ツヤウチワタケほか 2 点

ミドリニガイグチ類似種 1 点
ウラベニヤマイグチほか 12 点
アオエノモミウラタケ亜属の一種ほか 16 点
ホコリタケ属の一種 1 点
オニイグチ 1 点
トレメロデンドロン属の一種 1 点
アセタケ属の一種ほか 19 点
ワサビカレバタケ 1 点
マメザヤタケ 1 点
アセタケ属の一種ほか 2 点
スッポンタケ 1 点
ウメノキゴケほか 6 点
シダレハナビタケほか 2 点
ウラムラサキ 1 点
ノウタケ 1 点
カワラタケ 1 点
Endogone flammicorona Trappe & Gerd.ほか 2 点
カサヒダタケ 1 点
ジュズタンシキン 1 点
アオキノリ属の一種ほか 16 点
グロムス属の一種ほか 3 点
モジホコリ属の一種 1 点
クロラッパタケ 1 点
アケボノアワタケ属の一種（広義）ほか 43 点
Endogone pisiformis Link 1 点
Endogone pisiformis Link 1 点
Endogone pisiformis Link 1 点
アオミドリタマゴテングタケほか 21 点
モジホコリ属の一種 1 点
Endogone incrassata Thaxt. 1 点
*Pezicula*属の一種 1 点
ヘラタケ 1 点
フウセンタケ属の一種 1 点
コブアセタケ 1 点
Amanita chepangiana Tulloss & Bhandary 1 点
センニンソウさび病菌ほか 2 点
ヘクソカズラペスタロチア病菌 1 点
カタホコリ属の一種ほか 3 点
シロエノカタホコリ 1 点
Hypomyces boletiphagus Rogerson & Samuels 1 点

コゲホコリタケ 1 点
 コガネウスバタケほか 2 点
 ビロードツエタケ 1 点
 ネズミツチダマタケほか 4 点
 ガマノホタケ属の一種 1 点
 アセタケ属の一種 1 点
 アオキ星形すす病菌ほか 53 点
 ミヤマタンポタケ 1 点
 アメリカウラベニイロガワリほか 22 点
Tremellodendron 属の一種 1 点
 アオゾメクロツバタケほか 6 点
 マイタケ 1 点
 コイシタケほか 19 点
 ヘビヌカホコリ 1 点
 チギレハツタケ 1 点
 エツキクロコップタケ属の一種ほか 6 点
 ツクリタケ 1 点
 サラクモノスホコリほか 2 点
 フウセンタケ属の一種 1 点
 シロカノシタ 1 点
Talaromyces cecidicola 1 点
 イタモジホコリほか 27 点
 ステファノスポラ属の一種ほか 3 点
 カワタケ属の一種ほか 2 点
 オクヤマニガイグチ 1 点
 マメホコリ 1 点
 スミゾメシメジ 1 点
 トガリニセフウセンタケ 1 点
 アイゾメクロイグチほか 5 点
 スジウチワタケモドキ 1 点
 ダイダイガサ 1 点
 テングタケダマシ 1 点
 スジウチワタケモドキ 1 点
 フルイタケ 1 点
 ヒトクチタケ 1 点
 ツヤウチワタケほか 2 点
 タチフンホコリ 1 点
Rossbeevera 属の一種 1 点
 アカミゴケほか 28 点
 ブドウニガイグチほか 2 点
 アイカワタケ 1 点
 アオサビヒナノチャワンタケ（青木仮称）ほか 33 点
 カタホコリ属の一種 1 点

アカヤマドリほか 18 点
 コゴメウスバタケほか 2 点
 ナヨタケ属の一種ほか 3 点
 コガネカワラタケ 1 点
 クヌギタケ属の一種 1 点
 カキシメジ類似種ほか 4 点
 ウロコオクバタケほか 3 点
 クシノハシワタケほか 12 点
Trochophora fasciculata (Berk. & M.A. Curtis) Goos
 1 点
 アオモジホコリほか 369 点
 エツキケホコリほか 8 点
 アオキオチバタケほか 547 点
 ハシラホコリ 1 点
 ガマガチフクロホコリほか 2 点
 ウスベニイタチタケ 1 点
 イタチタケ 1 点
 クロヤマイグチ属の一種ほか 12 点
 ネナガシロヤマイグチ 1 点
 ヒメカタショウロ 1 点

〔化石〕 合計 180 点

サノサザエ 1 点
 ホソダサザエ 1 点
 ソコダラ科 1 点
 ゴテンアナゴ属ほか 4 点
 ウミガメ上科の下顎ほか 2 点
 ホソダサザエ 1 点（
 ヤベサザエ 1 点
 ティラノサウルスほか教育用標本・資料 169 点

〔岩石・火山灰・隕石・砂〕 合計 51 点

アンカラマイトほか 7 点
 ペレーの毛 1 点
 シャッターコーンほか 2 点
 東京都町田市大谷の砂 1 点
 神奈川県逗子市新宿二丁目の砂 1 点
 結晶質石灰岩 1 点
 東京都北区豊島五丁目の砂 1 点
 古銅輝石砂 1 点
 埼玉県入間郡越生町大字西和田の砂 1 点
 東京都足立区新田三丁目の砂 1 点
 沖縄県島尻郡久米島町大原の砂 2 点
 カンラン石砂 1 点
 東京都足立区日ノ出町の砂 1 点
 東京都狛江市猪方四丁目の砂 1 点
 かんらん岩 1 点

東京都中央区日本橋中州の砂 1 点
 東京都大田区田園調布一丁目の砂 1 点
 三稜石（玄武岩） 1 点
 石灰岩1点
 神奈川県川崎市川崎区殿町三丁目の砂 1 点
 オマーン国 マスカット西方の砂 2 点
 安山岩2点
 群馬県高崎市宿大類町の砂 1 点
 東京都狛江市猪方四丁目の砂 1 点
 神奈川県鎌倉市由比ガ浜四丁目の砂 1 点

群馬県高崎市南大類町の砂 1 点
 オマーン国の砂ほか 2 点
 オマーン国の砂5点
 東京都大田区田園調布一丁目の砂 1 点
 神奈川県平塚市高浜台の砂 1 点
 神奈川県川崎市多摩区登戸の砂 1 点
 埼玉県川口市荒川町の砂 1 点
 東京都世田谷区宇奈根二丁目の砂 1 点
 玄武岩ほか 3 点

4.1.4. 採集その他による資料（新たに登録されたもの）

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
哺乳類	22	甲殻類	282	菌類・地衣類	146	鉱物	2,512
鳥類	23	甲殻類細密画	15	藻類	0	地質・ボーリング	0
魚類	99	両生・爬虫類	12	植物その他	0	はぎ取り	11
魚類写真	733	動物その他	7	植生	89	地学その他	17
昆虫	2,864	維管束植物	432	植物標本	948	衛星画像	55
軟体動物	4	コケ	1	化石	301	衛星処理画像	1
				岩石	154	景観画像	115
合計							8,843

4.1.5. 既存資料の加工

[植物]

ツブキ模型補修 1 点

[鳥類]

カナダガン、キジバトの交連骨格 各1 点

[哺乳類]

ムササビ交連骨格 1 点

[古生物]

アショロア ラティコスタのレプリカ 1 点

[爬虫類]

カミツキガメ交連骨格 1 点

アカアシカツオドリ本剥製 1 点

4.2. 図書資料収集状況

2014年度受入した和書の冊数は、購入が58冊、寄贈が1358冊、編入が10冊、管理換が、70冊であった。

洋書については、購入が0冊、寄贈が426冊であった。受入図書の合計は1,922冊である。そのほかCD-ROMの寄贈が16タイトルであった。

2014年度受入図書資料数

2014年度受入図書(冊)					
	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	58	1,358	10	70	1,496
洋書	0	426	0	0	426
合計	58	1,784	10	70	1,922

2014年度までの所蔵資料総数

分野	登録数
国内刊行図書	21,552 (冊)
国外刊行図書	4,074 (冊)
購入国内雑誌	14 (タイトル)
購入国外雑誌	12 (タイトル)
寄贈国内雑誌	2,941 (タイトル)
寄贈国外雑誌	596 (タイトル)
ビデオソフト	332 (巻)
CD-ROM	62 (タイトル)
マイクロフィルム	34 (リール)
合計	29,617 (点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 資料特別利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を提供している。特別利用を受ける際は、特別利用承認申請書を提出し、承認を受け、博物館の資料を閲覧、計測、撮影、掲載な

どの利用が可能である。

2013年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の特別利用の件数

利用について通常の研究利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（たとえば、学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本等、画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタル画像：デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像、属性データ：標本情報

種別			利用	閲覧		撮影		解析		その他		合計	
				件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	0	0	14	50	6	6	0	0	20	56	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥類	標本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	両生・爬虫類	標本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	魚類	標本	936	1,912	0	0	0	0	0	0	936	1,912	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	91	128	0	0	0	0	11	11	102	139	
	昆虫	標本	12	236	0	0	1	144	0	0	13	380	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本	0	0	6	15	0	0	0	0	6	15	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
植物	標本	29	29	0	0	1	9	0	0	30	38		
	画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	属性	4	7,559			1	11			5	7,570		
	デジタル画像	2	940	0	0	0	0	1	8	3	948		
菌類	標本	0	0	0	0	8	28	0	0	8	28		
	画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
古生物	標本	75	75	1	1	0	0	0	0	76	76		
	画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	デジタル画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
地球環境	標本	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1		
	画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	デジタル画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計			1,149	10,879	22	67	17	198	12	19	1,200	11,163	

4.3.2. 資料館外貸出

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を提供している。資料の貸出しを受ける際は、館外貸出承認申請書を提出し、承認を受け、博物館資料を借用利用することができる。主な利用は、展示、掲載・放映

などである。ただし、研究に関する利用であっても、館外貸出として申請のあったものは本項目の『その他の利用』に含めた。2014年度について、館外貸出しの利用数は次のとおりである。

分野別の館外貸出の件数

標本：実物標本等、画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタル画像：デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像、属性データ：標本情報

種別			利用	展示		教材		掲載・放映		その他		合計	
				件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	16	22	0	0	1	1	0	0	17	23	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	0	0	0	0	38	38	0	0	38	38	
	鳥類	標本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	両生類・爬虫類	標本	3	4	0	0	0	0	0	0	3	4	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	0	0	0	0	12	12	0	0	12	12	
	魚類	標本	30	30	0	0	4	4	0	0	34	34	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	113	130	0	0	241	254	3	3	357	387	
	昆虫	標本	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	0	0	0	0	18	30	0	0	18	30	
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	
		画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		デジタル画像	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	
植物	標本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
菌類	標本	16	29	0	0	0	0	0	0	16	29		
	画像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
古生物	標本	14	33	2	2	6	6	0	0	22	41		
	画像	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2		
	デジタル画像	0	0	0	0	9	9	0	0	9	9		
地球環境	標本	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2		
	画像	7	7	2	2	32	32	0	0	41	41		
	デジタル画像	0	0	0	0	47	47	0	0	47	47		
博物館	画像	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1		
計			201	257	4	4	415	440	3	3	623	704	

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

4.4.1. 資料標本の燻蒸について

1. 大収蔵庫の燻蒸

平成26年6月15日から21日まで、酸化プロピレンガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。これに伴い博物館展示室も、同期間閉館とした。

2. 燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレンガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本、植物標本、書籍など、11回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れたり支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、以下に記した。

自然科学講演会（博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	対象者	定員	応募数	受講数
特別展開関連講演会：外来生物対策の現場から 「琵琶湖での外来魚駆除の取り組みから」 「在来生態系の回復を目的とした水辺の侵略的外来種排除」 「オオサンショウウオの交雑問題」	10/18(土) 13:30～ 16:00	SEISA ミュージアム シアター	高田昌彦 西原昇吾 田口勇輝	琵琶湖を戻す会 代表 東京大学保全生態学研究室特任研究員 広島市安佐動物公園 飼育技師	一般	300	先着	103
ミューズ・フェスタ2015 開館20周年記念シンポジウム 自然史系博物館のあるべき姿と評価軸 －生命の星・地球博物館の活動から－ 講演「神奈川の博物館行政」 講演「生命の星・地球博物館の使命と設置目的」 講演「生命の星・地球博物館における20年の活動成果と評価軸」 資料収集－あつめる－ 調査研究－しらべる－ 教育普及－つたえる－ 総合討論	3/15(日) 13:30～ 16:00	SEISA ミュージアム シアター	高梨信行 平田大二 瀬能 宏 勝山輝男 平田大二 講演者4氏と来場者	県教育局生涯学習部生涯学習課副課長 当博物館長 当博物館企画普及課長 当博物館学芸部長 当博物館長	一般	300	先着	57
計						600		160

他の機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	受講数
魚の会 第1回講演会 演題：「私とさかな」 ～さかなが教えてくれたこと～	5/18(日) 14:30～15:30	西側講義室	寰島清夫	魚の会会長	39
神奈川地学会 総会、講演会 講演「レオナルド・ダ・ヴィンチのように」	5/31(日) 14:30～16:00	SEISAミュージアムシアター	坂田全徳	川崎市立西中原中学校教諭（美術科）	21
第166回 湘南地球科学の会 講演『地震波干渉法による神奈川県北東部及び 東京都南東部の堆積層構造の推定』 講演『地震波データから見る 箱根火山・丹沢山地の地下構造』 講演『西アジアのテクトニクスと自然環境』	6/7(土) 14:40～16:30	西側講義室	山崎瑞穂 行竹洋平 安間 了	横浜市立大学大学院生 神奈川県温泉地学研究所主任 研究員 筑波大学生命環境科学研究科 講師	15
魚の会 第2回講演会 演題：「メダカの日本史」	8/24(日) 14:00～15:00	西側講義室	佐原雄二	弘前大学名誉教授	30
神奈川県食の安全・安心推進会議（協力：当館） 第5回 かながわ食の安全・安心基礎講座 ～キノコをテーマに考える自然毒による 食中毒の予防について～ 講義「自然毒（フグ毒等）について」 講義「毒キノコの種類、見分け方等について」 野外観察会「毒キノコについて知ろう！」（中止）	10/5(日) 10:00～15:20	西側講義室	横井 裕 折原貴道	小田原保健福祉事務所食品衛生課長 当博物館学芸員	27
日本魚類学会 2014年度年会 編集委員会・評議員会 総会・受賞者講演、自然保護委員会 研究発表 公開シンポジウム 魚類における適応と種分化の進化遺伝機構 ：研究最前線と今後の展望 魚類における両側回遊：その生活史多様性と進化 日本の外来魚問題の現状を考える ：外来生物法制定から10年で何が変わったのか？	11/14(金) 11/15(金) 11/15(土)～ 16(日) 11/17(月)	SEISAミュージアムシアター 会議室、 講義室 ほか	小北智之 渡辺勝敏 渡邊 俊 井口恵一朗 後藤 晃 向井貴彦 淀 太我 中井克樹 瀬能 宏	福井県立大学 京都大学大学院理 日本大学生物資源科学部 長崎大学環境科学部 北の川魚研究所 岐阜大学地域 三重大学大学院生物資源 琵琶湖博物館 当博物館企画普及課長	361
魚の会 第3回講演会 演題：「私の魚採りと魚類分類学」	12/7(日) 14:00～15:00	SEISAミュージアムシアター	波戸岡清峰	大阪市立自然史博物館主任学芸員	18
丹沢大山自然再生委員会 共催 2014年度丹沢大山自然再生活動報告会 丹沢大山自然再生活動の成果と課題を考える ～森林・登山・山里再生～ ＜開会＞丹沢大山自然再生委員会の活動について ＜第1部＞丹沢再生活動の成果と課題 ①丹沢大山自然再生計画の取組み状況 ②企業による丹沢の自然再生活動 ③林床植生の回復と土壌 ④登山環境の整備活動の成果と課題 ⑤丹沢エコツーリズムの成果 ⑥市民による里山再生と環境教育 ⑦丹沢山麓での地域再生の成果と課題 ＜第2部＞ワークショップと討論 ①テーマ別ワークショップ （①森林再生②登山とツーリズム③山里再生） ②総合討論 ＜閉会＞報告会を終えて	12/13(土) 10:00～16:30 10:10～14:20 14:30～16:20	SEISAミュージアムシアター	羽山伸一 山田 健 石川芳治 鈴木 茂 吉田直哉 小野 均 糸長浩司 糸長浩司 各報告者 久保重明	丹沢再生委員会委員長 神奈川県自然環境保全センター （株）サントリーホールディングス 東京農工大学 NPO法人みるく山の会 NPO法人丹沢自然学校 NPO法人四十八瀬川自然村 日本大学 コーディネーター パネリスト 丹沢再生委員会副委員長	151
神奈川県安全防災局災害対策課 地震津波シンポジウム かながわ発！地震・津波から「いのち」をまもる！ 基調講演 「東日本大震災における大津波とその対応」 パネルディスカッション 「神奈川の地震と津波に備える」 特別企画展示（神奈川県） 東北の被災地写真、復興状況等の写真展 東日本大震災の震災遺構3Dバーチャル画像展示	1/17(土) 14:00～16:30 10:00～16:30	SEISAミュージアムシアター 西側講義室	久保信保 吉井博明 久保信保 箕浦幸治 徳山英一 入谷拓哉 鈴木 正 里村幹夫 黒岩祐治	（一財）自治体衛星通信機構 理事長 前東京経済大学教授 （コーディネーター） （一財）自治体衛星通信機構 理事長 東北大学大学院理学研究科 教授 高知大学海洋コア総合研究 センター長 日本ライフセービング協会 理事長 茅ヶ崎市サーフィン業組合 理事長 神奈川県温泉地学研究所所長 神奈川県知事	200

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

独立行政法人森林総合研究所 共催 公開講演会 正しい世界遺産のまもり方 ～進化と新種と小笠原～ 「小笠原の歩き方：海洋等の生物の魅力」 「小笠原の昆虫を食い尽くすグリーンアノール： 兄島での戦い」 「新種も続々！どうやって守る？兄島固有昆虫保全 大作戦」 「小笠原の固有植物においてみられる珍しい♀と♂ の進化」 「消えゆく宝、亡びゆく王国：小笠原カタツムリ」 「あらこんなところにオガサワラヒメミズナギドリ」 「希少種との付き合い方、楽しみ方」	1/31(土) 13:00～16:10	SEISAミュージ アムシアター	川上和人 戸田光彦 菊部治紀 菅原 敬 千葉 聡 川上和人 大河内 勇	森林総合研究所 自然環境研究センター 当博物館主任学芸員 首都大学東京 東北大学 森林総合研究所 森林総合研究所	110
酒匂川水系の環境を考える会 共催 第14回 自然環境シンポジウム 『このままでいいのか!!外来種問題Part.Ⅱ』 基調講演「外来種と生物多様性 ～昆虫から見たさまざまな問題～」 話題提供「広がる外来植物」 「飛んできたのか？放されたのか？ ～意外と難しい野鳥の外来種問題」 「魚の外来種問題 ～最近の動向と課題」	2/15(日) 13:00～16:30	SEISAミュージ アムシアター	高桑正敏 松岡輝宏 秋山幸也 瀬能 宏	当博物館名誉会員 神奈川県植物誌調査員 相模原市立博物館学芸員 当博物館企画普及課長	207
魚の会 第4回講演会 演題：「西表島のはぜの興味深い生態」	2/22(日) 14:00～15:00	西側講義室	矢野維幾	ダイブサービスYANO代表	47
独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）共催 第3回 海と命をめぐる公開講演会 「クジラが語る、海と生命の進化」 講演「残ったクジラと残したクジラ ～化石記録を理解する方法～」 講演「鯨が育む深海のオアシス」	2/28(土) 13:30～15:15	SEISAミュージ アムシアター	樽 創 藤原義弘	当博物館主任学芸員 海洋研究開発機構	108
神奈川地学会 共催 第3回 神奈川の地学広場 発表「箱根町立大涌谷自然科学館と袴田和夫氏」 発表「中学校における「地学教育」の現状と実践」 発表「地学の魅力発信 ～箱根ジオミュージアムのとりくみ紹介～」 ほか	3/21(土) 12:40～16:20	西側講義室	平田大二 加藤忠義 山口珠美 ほか	当博物館長 横浜市立もえぎ野中学校教諭 箱根ジオミュージアム	
計					1,334

5.1.2. 講座等

専門的な内容の講座（要事前申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
菌学事始め2014～初級編～ 〔室内実習〕	5/11(日)	実習実験室	高校生～大人	大坪 奏 折原貴道	20	30	18
植物分類講座「春のイネ科植物」 〔室内実習と野外観察〕	5/17(土)	実習実験室と 博物館周辺	高校生～大人	勝山輝男 田中徳久 大西 亘	24	23	20
地学ワンテーマ講座①地球 (展示見学と解説) ②地質時代と地質年代 ③隕石 ④火成岩 ⑤堆積岩 ⑥変成岩 ⑦火山 ⑧地震と断層 ⑨プレートテクトニクス ⑩大陸・海洋・大気	5/31(土)	西側講義室	中学生～大人	平田大二	50	68	55
	6/21(土)				50	62	51
	7/27(日)				50	62	46
	9/21(日)				50	63	53
	10/26(日)				50	51	36
	11/30(日)				50	60	49
	12/21(日)				50	73	60
	1/25(日)				50	81	63
	2/22(日)				50	66	55
	3/22(日)				50	64	52
比べてみよう哺乳類の骨ー四肢骨編ー	7/6(日)	実習実験室	高校生～大人	大島光春	12	20	13
菌学事始め2014～中級編～ 〔室内実習と野外観察〕	7/12(土)	実習実験室	高校生～大人	折原貴道 大坪 奏	20	15	13
	7/13(日)						13

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

秋からの授業に役立つ先生のための標本活用講座 〔講義と室内実習〕	8/7(木)	実習実験室	教員	広谷浩子 加藤ゆき 松本涼子	10	11	11
あなたのパソコンで地形を知る 〔室内実習〕	8/8(金)	実習実験室	高校生～大人・ 教員	新井田秀一	20	23	19
先生のための地層学入門 〔室内実習と野外観察〕	8/12(火)	実習実験室と 博物館周辺	教員	石浜佐栄子	10	10	9
軟体動物のからだのつくりを知ろう 〔講義と室内実習〕	8/13(水)	実習実験室	教員・大人	佐藤武宏	12	15	12
植物分類講座「秋のイネ科植物」 〔室内実習と野外観察〕	9/20(日)	実習実験室と 博物館周辺	高校生～大人	勝山輝男 田中徳久 大西 亘	24	28	24
教員のための地域地学素材入門 ～水無川の礫（砥石）を究めよう編～ 〔室内実習と野外観察〕	11/22(土)	県立秦野戸川 公園・水無川 (秦野市・平塚市)	教員・大人	田口公則 大島光春	10	8	7
中学生火山講座 〔野外観察〕	12/14(日)	大磯丘陵	中学生とその保護者 高校生～大学生 教員	笠間友博	25	19	19
魚をもっと知りたい人のための魚類学講座 〔室内実習〕	1/24(土)	実習実験室	高校生～大人	瀬能 宏	10	10	8
	1/25(日)						8
	2/7(土)				10	16	10
	2/8(日)						9
計13講座	のべ27日	計			707	878	739

神奈川の自然を観察する講座（要事前申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
春の地形地質観察会 〔野外観察〕	5/10(土)	箱根姥子～ 大涌谷周辺 (箱根町)	小学4年生～大人	笠間友博 山下浩之 平田大二 新井田秀一 石浜佐栄子	40	68	43
秋の地形地質ウォーキング 〔野外観察〕	11/3 (月・祝)	松田山周辺 (山北町～ 松田町)	小学4年生～大人	石浜佐栄子 山下浩之 笠間友博 平田大二	40	68	36
冬芽の樹木ウォッチング 〔野外観察〕	1/17(土)	湯河原町	小学4年生～大人	勝山輝男 田中徳久 大西 亘	24	37	35
早春の地形地質観察会 〔野外観察〕	3/1(日)	秦野市周辺	小学4年生～大人	笠間友博 石浜佐栄子 新井田秀一	40	51	雨天 中止
計4講座	のべ4日	計			144	224	114

身近な自然発見講座（対象を限定しない博物館周辺での野外観察の講座）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
冬の生きもの探し 〔野外観察〕	12/20(土)	博物館周辺	どなたでも	渡辺恭平 広谷浩子 大西 亘	なし	当日 受付	中止
	1/18(日)			渡辺恭平 大西 亘 折原貴道 加藤ゆき	なし	当日 受付	37
	2/15(日)			渡辺恭平 大西 亘 折原貴道 加藤ゆき	なし	当日 受付	27
計 1 講座	のべ 2 日			計			64

5.1.3. 子ども自然科学ひろば

本事業は、文部科学省の「子ども居場所づくり新プラン」の一環として整備された、「全国科学系博物館における地域子ども教室推進事業」を館独自に引き継いだもので、子どもたちが自然について学習でき、自然への好奇心と理解を深め、自然について考える力をつける場を設置するものである。

今年度は、土・日曜日や夏休み期間中に行われる当館

主催の子ども向け講座と当館友の会主催講座、夏休みの自由研究を支援する催し物、学習指導員による「よろずスタジオ」によって構成。平成8年度に発足した当館友の会は、博物館の理念を理解し、博物館活動の支援や博物館を活用するとともに、会員相互の交流を目的としている。

土・日曜日に開催する小中学生向けの講座（要事前申し込み）＊「子ども自然科学ひろば」対象講座

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
磯の生きものウォッチング ～真鶴岬で磯の動植物を観察しよう～ [野外観察]	4/19(土)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	71	31
	5/18(日)			佐藤武宏 大西 亘	40	160	34
春の里山の草花ウォッチング [野外観察]	4/20(日)	瀬上市民の森 (横浜市)	小学生とその保護者 中学生～大学生	田中徳久 大西 亘 大坪 奏	40	19	11
昆虫採集講座 [室内実習と野外観察]	4/27(日)	博物館周辺	小学5年生～高校生	渡辺恭平 荻部治紀	15	11	14
	5/18(日)						8
	6/15(日)						8
	7/20(日)						中止
	8/17(日)						6
	9/21(日)						8
	10/19(日)						7
	11/9(日)						7
	12/14(日)						8
	1/11(日)						6
	2/22(日)						7
	3/8(日)						9
四季の昆虫観察会 [野外観察]	5/11(日)	弘法山 (秦野市)	小学生とその保護者 中学生～大学生	渡辺恭平 荻部治紀 大西 亘	20	85	15
	6/8(日)	弘法山 (秦野市)		渡辺恭平 荻部治紀	20	56	中止
	8/10(日)	足柄峠 (南足柄市)		渡辺恭平 荻部治紀	20	89	中止
	9/28(日)	武山 (横須賀市)		渡辺恭平 荻部治紀	20	33	17
あしがら化石ウォッチング [野外観察]	5/17(土)	用沢～谷ヶ (山北町)	小学4～6年生と その保護者	田口公則 大島光春	30	中止	中止
海辺の野鳥観察会 ～アオバトを見てみよう～ [野外観察]	7/5(土)	照ヶ崎海岸 (大磯町)	小学生とその保護者	加藤ゆき 広谷浩子 大西 亘	30	41	21
川と用水路の生き物を調べよう [野外観察]	9/23 (火・祝)	開成町酒匂川 周辺	小学生～大人	荻部治紀 瀬能 宏 渡辺恭平	25	90	20
植物図鑑の使い方 [室内実習と野外観察] ～この木何の樹？気になる花しらべ～	10/4(土)	実習実験室、 博物館周辺	小学4年生～大人	大西 亘 勝山輝男 田中徳久	15	30	14
	10/5(日)						13
秋のきのこ観察講座 [室内実習と野外観察]	10/19(日)	早雲公園 (箱根町)	小学生～大人	折原貴道 大坪 奏	20	73	10
アニマルトラッキング入門 [室内実習と野外観察]	10/25(土)	博物館周辺	小学生とその保護者	松本涼子 広谷浩子 加藤ゆき	20	17	11
秋の里山の草花ウォッチング [野外観察]	10/26(日)	瀬上市民の森 (横浜市)	小学生とその保護者 中学生～大学生	田中徳久 大西 亘 勝山輝男	40	27	15
アンモナイトの壁をしらべよう [室内実習]	11/1(土)	西側講義室	小学4～6年生と その保護者	田口公則	12	17	12
いろんな動物をくらべてみよう [室内実習]	2/21(土)	実習実験室	小学4～6年生	松本涼子	20	5	3
草食？肉食？歯の形を比較してみよう [室内実習]	3/28(土)	実習実験室	小学4～6年生	松本涼子	15	4	1
計14講座	のべ26日	計			442	828	316

夏休みに開催する子ども向けの講座（要事前申し込み）＊「子ども自然科学ひろば」対象講座

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
貝がらのふしぎ ①ホタテの巻〔室内実習〕	7/19(土)	実習実験室	小学4年生～大人	田口公則 佐藤武宏	12	9	6
身近なカビの実験と観察 〔室内実習〕	7/20(日)	実習実験室	小学生～中学生	大坪 奏 折原貴道	15	23	13
	7/30(水)						12
貝がらのふしぎ ②巻貝とアンモナイト〔室内実習〕	7/26(土)	実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏 田口公則	12	31	10
貝がらのふしぎ ③アワビとトコブシ～〔室内実習〕	8/2(土)	実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏 田口公則	12	26	11
貝がらのふしぎ ④アサリの巻～〔室内実習〕	8/9(土)	実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏 田口公則	12	12	13
サルからヒトへの進化を探る〔講義と室内実習〕	8/21(木)	実習実験室	小学4年生～中学生	広谷浩子	20	10	4
	8/22(金)				20	16	14
計6講座	のべ8日			計	103	127	83

博物館絵本のお話し会

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者	子どもの数
博物館絵本のお話し会	7/30(水)	ミュージアム	子どもと保護者	新山直子	なし	17	10
	8/6(水)	ライブラリー		小林瑞穂		31	17
	8/20(水)					26	19
計1講座	のべ3日				合計	74	46

よろずスタジオ（毎月第3日曜日を除く毎週日曜日に実施 10月より毎週土曜日にも実施）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者	子どもの数
恐竜折り紙ひろば （注）第1日曜日開催	4/6(日)～3/1(日) のべ12日	東側講義室 ほか	子どもとその保護者	【学習指導員】 磯崎和美 西野宣雄 廣澤瀧男 小宮孝俊 滝沢 博 松本康孝	なし	2,062	1,001
動物のぬり絵広場	5/6(日・振)～3/21(土・祝) 計10日					1,104	573
空飛ぶタネ	5/25(日)～3/28(土) 計8日					669	320
いきものフェイスブック	5/11(日)～3/8(日) 計10日			【企画普及課】 片野美知子		748	395
けんぴきょうで大発見!	9/14(日)～2/14(土) 計3日			大坪 奏 【ボランティア】 展示解説 ボランティア 小田原短期 大学学生		395	182
生命の星・地球博物館検定	4/27(日)～3/22(日) 計8日					678	354
生きものパズル	4/13(日)～3/29(日) 計10日					1,192	664
ハコフグの帽子を作ろう	7/27(日)～3/7(土) 計6日					679	346
夏休み企画：ミニ折り紙ひろば	7/22(火)～8/18(月) 計2日					181	98
計8講座	のべ57日				計	7,708	3,933

博物館・友の会共催よろずスタジオ（毎月第3日曜日実施）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者	子どもの数
「歯のひみつ～化石からわかること」（哺乳類）	4/20(日)	東側講義室	子どもとその保護者	大島光春	なし	78	40
「クジラと人間は仲間？」（哺乳類）	5/18(日)		その他一般	広谷浩子		45	17
「葉脈標本作りに挑戦しよう」（植物）	6/15(日)	実習実験室		友の会		69	34
「キノコの中身をのぞいてみよう」（菌類）	9/21(日)	東側講義室		友の会		87	36
「貝のからだを知ろう」（貝類）	10/19(日)			佐藤武宏		60	30
「ドングリであそぼう！」（植物）	11/23(日・祝)			友の会		91	43
「魚をよく見てみよう」（魚類）	12/21(日)			瀬能 宏		145	66
「砂と遊ぼう」（地学）	1/18(日)			石浜佐栄子		206	94
「アンモナイトのレプリカをつくろう」（古生物）	2/15(日)			田口公則 友の会		151	71
箱根火山の火山灰を調べてみよう〔室内実習〕	8/1(日)	実習実験室		笠間友博		280	
いろいろ体験〔室内実習〕 プランクトン観察、変形菌を顕微鏡で観察、 自然のものでスタンプ遊びをしよう	8/10(日)			友の会		70	32
計11講座	のべ11日				計	1,282	463

夏休みの自由研究を支援する催し物

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/12(土) ～8/19(火)	ミュージアム ・ライブラリー	小、中学生	学習指導員	なし	163	83

【相談の内訳】

〔地域別参加者数〕

県内	件数	県外	件数
小田原	25	東京	5
川崎	10	埼玉	2
茅ヶ崎	8	千葉	1
横浜	6	沖縄	1
大磯	4	静岡	1
箱根	3	計	10
平塚	3		
藤沢	2		
湯河原	2	電話相談	1
厚木	2		
鎌倉	1		
真鶴	1		
相模原	1		
山北	1		
秦野	1		
大井	1		
南足柄	1		
計	72		

〔学年別〕

学年	相談件数
小学1年	2
小学2年	4
小学3年	12
小学4年	18
小学5年	10
小学6年	10
中学1年	13
中学2年	11
中学3年	3

〔分野別〕

分野	相談件数
物理	5
化学	3
生物	37
地学	31
その他	7

特別展・企画展に関する講座

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
【特別展関連】 外来生物のすんでいる池を訪ねよう 〔室内実習と野外観察〕	4/26(土)	川崎市麻生区	小学生～大人	苅部治紀 加藤ゆき	30	28	12
	5/10(土)			苅部治紀 広谷浩子 松本涼子	30	17	7
	6/15(日)			苅部治紀 広谷浩子	30	116	27
	9/21(日)			苅部治紀 佐藤武宏 大坪 奏	30	58	19
	10/18(土)			苅部治紀 勝山輝男	30	11	7
【特別展関連】 外来生物問題について考えよう 〔講義〕	8/16(土)	西側講義室	小学4年生～大人	苅部治紀 加藤ゆき 勝山輝男 広谷浩子 佐藤武宏	40	71	47
【特別展関連】ミニワークショップ 「がいらいせいぶつのシール絵本づくり」	7/26(土)	特別展示室	幼児～小学生	加藤ゆき 広谷浩子	100	当日 受付	67
	8/2(土)			大坪 奏 木村恭子	100		44
	8/9(土)				100		89
	8/23(土)				100		81
計3講座	のべ10日			計	590	301	400

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所（空欄は当館）
5/2(金)	「森林資源科学実習」博物館見学実習	日本大学生物資源科学部	苅部治紀 渡辺恭平	1	20	
5/2(金)	「生態学フィールド調査法」 生物の分類方法・資料の保存方法	慶應義塾大学環境情報学部	山下浩之	1	14	
5/29(木)	海外セミナーにともなう校外理科学習： 「ニュージーランドについて ～菌類を中心に～」	横浜女学院中学校	折原貴道	3	191	
5/29(木)	野外学習「火山噴火のメカニズム」	東京学芸大学附属大泉小学校	笠間友博	5	10	
6/10(火)	専門科目「地質科学実験Ⅰ」： 博物館見学	日本大学文理学部 地球システム科	笠間友博		18	
6/25(水)	環境科学（学校設定科目）： 「火山の成り立ち」	県立生田高等学校自然科学 コース	笠間友博	1	40	県立生田高等学校
7/4(金)	「森林資源科学実習」博物館見学実習	日本大学生物資源科学部	苅部治紀 渡辺恭平	1	20	
7/12(土)	専門科目「地球科学野外実習Ⅰ」： 実地授業	静岡大学理学部	佐藤武宏	1～4	48	
7/18(金)	地学実験（前期集中科目）： 館内展示見学及びディスカッション、 堆積岩等の岩石に関する記載実習	東京海洋大学	山下浩之	1～4	11	
7/22(火)	SSHサイエンスツアー： 生命の星・地球博物館における学習 箱根外輪山における地学学習	千葉県立長生高等学校	笠間友博	1	80	当館 大観山展望台、山伏峠
9/12(金)	博物館課程：「博物館実習Ⅰ」	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	3	22	
9/13(土)	教職課程「教職演習C（小学校理科）」： 地学、自然科学の指導に関する科学リテ ラシーの向上	玉川大学教育学部	山下浩之 佐藤武宏		28	
9/17(木)	理科「土地のつくりと変化」 （廃油火山実験）	横浜市立東俣野小学校	笠間友博	6	49	横浜市立東俣野小学校
9/19(金)	校外学習：「流れる水のはたらき」を 理解させるための実習	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	5	31	
9/25(水)	理科「土地のつくりと変化」 （廃油火山実験）	横浜市立大口台小学校	笠間友博	6	82	横浜市立大口台小学校
10/1(水)	理数科「サイエンスツアー」	千葉県立匝瑳高等学校	笠間友博	1	43	当館、箱根方面
10/8(水)	理科「土地のつくりと変化」 （廃油火山実験）	横浜市立東俣野小学校	笠間友博	6	62	横浜市立東俣野小学校
10/15(水)	理科「流れる水のはたらき」 浸食・運搬・堆積の実験、早川の話	箱根町立仙石原小学校	石浜佐栄子	5	20	箱根町立仙石原小学校
10/15(水)	講演「箱根火山について」	小田原市・足柄下地区中学校 教育研究会理科部推進委員会	笠間友博	1	35	小田原市立城北中学校
10/17(金)	理科「土地のつくりと変化」 （廃油火山実験）	小田原市立早川小学校	笠間友博	6	32	小田原市立早川小学校
10/18(木)	校外学習：「地層のできたかた」を理解 させるための実習と見学	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	6	35	
10/21(火)	現地一日巡検「箱根火山の成り立ちを学 ぶ」	自由学園初等部	山下浩之	6	38	箱根湯本～大涌谷
10/23(木)	校外学習：「昆虫のからだのつくり」を 理解させるための実習	函嶺白百合学園小学校	渡辺恭平	3	17	
10/26(日)	教職課程「地学実験」博物館見学	慶應義塾大学理工学部	石浜佐栄子	1～4	13	
11/1(土)	理科「土地のつくりと変化」 （水槽火山実験）	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	笠間友博	6	138	茅ヶ崎市立 浜須賀小学校
11/8(土)	SSH「Dohoku地域別サイエンスセミ ナーin稚内」：講義「ホタテの形のひみ つを探る」	北海道稚内高等学校	田口公則	1～3	26	北海道稚内高等学校
	SSH「Dohoku地域別サイエンスセミ ナーin稚内」：講義「巻貝のかたちの法 則性と多様性を知る」		佐藤武宏			
11/11(火)	「火山学者と富士山をつくろう」 （廃油火山実験）	三島市立佐野小学校	笠間友博	6	62	三島市立佐野小学校

（次ページへ続く）

(前ページより)

11/12(水)	「火山学者と富士山をつくろう」 (廃油火山実験)	三島市立沢地小学校	笠間友博	6	34	三島市立沢地小学校
11/12(水)	大学院講義「生体機能学演習」： 講義および館内見学	日本大学生物資源科学部	樽 創	1～2	15	
11/15(土)	災害の科学「箱根火山と流山」 (箱根巡検)	県立生田高等学校	笠間友博	1～3	15	大涌谷、長尾峠、 大観山など
11/27(木)	理科：「大地のつくりと変化」 (廃油火山実験)	小田原市立下曾我小学校	笠間友博	6	37	小田原市立 下曾我小学校
11/29(土)	教職課程「地学実験」博物館見学	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	1～2	30	
12/5(金)	理数科講座：「動物行動学」(動物の体 のしくみと運動から人類進化へ、人類進 化の最近の知見、動物行動学と博物館)	静岡県立科学技術高校理数科	広谷浩子	1	42	
12/12(金)	博物館見学および箱根巡検	武蔵中学校	笠間友博 山下浩之	1	175	当館および大観山、 山伏峠、大涌谷など
12/13(土)	教職課程「地学実験」博物館見学	慶應義塾大学理工学部	石浜佐栄子	1～4	16	
12/21(水)	理科校外学習	函嶺白百合学園中学校	笠間友博	3	41	
12/23(火)	ハワイ島研修事前学習 「ハワイの火山・地質について」	神奈川大学附属高等学校	山下浩之	2	23	
1/15(木)	校外学習：「人の体の作りと運動」を 理解させるための実習	函嶺白百合学園小学校	広谷浩子	4	32	
1/20(火)	「火山灰中の鉱物観察」	小田原市立白山中学校	笠間友博	1	35	小田原市立白山中学校
1/21(水)	理科校外学習：講義と展示解説	函嶺白百合学園中学校	笠間友博	3	41	
1/28(水)	「火山灰中の鉱物観察」	県立生田高等学校	笠間友博	1	32	神奈川県立 生田高等学校
2/3(火)	「火山灰中の鉱物観察」	小田原市立白山中学校	笠間友博	1	35	小田原市立白山中学校
2/7(土)	専門科目「地質学」「地質学Ⅰ・Ⅱ」 学外研修	桜美林大学 リベラルアーツ学群	平田大二	1～4	15	
2/7(土)	S S H理数実践「箱根ジオパーク」研修	県立西湘高等学校	笠間友博	1～2	6	箱根町～真鶴町
2/11(水・ 祝)	教養科目「自然探索実習」： 博物館見学と石垣山自然探索	自由学園最高学部	田口公則	1～3	38	
2/18(水)	「火山灰中の鉱物観察」	東海大学(教職課程)	笠間友博	4	11	
3/6(金)	箱根教育に係る県立博物館と連携した授 業：火山噴火実験(中学1年理科大地の 変化「火山」)	箱根町教育委員会	笠間友博 山下浩之	1	80	箱根町立箱根中学校
計					1,938	

5.2.2. 総合的な学習への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所(空欄は当館)
5/2(木)	校外学習：博物館に関する講義、 バックヤード見学	県立神奈川総合高等学校	笠間友博	1	28	
5/11(日)	総合学習「サイエンスリテラシーⅡ」： 課題研究における地質調査	横浜市立横浜サイエンス フロンティア高等学校	笠間友博	2	3	足柄上郡大井町周辺
5/16(金)	総合的な学習「進路講演会」	宮城県立宮城第一高等学校	広谷浩子	1～3	840	宮城県立 宮城第一高等学校
5/28(水)	個人課題研究：「リュウグウノツカイ」	茅ヶ崎市立円蔵中学校	瀬能 宏	3	1	
7/3(水)	個人課題研究：「絶滅危惧種について」	茅ヶ崎市立円蔵中学校	広谷浩子	3	2	
7/9(木)	展示見学(神奈川県各地層や化石等について)	小田原市立東富水小学校	田口公則	3	31	
7/15(火)	進路探求：研究・学術機関等訪問研修	県立大磯高等学校	山下浩之	1	56	
7/30(水)	校外学習：バックヤード見学	桐蔭学園中学校・高等学校	佐藤武宏	中～高	12	
8/17(日)	キャリア教育：ゆめ仕事びったり 職場体験・見学	千葉県流山市立鱈ヶ崎小学校	渡辺恭平 高橋正彰	6	1	
9/4(木)	講座「見もの生もの考えもの」： 植物に関する分類について	県立希望ヶ丘高等学校	大西 亘	2	24	県立希望ヶ丘高等学校
10/14(火)	はだのエコスクール 「体からわかる私たちの進化」	秦野市環境産業部環境保全課	広谷浩子	4	中止	秦野市立南が丘小学校
10/21(火)	防災教育講演会：「防災教育について」	鎌倉女学院中学校	平田大二	3	168	鎌倉女学院中学校
10/21(火)	体験学習事前指導 水槽火山実験・廃油火山実験	函嶺白百合学園中学校	笠間友博	1	41	函嶺白百合学園中学校
10/24(火)	体験学習：野外観察	函嶺白百合学園中学校	笠間友博	1	41	石垣山一夜城周辺
12/3(水)	環境学習：「地球温暖化について」	伊東市立旭小学校	新井田秀一	5	35	

(次ページへ続く)

(前ページより)

12/10(水)	総合学習：酒匂川水系のメダカの保全	小田原市立城山中学校	瀬能 宏	1	1	
	総合学習：小田原市のニホンザルについて		広谷浩子	1	1	
	総合学習：「小田原周辺の地震」「小田原で見られる岩石」「小田原の大地」		石浜佐栄子	1	3	
12/12(金)	職業講話：「学芸員のしごと」	海老名市立海老名中学校	大西 亘	1	22	海老名市立海老名中学校
1/23(金)	職場訪問	小田原市立泉中学校	高橋正彰	1	1	
2/26(木)	総合学習：「やさいもしょくぶつだ！」	伊勢原市立竹園小学校	大西 亘	3	29	伊勢原市立竹園小学校
				計	1,340	

5.2.3. 職場体験学習

自分の進路を見つめ考える進路学習の中で、実際に職場で職業体験を行う機会として、近隣の中学校からの依頼が増えている。

実施日	依頼元	学年	人数	対応者	内 容
9/7(日)	二宮町立二宮中学校	2	4	広谷浩子・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、学芸員の仕事 など
10/16(木) 17(金)	静岡県熱海市立熱海中学校	2	4	田中徳久・磯崎和美・滝沢 博・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、押し葉標本製作 など
10/29(水)	小田原市立酒匂中学校	2	6	山下浩之・大西 亘・松本康孝・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、押し葉標本製作、岩石プレパラート製作 など
11/6(木) 7(金)	小田原市立城山中学校 松田町立寄中学校	2 2	3 1	山下浩之・西野宣雄・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、岩石の切削・研磨、講座の事前準備 など
11/11(火) 12(水) 13(木)	小田原市立白山中学校	2	3	田口公則・新山直子・小林瑞穂・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、展示見学ポートフォリオ製作、ライブラリー業務（書籍の装備）、講座受付・会議資料綴じ込み など
11/13(木)	開成町立文命中学校	2	3	田口公則・松本康孝・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、貝化石の洗浄 など
11/27(木) 28(金)	小田原市立城北中学校	2	3	田中徳久・西野宣雄・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、押し葉標本製作、企画展広報物の発送作業 など
12/5(金)	小田原市立泉中学校	2	3	新井田秀一・松本康孝・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学 など
1/20(火) 21(水)	大井町立湘光中学校	2	3	田口公則・高橋正彰	館内・バックヤード等の見学、展示見学ポートフォリオ製作、子ども自然科学作品展の準備 など
1/23(金)	二宮町立二宮中学校 (職場訪問)	1	4	田口公則・樽 創・高橋正彰	館内・バックヤード等の見学、学芸員への質問 など
1/30(金)	川崎市立平中学校 (降雪により午前で終了)	2	1	笠間友博・高橋正彰	館内・バックヤード等の見学 など
2/4(水) 5(金)	南足柄市立南足柄中学校 (降雪により午前で終了)	2	1	田口公則・新山直子・小林瑞穂・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ミュージスタ広報物の発送作業、講座の事前準備など
2/18(水) 19(木)	県立相模原中等教育学校	中等 2	3	田口公則・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、展示見学ポートフォリオ製作、講座の事前準備 など
のべ21日	参加14校	計	28		

5.2.4. インターンシップの受け入れ

2002年度より、高校生の就業体験実習を受け入れている。

実施日	依頼元	学年	人数	対応者	内 容
7/22(火) 23(水)	県立秦野曾屋高等学校 鎌倉女子大学高等部 (県教育委員会高校教育課)	2 2	1 1	大西 亘・磯崎和美・ 高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ワーク ショップ（折り紙ひろば）補助、押し葉標本製作 など
7/24(木) 25(金)	県立中央農業高等学校 県立綾瀬西高等学校 (県教育委員会高校教育課)	2 2	1 1	田中徳久・松本康孝・ 高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ワーク ショップ（生きものパズル）補助、押し葉標本製作 など
7/24(木) 8/19(火)	県立藤沢工科高等学校 (県教育委員会高校教育課)	2	2	広谷浩子・松本康孝・ 廣澤瀧男・高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ワーク ショップ（生きものパズル）補助、講座準備（テキ スト製作） など
7/28(月) 29(火)	県立小田原高等学校 県立小田原総合ビジネス高等 学校（県西部地区インターンシ ップ推進地域連絡協議会）	1 2	2 1	松本涼子・廣澤瀧男・ 高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ワーク ショップ（フェイスブック）補助、特別展催し準備 （ワークショップ準備） など
7/30(水) 31(木)	函嶺白百合学園高等学校 (函嶺白百合学園高等学校)	2	3	佐藤武宏・磯崎和美・ 小林瑞穂・新山直子・ 高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ワーク ショップ（生きものパズル）補助、細密画（甲殻 類）の登録、ライブラリー業務（書籍の装備）など
8/20(水) 21(木)	県立小田原高等学校 鎌倉女子大学高等部 (県教育委員会高校教育課)	1 2	1 1	田口公則・磯崎和美・ 高橋正彰	館内・バックヤード、ガイダンス等の見学、ワーク ショップ（生きものパズル）補助、展示見学ポート フォリオ製作、講座受付 など
のべ12日		計	14		

* 依頼元の（ ）内は主催する機関・団体

5.2.5. 教員の各種研修の受け入れ

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所（空欄は当館）
4/2(水)	教員春季研修（野外観察）	新名学園旭丘高等学校理科	山下浩之	10	箱根方面
7/31(木)	博学連携授業プログラム 「体からわかる私たちの進化」	伊東市教育研究会理科部会	広谷浩子	30	東豆教育会館 （静岡県伊東市）
8/1(金) 2(土) 3(日)	教職員5年経験者 社会体験研修	小田原市立国府津小学校	田口公則 佐藤武宏 松本康孝 高橋正彰	2	
8/4(月)	理科研修講座：理科専門研修（生物） 「骨格標本の教材化」	藤沢市教育文化センター	広谷浩子	10	藤沢市 教育文化センター
8/6(水) 7(木)	教職員10年経験者 社会体験研修	大井町立大井幼稚園 南足柄市立南足柄小学校	田中徳久 大島光春 滝沢 博 高橋正彰	1 1	
8/7(木)	理科研修講座「そのまま授業基礎PREMIUM② 箱根ジオパークⅠ 講義・実習編」	藤沢市教育文化センター	笠間友博	20	藤沢市 教育文化センター
8/8(金)	理科研修講座「そのまま授業基礎PREMIUM③ 箱根ジオパークⅡ バス巡検編」			30	箱根方面
8/9(土) 10(日) 11(月)	教職員10年経験者 社会体験研修	県立綾瀬西高等学校 県立小田原養護学校	山下浩之 石浜佐栄子 廣澤瀧男 高橋正彰	1 1	
8/14(木) 15(金)	教職員5年経験者 社会体験研修	小田原市立久野小学校 小田原市立富水小学校	佐藤武宏 広谷浩子 廣澤瀧男 高橋正彰	1 1	
8/19(火)	夏季研修会「流れる水のはたらき（5年単元）」 研修（講義・現地学習）	秦野市小学校教育研究会 理科部	田口公則	15	秦野市立本町小学校 水無川
8/20(水)	夏季研修「酒匂川水系のメダカの保全」	小田原市小学校教育研究会 理科部会	瀬能 宏	37	
8/20(水)	夏季研修 「博物館見学研修」と「火山の噴火実験」	小田原市小学校教育研究会 特別活動部	笠間友博	21	
8/20(水)	夏季研修「校庭など身近な環境を活用した自然観 察・環境教育について」	足柄上郡小学校教育研究会 理科部会	大西 亘	17	中井町立中村小学校
9/27(土)	平成26年度例会「バックヤード見学・ 特別展見学・教材の情報交換」	神奈川理科サークル	田口公則 石浜佐栄子	10	
10/18(土)	理科の授業づくり研修講座 ～博物館・研究所を訪ねて～： 講義・実習「生物分野の授業づくりに必要な基本 技術」講義・実習「地学分野の授業づくりに必要 な基本技術」	県立総合教育センター	佐藤武宏 笠間友博	18	
11/12(水)	研究授業、研究協議	座間市中学校教育研究会 理科部会	広谷浩子	22	座間市立座間中学校
2/24(火)	平成26年度 神中理西部地区発表大会に向けた生物領域研修会	県立中学校教育研究会 理科部会	渡辺恭平	11	南足柄市立 足柄台中学校
計				259	

5.2.6. 各種研修の受け入れ

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所（空欄は当館）
4/9(水)	新入生オリエンテーション： 見学と講演会「地球環境・人工衛星画像解析」	東京工芸大学工学部 生命環境化学科	新井田秀一	95	
7/25(金)	自然科学部合宿「動物に関する講義」	麻布大学附属高等学校	広谷浩子	22	
8/1(金)	生物部：博物館見学と周辺フィールドワーク	神奈川学園中学校・高等学校	山下浩之	8	当館、早川石丁場～ 石垣山一夜城
8/1(金)	高校生によるバイオテクノロジー教室 「シランの無菌播種」	県立中央農業高等学校 草花部	大西 亘 西野宣雄 片野美知子	10	
8/12(火)	海外科学キャンプ： 博物館見学と講義「火山と地質」	仁川大学科学英才研究所 （韓国）	笠間友博	25	
8/27(水)	高校生によるコサージュ教室 「コチョウランのコサージュ作り」	県立中央農業高等学校 草花部	大西 亘 西野宣雄 片野美知子	10	
10/19(金)	SSH理数実践：「箱根ジオパーク」研修	県立西湘高等学校	笠間友博	10	大涌谷、長尾峠ほか
11/15(水)	サイエンスパートナーシッププロジェクト 「災害の科学」：箱根火山と流山	県立生田高等学校	笠間友博	15	箱根方面
計				195	

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2014年度は7大学から15名の実習生を受け入れた（表）。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する2日間と学芸部が担当する7日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。

実習日と主な実習内容

全員共通実習（2日間） 担当：企画普及課職員

〔期日〕 8月1日（金）・2日（土）

〔内容〕 オリエンテーション、館長講話、展示室・収蔵庫など館内諸施設見学、管理課長、企画情報部長、学芸部長、による館の概要・展示内容・研究状況などのガイダンス。

グループ別実習（7日間）：学芸各グループ担当

植物・菌類グループ（2名）

〔担当〕 勝山輝男・田中徳久・大西 亘・大坪 奏

〔期間〕 8月4日（月）～9日（土）・11（月）

〔内容〕 植物・菌類標本の製作、配架、ジャンボブック展示作成ほか

動物グループ（8名）

〔担当〕 広谷浩子・佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子

〔期間〕 8月4日（月）～9日（土）・11日（月）

〔内容〕 標本製作（固定、保存）、標本整理（ロット／個体管理、ラベル作成、配架）、標本情報登録（位置情報の取り扱い、入力）など。

魚類グループ（1名）

〔担当〕 瀬能 宏

〔期間〕 8月22日（金）・23日（土）・25日（月）～29日（金）

〔内容〕 魚類標本の作製、撮影、登録、配架、メンテナンスなど

昆虫グループ（2名）

〔担当〕 荻部治紀・渡辺恭平

〔期間〕 8月9日（土）・10日（日）・12日（火）～16日（土）

〔内容〕 昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、講座の補助。

地球環境・古生物グループ（2名）

〔担当〕 石浜佐栄子・笠間友博・新井田秀一・大島光春・田口公則・山下浩之

〔期間〕 8月8日（金）・11日（月）～16日（土）

〔内容〕 標本整理、講座の補助。

博物館実務実習受け入れ状況

大学・学部等	人数
都留文科大学・文学部 国文学科	1
日本女子大学・家政学部	1
日本女子大学・理学部	1
明治大学・農学部	1
琉球大学・理学部	2
東京農業大学・農学部	2
東京農業大学・応用生物科学部	1
東京農業大学・地域環境科学部	1
日本大学・文理学部	2
日本大学・生物資源科学部	1
神奈川大学・理学部	2
計	15

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	大学名	人数	担当
4/20(日)	横浜国立大学理工学部地球生態EP（エデュケーショナルプログラム）	37	田口公則
5/2(金)	日本大学生物資源科学部	20	荻部治紀 渡辺恭平
6/6(金)	明治大学	27	田口公則
6/14(土)	桜美林大学	9	佐藤武宏
7/4(金)	日本大学生物資源科学部	20	荻部治紀 渡辺恭平
7/6(日)	都留文科大学	35	広谷浩子
7/15(火)	神奈川大学	19	佐藤武宏
7/19(土)	創価大学工学部環境共生工学科	55	田中徳久 山下浩之
8/22(金)	日本女子大学	22	高橋正彰
12/6(土)	桜美林大学	12	佐藤武宏
12/7(日)	東海大学海洋学部	33	新井田秀一
12/13(土)	神奈川大学	20	佐藤武宏
12/21(日)	東海大学海洋学部	33	新井田秀一
2/18(水)	日本大学生物資源科学部	22	新井田秀一
3/14(土)	國學院大学文学部	37	平田大二 (館長)
合計		401	

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わずこの実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。この実習は企画情報部企画普及課が担当し、大学側の希望がある場合にはそれぞれの専門分野の学芸員が担当する。

今年度は10大学15件730名の見学実習を受け入れた。

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を生かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2014年度のライブラリー利用者は92,401人で、1日平均利用者数は322人であった。電話や文書による資料の問い合わせが17件あり、また有料ではあるがコピーサービスも行っており、延べ305件の申込があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	24	26	18	28	31	23	26	25	22	20	19	25	287
利用者数	7,787	7,609	5,472	9,701	16,083	6,230	9,059	7,522	5,085	4,492	6,090	7,271	92,401
平均利用者数	324	293	304	346	519	271	348	301	231	225	321	291	322

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんにより身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして6名の学習指導員（再任用・非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。こ

のほか、来館者のレファレンス受付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。

5.5.2 団体利用者へのサービス

〔団体利用の申込受付〕

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申し込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

〔下見見学への対応〕

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設を含む館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したビデオ映像の貸し出しも行っている。

この下見見学の多くは学校関係者や、障害のある方々の施設・団体である。

〔ガイダンスサービス〕

ガイダンスを希望した団体には所要時間20～30分程度で、学習指導員が展示室の構成やおもな展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。

月別ガイダンス対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
件数	26	28	30	38	28	28	48	30	18	10	15	12	311	25.9
人数	1,710	1,618	1,597	1,820	1,275	1,585	2,800	1,325	873	535	634	437	16,209	1350.7

5.5.3. 団体利用状況

2014年度の団体入館利用は1,386団体、69,998人で、入館者全体の310,088人に対する割合は22.6%になる。団体利用のうち、学校関係団体は804団体、52,894人で、全団体数の58.0%、全団体人数の75.6%になる。

特に、小学校の占める割合は学校関係団体人数の65.8%になる。種別および地域別の利用状況は下記図表の通りである。

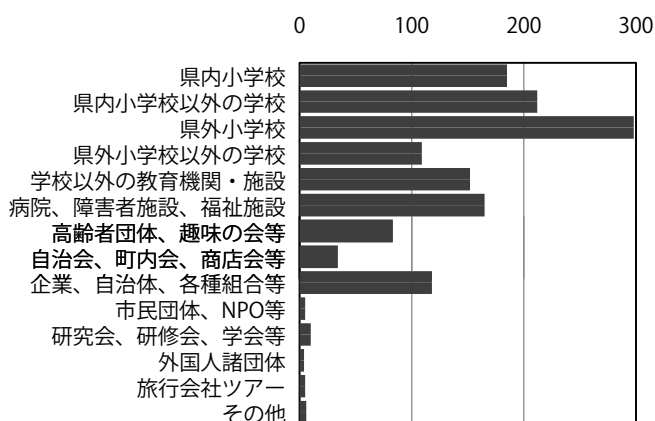
種別利用状況(団体数)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
県内小学校	11	15	14	18	3	16	56	24	12	4	11	1	185	13.3%
県内小学校以外の学校	9	20	11	32	17	14	23	13	13	10	26	24	212	15.3%
県外小学校	2	44	22	14	1	38	137	36	2	1	0	1	298	21.5%
県外小学校以外の学校	14	8	7	15	9	6	10	13	7	3	6	11	109	7.9%
学校以外の教育機関・施設	9	4	7	18	45	4	9	18	5	4	10	19	152	11.0%
病院、障害者施設、福祉施設	4	7	10	24	16	17	31	24	9	1	7	15	165	11.9%
高齢者団体、趣味の会等	6	14	11	4	0	5	14	11	3	4	5	6	83	6.0%
自治会、町内会、商店会等	0	0	4	1	4	1	2	5	2	1	7	7	34	2.5%
企業、自治体、各種組合等	9	5	11	13	11	7	17	27	3	6	6	3	118	8.5%
市民団体、NPO等	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5	0.4%
研究会、研修会、学会等	0	1	1	1	5	1	1	0	0	0	0	0	10	0.7%
外国人諸団体	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	4	0.3%
旅行会社ツアー	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	5	0.4%
その他	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	6	0.4%
学 校 合 計	36	87	54	79	30	74	226	86	34	18	43	37	804	58.0%
全 体 合 計	64	119	100	143	112	111	303	175	58	36	78	87	1,386	100.0%

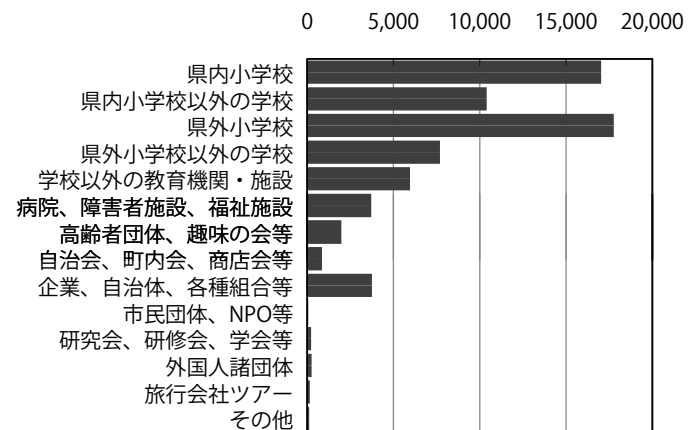
種別利用状況(人数)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
県内小学校	1,270	1,382	1,418	1,644	220	1,614	5,328	1,895	1,255	352	525	133	17,036	24.3%
県内小学校以外の学校	620	1,424	710	1,641	613	617	1,461	915	496	345	785	772	10,399	14.9%
県外小学校	283	2,485	1,582	961	93	2,245	7,434	2,461	48	142	0	28	17,762	25.4%
県外小学校以外の学校	2,375	944	387	892	145	285	662	1,087	341	71	187	321	7,697	11.0%
学校以外の教育機関・施設	189	89	253	726	1,841	109	307	1,015	163	66	333	870	5,961	8.5%
病院、障害者施設、福祉施設	51	126	218	382	280	453	768	637	159	29	255	349	3,707	5.3%
高齢者団体、趣味の会等	79	377	253	61	0	89	348	204	48	112	110	297	1,978	2.8%
自治会、町内会、商店会等	0	0	98	15	113	13	80	131	46	31	193	141	861	1.2%
企業、自治体、各種組合等	250	97	342	516	630	170	437	767	48	175	177	149	3,758	5.4%
市民団体、NPO等	0	0	17	0	0	0	24	17	0	12	0	0	70	0.1%
研究会、研修会、学会等	0	21	5	23	161	11	11	0	0	0	0	0	232	0.3%
外国人諸団体	0	0	0	65	0	0	0	93	99	0	0	0	257	0.4%
旅行会社ツアー	0	15	0	47	0	0	0	29	49	21	0	0	161	0.2%
その他	0	0	0	0	22	47	31	19	0	0	0	0	119	0.2%
学 校 合 計	4,548	6,235	4,097	5,138	1,071	4,761	14,885	6,358	2,140	910	1,497	1,254	52,894	75.6%
全 体 合 計	5,117	6,960	5,283	6,973	4,118	5,653	16,891	9,270	2,752	1,356	2,565	3,060	69,998	100.0%

(種別団体数)



(種別団体人数)



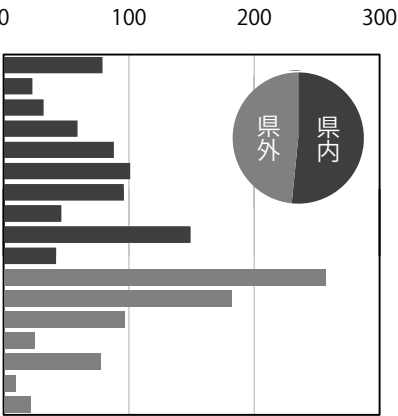
月別地区別利用状況(団体数)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
小田原	3	6	7	10	8	8	11	4	5	2	11	4	79	5.7%
箱根・真鶴・湯河原	0	3	0	2	2	2	4	2	1	3	0	4	23	1.7%
南足柄・足柄上	1	1	0	6	2	2	5	6	2	2	1	4	32	2.3%
二宮・大磯・平塚	4	5	8	5	10	2	7	4	3	5	3	3	59	4.3%
秦野・伊勢原・厚木・愛甲	12	6	5	11	2	4	7	13	4	1	10	13	88	6.3%
県央・県北	3	5	5	8	9	5	37	11	3	0	5	10	101	7.3%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉・寒川	2	8	4	13	10	5	23	15	2	2	9	3	96	6.9%
横須賀・三浦・逗子・葉山	2	8	2	3	12	5	3	8	1	0	2	0	46	3.3%
横浜	5	12	13	24	19	13	15	14	14	2	9	9	149	10.8%
川崎	1	0	1	7	0	1	4	8	8	3	5	4	42	3.0%
東京都	22	30	28	31	16	29	30	31	4	7	12	17	257	18.5%
千葉県	2	12	6	3	4	15	118	16	0	3	1	2	182	13.1%
静岡県	6	7	11	6	10	5	16	11	7	3	5	10	97	7.0%
山梨県	0	3	1	2	1	4	5	7	0	1	1	0	25	1.8%
埼玉県	0	6	9	9	2	7	11	23	4	1	4	2	78	5.6%
茨城県	1	0	0	0	0	2	4	2	0	0	0	1	10	0.7%
県外その他	0	7	0	3	5	2	3	0	0	1	0	1	22	1.6%
神 奈 川 県 合 計	33	54	45	89	74	47	116	85	43	20	55	54	715	51.6%
全 体 合 計	64	119	100	143	112	111	303	175	58	36	78	87	1,386	100.0%

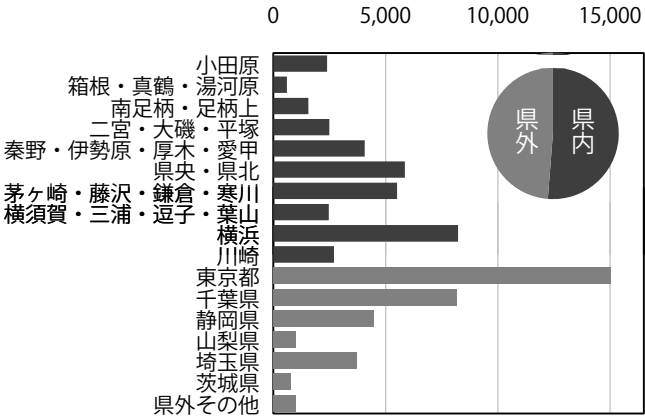
地域別利用状況(人数)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
小田原	46	430	225	179	199	287	367	103	73	148	244	93	2,394	3.4%
箱根・真鶴・湯河原	0	97	0	69	30	42	82	62	19	101	0	101	603	0.9%
南足柄・足柄上	19	29	0	95	105	93	614	281	145	98	35	46	1,560	2.2%
二宮・大磯・平塚	375	323	389	128	246	84	388	221	86	119	70	63	2,492	3.6%
秦野・伊勢原・厚木・愛甲	820	208	324	244	44	160	454	594	206	38	382	595	4,069	5.8%
県央・県北	263	230	108	362	286	558	2,871	713	93	0	75	302	5,861	8.4%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉・寒川	173	523	329	679	410	112	1,584	1,060	98	47	343	150	5,508	7.9%
横須賀・三浦・逗子・葉山	44	513	53	151	511	458	288	303	43	0	97	0	2,461	3.5%
横浜	335	852	1,079	1,936	645	690	827	601	520	25	346	366	8,222	11.7%
川崎	25	0	31	514	0	12	124	224	923	256	357	237	2,703	3.9%
東京都	2,210	2,221	1,566	1,825	941	1,469	1,381	1,986	250	308	286	592	15,035	21.5%
千葉県	15	411	257	127	69	574	5,811	743	0	85	14	71	8,177	11.7%
静岡県	454	302	486	230	439	133	949	658	224	66	180	335	4,456	6.4%
山梨県	0	125	26	52	25	216	224	308	0	15	14	0	1,005	1.4%
埼玉県	0	249	410	294	37	516	548	1,357	72	29	122	59	3,693	5.3%
茨城県	338	0	0	0	0	74	267	56	0	0	0	19	754	1.1%
県外その他	0	447	0	88	131	175	112	0	0	21	0	31	1,005	1.4%
神 奈 川 県 合 計	2,100	3,205	2,538	4,357	2,476	2,496	7,599	4,162	2,206	832	1,949	1,953	35,873	51.2%
全 体 合 計	5,117	6,960	5,283	6,973	4,118	5,653	16,891	9,270	2,752	1,356	2,565	3,060	69,998	100.0%

(地域別団体数)



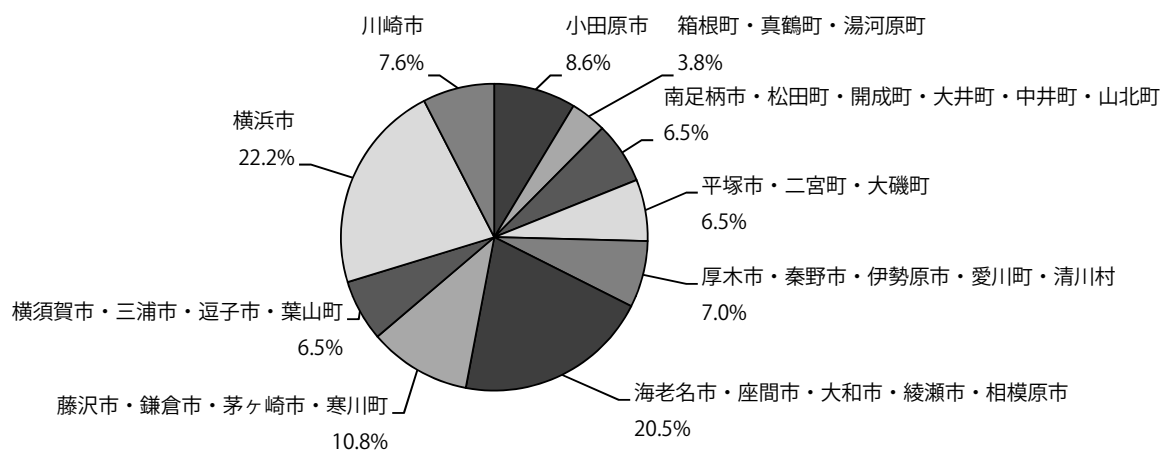
(地域別団体人数)



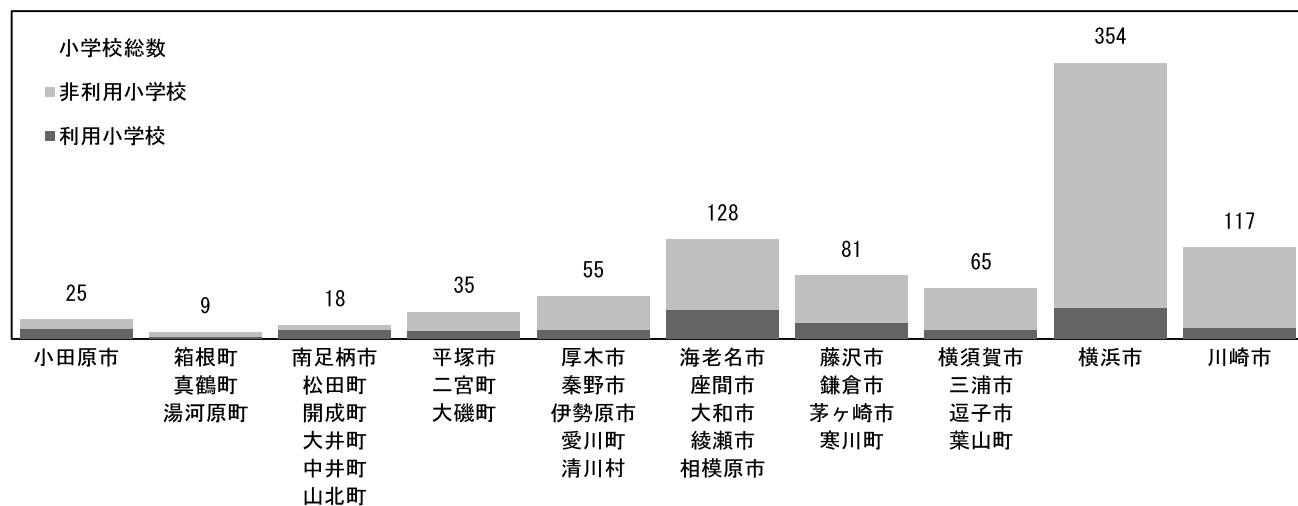
県内地区別学校利用状況

構成市町村	小学校					小学校以外の学校						全校種	
	利用回数	地区別利用率	利用校数	地区内総数	地区内利用率	中学校	高等学校	大学等	特別支援学校	保育園幼稚園	地区別利用率	合計	地区別利用率
小田原市	16	8.6%	13	25	52.0%	2	2	0	2	13	9.0%	35	8.8%
箱根町・真鶴町・湯河原町	7	3.8%	3	9	33.3%	4	0	0	0	3	3.3%	14	3.5%
南足柄市・松田町・開成町・大井町・中井町・山北町	12	6.5%	12	18	66.7%	1	0	0	0	8	4.2%	21	5.3%
平塚市・二宮町・大磯町	12	6.5%	11	35	31.4%	3	1	6	4	11	11.8%	37	9.3%
厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村	13	7.0%	12	55	21.8%	6	2	0	4	22	16.0%	47	11.8%
海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・相模原市	38	20.5%	38	128	29.7%	5	4	0	0	13	10.4%	60	15.1%
藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町	20	10.8%	20	81	24.7%	11	0	12	6	15	20.8%	64	16.1%
横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町	12	6.5%	12	65	18.5%	4	0	0	3	5	5.7%	24	6.0%
横浜市	41	22.2%	40	354	11.3%	10	4	6	2	11	15.6%	74	18.6%
川崎市	14	7.6%	14	117	12.0%	0	0	0	1	6	3.3%	21	5.3%
合計	185	100.0%	175	887	19.7%	46	13	24	22	107	100.0%	397	100.0%
校種別利用率	46.6%					11.6%	3.3%	6.0%	5.5%	27.0%			

県内小学校の地区別利用数の割合

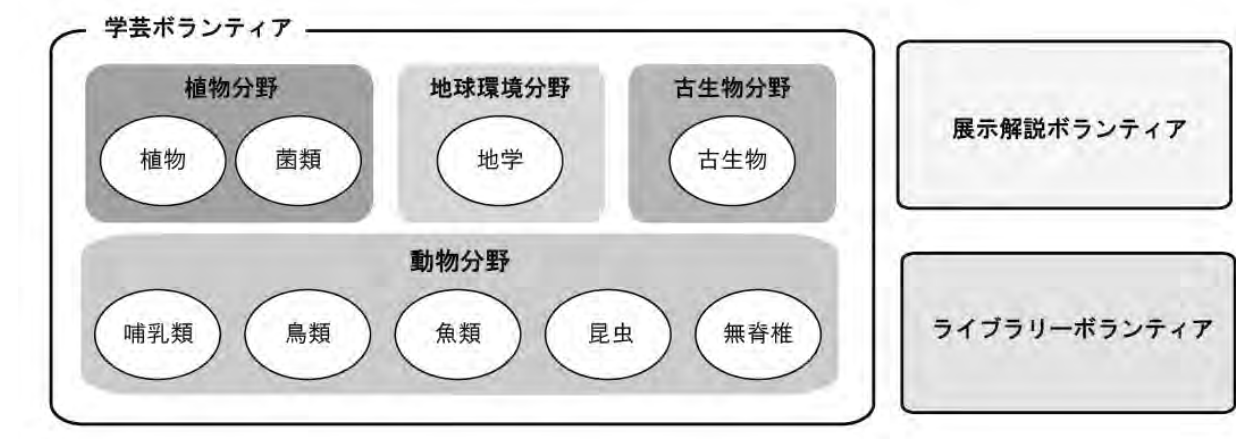


地区別の学校総数に対する利用数の割合



5.6. 博物館のボランティア活動

神奈川県立生命の星・地球博物館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等様々である。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「ライブラリーボランティア」「展示解説ボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専門的な技術

や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. ライブラリーボランティア

様々な専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カ

バー貼り等）や補修等の活動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.3. 展示解説ボランティア

各自の都合の良い日に来館し、得意な展示分野についての案内や解説を行っている（スポット解説）。視覚障がい者の方の誘導や、展示ラベルへの点字シールの製作・貼付などの活動も行う（誘導・案内）。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティア」の登録者から希望を募り2002年度から始まった活動である。2004年度からはボランティア入門講座でも展示解説分野を設置し、講座修了者が活動に加わっている。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は下表のとおりである。

2014年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録数		
	計	男性	女性
実人数 ※	283	133	150
1) 学芸ボランティア	254	117	137
2) ライブラリーボランティア	4	0	4
3) 展示解説ボランティア	48	27	21

左記合計（実人数）のうち、保険加入者227名

※1) ～3) の分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。

2014年度「博物館ボランティア」登録者の内訳及び月別の活動状況

分野			登録数(のべ人数)			活動状況（のべ人数）												
			計	男性	女性	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学芸 ボラン ティア	植物	植 物	32	4	28	462	50	33	7	39	42	46	43	44	31	42	49	36
		菌 類	41	20	21	443	35	40	29	38	29	39	28	24	31	51	39	60
	動物	哺乳類	26	8	18	161	12	12	5	10	15	9	10	24	14	12	13	25
		鳥 類	21	11	10	219	18	13	15	25	9	20	20	18	11	14	24	32
		魚 類	51	26	25	394	20	31	13	51	42	27	45	37	24	32	37	35
		昆 虫	21	15	6	224	25	29	16	17	12	17	19	14	17	12	13	33
		軟体・甲殻類	3	2	1	66	4	7	2	5	6	7	7	5	5	6	4	8
	地球 環境	地 学	37	20	17	577	63	51	40	54	47	35	56	49	32	50	36	64
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		古生物	40	20	20	460	33	27	28	51	42	30	44	40	42	21	54	48
のべ人数		272	126	146	3,006	260	243	155	290	244	230	272	255	207	240	269	341	
ライブラリーボランティア			5	0	5	26	1	3	1	2	0	1	4	2	1	2	9	0
展示解説 ボラン ティア	展示解説		43	26	17	482	50	54	28	49	33	43	38	28	30	38	44	47
	誘導案内		10	4	6	23	0	6	0	0	1	0	9	0	0	0	2	5
	のべ人数			30	23	505	50	60	28	49	34	43	47	28	30	38	46	52

全体のべ活動人数 3,537人・日

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2014年度の実施内容は表のとおりである。

[日時] 2015年2月8日(日)～2月22日(日)までの間の2～4日間(分野別の講座が1～3日間)

[講座定員] 学芸9分野33名、展示解説10名、ライブラリ3名、教育プログラム10名 計56名

[実施分野] 学芸9分野24名、展示解説5名、ライブラリ3名、教育プログラム3名 計35名(のべ人数)

講座日程

共通講座(初日)

実施日	時間	内容
2月8日(日)	10:00～10:30	開会、概要説明、博物館紹介DVD(バックヤード編)視聴
	10:30～11:00	館長講話「自然史博物館について」
	11:00～12:00	展示室見学
	13:00～14:30	バックヤード見学
	14:30～15:00	各分野の紹介・分野別質疑応答
	15:00	終了(分野別に随時解散)

分野別実習(2月11日～23日の1～3日間)

分野	実施日	実習内容	定員	受入	受講	登録
植物	18、20日	標本製作・配架	5	5	5	3
植物デジタル資料	19日	パソコンやスキャナ、デジタルカメラ等による、植物標本のデジタル資料作成	2	1	1	1
菌類	10、17日	野外調査、標本作製・整理、資料整理等	5	1	1	1
魚類	21日	標本整理	3	3	2	2
昆虫	14又は15日	標本製作・整理等	4	3	3	3
無脊椎動物 (貝・カニ)	15日	乾燥標本・液浸標本の整理・登録	4	3	2	2
古生物 (古脊椎動物・微化石)	17日	標本製作・整理等	3	7	7	7
古生物 (貝化石等)	10、15、22日	標本整理実習・講座補助	4	2	2	2
古生物文献	11日	文献整理・入力作業	3	2	1	1
ライブラリー	13又は17又は22日	図書の整理、装備、補修、書誌データ入力等	3	3	3	3
展示解説	11、22日、及びその間の1日	展示室研修、調べもの実習、展示解説実習	10	3	5 ※	5 ※
博物館教育 プログラム	14又は21日	子ども向け当日参加型ワークショップ(よろずスタジオ)の補助	10	3	3	3
		合計	56	36	32	33

※博物館教育プログラムの3名が受講・登録。

共通講座(最終日)

実施日	時間	内容
2月22日(日)	13:30～14:00	学芸員からの活動成果紹介(学芸員 笠間友博)
	14:00～14:30	現在のボランティアからの体験談(菌類分野から南さん、展示解説分野から永井さん)
	14:30～15:00	登録に関する事務連絡
	15:00	解散

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2014年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

主な広報として、特別展・観察会・講演会など1年間の各種催し物を告知するため「催物案内」、特別展・企画展開催に合わせポスターとチラシ、「子ども自然科学ひろば」のチラシ等を下記の表のとおり作成・配布した。

ポスター・チラシ作成状況

月	印刷物名	仕様(規格、印刷、色数)	印刷部数	主な配布先	配布件数
6	特別展 「どうする?どうなる!外来生物 とりもどそう私たちの原風景」ポスター	①B1判、館内簡易印刷 ②B1判(小田急帯付)、館内簡易印刷 ③B2判、オフセット印刷、4色刷り ④B3判、オフセット印刷、4色刷り	①10 ②40 ③1,200 ④900	①K ②H ②C,D,E,F ④A,I	4,952
	特別展 「どうする?どうなる!外来生物 とりもどそう私たちの原風景」チラシ	A4判、オフセット印刷、 表面4色・裏面1色刷り	70,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I,J	
	特別展 「どうする?どうなる!外来生物 とりもどそう私たちの原風景」ポストカード	A6判、オフセット印刷、 表面4色・裏面1色刷り	10,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I	
	「子ども自然科学ひろば2014年夏 (小学生用、中学生用)」チラシ	①小学生用A3判、②中学生用A3判、 館内簡易印刷、片面1色刷り(2種)	①1,300 ②700	I	73
9	「子ども自然科学ひろば2014年秋」チラシ	A3判、館内簡易印刷、片面1色刷り	1,500	I	73
11	企画展「恐竜の玉手箱」ポスター	①B1判、館内簡易印刷 ②B1判(小田急帯付)、館内簡易印刷 ③B2判、オフセット印刷、4色刷り	①10 ②40 ③2,530	①K ②H ③A,C,D,E,F,J,K	3,207
	企画展「恐竜の玉手箱」チラシ	A4判、オフセット印刷、 表面4色・裏面1色刷り	27,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I,J	
12	「子ども自然科学ひろば2014~2015年冬」 チラシ	A3判、館内簡易印刷、片面1色刷り	1,500	I	73
1	「ミューズ・フェスタ2015」チラシ	A4判、オフセット印刷、片面4色刷り	32,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I,J	2,090
2	「催物案内」	①A4判、両面1色刷り、 オフセット印刷 ②A4判、両面1色刷り、 オフセット印刷	①37,000 ②40,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I	3,206
3	「子ども自然科学ひろば2015年春 (小学生用)」チラシ	A4判、館内簡易印刷、両面1色刷り	2,200	I	50

主な配布先の凡例。

A: 県内小・中・高校等； B: 県外(東京・静岡)小・中・高校等； C: 県内図書館； D: 県内公民館・地区センター； E: 博物館園；
F: 県市町村情報提供窓口； G: マスメディア； H: 小田急電鉄、箱根登山鉄道； I: 足柄上・下地区公立小・中学校；
J: 郵便局； K: コンビニエンスストア、百貨店、大手スーパーマーケット



特別展
「どうする?どうなる!外来生物
とりもどそう私たちの原風景」
チラシ(表面)

企画展
「恐竜の玉手箱」
チラシ(表面)



5.7.2. マスメディア等への情報提供

博物館の行う各種催し物の案内は、地元の小田原記者クラブへ定期的に提供している。また、当館は観光地箱根・小田原エリアにあるため、旅行情報誌やアミューズメント情報誌などに無償で施設紹介されており、非常に恵まれた環境にある。これら情報誌とは定期的に情報の更新を行っている。

特別展や企画展といった企画展示の話題は、マスメディアで取り上げられる率が高いため、小田原記者クラブ以外にケーブルテレビ、コミュニティFM局、タウン誌など中小のメディア向けにも内覧案内を含めた情報提

供する一方、開館20周年記念のミューズ・フェスタについては、歴史博物館と共同で記者発表を実施するなど様々なかたちで広報展開を図った。

この1年間の紹介記事件数は、確認したものだけでも212件あった。その内訳は、新聞68件、雑誌・図書類24件、広報紙・情報紙64件、テレビ8件、ラジオ11件、ウェブサイト等インターネット24件、その他13件である。これは掲載社からの連絡に基づくもので、実際の記事件数はこの数倍にのぼると思われる。特に、ウェブサイトでの掲載頻度に関しては未知数である。

5.7.3. 他施設での広報活動

サマーキッズイベント

[場所] ラスカ平塚（平塚市）

[期間] 8月1日（土）～31日（日）

[内容] ワークショップ開催及び広報物による広報

①ワークショップ開催

- ・折り紙ひろば（8月30日）
- ・アンモナイトのレプリカづくり（8月31日）

②広報物の配布（8月1日～31日）

[担当]

片野美知子・木村恭子・井上茂樹・大坪奏・田口公則・川井容子

市役所ロビーミニ展示

[場所] 小田原市役所

[期間]

①10月21日（火）～31日（金）

②12月1日（月）～25日（木）

[内容]

①岩石・鉱物の展示、博物館及び箱根ジオパークの紹介

②企画展関連ミニ展示

[担当]

川井容子・山下浩之・田口公則・大島光春

小田原駅での企画展広報

[場所] 小田急小田原駅

[期間] 1月21日（水）～2月20日（金）

[内容] チェンソーアート恐竜像展示による企画展広報

[担当] 川井容子

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」44号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川県自然誌資料」第36号を刊行した。本誌は国内の主な研究機関（一部海外を含む）、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年2回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容をホームページ<<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>>で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」19号（2013年度）を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 研究報告

〔号数〕 44号

〔発行日〕 2015年2月28日

〔発行数〕 1,000部

〔編集担当〕 大西 亘・渡辺恭平

〔内容〕

地球科学

原著論文

山下浩之・笠間友博：神奈川県湯河原町に産する通称“白丁場石”の岩石学的特徴

報告

柴田健一郎・根本 卓・大島光春・平田大二・高橋直樹・森 慎一・堀田桃子・三森亮介・野田智佳代・岩瀬成知・馬場千尋・満澤巨彦・藤岡換太郎・KO-OHO-Oの会メンバー：三浦海底谷と東京海底谷の海底地形・地質および生物の目視観察：NT10-15次航海Leg 3ハイパードルフィン潜航調査報告

植物学

原著論文

田中徳久・勝山輝男・大西 亘：フランシェとサヴァチェが記載した神奈川県産シダ植物と単子葉植物の基準標本
矢野倫子・矢野清志・山本幸憲・折原貴道：富士山静岡県域の変形菌

動物学

原著論文

三井翔太・瀬能 宏：アシロ目魚類の2稀種，オオソコイタチウオとクロヨロイタチウオの再記載
渡辺恭平：マイマイガの天敵寄生蜂，マイマイガチビアメバチ（新称）*Phobocampe lymantriae* Gupta, 1983とベレックチビアメバチ（新称）*Hyposoter vierecki* Townes, Momoi & Townes, 1965（ヒメバチ科：チビアメバチ亜科）の本州からの新記録

渡辺恭平・伊藤誠人：ウスタビガ（チョウ目，ヤマモユガ科）の寄生蜂，ウスタビガフシヒメバチ（新称）*Gregopimpla ussuriensis* Kasparyan & Khalaim, 2007（ハチ目，ヒメバチ科，ヒラタヒメバチ亜科）の日本からの発見

河野太祐・渡辺恭平：キマダラツチスガリとナガセツチスガリ（ハチ目，アナバチ科，フシダカバチ亜科）の奄美大島からの再発見

資料

渡辺恭平・甲斐達也・福富宏和・沼田紀義・松原豊・苅部治紀：山登明彦コレクションの甲虫目録（テントウムシ科，テントウダマシ科，アカハネムシ科，タマムシ科）

6.1.2. 神奈川自然誌資料

〔号数〕 36号

〔発行日〕 2015年2月28日

〔発行部数〕 700部

〔編集担当〕 田口公則・渡辺恭平

〔編集委員会〕 勝山輝男、秋山幸也、山本真土

〔内容〕

中島淳志・折原貴道：ミカン果実上のアジア新産種 *Talaromyce scecidicola* およびその基質依存的な

シンネマの形態変化

瀬戸良久・武市早苗・中嶋克行：実生ヒガンバナ2例における成長と初花の形態学的観察

田中徳久・大西 亘・勝山輝男：サヴァチェが採集した植物標本に残る神奈川県の絶滅植物

磯辺山河・齋藤央嗣・逢沢峰昭：神奈川県丹沢山塊のヒメコマツの個体群構造と更新状況の過去10年間の変化

柚原 剛・田中正敦・阿部絢香・海上智央・多留聖典：多摩川河口の塩性湿地に生息する表在性ベントス相植田育男・荒 功一：江の島の海岸におけるミドリイガイの生息状況と理化学的条件
倉持敦子・倉持卓司：野外で観察されたブドウガイ（軟体動物門：腹足綱：頭楯目：ブドウガイ科）のフローティング行動
北野 忠・寺田一美：金目川で採集された神奈川県初記録のザラテテナガエビ
丸山智朗：三浦半島におけるオニヌマエビ（節足動物門；十脚目；ヌマエビ科）とコンジテンナガエビ（テナガエビ科）の記録
丸山智朗：伊豆半島河津川におけるイッテンコテナガエビ（節足動物門：十脚目：テナガエビ科）の初記録

齋藤暢宏・長岡賢治：座間市郊外の水田から採集されたカイエビ類（甲殻亜門：鰓脚綱）について
先崎 優・芳村 工・原田 洋：横浜市立金沢自然公園内のハナダカダンゴムシとオカダンゴムシの分布
佐野真吾：神奈川県初記録のヒコサンセスジゲンゴロウ
崎山直夫・瀬能 宏：相模湾初記録となるアブラガレイ（カレイ目カレイ科）について
山川宇宙・瀬能 宏：神奈川県内の河川におけるカワアナゴ属魚類の分布
小嶋紀行：横浜市南部における外来種ガビチョウの分布
高橋遼平・本郷一美：二子山山系で捕獲されたイノシシのDNA解析

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら20巻 2号通巻77号

〔発行日〕 2014年6月15日
〔編集担当〕大島光春
〔内容〕
大西 亘：表紙「日本にもあるよ！大きな板根 ホルトノキ」
佐藤武宏：「名倉コレクションーある貝類愛好家と貝類を取り巻く人びととの交流の証ー」
渡辺恭平：「タマムシをさがしてみよう！」
加藤ゆき：特別展コラム「外来生物ってなんだろう」
新山直子：ライブラリー通信「全国博物館縦断！図録の旅」
松本涼子：「日本初記録の絶滅した淡水生爬虫類（コリストデラ類）の化石」

自然科学のとびら20巻 3号通巻78号

〔発行日〕 2014年12月15日
〔編集担当〕大島光春
〔内容〕
笠間友博：表紙「箱根火山最大級の噴火の痕跡」
大島光春：「アメリカ西部の自然系博物館を訪ねて」
苅部治紀：「消えたアカトンボ」
小林瑞穂：ライブラリー通信「司書のお仕事 修理編」
石浜佐栄子：「自然史資料としての地層剥ぎ取り標本」
田中徳久：「ケンペルが採集した植物標本」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

〔号数〕 19号
〔発行日〕 2014年11月21日
〔発行部数〕 500部
〔編集担当〕星野 進・笠間友博・山下浩之

〔内容〕
沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6.2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	167
地球SOS	500	16
絶滅した生物	500	19
貝からの伝言	500	21
櫻井コレクションの魅力	400	9
日本の魚学・水産学事始め	1,000	32
オオカミとその仲間たち	1,100	24
カニの姿	1,200	15
フットのひとりごと	400	6

刊行物名	単価	販売部数
展示案内 生命あふれる不思議な星	420	0
化石どうぶつ園	1,100	16
神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006	2,000	22
読みもの ナウマンゾウがいた！	800	10
樹洞	1,000	14
日本列島20億年 その生き立ちを探る	1,000	48
水生昆虫大百科	1,000	47
大空の覇者 トンボ	1,200	86
益田一と日本の魚類学	1,400	425
どうなる？どうする！外来生物	1,000	584
計		1,033

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、当博物館が目指す以下のような新しい博物館を支えるシステムとして整備されることとなった。

- ・高度情報化における自然・文化の情報センター
- ・映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- ・他の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

上記の3システムは、1995年度より稼動している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」の2つのサブシステムにより構成され、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援する。

なお、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせに対しては、当初、別のサブシステムが計画されていたが、現在はインターネットの普及により博物館のホームページをもって代替運用している。

当システムは当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2010年度および2011年度の機器更新では、最新のOSとセキュリティ対策ソフトにより安全で快適なシステムが構築されている。2015年3月31日現在の、博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ディスク容量		
CPUルーム	収蔵管理サーバ	富士通PRIMERGY RX300 S6	16GB	1	収蔵資料管理システム (管理部)
		RedHat Linux ES5.5	450GB×4 (RAID5)		
	収蔵管理サーバ	富士通PRIMERGY RX300 S6	16GB	1	収蔵資料管理システム (データ部)
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
	展示情報サーバ	富士通PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	展示情報システムの管理
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
	WEBサーバ	富士通PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	ホームページの管理
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
	Mailサーバ	富士通PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	メール情報の管理
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
ミュージアム ライブラリー	Updateサーバ	富士通PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	Windows Updateの管理
		Windows Server 2008 R2 Enterprise	146GB×2 (RAID1)		
	職員用端末	富士通ESPRIMO D550/B	2GB	1	
		Windows 7 Professional	160GB		
	来館者用端末	富士通ESPRIMO D530/A	富士通ESPRIMO D530/A	4	展示情報システムの閲覧など
		Windows 7 Professional	Windows 7 Professional		
研究室・ バックヤード	職員用端末	富士通ESPRIMO D530/A 他	富士通ESPRIMO D530/A 他	3	
		Windows 7 Professional 他	Windows 7 Professional 他		
	研究用WS	富士通CELSIUS W480 他	富士通CELSIUS W480 他	2	衛星画像処理や分布図の作成 など
		Windows 7 Professional 他	Windows 7 Professional 他		
	画像入力用	富士通CELSIUS W510	富士通CELSIUS W510	1	
		Windows 7 Professional	Windows 7 Professional		
	職員用端末	富士通ESPRIMO D530/A 他	富士通ESPRIMO D530/A 他	40	
		Windows 7 Professional 他	Windows 7 Professional 他		

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

収蔵資料管理システムでは、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料情報を、サーバと呼ばれるコンピュータで一元管理するとともに、資料の画像情報の管理も行う。このサブシステムは博物館情報システムの中核となるシステムであり、資料の受入からラベル等の印刷やダウンロードまでをカバーできる。

当サブシステムは、『神奈川県植物誌1988』および『神奈川県植物誌2001』の証拠標本を含む『維管束植物データベース』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真を属性情報とともにデータベース化した『魚類写真資料データベース』など、約30のデータベースから構成され、館外資料の情報を格納するデータベースも準備されている。2003年度より、書籍(図書・雑誌)についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。その登録状況を右表に示した。

またこれらの情報は、研究への利用はもちろん、一部ではあるがミュージアムライブラリーやホームページで公開されている。なお、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

収蔵資料管理システムの登録実績

分野	2013年度までの登録数	2014年度の登録数	計
哺乳類	4,495	207	4,702
鳥類	2,564	30	2,594
魚類	36,031	2,013	38,044
魚類写真	137,989	8,480	146,469
昆虫	29,028	8,846	37,874
軟体動物	22,030	700	22,730
甲殻類	14,250	3,190	17,440
甲殻類細密画	475	15	490
両生・爬虫類	785	101	886
動物その他	66	31	97
維管束植物	255,614	14,643	270,257
コケ	9,366	1	9,367
菌類・地衣類	24,083	1,677	25,760
藻類	4,336	0	4,336
植物その他	254	0	254
植生	175	89	264
植物標本	183	948	1,131
化石	12,676	481	13,157
岩石	6,376	205	6,581
鉱物	19,396	2,512	21,908
地質・ボーリング	2	0	2
はぎ取り	0	11	11
地学その他	0	17	17
衛星画像	998	55	1,053
衛星処理画像	153	1	154
景観画像	2,461	115	2,576
合計	583,786	44,368	628,154
図書	21,474	1,939	23,413
雑誌	3,439	77	3,516
合計	24,913	2,016	26,929

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供してい

る。2014年度は神奈川の自然に哺乳類のメニューを新規追加した。この他に、神奈川県立歴史博物館が作成・提供している「画像で見る歴史と文化」、「収蔵品コレクション」も閲覧が可能。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969種の画像や解説文を提供する。
	チョウ	神奈川に生息するチョウ、110種の画像や解説文を提供する。
	トンボ	神奈川に生息するトンボ、89種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,013点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を770枚、うち学芸員のおすすめ写真を63枚解説と共に提供する。
	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類18種の画像や解説文、骨の画像を357枚提供する。
酒井コレクション細密画		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660種の画像を提供する。
日本で見られる恐竜		国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書23,104冊、雑誌3,440タイトルが検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1. ホームページ

小田原市と共同で1995年10月より開設していたWebサイト（ホームページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようホームページのデザインを大幅に改良した。ホームページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997年度以降のアクセス実績に関しては、資料の項（96ページ）に掲載した。

月別 Web トップページカウント数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
件数	32,309	32,089	30,744	39,962	58,221	33,407	31,227	30,044	23,960	29,266	29,705	38,477	409,411	34,118

7.3.2. 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年より運用している。近年では毎年約5,000件の画像資料を追加している。

2004年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（画像ダウンロード数は含まない）に関しては、資料の項（96ページ）に掲載した。

連携して情報を公開している Web ページ

タイトル（HPアドレス）	概 要	年間アクセス件数
魚類写真資料データベース http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類94,195件の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	2,082,764件
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類86,785件の画像を提供している。	2,755,006件

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的に関わり情報を提供している Web サイトについて表にまとめた。

博物館の情報を公開している Web ページ

タイトル（HPアドレス）	概 要	提供件数
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大地・地球地学紀行、 増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。	約2,500件

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF（Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構）とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数はGBIF全体では2014年4月現在4億3千万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net（サイエンスミュージアムネット）として国立科学博物館経由でGBIFに提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006年度より、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携をはかり、自然史標本情報の整備を行うなどを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2013年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全4館、全体で73,500件の自然史標本情報の提供を行った。

2014年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館

大磯町郷土資料館
相模原市立博物館
真鶴町立遠藤貝類博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの2014年度標本情報提供数

コレクション名 提供件数
維管束植物・藻類・蘚苔類標本 25,000件
魚類標本 12,000件
甲殻類・軟体動物標本 3,000件
昆虫標本 10,000件
哺乳類標本 200件
鳥類標本 200件
菌類標本（変形菌標本を含む） 10,000件
合計 60,400件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「生命の星・地球博物館友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に1996年度に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、ミューズフェス2015（17ページ参照）に参加したり、博物館との共催でサロン・ド・小田原（6回、81ページ参照）を行った。

事務局

1. 総会を2014年4月13日（日）に行った。
2. 役員会 6回実施し、以下の事項を検討し、実施した。
 - 1) 友の会運営について
 - 2) 会員への発送作業等について
 - 3) 総会及びイベントについて
 - 4) ミューズフェスタ2015について

広報部

1. 会報「友の会通信」を4回（通巻84～87号）発行
2. 友の会HP、ブログの管理および運営
3. 友の会年間行事一覧表作成・配布
4. 友の会活動に関わる情報の保存・管理
5. ツイッター（@kpmtomo）による情報提供
6. 「自然科学のとびら・友の会版」発行2回（通巻77・78号）

企画部

友の会が主催する観察会や講座を企画し、それらが円滑に実施できるように博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ33講座（中止の9講座を除く）、1969名が参加した。（別表のとおり）

観察会・講座等

行事名	開催日	開催場所	対象	講師	所属	定員	参加者数
総会イベント 新人学芸員集合！ 『どうやって学芸員になったの？』	4/13(日)	SEISAミュージアムシアター	子どもから大人まで	渡辺・松本	当館学芸員	無し	36
よろずスタジオ 「菌のふしぎ～化石からわかること」	4/20(日)	講義室東側	子どもから大人まで	大島	当館学芸員	無し	78
植物観察会「箱根駒ヶ岳」	5/7(水)	箱根町駒ヶ岳	大人	勝山	当館学芸員	25	42
よろずスタジオ 「クジラと人間は仲間？」	5/18(日)	講義室東側	子どもから大人まで	広谷	当館学芸員	無し	45
第110回サロン・ド・小田原「自然界のエイリアン寄生バチの驚くべき世界」	5/24(土)	講義室・レストランフォーレ	子どもから大人まで	渡辺	当館学芸員	無し	48
「地話懇話会」～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合しましょう～	5/28(水)	講義室または巡検地	大人	山下	当館学芸員	無し	26
「河原の石シリーズPART2」 ～酒匂川水系の段丘礫を観察する～	6/7(土)	南足柄市・山北町	大人	田口・山下	当館学芸員	30	中止
樹木観察基礎講座 「ブナ科の自然誌」	6/14(土)	実習実験室	子どもから大人まで	八田洋章	国立科学博物館	30	16
第111回サロン・ド・小田原 「身近な水辺に棲む魚たちの保全」	6/14(土)	講義室・レストランフォーレ	子どもから大人まで	宮崎佑介	日本学術振興会	無し	48
よろずスタジオ 「葉っぱの葉脈標本作りに挑戦しよう！」	6/15(日)	実習実験室	〔オープン〕どなたでも	よろず植物担当	当館友の会	無し	69
植物観察会 「谷川岳天神平のナエバキスミレを訪ねて」	6/18(水)	群馬県みなかみ町	大人	勝山	当館学芸員	25	中止
「土の中の虫ウォッチング」 ～ミミズのはたらきと土の中の仲間～	7/5(土)	博物館周辺と実習実験室	子どもから大人まで	皆越ようせい	土壌動物写真家	25	26
「変形菌を観察してみよう」	7/21(月)	博物館周辺と実習実験室	子どもから大人まで	萩原博光	国立科学博物館	25	20
「地話懇話会」～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合しましょう～	7/23(水)	講義室または巡検地	大人	鈴木進	神奈川地学会	無し	21

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

「箱根火山の火山灰を調べてみよう」	8/1(金)	実習実験室	子どもから大人まで	笠間	当館学芸員	無し	290
「いろいろ体験」	8/10(日)	実習実験室	子どもから大人まで	小田部家邦	プランクトン研究家	無し	32
長野県の中央構造線巡検	9/3(水) ～4(木)	長野県大鹿村周辺	大人	河本和朗	中央構造線博物館	30	31
第112回サロン・ド・小田原「西へ東へ！カナダガン追っかけ10年間の記録」	9/6(土)	講義室・レストランフォーレ	〔オープン〕どなたでも	加藤	当館学芸員	無し	70
植物観察会「戸隠高原の植物」	9/16(火) ～17(水)	長野県戸隠	大人	勝山	当館学芸員	25	30
よろずスタジオ「キノコの中身を見てみよう」	9/21(日)	講義室東側	子どもから大人まで	菌学勉強会	当館友の会	無し	88
樹木観察基礎講座「マツ科の自然誌」	10/11(土)	実習実験室	子どもから大人まで	八田洋章	国立科学博物館	30	13
第113回サロン・ド・小田原「たかがタネ、されどタネー種子散布の世界」	10/18(土)	講義室・レストランフォーレ	子どもから大人まで	野田啓司	海老名中学校	無し	61
よろずスタジオ「貝のからだを知ろう」	10/19(日)	講義室東側	子どもから大人まで	佐藤	当館学芸員	無し	60
植物観察会「真鶴半島の磯浜と魚付き林を歩く」	10/19(日)	真鶴半島	子どもから大人まで	勝山	当館学芸員	25	24
「地話懇話会」～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合しましょう～	10/22(水)	講義室または巡検地	大人	高須賀俊文	東京学芸大学	無し	23
昆虫の細密画を描こう(連続2回講座)	10/26(日)	実習実験室	大人	川島逸郎	昆虫細密画家	10	中止
昆虫の細密画を描こう(連続2回講座)	11/2(日)	実習実験室	大人	川島逸郎	昆虫細密画家	10	中止
親子植物観察会「秋を探そう」	11/9(日)	博物館周辺	子どもから大人まで	植物グループ	当館友の会	無し	中止
よろずスタジオ「ドングリであそぼう」	11/23(日)	講義室東側	子どもから大人まで	よろず植物担当	当館友の会	無し	91
西丹沢の深成岩、および変成岩帯観察会	11/29(土)	山北町中川流域	大人	蛭子・山下	友の会・当館学芸員	30	中止
第114回サロン・ド・小田原「現生動物を使ったハ虫類の復元」	12/6(土)	講義室・レストランフォーレ	子どもから大人まで	松本	当館学芸員	無し	40
植物スケッチ教室Ⅱ	12/7(日)	実習実験室	子どもから大人まで	山田英子	当館友の会	15	中止
よろずスタジオ「魚をよく見てみよう」	12/21(日)	講義室東側	子どもから大人まで	瀬能	当館学芸員	無し	145
よろずスタジオ「砂とあそぼう」	1/18(日)	講義室東側	子どもから大人まで	石浜	当館学芸員	無し	206
「地話懇話会」～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合しましょう～	1/28(水)	講義室または巡検地	大人	山下	当館学芸員	無し	20
地図を楽しもう	1/31(土)	博物館とその周辺	子どもから大人まで	新井田	当館学芸員	20	11
第115回サロン・ド・小田原「恐竜の玉手箱をたのしむ」	2/7(土)	講義室・レストランフォーレ	子どもから大人まで	大島・田口	当館学芸員	無し	88
よろずスタジオ「アンモナイトのレプリカをつくろう」	2/15(日)	講義室東側	子どもから大人まで	田口	当館学芸員	無し	151
三浦半島南部の新时期層観察会	2/21(土)	三浦半島 劔崎周辺	子どもから大人まで	笠間	当館学芸員	30	20
植物観察会「早春のロゼット観察会」	3/7(土)	秦野市弘法山周辺	子どもから大人まで	勝山	当館学芸員	25	中止
ミュージ・フェスタ 2015	3/14(土) 15(日)	シアター・特展室・講義室	子どもから大人まで			無し	
「地話懇話会」～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合しましょう～	3/25(水)	講義室または巡検地	大人	山下	当館学芸員	無し	中止

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、博物館友の会との共催による講演・交流会からなる集いのひとつ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部：講演（話題提供）と第2部：交流会を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流の場となるよう企画している。

第110回サロン・ド・小田原『自然界の“エイリアン”、寄生バチの驚くべき世界』

〔開催日〕 2014年5月24日（土曜日）
〔会 場〕 第1部講義室、第2部レストラン・フォーレ
〔話題提供〕 渡辺恭平（当館学芸員）
〔交流会〕 西表島調査紹介スライドショーほか
〔参加者数〕 第1部講演34名、第2部交流会14名

〔会 場〕 プレワークショップ・第1部講義室、第2部レストラン・フォーレ

〔話題提供〕 野田啓司氏（海老名市立海老名中学校教諭）

〔プレ・ワークショップ〕 ほんものタネ図鑑づくり

〔交流会〕 飛ぶタネの動画解説、柿の種の数カウントほか

〔参加者数〕 プレ・ワークショップ17名、第1部講演28名、第2部交流会16名

第111回サロン・ド・小田原『身近な水辺に棲む魚たちの保全』

〔開催日〕 2014年6月14日（土曜日）
〔会 場〕 第1部講義室、第2部レストラン・フォーレ
〔話題提供〕 宮崎佑介氏（日本学術振興会特別研究員PD）
〔参加者数〕 第1部講演27名、第2部交流会11名

第114回サロン・ド・小田原『現生動物を使った絶滅ハ虫類の復元』参加報告

〔開催日〕 2014年12月6日（土曜日）
〔会 場〕 第1部講義室、第2部レストラン・フォーレ
〔話題提供〕 松本涼子（当館学芸員）
〔交流会〕 オーストラリアの博物館スライドショーほか
〔参加者数〕 第1部講演会24名、第2部交流会16名

第112回サロン・ド・小田原『西へ東へ！カナダガン追っかけ10年間の記録』

〔開催日〕 2014年9月6日（土曜日）
〔会 場〕 第1部講義室、第2部レストラン・フォーレ
〔話題提供〕 加藤ゆき（当館学芸員）
〔交流会〕 参加者からの話題提供やチキン部位の解説など
〔参加者数〕 第1部講演43名、第2部交流会27名

第115回サロン・ド・小田原『“恐竜の玉手箱”をたのしむ』

〔開催日〕 2015年2月7日（土曜日）
〔会 場〕 第1部講義室・特別展示室、第2部レストラン・フォーレ
〔話題提供〕 大島光春、田口公則（当館学芸員）
〔交流会〕 アメリカの博物館スライドショーほか
〔参加者数〕 第1部講演・展示見学56名、第2部交流会32名



第112回サロン・ド・小田原



第113回サロン・ド・小田原



第115回サロン・ド・小田原

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会（WESKAMS）

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は56施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMS を略して「WESKAMS（ウエスカムズ）」と名付け、その事務局を当館にしている。

WESKAMS の目的を達成させるための事業について、協議・検討する場として「館園長・協力会員会議」を年2回開催している。

また、WESKAMS に加盟する、ミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
7/9(水)	館園長・協力会員会議（第37回） 第200走記念祝賀会を併せて実施	箱根ガラスの森美術館	24館園31名 協力会員4名
2/27(金)	館園長・協力会員会議（第38回）	生命の星・地球博物館	20館園24名 協力会員3名

ミュージアムリレー

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第199走 平成26年4月25日（金） ①箱根駅伝ミュージアム ②箱根町立箱根関所	①箱根駅伝の発祥エピソードから現在に至るまでの歴史を、膨大なデータ解析をベースに解説。参加者が少なかったが、質疑応答が活発に飛び交うリレーとなった。 ②参加予定者1名のキャンセルにより中止。広報期間が少ない4月のリレーについて、施設要件を考慮した組み合わせなどの対応が必要。	1名		2名
第200走 平成26年5月16日（金） ①箱根美術館 ②箱根写真美術館 ③箱根強羅公園	①200走記念および国際博物館の日記念事業として、「日光殿」で、生命の星・地球博物館名誉館長による地震に関する講演、箱根美術館総務次長によるセミナーを実施。その後、通常非公開の庭園や茶室を、解説を聞きながら観覧。 ②副館長挨拶の後、1Fの日本で「親子」を撮り続けるブルース・オズボーンの作品展示、2Fの富士山写真の展示を自由に観覧。 ③園長挨拶後、熱帯植物館、ブーゲンビリア館などの温室、日本庭園の茶室、洋風庭園の噴水を観覧。	34名		19名
第201走 平成26年6月13日（金） ①神奈川県立恩賜箱根公園 ②芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	①湖畔展望館2階で公園の概要や箱根離宮下賜の経緯や歴史について解説。その後、1階の展示室、野外の展望台、二百階段、「白鳥の池広場」などを観覧。 ②園内の温室を解説を受けながら観覧後、周辺の史跡をハイキング路に沿って二時間ほどかけて散策。好評で、最後まで活発な質問が飛んでいた。	13名		7名
第202走 平成26年7月9日（水） ①箱根ガラスの森美術館	①一般参加者と関係者の3グループに分けて、特別企画展を解説により見学。大涌谷も見え暑すぎるほどの良い天気となった。	31名		8名
第203走 平成26年7月11日（金） ①すどう美術館 ②松田山ハーブガーデン	①「すどう美術館の活動について」の講話後、開催中の「大木みどり展」の作者を囲んで、作品へ込められた思いなどお聞きした。 ②園長の挨拶後、ハーブ園でハーブの名前や効用などのスタッフの説明を聞き園内を散策。その後工房に戻り、卵の殻を使ったクラフト作りを楽しんだ。	3名		4名
第204走 平成26年8月29日（金） ①箱根町立箱根湿生花園 ②箱根ビジターセンター	①2班に分け、見頃の花、湿原区の管理方法、生育する植物などを職員の解説により見学。その後、開催中の企画展「世界の食虫植物展」の解説を受けた。 ②標本についての説明後、センター周辺の野外で植物や昆虫を採集。室内で、植物標本を各自1つ以上作製。小学生の参加もあった。	17名		4名
第205走 平成26年9月25日（木） ①真鶴アートミュージアム ②真鶴町立中川一政美術館 ③真鶴町立遠藤貝類博物館	①企画展は、各地で開いて展覧会に出品している展示物を集めた「出張美術館展」。さまざまな種類の焼き物について、館主の解説を受けた。 ②美術館の概要説明後、各展示室の案内を受け観覧。企画展は、「中川一政の苦悩～戦前から福浦時代初期へ～」として、初期作品から絶筆の作品までを四期に区切り1年間かけて展示。 ③相模湾の生物相についての映像による解説後、企画展、常設展を案内により観覧。	18名		4名
		17名		5名
		14名		6名

（次ページへ続く）

(前ページより)

第206走 平成26年10月24日（金） ①箱根町立郷土資料館 ②小田原文学館 ③小田原城	①強羅公園、恩賜箱根公園、神仙郷が2013年に国登録記念物の指定を受けたことを記念した企画展「近代箱根の名園」を学芸員の解説により観覧。	11名		5名
	②2グループに分かれ、小田原に住んだ文学者やゆかりのある文学者の作品や原稿、生涯などを学芸員の解説により観覧。その後北原白秋童謡館を見学。	14名		5名
	③小田原城の概要、展示室のビデオ視聴、北条氏5代などの常設展示、特別展「いにしへの小田原～遺跡から見た東西文化の交流」を館長の解説により観覧。	18名		6名
第207走 平成26年11月7日（金） ①彫刻の森美術館 ②ポーラ美術館	①「[保井智貴 佇む空気/silence]」を学芸員の解説により観覧。その後ピカソ館に移動し、展示替えされた後の展示の一部を解説により見学。	17名		3名
	②「紙片の宇宙 シャガール、マティス、ミロ、ダリの挿絵本」を画像により20分ほど解説。その後、展示室を自由に観覧。	70名		5名
第208走 平成26年12月5日（金） ①箱根ラリック美術館 ②星の王子さまミュージアム 箱根サン＝テグジュペリ	①3グループに分かれ、学芸員の解説により館内を観覧。企画展示「花咲くラリックと金唐紙」が好評だった。	40名		6名
	②エントランスでのスタッフによる建物紹介の後、室内展示のサン・テグジュペリの生涯などについて解説。その後自由観覧。	12名		8名
第209走 平成27年1月23日（金） ①湯河原町立美術館 ②人間国宝美術館	①企画展「華麗なる日本画—金銀砂子の表現」の解説。その後、常設展の鑑賞、庭園での概要説明、記念館本館を解説により見学。	14名		3名
	②特別展『文化勲章作家と人間国宝に囲まれて』を学芸員の解説により見学。その後、ガラス工芸品や絵画、焼き物などの常設展示物を見学。	18名		3名
第210走 平成27年2月27日（金） ①小田原フラワーガーデン ②鈴廣のかまぼこ博物館	①副園長による梅の品種などに関する解説を聞きながらの梅林散策の後、トロピカルドームの熱帯植物の解説と見学、ミラクルフルーツ体験、オリジナルのエッセンシャルオイルで作るエアミストの手作り体験を行った。	17名		6名
	②かまぼこ・ちくわの手作り体験教室への参加後、かまぼこの歴史や板絵ギャラリーの展示を館長の解説により見学。	6名		7名
第211走 平成27年3月20日（金） ①徳富蘇峰記念館 ②小田原市郷土文化館 ③生命の星・地球博物館	①二班に分かれ、館長と学芸員の解説により。蘇峰の著書や書、師と慕った新島襄との関係や蘇峰の人生を紹介する常設展、吉田松陰に関連する人物や、彼らが蘇峰と交わしたさまざまな手紙を紹介する特別展を観覧。	22名		3名
	②小田原城のなりたちや、屋外展示資料の小田原橋、親柱などを学芸員から解説。その後、縄文・弥生時代の出土物を展示する考古資料室、小田原の歴史を展示する歴史資料室、郷土文化館60周年の記念展示である企画展を見学。	11名		3名
	③エントランスの概要説明後、特別展示室で20周年記念展示の内容を解説。その後、バックヤードである標本製作室、搬入口周辺、大型標本製作室、液浸標本収蔵庫で、標本の意義や管理方法等について解説。	21名		3名

8.4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

ミュージアムショップ（1階）

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップなので、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。また、特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトにあわせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自

然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思って頂けるような空間づくりを実施している。

レストラン「フォーレ」（3階）

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバー

グ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、老若男女に対応できる品揃えとなっている。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色をだすため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明る

く雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ「あーす」（1階）

「ともしびショップ」は、障害者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障害者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目に当たる。

ショップ「あーす」は来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。



ミュージアムショップ



レストラン「フォーレ」



ともしびショップ「あーす」

III 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日

条例 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区 南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市 入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 前 2 項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

- (1) 教育委員会が開催する行事に参加する者
- (2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。)第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表

において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りではない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
- (3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表(第 4 条関係)

	区分	個人	20 人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20 歳以上 65 歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1 人につき 300 円	1 人につき 250 円
	20 歳未満の者(高校生を除く。)	同 200 円	同 150 円
	65 歳以上の者 高校生	同 100 円	同 100 円
神奈川県立生命の星・地球博物館	20 歳以上 65 歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1 人につき 520 円	1 人につき 410 円
	20 歳未満の者(高校生を除く。)	同 300 円	同 200 円
	65 歳以上の者 高校生	同 100 円	同 100 円

備考 1 学生とは、法第 1 条に規定する大学及び高等専門学校、法第 124 条に規定する専修学校並びに法第 134 条第 1 項に規定する各種学校在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第 1 条に規定する小学校、中学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和 41 年 11 月 18 日
教育委員会規則第 10 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第 2 条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第 3 条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

(企画普及課の事務)

第 5 条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第 6 条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第 7 条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第 8 条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和 41 年 11 月 18 日
教育委員会規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第 2 条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例（昭和 41 年神奈川県条例第 43 号。以下「条例」という。）第 4 条第 2 項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第 5 条の規定により観覧料を減免すること。
- (3) 条例第 6 条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。

- (4) 条例第 7 条の規定により利用を承認すること。
- (5) 条例第 8 条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第 3 条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館（以下「博物館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規程する休日（以下「国民の祝日等」という。）に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日（土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立 歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後 4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立 生命の星・ 地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後 4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第5条 教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

(1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文

部科学大臣の指定した博物館に相当する施設

(2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館

(3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館

(4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校

(5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であっても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行うことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986 年		4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定	10 月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手
1988 年		1992 年	
7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言	6 月	第二期造成工事着手
1989 年		8 月	博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定 神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置	1993 年	
11 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足	4 月	博物館情報システム開発着手
12 月	展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手	6 月	第三期造成工事着手
1990 年		1994 年	
2 月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手	6 月	第四期造成工事着手
3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正
9 月	博物館情報システム実施計画策定	1995 年	
10 月	建築基本設計着手	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
1991 年		3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得	3 月 20 日	開館記念式典実施
		3 月 21 日	一般公開開始

2.2. 開館から 2014 年度末まで

1995 年		3 月 1 日	特別展「中津層出土のサル化石」（5 月 12 日まで）
3 月 21 日	一般公開開始	3 月 20 日	開館 1 周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士
4 月 29 日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中 雄一	4 月	シンボルマーク製作
5 月 7 日	入館者 10 万人到達（開館 41 日目）	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（開館 321 日目）
6 月 22 日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）	6 月 1 日	学習指導員による団体サービス（ガイダンス）充実
9 月 6 日	ジブチ共和国大統領ご視察	6 月 8 日	「新収集資料展」（6 月 23 日まで）
9 月 24 日	入館者 30 万人到達（開館 158 日目）	7 月 20 日	特別展「迫われる生きものたち」（9 月 23 日まで）
10 月 7 日	特別展「チョウとガの世界」（11 月 26 日まで）	9 月	ガイダンスビデオ製作
11 月 4 日	日本鱗翅学会創立 50 周年記念大会（11 月 5 日まで）	10 月 24 日	1996 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
11 月 10 日	1995 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）	12 月 20 日	「ゆく年くる年展」（1 月 31 日まで）
1996 年		1997 年	
2 月 28 日	1995 年度第 2 回神奈川県博物館協議会（当館）	3 月 1 日	エントランスガイダンス開始
		3 月 1 日	特別展「櫻井コレクションの魅力」（5 月 11 日まで）

3月12日 1996年度第2回神奈川県博物館協議会 3月20日 開館2周年記念講演会「3年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうを利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士
バリアフリー音声ガイドサービス開始

3月21日 日本植物分類学会第27回大会(3月23日まで)

7月20日 特別展「地球再発見」(11月3日まで)

7月23日 入館者100万人到達(開館705日目)

11月12日 1997年度第1回神奈川県博物館協議会

11月15日 日本鞘翅学会第10回記念大会(11月16日まで)

12月20日 「ゆく年くる年展」(1月31日まで)

1998年

1月30日 日本古生物学会1998年年会(2月1日まで)

2月1日 特別展「フ란ツ・ヒルゲンドルフ展」(3月31日まで)

3月12日 1997年度第2回神奈川県博物館協議会

3月21日 開館3周年記念事業「生命の星・地球フェスタ'98」(3月29日まで)

3月30日 天皇陛下・皇后陛下行幸啓

4月4日 日本動物分類学会第34回大会(4月5日まで)

4月25日 企画展「植物画で観る山の花」(5月24日まで)

7月18日 特別展「オオカミとその仲間たち」(9月27日まで)

8月26日 日本第四紀学会1998年大会(8月28日まで)

9月12日 中国遼寧省友好代表団来館

10月24日 企画展「ふれる彫刻展 Part 2」(11月23日まで)

10月29日 1998年度第1回神奈川県博物館協議会

11月3日 入館者150万人到達(開館1,090日目)

12月12日 「新収集資料展」(1月10日まで)

1999年

1月30日 特別展「カニの姿」(3月31日まで)

3月19日 1998年度第2回神奈川県博物館協議会

3月20日 「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会

4月24日 企画展「北アルプスの四季」(5月30日まで)

7月17日 特別展「海から生まれた神奈川」開催(9月5日まで)

8月4日 中国科学院南京地質古生物研究所所長ほか視察

10月1日 特別展「のぞいてみよう!5億年前の海」(11月28日まで)

11月6日 日本蜻蛉学会大会(11月7日まで)

11月12日 天皇陛下ご在位10周年慶祝事業 無料公開

11月14日 みなかんネットワーク大会

11月25日 1999年度第1回神奈川県博物館協議会

11月27日 常設展示化石標本3点の盗難を確認

12月9日 常設展示化石標本10点の盗難を確認

12月11日 企画展「カラー魚拓の世界」(1月16日まで)

2000年

3月18日 開館5周年記念 活動報告展「開かれた博物館をめざして」(5月14日まで)

3月20日 開館5周年記念講演会「博物館は宝の山」

3月23日 Xu Daosheng (湖北省博物館)・Jang, Sang-Hoon (韓国国立中央博物館) ほか視察

3月31日 濱田隆士館長退任

4月1日 青木淳一館長就任

5月13日 日本土壌動物学会第23回大会(5月14日まで)

7月15日 特別展「サルがいて、ヒトがいて」(9月3日まで)

8月6日 入館者200万人到達(開館1,613日目)

9月23日 企画展「切手で語る魚類の世界」(11月5日まで)

10月6日 2000年度日本魚類学会年会(10月9日まで)

10月15日 200万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」

11月30日 2000年度第1回神奈川県博物館協議会

2001年

2月10日 特別展「ふしぎ大陸 南極展」(4月8日まで)

3月20日 開館6周年記念講演会「自然史(誌)を楽しむ～いま箱根の自然は～」

3月27日 2000年度第2回神奈川県博物館協議会

3月27日 神奈川県博物館協議会協議会を廃止

4月15日 青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞

7月20日 特別展「神奈川の植物・その10余年の変化」(9月16日まで)

10月19日 中国遼寧省職員視察

10月20日 特別展「地球を見る～宇宙からみた神奈川」(12月16日まで)

11月9日 ミュージアム・リレー第50走達成記念講演会

11月22日 ミュージアム・リレー第50走達成記念シンポジウム

11月23日 日本蜻蛉学会(11月25日まで)

2002年

1月4日 企画展「地球の息吹・富士彩彩」(1月27日まで)

2月16日 企画展「みんなの手づくり恐竜展」(3月17日まで)

2月21日 博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」

3月19日 箱根フリーパス対象施設に参加

3月21日 開館7周年記念シンポジウム「蝕まれるかながわの生物」

4月27日 「新収集資料展」(6月2日まで)

7月19日 入館者250万人到達(開館2,206日目)
250万人達成感謝ウィーク

7月20日 特別展「人と大地と」(9月29日まで)

7月21日 「自然を楽しむみち」案内板贈呈式

12月7日 特別展「ザ・シャーク」(3月2日まで)

2003年

1月30日 博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」

3月11日 全国科学博物館協議会総会(3月12日まで)

3月21日 ミューズ・フェスタ2003(3月22日まで)

3月28日 青木淳一館長が小田原城下町大使に就任

4月26日 企画展 活動報告展・学芸員のお仕事(6月8日まで)

7月19日 特別展「侵略とかく乱のはてに」(9月15日まで)

7月20日 夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(8月31日まで)

8月2日 日本蘚苔類学会(8月3日まで)

8月12日 教育委員視察

10月25日 松沢成文知事来館

11月1日 特別展「丹沢の自然」(1月25日まで)

2004年

3月9日 博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例について」

3月20日 ミューズ・フェスタ2004(3月21日まで)

4月24日 企画展「きのごアート展」(6月6日まで)

5月25日 入館者300万人到達(開館3,770日目)

7月17日 特別展「東洋のガラパゴス 小笠原」(10月31日まで)
 7月21日 夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(8月31日まで)
 11月20日 日本鞘翅学会第17回大会(11月21日まで)
 12月18日 企画展「+2℃の世界」(2月27日まで)

2005年

3月8日 博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
 3月20日 ミューズ・フェスタ2005(3月21日まで)
 4月1日 「博物館10年の歩み」(4月10日まで)
 4月29日 「収蔵資料展」(5月29日まで)
 7月16日 特別展「化石どうぶつ園」(11月6日まで)
 7月18日 夏休み中無休開館期間(8月29日まで)
 12月10日 企画展「丹沢〜むかし・今・あした〜」(2月12日まで)

2006年

1月14日 ミュージアム・リレー第100走達成記念行事(1月15日まで)
 3月23日 博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
 3月18日 ミューズ・フェスタ2006(3月19日まで)
 3月18日 「マイミュージアム・みんなの活動報告・マイミュージアム写真展」(4月10日まで)
 3月31日 青木淳一館長退任
 4月1日 管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。
 齋藤靖二館長就任
 4月29日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月28日まで)
 7月8日 入館者350万人到達(開館3,409日目)
 7月15日 特別展「ふしぎな生きもの 菌類〜動物?植物?それとも?〜」(11月5日まで)
 7月17日 夏休み中無休開館期間(8月28日まで)
 11月12日 自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」
 12月9日 企画展「パノラマにっぽん」(2月25日まで)

2007年

2月28日 全国科学博物館協議会理事会総会
 3月17日 ミューズ・フェスタ2007(3月18日まで)
 3月17日 活動報告展「みんなの活動報告展」(5月6日まで)
 3月30日 博物館課題研究会
 7月21日 特別展「ナウマンゾウがいた!〜温暖期の神奈川〜」(11月4日まで)
 7月21日 夏休み中無休開館期間(8月31日まで)
 12月8日 企画展「日本最後の秘境南硫黄島」(2月24日まで)

2008年

3月11日 博物館課題研究会
 3月15日 ミューズ・フェスタ2008(3月16日まで)
 3月22日 子ども自然科学作品展(4月6日まで)
 4月19日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月18日まで)
 7月19日 特別展「箱根火山いま証される噴火の歴史」(11月9日まで)
 7月19日 夏休み中無休開館期間(8月31日まで)
 8月12日 入館者400万人到達(開館4,062日目)
 12月6日 企画展「46億年 地球のしごと〜地質写真家が見た世界の地形〜」(2月22日まで)

2009年

3月10日 博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」
 3月14日 ミューズ・フェスタ2009(3月15日まで)
 3月20日 子ども自然科学作品展(4月5日まで)
 4月18日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月31日まで)
 7月18日 特別展「木の洞をのぞいてみたら〜樹洞の生きものたち〜」(11月8日まで)
 7月20日 夏休み中無休開館期間(8月31日まで)
 12月5日 企画展「押葉 古瀬 義植物標本コレクション」(2月21日まで)

2010年

3月13日 ミューズ・フェスタ2010(3月14日まで)
 3月20日 子ども自然科学作品展(4月4日まで)
 4月17日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月30日まで)
 7月18日 特別展「日本列島20億年の生い立ちを探る」(11月7日まで)
 7月20日 夏休み中無休開館期間(8月31日まで)
 10月21日 入館者450万人到達(開館4,863日目)
 12月11日 企画展「日本最初の植物同好会 横浜植物会の100年」(2月27日まで)

2011年

3月13日 ミューズ・フェスタ2011(東日本大震災により中止)
 3月19日 子ども自然科学作品展(4月3日まで)
 4月16日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月29日まで)
 7月16日 特別展「およげ!ゲンゴロウくん〜水辺に生きる虫たち〜」(11月6日まで)
 7月18日 夏休み中無休開館期間(8月31日まで)
 12月10日 企画展「箱根ジオパークをめざして箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見!」(2月26日まで)

2012年

3月17日 ミューズ・フェスタ2012(3月18日まで)
 3月24日 子ども自然科学作品展(4月8日まで)
 4月21日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月27日まで)
 7月14日 特別展「大空の覇者一大トンボ展」(11月4日まで)
 7月21日 夏休み中無休開館期間(8月31日まで)
 8月3日 入館者500万人到達(開館5,183日目)
 12月15日 企画展「博物館の標本工房」(2月24日まで)

2013年

3月16日 ミューズ・フェスタ2013(3月17日まで)
 3月23日 子ども自然科学作品展(4月7日まで)
 4月20日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月26日まで)
 7月20日 特別展「益田一と日本の魚類学」(11月4日まで)
 10月8日 天皇陛下行幸(特別展天覧)
 12月14日 企画展「アンデスを越えて」(2月23日まで)

2014年

3月15日 ミューズ・フェスタ2014(3月16日まで)
 3月22日 子ども自然科学作品展(4月16日まで)
 4月1日 平田大二館長就任
 4月19日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月25日まで)
 7月19日 特別展「どうする?どうなる!外来生物」(11月3日まで)
 12月13日 企画展「恐竜の玉手箱」(3月1日まで)

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数		24	26	18	28	31	23	26	25	22	20	19	25	287
有料入場者数	成年個人	3,395	3,692	2,378	4,453	11,287	3,273	2,621	3,387	2,223	2,706	3,398	4,140	46,953
	未成年・学生個人	92	196	55	128	429	219	112	146	126	113	247	340	2,203
	高校生	109	75	22	120	633	117	30	115	90	136	127	300	1,874
	65歳以上	1,584	1,491	1,350	1,637	3,348	1,016	1,614	1,783	843	763	1,052	1,871	18,352
	成年団体	274	302	1,558	428	4,271	131	447	575	61	183	307	474	9,011
	未成年・学生団体	0	32	54	1	207	0	0	18	1	3	2	42	360
	成年割引	1,990	2,121	515	2,577	2,494	2,218	1,813	2,331	1,400	1,634	1,942	2,662	23,697
	未成年・学生割引	24	84	0	63	73	130	27	40	68	56	162	279	1,006
	小計	7,468	7,993	5,932	9,407	22,742	7,104	6,664	8,395	4,812	5,594	7,237	10,108	103,456
無料入場者数	園児	1,539	1,501	1,324	3,303	4,823	1,830	1,712	2,131	1,084	1,636	2,610	3,656	27,149
	小学生	4,119	5,579	3,915	5,481	9,769	4,942	13,211	6,532	2,321	1,620	2,064	3,184	62,737
	中学生	1,386	1,790	352	644	2,258	251	655	415	534	190	168	479	9,122
	障害者	443	444	407	693	1,023	708	710	729	320	250	347	626	6,700
	その他	2,325	1,327	743	1,808	1,722	1,100	2,679	1,986	781	419	820	2,480	18,190
	小計	9,812	10,641	6,741	11,929	19,595	8,831	18,967	11,793	5,040	4,115	6,009	10,425	123,898
合計		17,280	18,634	12,673	21,336	42,337	15,935	25,631	20,188	9,852	9,709	13,246	20,533	227,354
1日平均（人）		720.0	716.7	704.1	762.0	1,365.7	692.8	985.8	807.5	447.8	485.5	697.2	821.3	792.2
前年比（％）		85.5	91.1	81.0	91.8	101.0	84.3	95.7	113.7	83.8	87.4	129.5	93.1	94.6

（下表へ続く）

（上表の続き）		2014年度			一般公開開始からの累計*		
月		1日平均	構成比(%)	前年比(%)	入場者	1日平均(%)	構成比(%)
有料入館者数	成年個人	163.6	20.7	93.1	1,738,867	286.6	31.5
	未成年・学生個人	7.7	0.9	85.7	64,766	10.7	1.2
	高校生	6.5	0.8	96.9	10,291	1.7	0.2
	65歳以上	63.9	8.1	94.6	122,007	18.5	2.0
	成年団体	31.4	4.0	187.3	180,437	29.7	3.3
	未成年・学生団体	1.3	0.1	126.8	7,249	1.2	0.1
	成年割引	82.6	10.4	78.7	103,964	17.1	1.9
	未成年・学生割引	3.5	0.5	64.7	7,517	1.2	0.1
	小計	360.5	45.5	93.1	2,225,098	366.7	40.3
無料入館者数	園児	94.6	11.9	170.0	453,543	74.7	8.2
	小学生	218.6	27.6	78.3	1,466,996	241.8	26.6
	中学生	31.8	4.0	120.3	252,716	41.6	4.6
	障害者	23.3	3.0	96.6	155,055	25.6	2.8
	その他	63.4	8.0	98.3	961,417	158.4	17.5
	小計	431.7	54.5	96.0	3,289,727	542.1	59.7
合計		792.2	100.0	94.6	5,514,825	908.8	100.0

*1995年3月21日から6,068日開館。

2014年度記録

最高入館者数：3,543人 5月5日（月）

最低入館者数：165人 1月9日（金）

3.1.2. 特別展示室入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
有料	成年				2,688	10,380	3,199	2,493	969					19,729
	未成年・学生				51	432	241	102	33					859
	高校生				68	413	65	25	7					578
	65歳以上				588	2,033	559	636	109					3,925
	小計				3,395	13,258	4,064	3,256	1,118					25,091
無料		4,476	5,120		6,203	18,269	8,038	15,231	1,419	6,525	9,243	13,044	5,182	92,750
合計		4,476	5,120	0	9,598	31,527	12,102	18,487	2,537	6,525	9,243	13,044	5,182	117,841

3.1.3. 講座・観察会・研修等参加者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	564	918	595	1,050	1,871	751	835	1,316	837	1,327	1,242	1,057	12,363
サロン・ド・小田原	—	34	27	—	—	43	28	—	24	—	56	—	212
研修・実習・学校	132	284	54	433	160	95	148	85	438	85	105	37	2,056
合計	696	1,236	676	1,483	2,031	889	1,011	1,401	1,299	1,412	1,403	1,094	14,631

- ・「講座・講演会」には、博物館主催の自然科学講演会、他の機関との共催講演会、博物館主催講座（土日開催の小中学生向け講座、夏休みに開催する子ども向け講座、専門的内容の講座、身近な自然発見講座、神奈川の自然を観察する講座、特別展・企画展関連講座）、よろずスタジオ（友の会との共催を含む）、自由研究なんでも相談の参加者数。
- ・「研修・実習・学校」には、博物館見学実習、理科学習や総合的な学習への対応、中学生や高校生の職場体験、教員の各種研修、学校の各種研修などの人数（館内実施のみ）。
- ・利用人数は、実際に利用した人数（延べ人数）によって算出している（3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出）。

3.2. 年度別利用者数の推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303	299	305	309	311
利用者数														
入館者数														
常設展入場者数	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851	242,368	234,012	241,549	232,650
特別展示室入場者数		42,951	109,851	98,825	96,573	77,239	77,058	67,397	105,344	108,259	107,992	117,014	108,588	113,682
ライブラリー利用者数						129,726	117,747	100,307	103,086	104,128	89,973	94,166	97,399	97,072
講座・観察会・研修等参加者		2,381	2,402	1,683	1,708	1,943	6,634	2,962	2,136	3,280	5,561	9,291	7,863	8,328
学芸員レファレンス件数														

（下表へ続く）

（上表の続き）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
開館日数	308	306	304	308	305	299	287
利用者数		306,563	299,089	344,294	355,803	352,066	326,030
入館者数	311,740	293,778	289,560	323,873	334,695	329,340	310,088
常設展入場者数	232,046	217,690	208,682	241,344	242,524	240,240	227,354
特別展示室入場者数	98,305	113,284	82,631	113,601	112,793	73,769	121,555
ライブラリー利用者数	92,465	87,370	82,840	90,131	95,337	97,463	92,401
講座・観察会・研修等参加者	8,572	10,344	6,817	16,827	18,294	20,121	14,603
学芸員レファレンス件数		2,441	2,712	3,594	2,814	3,158	3,671

3.3. 特別展・企画展開催実績

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
1995	特別展	チョウとガの世界	1995 年 10 月 7 日～ 11 月 26 日	41	3,247	13,655	16,902
1996	特別展	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	1996 年 3 月 1 日～ 5 月 12 日	63	—	94,566	94,566
	企画展	新収資料展	1996 年 6 月 8 日～ 6 月 23 日	13	—	10,501	10,501
	特別展	追われる生きものたち	1996 年 7 月 20 日～ 9 月 23 日	58	19,011	33,475	52,486
	企画展	文化財保護ポスター展	1996 年 12 月 5 日～ 12 月 15 日	10	—	1,471	1,471
	企画展	ゆく年くる年展	1996 年 12 月 20 日～ 1997 年 1 月 31 日	30	—	10,194	10,194
	特別展	櫻井コレクションの魅力 —偉大なアマチュア自然科学者の軌跡—	1997 年 3 月 1 日～ 5 月 11 日	61	—	40,848	40,848
1997	企画展	ふれる彫刻 100 展	1997 年 5 月 23 日～ 6 月 22 日	25	—	—	—
	特別展	地球再発見—新しい地球像をもとめて—	1997 年 7 月 20 日～ 11 月 3 日	92	18,033	46,886	64,919
	企画展	文化財保護ポスター展	1997 年 12 月 6 日～ 12 月 14 日	8	—	—	—
	企画展	新収集資料展	1997 年 11 月 15 日～ 11 月 24 日	9	—	6,374	6,374
	企画展	ゆく年くる年展	1997 年 12 月 20 日～ 1998 年 1 月 11 日	12	—	2,997	2,997
	特別展	日本の魚学・水産学事始め —フランツ・ヒルゲンドルフ展—	1998 年 2 月 1 日～ 3 月 31 日	48	1,557	7,398	8,955
	企画展	植物画で観る山の花—小林政紘作品集より—	1998 年 4 月 25 日～ 5 月 24 日	26	—	13,375	13,375
1998	特別展	オオカミとその仲間たち—イヌ科動物の世界—	1998 年 7 月 18 日～ 9 月 27 日	61	17,714	30,588	48,302
	企画展	ふれる彫刻 Part 2—地球の心を彫る！	1998 年 10 月 24 日～ 11 月 23 日	26	—	14,316	14,316
	企画展	新収集資料展	1998 年 12 月 12 日～ 1999 年 1 月 10 日	12	—	4,168	4,168
	特別展	カニの姿—酒井コレクションから—	1999 年 1 月 30 日～ 3 月 31 日	51	3,746	14,228	17,974
	企画展	北アルプスの四季—岳をめぐる—	1999 年 4 月 24 日～ 5 月 30 日	32	—	15,119	15,119
	特別展	海から生まれた神奈川 —伊豆・小笠原弧の形成と活断層—	1999 年 7 月 17 日～ 9 月 5 日	43	8,585	16,807	25,392
1999	特別展	のぞいてみよう！5 億年前の海 —三葉虫が見た世界—	1999 年 10 月 1 日～ 11 月 28 日	49	4,690	21,470	26,160
	企画展	カラー魚拓の世界	1999 年 12 月 11 日～ 2000 年 1 月 16 日	24	—	6,082	6,082
	企画展	平成 11 年度活動報告展 開かれた博物館をめざして —生命の星・地球博物館の 5 年間の歩み—	2000 年 3 月 18 日～ 5 月 14 日	52	—	17,647	17,647
	特別展	サルがいて、ヒトがいて —野生動物との共存を考える—	2000 年 7 月 15 日～ 9 月 3 日	43	9,949	24,359	34,308
	企画展	切手で語る魚類の世界	2000 年 9 月 23 日～ 11 月 5 日	42	—	11,797	11,797
	企画展	田中茂穂博士と魚学研究ゆかりの品々	2000 年 10 月 7 日～ 10 月 8 日	2	—	600	600
	特別展	ふしぎ大陸 南極展	2001 年 2 月 10 日～ 4 月 8 日	49	2,141	11,643	13,784
2001	特別展	神奈川の植物 その 10 余年の変化	2001 年 7 月 20 日～ 9 月 16 日	51	6,197	10,886	17,083
	特別展	地球を見る～宇宙から見た神奈川～	2001 年 10 月 20 日～ 12 月 16 日	50	6,511	13,628	20,139
	企画展	地球の息吹 富士彩々	2002 年 1 月 4 日～ 1 月 27 日	22	—	7,708	7,708
	企画展	みんなの手づくり恐竜展	2002 年 2 月 16 日～ 3 月 17 日	25	—	14,003	14,003
	企画展	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	2002 年 3 月 21 日～ 4 月 21 日	26	—	13,029	13,029
2002	企画展	新収資料展	2002 年 4 月 27 日～ 6 月 2 日	34	—	3,363	3,363
	特別展	人と大地と— Wonderful Earth —	2002 年 7 月 20 日～ 9 月 29 日	64	12,891	23,674	36,565
	特別展	ザ・シャーク ～鯨の進化と適応・ケースコレクションより～	2002 年 12 月 7 日～ 2003 年 3 月 2 日	68	11,840	19,211	31,051
	企画展	日本の自然にヘラクレスはいらない —移入昆虫がもたらす諸問題を考える—	2003 年 3 月 21 日～ 4 月 6 日	17	—	9,442	9,442
2003	企画展	友の会活動報告および活動紹介展					
	企画展	活動報告展—学芸員のお仕事	2003 年 4 月 26 日～ 6 月 8 日	38	—	18,711	18,711
	特別展	侵略とかく乱のはてに—未来へつなげる自然とは—	2003 年 7 月 19 日～ 9 月 15 日	51	14,109	25,477	39,586
	特別展	丹沢の自然	2003 年 11 月 1 日～ 2004 年 1 月 25 日	69	6,186	11,376	17,562
	企画展	きらわれものだよ、全員集合！ —きらわれものたちの意外な素顔—	2004 年 3 月 20 日～ 4 月 4 日	14	—	8,263	8,263
	企画展	博物館友の会活動報告および活動紹介展					
2004	企画展	活動報告展—学芸員の腕自慢	2004 年 4 月 24 日～ 6 月 6 日	33	—	28,714	28,714
	企画展	きこアート展					
	特別展	東洋のガラパゴス 小笠原 —固有生物の魅力とその危機—	2004 年 7 月 17 日～ 10 月 31 日	93	17,602	31,862	49,464
	企画展	+2℃の世界～縄文時代に見る地球温暖化～	2004 年 12 月 18 日～ 2005 年 2 月 27 日	56	—	23,669	23,669
	企画展	博物館 10 年の歩み・友の会活動紹介	2005 年 3 月 20 日～ 4 月 10 日	20	—	5,180	5,180
2005 (続く)	企画展	収蔵資料展	2005 年 4 月 29 日～ 5 月 29 日	26	—	15,925	15,925
	特別展	化石どうぶつ園—北アメリカ漸新世の哺乳類—	2005 年 7 月 16 日～ 11 月 6 日	105	22,243	54,988	77,231

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
2005 (続き)	企画展	丹沢～むかし・今・あした～	2005年12月10日～2006年2月12日	51	—	14,785	14,785
2006	企画展	マイミュージアム・みんなの活動報告展 ・マイミュージアム写真展	2006年3月18日～4月9日	19	—	9,997	9,997
	企画展	学芸員の活動報告展	2006年4月29日～5月28日	26	—	12,716	12,716
	特別展	ふしぎな生きもの菌類—動物?植物?それとも?—	2006年7月15日～11月5日	106	18,408	54,099	72,507
	企画展	パノラマにつぼん 地球観測衛星の魅力	2006年12月9日～2007年2月25日	64	—	15,939	15,939
	企画展	みんなの活動報告展	2007年3月17日～5月6日	45	—	16,883	16,883
2007	特別展	ナウマンゾウがいた! ～温暖期の神奈川～	2007年7月21日～11月4日	100	20,016	57,007	77,023
	企画展	日本最後の秘境 南硫黄島	2007年12月8日～2008年2月24日	65	—	24,476	24,476
2008	企画展	学芸員の活動報告展	2008年4月19日～5月18日	27	—	15,041	15,041
	特別展	箱根火山 いま証される噴火の歴史	2008年7月19日～11月19日	106	20,312	44,001	64,313
	企画展	46億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	2008年12月6日～2009年2月22日	62	—	14,954	14,954
2009	企画展	学芸員の活動報告展	2009年4月18日～5月31日	37	—	16,352	16,352
	特別展	木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～	2009年7月18日～11月8日	105	19,109	84,418	103,527
	企画展	押し葉 古瀬 義 植物標本コレクション	2009年12月5日～2010年2月21日	60	—	9,553	9,553
2010	企画展	学芸員の活動報告展	2010年4月17日～5月30日	37	—	16,135	16,135
	特別展	日本列島20億年その生い立ちを探る	2010年7月17日～11月7日	104	19,727	33,939	53,666
	企画展	日本最初の植物同好会	2010年12月11日～2011年2月27日	63	—	10,132	10,132
2011	企画展	学芸員の活動報告展	2011年4月16日～5月29日	38	—	18,560	18,560
	特別展	およげ! ゲンゴロウくん～水辺に生きる虫たち～	2011年7月16日～11月6日	104	18,183	52,723	70,906
	企画展	箱根ジオパークをめざして	2011年12月10日～2012年2月26日	63	—	17,204	17,204
2012	企画展	学芸員の活動報告展	2012年4月21日～5月27日	321	—	14,210	14,210
	特別展	大トンボ展 大空の覇者	2012年7月14日～11月4日	103	23,070	42,666	65,736
	企画展	博物館の標本工房	2012年12月15日～2013年2月24日	56	—	28,574	28,574
2013	企画展	学芸員の活動報告展	2013年4月20日～5月26日	32	—	10,631	10,631
	特別展	益田 一と日本の魚類学	2013年7月20日～11月4日	97	16,964	27,170	44,134
	企画展	アンデスを越えて	2013年12月14日～2014年2月23日	56	—	14,921	14,921
2014	企画展	学芸員の活動報告展	2014年4月19日～5月25日	30	—	11,626	11,626
	特別展	どうする?どうなる! 外来生物	2014年7月19日～11月3日	96	25,091	49,160	74,251
	企画展	恐竜の玉手箱	2014年12月13日～2015年3月1日	53	—	30,786	30,786

3.4. 資料登録実績

分野	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
哺乳類		1,432	65	1	0	0	0	417	170	8
鳥類										
魚類		846	733	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879
魚類写真	1345	* 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361
昆虫		26,839	817	742	623	6	0	0	0	0
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616	0	36	147	9
甲殻類		0	0	0	4,218	0	12	0	0	0
甲殻類細密画										
両生・爬虫類										
動物その他		0	0	0	28	4	2	11	0	0
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754	0	1,333	1,281
コケ		2,670	14	83	6	7	61	0	0	0
菌類・地衣類		0	2	459	218	1,717	1,001	0	0	0
藻類										
植物その他		0	0	5	0	0	2	0	0	0
植生									10	40
化石		2,220	3,477	21	594	2,304	0	72	24	3
岩石		0	492	259	52	32	0	0	1,173	128
鉱物		181	0	92	0	0	0	0	1,472	0
地質・ボーリング		1	0	0	0	0	0	0	0	0
衛星画像										401
衛星処理画像										
景観画像										
小計	1,345	211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	16,110
図書										11,355
雑誌										2,730
小計										14,085
計	1,345	211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	30,195

* 1995 年度の魚類写真の登録件数は、1994 年度の登録件数と分割して掲載したため、年報第 13 号までの数値とは異なる。

分野	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	合計
哺乳類		64	194	634	482	178	616	460	286	368	207	4,702
鳥類	21	4	149	212	281	76	209	434	196	102	30	2,594
魚類	1,635	2,583	3,127	2,377	2,207	2,908	1,981	2,325	4,267	1,301	2,013	38,044
魚類写真	3780	813	1,986	6,253	4,990	4,025	5,148	14,248	23,488	13,280	8,480	146,469
昆虫	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8,846	37,874
軟体動物	93	12	397	136	314	4,626	4,165	3,228	1,592	499	700	22,730
甲殻類	15	439	559	1,520	1,237	231	471	315	1,777	3,456	3,190	17,440
甲殻類細密画		6	142	152	0	48	26	33	32	36	15	490
両生・爬虫類					4	644	53	19	1	63	101	886
動物その他	0	0	0	8	3	0	0	0	10	0	31	97
維管束植物	1,507	1,981	9,879	10,136	13,677	5,429	6,975	5,528	3,742	6,899	14,643	270,257
コケ	0	0	0	0	0	0	0	0	6,525	0	1	9,367
菌類・地衣類	0	0	0	0	0	13,174	1,415	4,565	596	936	1,677	25,760
藻類					2,062	0	0	0	1,368	906	0	4,336
植物その他	0	0	0	0	0	0	0	0	247	0	0	254
植生	64	0	58	0	0	0	0	0	3	0	89	264
植物標本										183	948	1,131
化石	0	86	1	17	19	1,331	650	617	872	368	481	13,157
岩石	0	434	0	0	1,008	2,266	0	172	200	160	205	6,581
鉱物	0	5	11,061	0	0	0	4,297	1,956	225	107	2,512	21,908
地質・ボーリング	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
はぎ取り											11	11
地学その他											17	17
衛星画像	0	27	0	234	81	36	0	135	24	60	55	1,053
衛星処理画像			70	42	17	0	7	6	3	8	1	154
景観画像			378	983	0	0	0	1	0	1,099	115	2,576
小計	7,115	6,455	28,002	22,704	26,382	34,972	26,013	34,042	45,454	29,782	44,368	628,154
図書	886	772	900	970	1,299	531	564	643	1,798	1,756	1,939	23,413
雑誌	95	51	58	107	57	140	62	55	34	50	77	3,516
小計	981	823	958	1,077	1,356	671	626	698	1,832	1,806	2,016	26,929
計	8,096	7,278	28,960	23,781	27,738	35,643	26,639	34,740	47,286	31,588	46,384	655,083

3.5. ホームページアクセス実績（トップページアクセス数）

月\年度	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
4 月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979
5 月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848
6 月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055
7 月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531
8 月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083
9 月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989
10 月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232
11 月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960
12 月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984
1 月				919	1,913	3,781	6,052	7068	11,210	11,551
2 月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583
3 月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405
計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200
1 日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	223.45	329.48	421.31

* 2001 年 4・8・9 月と 2002 年 6 月はマシントラブルのためカウントできなかった。

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	計
4 月	11,071	15,489	15,131	15,404	17,371	13,374	16,955	18,753	20,579	30,638	32,309	
5 月	13,215	11,870	15,950	16,176	18,322	16,241	19,934	20,808	20,810	30,730	32,089	
6 月	15,225	14,086	12,910	14,200	15,401	14,482	15,831	15,776	18,604	28,123	30,744	
7 月	14,975	14,781	16,799	19,207	18,089	19,499	24,539	21,778	23,117	37,580	39,962	
8 月	16,654	19,838	22,899	25,040	26,442	23,293	28,580	29,898	29,693	52,015	58,221	
9 月	13,885	13,081	17,050	17,456	16,232	17,184	18,018	20,824	22,709	32,025	33,407	
10 月	13,843	14,690	17,037	18,089	16,157	16,240	18,271	18,950	24,982	30,821	31,227	
11 月	12,685	10,995	13,615	14,307	13,131	13,204	16,226	14,737	22,138	23,088	30,044	
12 月	11,129	9,720	11,474	12,054	11,249	11,230	12,869	13,721	24,483	23,275	23,960	
1 月	12,471	12,993	14,008	15,464	13,281	16,388	15,582	15,953	26,583	26,068	29,266	
2 月	11,680	11,580	13,607	14,965	12,386	15,478	15,641	15,864	27,069	22,090	29,705	
3 月	10,523	13,494	13,934	16,465	14,377	19,352	14,884	21,436	30,926	33,406	38,477	
計	157,356	162,617	184,414	198,827	192,438	195,965	217,330	228,498	291,693	369,859	409,411	3,066,280
1 日平均	431.11	445.53	505.24	543.24	527.23	536.89	595.42	624.31	799.16	1,013.31	1,121.67	

3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績（ページビュー数）

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	計
4 月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	220,043	99,695	166,484	162,602	309,246	
5 月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	240,523	118,998	153,868	313,999	163,432	
6 月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	263,042	120,450	144,236	212,569	171,152	
7 月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	515,252	109,688	134,806	152,539	139,031	
8 月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	432,478	268,450	148,590	177,790	154,394	
9 月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	184,433	85,334	285,293	82,260	195,767	
10 月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	149,227	127,688	225,939	154,416	136,219	
11 月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	228,696	153,279	221,528	149,742	158,264	
12 月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	297,112	150,850	294,780	225,794	154,851	
1 月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	253,132	148,606	218,061	123,939	153,369	
2 月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	121,448	140,702	255,931	117,098	209,135	
3 月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	152,091	159,317	125,164	106,299	137,904	
計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	3,057,477	1,683,057	2,374,680	1,979,047	2,082,764	19,516,748
1 日平均	2,323.67	2,048.08	3,033.60	2,719.20	5,729.56	6,986.98	8,376.65	4,598.52	6,505.97	5,422.05	5,706.20	

3.7. FishPix のアクセス実績（ページビュー数）

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	計
4 月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	196,525	118,641	270,626	180,127	513,503	
5 月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	196,359	135,441	160,802	430,334	121,742	
6 月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	296,704	135,375	179,240	192,540	181,172	
7 月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	859,781	95,507	205,817	299,288	197,461	
8 月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	634,275	119,911	155,855	351,893	275,623	
9 月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	260,201	36,732	341,199	55,493	335,630	
10 月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	103,445	102,937	188,278	202,531	88,810	
11 月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	130,073	191,063	272,550	234,042	162,126	
12 月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	258,017	163,636	172,266	350,115	165,323	
1 月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	368,860	146,540	244,346	134,166	365,763	
2 月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	75,224	238,617	325,167	132,751	198,370	
3 月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	166,420	314,119	102,502	93,876	149,483	
計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	3,545,884	1,798,519	2,618,648	2,657,156	2,755,006	18,441,114
1 日平均	81.62	304.84	999.22	903.72	4,688.95	6,898.35	9,714.75	4,913.99	7,174.38	7,279.88	7,547.96	

3.8. WESCAMS ミュージアム・リレー開催記録 第1走～第198走 (参加者の→は各走開催中の人数動向)

開催回(走) 平成年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
		一般	関係者	高校生
第1走 9/10/17(金)	生命の星・地球博物館	59	21	30
第2走 9/11/7(金)	箱根美術館⇒強羅公園	32	26	30
第3走 9/12/3(水)	足柄森林公園・丸太の森⇒南足柄市郷土資料館	47	13	0
第4走 10/1/28(水)	Antique Museum・江戸民具街道	22	20	30
第5走 10/2/25(水)	小田原フラワーガーデン	60	16	30
第6走 10/3/11(水)	箱根武士の里美術館	38	20	30
第7走 10/4/3(金)	箱根ガラスの森美術館	29	27	20
第8走 10/5/27(水)	箱根町立箱根湿生花園	26	21	30
第9走 10/6/17(水)	生命の星・地球博物館⇒神奈川県温泉地学研究所	29	29	90
第10走 10/7/8(水)	箱根美術館⇒強羅公園	39	27	58
第11走 10/8/26(水)	箱根町立大涌谷自然科学館	12	21	28
第12走 10/9/30(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	14	11	28
第13走 10/10/14(水)	遠藤貝類博物館	15	16	30
第14走 10/11/13(金)	箱根町立郷土資料館	13	13	70
第15走 10/12/2(水)	本間寄木美術館	13	20	60
第16走 11/1/20(水)	生命の星・地球博物館	21	20	70
第17走 11/2/3(水)	小田原城天守閣と歴史見聞館	17	15	22
第18走 11/3/23(火)	鈴廣のかまぼこ博物館	17	15	22
第19走 11/4/16(金)	MOA美術館(熱海市)	150	25	100
第20走 11/5/26(水)	箱根美術館⇒強羅公園	92	26	50
第21走 11/6/29(火)	箱根ガラスの森美術館	28	15	50
第22走 11/7/22(木)	生命の星・地球博物館	47	10	38
第23走 11/8/25(水)	箱根町立箱根湿生花園⇒箱根武士の里美術館	25	30	20
第24走 11/9/22(水)	彫刻の森美術館	14	19	40
第25走 11/10/21(木)	遠藤貝類博物館	12	16	50
第26走 11/11/19(金)	足柄森林公園・丸太の森⇒南足柄市郷土資料館	20	18	160
第27走 11/12/9(木)	箱根芦ノ湖成川美術館	23	18	50
第28走 12/1/19(水)	本間寄木美術館	10	18	50
第29走 12/2/24(木)	小田原市郷土文化館	31	28	60
第30走 12/3/30(木)	生命の星・地球博物館	42	30	20
第31走 12/4/18(火)	Antique Museum・江戸民具街道	68	25	53
第32走 12/5/19(金)	パール下中記念館	22	15	23
第33走 12/6/7(水)	箱根美術館⇒強羅公園	46	20	67
第34走 12/7/13(木)	箱根ガラスの森美術館	18	13	56
第35走 12/8/23(水)	生命の星・地球博物館⇒神奈川県温泉地学研究所	88	27	21
第36走 12/9/13(水)	報徳博物館	27	17	16
第37走 12/10/12(木)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	10	21	60
第38走 12/11/2(木)	箱根町立郷土資料館	25	10	60
第39走 12/12/8(金)	箱根ビクターセンター⇒箱根町立大涌谷自然科学館	17	16	60
第40走 13/1/25(木)	生命の星・地球博物館	56	29	160
第41走 13/2/22(木)	鈴廣のかまぼこ博物館	2	13	30
第42走 13/3/23(金)	彫刻の森美術館	5	16	30
第43走 13/4/13(金)	箱根武士の里美術館	5	20	30
第44走 13/5/16(水)	箱根☆サン＝テグジュペリ星の王子さまミュージアム	0	16	60
第45走 13/6/8(金)	湯河原ゆかりの美術館	5	16	60
第46走 13/7/19(木)	小田原市郷土文化館分館「松永記念館」と「老櫓荘」	30	17	30
第47走 13/8/30(木)	彫刻の森美術館(昼・夜2回開催)	20→30	23→23	30→0
第48走 13/9/27(木)	Antique Museum・江戸民具街道	20	16	30
第49走 13/10/12(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	7	26	60
第50走 13/11/9(金)	生命の星・地球博物館	32	24	0
第51走 13/12/7(金)	箱根ベゴニア園⇒オルゴールの小さな博物館・箱根⇒箱根おもちゃ博物館	50	16	30
第52走 14/1/25(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	35	18	30
第53走 14/2/15(金)	小田原フラワーガーデン	56	25	60
第54走 14/3/22(金)	小田原城天守閣小田原動物園	15	11	8
第55走 14/4/14(日)	MOA美術館	3	15	0
第56走 14/5/16(木)	箱根ガラスの森美術館	11	21	14
第57走 14/6/14(金)	箱根ビクターセンター	17	15	42
第58走 14/7/12(金)	松田山ハーブ館・ハーブガーデン⇒松田町自然館	10	12	16
第59走 14/8/23(金)	彫刻の森美術館	15	26	0
第60走 14/9/13(金)	生命の星・地球博物館	31	15	20
第61走 14/10/18(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	9	22	0
第62走 14/11/1(金)	箱根町立郷土資料館	25	20	0
第63走 14/12/12(木)	箱根園水族館	8	20	50

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

第 65 走	15/ 2/14 (金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	20	22	60
第 66 走	15/ 3/14 (金)	湯河原ゆかりの美術館	6	6	10
第 67 走	15/ 4/11 (金)	箱根芦ノ湖成川美術館	10	15	0
第 68 走	15/ 5/15 (木)	Antique Museum・江戸民具街道	27	18	45
第 69 走	15/ 6/ 6 (金)	生命の星・地球博物館⇒鈴廣のかまぼこ博物館	10	16	40
第 70 走	15/ 7/25 (金)	小田原城天守閣⇒小田原城ミュージーゼ	20	19	13
第 71 走	15/ 8/ 8 (金)	MOA 美術館	17	17	0
第 72 走	15/ 9/30 (火)	ポーラ美術館	63	23	0
第 73 走	15/10/30 (木)	箱根町立郷土資料館	52	13	0
第 74 走	15/11/18 (金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	37	22	40
第 75 走	15/12/11 (木)	箱根園水族館	10	11	30
第 76 走	16/ 1/16 (金)	生命の星・地球博物館⇒本間寄木美術館	16	18	15
第 77 走	16/ 2/20 (金)	小田原市尊徳記念館	15	11	40
第 78 走	16/ 3/18 (木)	彫刻の森美術館	13	17	5
第 79 走	16/ 4/16 (金)	箱根武士の里美術館⇒箱根町立箱根混生花園	26	19	40
第 80 走	16/ 5/ 9 (日)	箱根美術館⇒強羅公園⇒箱根写真美術館	43	19	0
第 81 走	16/ 6/15 (火)	箱根ガラスの森美術館	20	21	30
第 82 走	16/ 7/ 2 (金)	ポーラ美術館	61	22	15
第 83 走	16/ 8/20 (金)	生命の星・地球博物館	23	25	5
第 84 走	16/ 9/ 3 (金)	小田原城天守閣	14	11	0
第 85 走	16/10/15 (金)	真鶴町立中川一政美術館⇒遠藤貝類博物館	20	18	38
第 86 走	16/11/12 (金)	箱根町立郷土資料館⇒小田急箱根ベゴニア園⇒箱根おもちゃ博物館⇒オルゴールの小さな博物館・箱根	17	16	0
第 87 走	16/12/10 (金)	MOA 美術館	37	10	30
第 88 走	17/ 1/14 (金)	箱根園水族館⇒箱根芦ノ湖成川美術館	17→29	10→17	20→0
第 89 走	17/ 2/25 (金)	小田原フラワーガーデン	36	15	22
第 90 走	17/ 3/17 (木)	彫刻の森美術館	44	25	0
第 91 走	17/ 4/15 (金)	湯河原ゆかりの美術館	28	12	0
第 92 走	17/ 5/18 (水)	箱根武士の里美術館⇒箱根町立箱根混生花園	15→23	10→11	40→40
第 93 走	17/ 6/10 (金)	ポーラ美術館	70	29	40
第 94 走	17/ 7/ 6 (水)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒強羅公園	39→39→39	35→35→35	40→40→40
第 95 走	17/ 8/29 (月)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	20→27	10→23	0
第 96 走	17/ 9/28 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館	75	16	10
第 97 走	17/10/12 (水)	真鶴町立中川一政美術館⇒遠藤貝類博物館	33→33	24→24	50→50
第 98 走	17/11/29 (火)	箱根園水族館	30	13	40
第 99 走	17/12/ 8 (木)	箱根町立関所資料館⇒箱根駅伝ミュージアム	28→28	14→14	40→40
第100 走	18/1/14 (土)	箱根ガラスの森美術館	82	33	10
第101 走	18/2/10 (金)	小田原城天守閣⇒小田原城ミュージーゼ	25→25	22→22	
第102 走	18/3/17 (金)	小田原市尊徳記念館	35	17	32
第103 走	18/4/21 (金)	ポーラ美術館	73	19	68
第104 走	18/5/10 (水)	箱根駅伝ミュージアム⇒函嶺・ふる里集蔵館	6→24	9→20	
第105 走	18/6/17 (土)	小田原フラワーガーデン	25	13	
第106 走	18/7/6 (木)	箱根武士の里美術館⇒箱根町立箱根混生花園	12→15	7→11	60→60
第107 走	18/8/31 (木)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	15→15	7→17	0→30
第108 走	18/9/22 (金)	箱根芦之湯フラワーセンター⇒周辺史跡の見学	25→25	11→11	60→60
第109 走	18/10/13 (金)	MOA 美術館	53	15	45
第110 走	18/11/10 (金)	真鶴町立中川一政美術館⇒遠藤貝類博物館	38→38	14→12	45→0
第111 走	18/12/8 (金)	ガラスの森美術館	30	14	26
第112 走	19/1/19 (金)	箱根園水族館	24	20	34
第113 走	19/2/23 (金)	箱根ラリック美術館	62	13	40
第114 走	19/3/9 (金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒強羅公園	36→36→36	19→19→19	70→70→70
第115 走	19/4/13 (金)	箱根武士の里美術館⇒ポーラ美術館	13→35	5→15	30→60
第116 走	19/5/16 (水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター⇒周辺史跡の見学	26→26	11→11	45→45
第117 走	19/6/29 (金)	鈴廣のかまぼこ博物館⇒湯河原町立湯河原美術館	22→22	12→12	60→60
第118 走	19/7/13 (金)	箱根ガラスの森美術館	41	32	27
第119 走	19/8/28 (火)	箱根町立箱根関所⇒箱根駅伝ミュージアム	20→20	7→5	7→9
第120 走	19/9/8 (土)	生命の星・地球博物館	29	31	12
第121 走	19/10/26 (金)	箱根町立箱根混生花園⇒彫刻の森美術館	30→38	5→9	40→40
第122 走	19/11/13 (火)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町海の学校	20→20	12→9	33→33
第123 走	19/12/7 (金)	箱根ベゴニア園⇒箱根写真美術館⇒強羅公園	20→20→20	13→13→13	30→30→30
第124 走	20/1/18 (金)	箱根園水族館⇒箱根・芦ノ湖成川美術館	14→37	8→9	34→34
第125 走	20/2/15 (金)	小田原フラワーガーデン⇒小田原市尊徳記念館及び周辺史跡	14→37	8→9	34→34
第126 走	20/3/19 (水)	本間寄木美術館⇒小田原城、小田原市郷土文化館	27→10	9→7	17→17
第127 走	20/4/23 (水)	箱根武士の里美術館⇒ポーラ美術館	12→40	5→13	0
第128 走	20/5/21 (水)	箱根美術館⇒強羅公園	30→30	12→10	64→65

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

第129走	20/6/24(火)	湯河原町立湯河原美術館⇒MOA美術館	14→38	13→14	64→64
第130走	20/7/15(火)	彫刻の森美術館⇒箱根ガラスの森美術館	24→24	12→26	60→60
第131走	20/8/29(火)	玉村豊男ライフアートミュージアム⇒箱根神社宝物殿⇒箱根駅伝ミュージアム	13→7→1	10→8→7	0
第132走	20/9/16(火)	箱根町立箱根関所⇒箱根町立箱根芦之湯フラワースセンター	3→4	11→8	50→50
第133走	20/10/29(水)	箱根ラリック美術館⇒箱根町立箱根湿生花園	58→39	22→19	0
第134走	20/11/7(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町海の学校	16→10	14→11	60→60
第135走	20/12/10(水)	小田急箱根ベゴニア園⇒箱根トイミュージアム	9→10	11→14	40→40
第136走	21/1/30(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	7→16	5→14	33→33
第137走	21/2/17(火)	小田原フラワーガーデン⇒小田原市尊徳記念館及び周辺史跡見学	23→22	22→21	50→50
第138走	21/3/19(木)	松永記念館⇒小田原城天守閣・小田原市郷土文化館	35→35	8→11	12→12
第139走	21/4/21(火)	箱根町立箱根湿生花園⇒ポーラ美術館	18→39	5→10	0
第140走	21/5/15(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	17→17→17	23→27→27	0
第141走	21/6/12(金)	小田原フラワーガーデン⇒松永記念館	12→10	11→15	0
第142走	21/7/17(金)	箱根町立箱根芦之湯フラワースセンター⇒箱根ガラスの森美術館	15→44	5→12	0
第143走	21/8/28(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	16→17→10	10→9→10	0
第144走	21/9/29(火)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町海の学校	16→13	6→3	0
		彫刻の森美術館⇒箱根ビクターセンター	17→9	5→11	39→0
第146走	21/11/27(金)	箱根町立郷土資料館⇒小田急箱根ベゴニア園	3→2	4→6	0
第147走	21/12/11(金)	箱根ラリック美術館⇒箱根芦ノ湖成川美術館	64→33	9→10	0→31
第148走	22/1/29(金)	湯河原町立湯河原美術館⇒MOA美術館	12→31	11→11	0→30
第149走	22/2/5(金)	小田原城天守閣および小田原市郷土文化館⇒小田原市尊徳記念館とその周辺の史跡	17→13	4→4	39→43
第150走	22/3/5(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	9→14	5→5	0
第151走	22/4/27(火)	彫刻の森美術館	11	6	0
第152走	22/5/18(火)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
第153走	22/6/8(火)	箱根ガラスの森美術館	31	12	0
第154走	22/7/2(金)	箱根町立箱根湿生花園⇒箱根町立芦之湯フラワースセンターとその周辺散策	20→13	12→6	0
第155走	22/8/27(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	5→3→3	8→8→6	0
第156走	22/9/17(金)	箱根ビクターセンター⇒ポーラ美術館	11→60	7→12	0
第157走	22/10/15(金)	真鶴町立遠藤貝類博物館⇒真鶴町立中川一政美術館	22→25	10→12	43→43
第158走	22/11/12(金)	箱根町立郷土資料館⇒小田原市郷土文化館⇒小田原城	19→21	6→6	0
第159走	22/12/10(金)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム	43→44	9→10	0
第160走	23/1/16(日)	小田原フラワーガーデン⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	5→6	3→6	0
第161走	23/2/18(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	6→9	9→14	44→44
第162走	23/3/4(金)	鈴廣のかまぼこ博物館⇒小田原市松永記念館	5→4	3→3	0
第163走	23/4/27(水)	すどう美術館⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→8	9→5	50→50
第164走	23/5/17(火)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
第165走	23/6/8(水)	箱根ガラスの森美術館⇒小田原城	23→9	8→4	47→0
第166走	23/7/8(金)	箱根町立箱根湿生花園⇒ポーラ美術館	13→63	7→27	0
第167走	23/8/24(木)	松永記念館⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	12→1→3	4→6→7	0
第168走	23/9/3(土)	彫刻の森美術館⇒箱根ビクターセンター	10→6	6→5	0
第169走	23/10/14(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	30→23	6→7	47
第170走	23/11/18(金)	箱根町立郷土資料館	5	2	39
第171走	23/12/16(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館⇒箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	50→65→17	5→9→4	0
第172走	24/1/20(金)	町立湯河原美術館⇒MOA美術館	16→13	4→4	0
第173走	24/2/3(金)	小田原フラワーガーデン⇒鈴廣のかまぼこ博物館	6→6	3→2	0
第174走	24/3/2(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	7→11	3→10	0
第175走	24/4/20(金)	小田原市郷土文化館⇒彫刻の森美術館	14→5	5→3	0
第176走	24/5/18(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	26→26→26	7→7→7	0
第177走	24/6/21(木)	箱根マイセンアンティーク美術館⇒町立箱根芦之湯フラワースセンターとその周辺散策	24→8	3→3	0
第178走	24/7/6(水)	箱根町立箱根湿生花園⇒ポーラ美術館	26→55	4→4	0
第179走	24/8/23(木)	箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	7→11	3→3	0
第180走	24/9/5(水)	箱根ビクターセンター⇒箱根ガラスの森美術館	13→31	4→14	0→40
第181走	24/10/17(水)	真鶴アートミュージアム⇒真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	7→7→7	7→6→6	0→42→42
第182走	24/11/15(木)	小田原城⇒箱根町立郷土資料館	22→1	4→4	0
第183走	24/12/13(木)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	34→14	4→3	40→40
第184走	25/1/17(木)	人間国宝美術館⇒町立湯河原美術館	18→9	5→5	0
第185走	25/2/6(水)	小田原フラワーガーデン⇒すどう美術館⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	6→15→7	4→3→4	0
第186走	25/3/1(金)	江戸民具街道⇒生命の星・地球博物館	11→9	13→9	0
第187走	25/4/19(金)	町立湯河原美術館⇒MOA美術館	6→15	2→3	0
第188走	25/5/17(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	28→28→28	11→11→11	35→35→35
第189走	25/6/7(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	40→16→17	14→11→11	0→43→43

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

第190走	25/7/10(水)	箱根ガラスの森美術館⇒箱根ビクターセンター	66→25	10→8	0
第191走	25/8/23(金)	箱根町立箱根湿生花園⇒生命の星・地球博物館	22→24	5→3	0
第192走	25/9/13(金)	彫刻の森美術館⇒ポーラ美術館	22→60	8→20	0
第193走	25/10/17(木)	真鶴アートミュージアム⇒真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	28→31→25	5→4→8	0
第194走	25/11/15(金)	箱根町立郷土資料館⇒小田原城⇒小田原文学館	11→25→21	6→5→6	0
第195走	25/12/17(火)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	30→17	10→11	0
第196走	26/1/24(金)	松永記念館⇒人間国宝美術館	14→11	8→7	0
第197走	26/2/28(金)	小田原フラワーガーデン⇒鈴廣のかまぼこ博物館	17→6	6→7	0
第198走	26/3/26(水)	すどう美術館⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→7	4→4	0
第199走	26/4/25(金)	箱根駅伝ミュージアム	1	2	0
第200走	26/5/16(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	34→34→34	19→19→19	0
第201走	26/6/13(金)	神奈川県立恩賜箱根公園⇒箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	13→11	7→5	0
第202走	26/7/9(水)	箱根ガラスの森美術館	31	8	0
第203走	26/7/11(金)	すどう美術館⇒松田山ハーブガーデン	3→7	4→4	0
第204走	26/8/29(金)	箱根町立箱根湿性花園⇒箱根ビクターセンター	17→15	4→4	0
第205走	26/9/25(木)	真鶴アートミュージアム⇒真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	8→17→14	4→5→6	0
第206走	26/10/24(金)	箱根町立郷土資料館⇒小田原文学館⇒小田原城	11→14→18	5→5→6	0
第207走	26/11/7(金)	彫刻の森美術館⇒ポーラ美術館	17→70	3→5	0
第208走	26/12/5(金)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	40→12	6→8	0
第209走	27/1/23(金)	湯河原町立湯河原美術館⇒人間国宝美術館	14→18	3→3	0
第210走	27/2/27(金)	小田原フラワーガーデン⇒鈴廣のかまぼこ博物館	20→3	7→1	0
第211走	27/3/20(金)	徳富蘇峰記念館⇒小田原市郷土文化館⇒神奈川県立生命の星・地球博物館	22→11→21	3→3→3	0

* 高校生は場合により時間と日程をずらして実施した。

3.9. 来館者アンケート

来館者の年齢層やグループ構成、来館の目的、広報物の効果を調べるために来館者を対象としたアンケート調査を行った。

〔調査方法〕

1階エントランスホールに机を配置し、アンケート用紙を配架、自由記述により実施。

〔調査期間と時間〕

平成26年8月2日（土）から8月10日（日）まで（午前9時から午後4時30分まで）

〔回答数〕 168枚

〔調査項目〕

年代／同伴者／来館回数／居住地／来館目的／来館のきっかけ など

3.9.1. アンケート結果

アンケート結果は下記のとおりである。

年代

小学生	77
中学生	17
高校生	1
大学生	12
10歳代	1
20歳代	7
30歳代	16
40歳代	22
50歳代	4
60歳代	4
70歳代	7

だれと来館されましたか？

ひとりで	1
ともだちと	28
かぞくと	112
団体旅行で	27

来館は何回目ですか？

初めて	99
2回目	30
3～5回目	23
6～10回目	6
11回以上	7
無回答	3

来館の目的（複数回答可）

常設展	82
特別展	88
シアター	36
講座	28
ライブラリー	25
そのほか	21

おすまいは？

小田原市	49
横浜市	18
南足柄市	9
川崎市	7
秦野市	5
伊勢原市	5
綾瀬市	5
山北町	4
鎌倉市	4
相模原市	4
藤沢市	4
座間市	3
湯河原町	2
厚木市	2
平塚市	2
箱根町	1
大磯町	1
海老名市	1
茅ヶ崎市	1
二宮町	1
松田町	1
大和市	1
県内未記入	2
神奈川県内合計	132
東京都	26
静岡県	5
山梨県	2
埼玉県	1
千葉県	1
群馬県	1
県外未記入	2
神奈川県外合計	36

来館のきっかけ（複数回答可）

ポスターを見た	39
チラシをもらった	71
招待券をもらった	25
HPを見た	40
割引券をもらった	15
雑誌で見た	2
知人から聞いた	15
ツイッターで知った	7
新聞を見た	2
そのほか	12

【ポスターをご覧になった方へ】

ポスターを見た場所（複数回答可）

小田急線の駅	25
箱根登山線の駅	4
国立科学博物館	3
そのほか	3

【チラシを入手された方へ】

チラシの入手先（複数回答可）

学校	69
小田急線の駅	6
宿泊施設	3
そのほか	2

【割引券を入手された方へ】

割引券の入手先

宿泊施設	11
駅	8
学校	1
箱根登山鉄道の駅	5
小田急線の駅	27
国立科学博物館	3
そのほか	4

来館にあたり HP をご覧になりましたか？

見た	86
見ない	69
無回答	13

4. 調査研究関連資料

4.1. 研究成果

早川水系を中心としたカワネズミ (*Chimatogale latycephala*) の生息状況について

〔研究の種類〕 博物館基礎研究 (個別研究)

〔研究期間〕 2013~2014年度 (2年計画の2年目)

〔研究担当者〕 広谷浩子

〔研究内容〕

報告者は平成17年より、博物館周辺の哺乳類の生息状況について野外調査を行ない、標本調査をもとに過去の分布状況も把握して、両者の結果の照合も行なってきた。

その結果、箱根地域全体の哺乳類相を以下の3つの観点から集中的に調査することが必要であるという結論に至った。

①箱根に侵入した種が定着するか？

②過去の侵入種がその後どうなったか？

③低密度で生息する希少種はこのまま生息できるか？

本研究は観点③にもとづく調査として始まった。カワネズミは、清流域に生息する小型の食虫類で、水中を泳ぎながら魚や水生昆虫を捕捉して食べる。神奈川県では、丹沢と箱根だけで生息が確認されているが、生息密度はあまり高くない。捕獲調査が集中的に行なわれ、生息が確認されている酒匂川水系に対し、早川水系では確認例は極端に少ない。

当館では、神奈川県産と記録されている標本をいくつか所蔵しているが、このうち早川水系産はわずか2点のみで、50年以上も前の記録となる。箱根の哺乳類相全体を把握する上でも、カワネズミの集中調査は重要である。

そこで、餌を利用したセンサーカメラ記録法によって、早川水系の5地点で調査を行なった。調査地は、標本採取地から近いこと、水量が豊富で、支流が数多く流れ込むことなどを条件に5地点に絞った。

その結果、カワネズミの生息は確認できなかった。当館が所蔵する標本の採集地は、箱根町の宮城野付近に限られているが、この地域は現在、水質汚染がはげしい。また、他の調査地では、水量が天候によって劇的に変化するため、安定した採食場所にならないと予想された。

このように、当初予想していた以上に、カワネズミの生息密度は低く、厳しい状況にあることがわかった。

今後は、新たな調査方法もふやしながら、調査を継続すると共に、情報収集にもつとめ、早川水系の特徴の解明につとめたい。

東アジアにおけるトガリネズミ類 (真無盲腸類) 化石の分類学的研究

〔研究の種類〕 博物館基礎研究 (個別研究)

〔研究期間〕 2012~2014年度 (3年計画の3年目)

〔研究担当者〕 大島光春

〔研究内容〕

これまでに日本産第四紀真無盲腸類化石は洞窟・裂罅堆積物から産出する (シントウ) トガリネズミ、チビトガリネズミ、カワネズミ、ニホンモグラジネズミ、シマトガリネズミなどが報告されている (河村, 1991)。日本ではトガリネズミ類、あるいは近縁な化石は新第三紀からの産出がほとんど知られていなかったが、国立科学博物館に瑞浪層群中村層産の標本が保存されていることがわかったので、この標本について検討した。

1995年2月、岐阜県可児市土田付近の木曽川河床から、小型哺乳類の左下顎骨の化石が発見され、国立科学博物館に寄贈された (標本番号 NSM PV-20155)。この標本を検討した結果、東アジア初となる *Plesiosorex* 属であることがわかった。周辺からは、ビーバー科の *Youngofiber sinensis*, cf. *Anchiteriomys* sp., エオミス科の *Megapeomys repenningi*, など小型哺乳類が多数見つかる。この付近は粗粒~細粒砂岩、シルト岩、泥岩の互層からなり、可児層群中村層の上部とされている。中村層の年代は、19.6~18.4 Ma (鹿野, 2003)、上位の平牧層は 19.3 ± 1.5 ~ 15.5 ± 2.0 Ma (笹尾ほか, 2007)、18.4~17.0 Ma (鹿野, 2003) とされている (いずれも FT 年代)。これらから産出層準の年代を約 18.5 Ma と推定している。

この標本では、Coronoid process は母岩に印象が残るのみだが、他はほぼ完全に保存されている。歯はi2が完全で、p3、は形態が確認できる。p4、M1 は大きく破損している。p1-2、m2-3 は失われ、歯槽のみ確認できる。PV-20155 の特徴は、大きい (i2 - Angular process が 30 mm 以上)、Coronoid process が前傾している、p2-3 の歯根は1本などである。これらの特徴は PV-20155 が *Plesiosorex* 属であることを示唆している。アジア産プレシオソレックス科では *Plesiosorex aydarlensis* (E.M. Mioc.), *Pseudoneurogymnurus shevyrevae* (E. Olig.), *Pakilestes lathrius* (M.Eoc.), *Ordolestes ordinatus* (E. Eoc.) が知られている (Ziegler, 2009)。つまり前期から中期中新世のアジアにおいて、プレシオソレックス科では *Plesiosorex* 属以外の産出が知られていない。以上のことから、PV-20155 を *Plesiosorex* sp. と同定した。引き続き種の議論を進める。

この発見は、*Plesiosorex* 属ではアジアで2例目、東アジアでは初である。アジアの1例目はカザフスタン南東部 (Kordikowa, 2000) である。

神奈川県におけるムササビの分布状況の変化

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度 (1年計画)

〔研究担当者〕 青木雄司

〔研究内容〕

1. 既存資料の調査を行った。
2. 市民参加調査の手法について検討を行った。
3. 県北部（相模原市内）を中心に分布調査を行った。

神奈川県におけるコウモリ類の分布について

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 山口喜盛

〔研究内容〕

丹沢と鹿児島県の奄美大島で捕獲調査を行った。

調査にはハートトラップとカスミ網を使用し、捕獲した個体は種を同定、計測して放野した。なお、捕獲には環境省と神奈川県および鹿児島県より学術捕獲許可を得て行った。

丹沢ではハートトラップと枯れ葉によるトラップでコテングコウモリを記録した。また、キクガシラコウモリの集団ねぐら（県内で唯一）とコキクガシラコウモリの集団越冬地（県内最大数）を確認した。

奄美大島では、ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウコテングコウモリ、モモジロコウモリ、コキクガシラコウモリの4種を記録した。

県西部において、民家を利用するヒナコウモリの越冬環境を調べ、少しずつだが利用形態がわかってきた。

ウシガエルが消化していたカエルの解析

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 丸野内淳介

〔研究内容〕

広島県東広島市の広島大学構内に生息するウシガエルから採集した胃内容物の一部に含まれるカエルのうち、頭胴部の残る2個体の肩甲骨の形態を同所に生息するカエルのものと比較したところ、ニホンアカガエルと同定された。以前作成した検索表にウシガエル幼体、ニホンヒキガエル幼体、ツチガエルを加えて検索表を再構成した。

（1）肩甲骨の内側、鎖骨との接合部の背側が二又している。→（2）

肩甲骨の内側、鎖骨との接合部の背側が二又しない。
→（3）

（2）肩甲骨の後縁の上肩甲骨側が角張る。→ニホンヒキガエル※

肩甲骨の後縁の上肩甲骨側が角張らない。→ニホンアマガエル

（3）肩甲骨の両端、鎖骨と上肩甲骨との接合部の幅は肩甲骨全長の1/4程度。→ シュレーゲルアオガエル

肩甲骨の両端、鎖骨と上肩甲骨との接合部の幅は肩甲骨全長の1/3程度。→（4）

（4）肩甲骨の上腕骨関節窩凸部よりも、より鎖骨側の

端部が後側に広がる。→ヌマガエル

肩甲骨の上腕骨関節窩凸部よりも、より鎖骨側の端部が後側に広がらない。→（5）

（5）肩甲骨の稜は、鎖骨側から前縁側に最接近してから上肩甲骨側へ明確に形成される。→ツチガエル

肩甲骨の稜は、鎖骨側から前縁側に最接近してから明確でなくなる。→（6）

（6）肩甲骨の後縁部の湾曲が小さい。→ニホンアカガエル

肩甲骨の後縁部の湾曲が大きい。→（7）

（7）肩甲骨の鎖骨側の稜は丸く盛り上がって発達する。
→ウシガエル

肩甲骨の鎖骨側の稜は比較的なだらかである。→トノサマガエル

※長野県の亜種アズマヒキガエルを使用した。

アメリカザリガニ生息地におけるアカハライモリの負傷状況の調査

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 丸野内淳介

〔研究内容〕

2012年にアメリカザリガニの生息情報を得た広島県のアカハライモリの生息地で2012年12月30日の夜間にアカハライモリとアメリカザリガニを採集し、アメリカザリガニが生息していなかった1999年から2002年の状況（以降、以前）と比較した。

12月のアカハライモリの目視個体数の最大値は以前は47～101個体であったのに対し、2012年は28個体であった。また、12月下旬の採集調査初日のCPUE（Capture Per Unit Effort、単位努力量当たり捕獲個体数：捕獲個体数／（人数×時間））も、以前は24～36捕獲個体数／（人数×時間）であったのに対し2012年は15個体／（人数×時間）であり、2012年は、以前よりアカハライモリの個体数が減少している傾向があった。なお、2012年のアメリカザリガニについては目視数が54個体、CPUEは8個体／（人数×時間）であった。

2012年に採集されたアカハライモリは雄33個体中31個体（93.9%）、雌11個体中8個体（72.7%）が頭部、四肢、尾部のいずれかを負傷していた。これに対し、以前の12月下旬の採集調査初日の負傷個体は、雄では31～132個体中1個体（0.8%～3.0%）、雌では1999年に7個体中2個体（28.6%）である以外は、16～25個体中0個体（0.0%）であり、2012年の負傷率は、1999年の雌を除いて以前と有意差があった（Sequential Bonferroniにより調整されたFisherの正確確率検定、 $P<0.05$ ）。

よって、アメリカザリガニの生息地のアカハライモリ個体群では負傷率が増加し、個体数が減少していくものと考えられた。

酒匂川流域における両生類の分布調査

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 長谷川嘉則

〔研究内容〕

私は、酒匂川流域におけるトウキョウダルマガエル集団またはツチガエル集団の分布調査を続けている。これまで、ツチガエルにおいては数地点に於いて生息が確認出来、トウキョウダルマガエルについては静岡県駿東郡においては数地点に於いて生息個体数の多い地点を確認出来たが、酒匂川流域においては平野部から最上流域に至るまで一箇所も生息を確認することが出来なかった。また、昨年の調査では、カジカガエルの生息も確認できた。本年度は7月上旬に調査を行い、目視および鳴き声による確認を行った。昨年までに確認された生息地点全てにおいて、アマガエル、ツチガエル、カジカエル、トウキョウダルマガエルの生息を確認した（長谷川、2010, 2011, 2012, 2013, 2014）。また、カジカガエルについては、昨年確認した南足柄市酒匂川上流よりも、さらに上流の地点において鳴き声の確認ができた。

伊豆諸島—小笠原群島間における浅海性魚類の生物地理学的研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 栗岩 薫

〔研究内容〕

南北に長く伸びる日本周辺海域の浅海性魚類相は世界的に見ても特異である。その理由は、沿岸を流れるいくつかの海流によって寒帯・温帯・亜熱帯および熱帯性という異なる起源をもつ種群が併存すること、そして内海である日本海、開けた太平洋、大陸棚上の琉球列島、一度も大陸と陸続きになったことのない海洋島など、多様な地理的環境が存在することにある。こうした南日本の浅海性魚類の多様性を知る上で重要な海域の一つが、伊豆諸島から小笠原群島にかけての海域である。この海域では、北部では本州沿岸を東進してきた強大な黒潮が大蛇行し、フィリピンや琉球列島から亜熱帯・熱帯性魚類を、本州沿岸から温帯性魚類をそれぞれ運んでくる一方、南部ではマリアナ弧から伊豆-小笠原弧を経由して太平洋上の魚類が移住・分散してくると考えられている。この海域の魚類相は、伊豆大島、八丈島、小笠原で詳細な報告があるものの、約713kmにもおよぶ八丈島-小笠原間の海域については空白のままであった。

本研究では、1) 伊豆諸島と小笠原群島間に存在する無人島群、豆南諸島の魚類相を初めて明らかにすること、2) ハタ科アカハタを用いた生物地理学的研究を行うこと、この二つから、当該海域の浅海性魚類の多様性を明らかにすることを目指した。

1) 豆南諸島の魚類相については、過去（2010年および2012年）に行った二度の採集調査の結果をまとめ、調

査で得られた11目46科88属139種430個体の標本について精査・同定を行い、標本写真（186点）および調査の際に撮影した水中写真（99点）を魚類写真資料データベースに登録した。これらを論文としてまとめ国際誌に投稿し、受理された（Kuriwa, K., H. Arihara, S.N. Chiba, S. Kato, H. Senou and K. Matsuura, 2014）。

2) アカハタを用いた生物地理学的研究では、mtDNAのcytochrome b遺伝子および調節領域を含む約2 kbpの配列を用いた系統解析および集団遺伝学的解析から、遺伝的に大きく分化した三つの種内系統、日本周辺海域を含む西部太平洋域に広く分布する“西部太平洋”系統・日本周辺海域で更新世に分化したと推定される“日本”系統・小笠原から高頻度で検出される未解明の系統、が存在することが明らかとなった。伊豆-小笠原海域では、南北両方向の分散・移住が推定され、その原因として、当該海域における黒潮の大蛇行に起因する仔稚魚の分散、伊豆-小笠原弧を伝っての移住が考えられた。これらの結果を論文にまとめて国際誌に投稿し、受理された（Kuriwa, K., S.N. Chiba, H. Motomura and K. Matsuura, 2014）。

ウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae*) の産卵行動について (3)

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 加賀玲子

〔研究内容〕

1. 背景・目的

ウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre) は、2004年発行の神奈川県昆虫誌には以下のように記述されている「ウマノオバチは横浜の名前はついているが、神奈川県では既にほぼ幻のハチである」（長瀬博彦, 2004. ハチ目（アリ科を除く）. 神奈川県昆虫談話会編, 神奈川県昆虫誌, pp. 1241-1326. 神奈川県昆虫談話会, 小田原）。しかし、近年、神奈川県内では本種のクリ園での目撃例が増えた。これは、人為的環境であるクリ園に入り込んだ、ウマノオバチの寄主となるミヤマカミキリ (*Massicus raddei* (Blessing)) の動向と深い関係があるはずである。クリ園に生息するもう一種の大型カミキリムシであるシロスジカミキリ (*Batocera lineolata* Chevrolat) の生息状況と比較することにより、ミヤマカミキリがどんな状態の木を選んで産卵しているのか、今後、木の状態により生息状況はどのように変化して行くのか、つまりはそのことが、ウマノオバチの生息状況がどのように変化して行くのかを予測することになると考えた。

2. 調査方法

2013年に神奈川県秦野市のクリ園の木120本余りの地上高30cmの幹周りを測り、シロスジカミキリとミヤマカミキリの食害の状況を調査した。2014年、一年経て状況はどのように変化したかを再調査した。

2種カミキリムシの幼虫は材中であっても、排出する

木屑によって区別は可能である。ただし、シロスジカミキリは通常3年目の秋には蛹化し、材中で成虫となりそのまま越冬することから、木屑を排出しているかどうかの判断を前年と比較するためには調査の時期を同じにする必要がある。これは2013年と同じ8月末にした。

また、木の樹齢を表す場合、胸高直径を用いるのが通常であるが、以下の理由により地上高30cmの幹周りとした。

- ・栽培クリは種類がいくつかあって、中には実を多くつけるようにか株立ちになるような種もあり、必ずしも胸高直径が樹齢を反映しない

- ・シロスジカミキリは産卵時に幹を傷つける「産卵加工」をし、その部分は形成層が過剰に生産され幹が膨らんだ状態になる。そのわずかな変化も記録したいため、この一連の（ウマノオバチ、シロスジカミキリ、ミヤマカミキリ）調査では幹周りに統一した

3. 結果

- ・シロスジカミキリとミヤマカミキリでは好む木の太さが異なり、シロスジカミキリは周囲長30～45cmの木に最も多く産卵し、ミヤマカミキリは周囲長50cm以上の木に多く産卵する

- ・2013年には食害がなく、2014年に新たにシロスジカミキリの食害が確認された木は2本であった

- ・同じく2013年には食害がない、またはシロスジカミキリの食害のみ確認されていて、2014年に新たにミヤマカミキリの食害が確認されたのは7本であった

- ・2013年に調査した125本中、2014年になって立ち枯れた、あるいは幹部分が折れた木は23本であった

- ・新しく植栽されたばかりの苗木にはシロスジカミキリ、ミヤマカミキリともに産卵はできない

- ・わずか1年でこのような変化はおきる

4. 考察

上記の結果の統計学的手法を用いた解析は現在進行中である。

これまでの観察から、ミヤマカミキリ幼虫とシロスジカミキリ幼虫の摂食方法には違いがあり、そのことにより、産卵するために選択する木の状態も異なっている。シロスジカミキリは産卵加工を行い、木の治癒作用により過剰に作り出された形成層部分を幼虫が摂食する。そのため治癒力のある樹勢が高い木を選択し産卵する。それに対してミヤマカミキリは樹齢やあるいはシロスジカミキリの食害により、樹勢が衰えた木を選択する。「シロスジカミキリの産卵加工の意味と幼虫の栄養摂取：シロスジカミキリは偉かった」（日本応用動物学会2012：近畿大学 加賀・日下部・岩田） また、新しく植栽された苗木にはシロスジカミキリもミヤマカミキリも産卵はしない。

近年、農家の高齢化や獣害の増加によって、クリの実の収穫を目的としないまま放置されているクリ園が増えた。樹勢が衰えた木がそのままの状態で放置されることにより、ミヤマカミキリのクリ園内での個体数が増

え、そこに自然林の中に広く薄く生息していたウマノオバチが寄生蜂として入り込んだように思われる。しかしながら、時間の経過とともに、幼木→シロスジカミキリ幼虫の食害→シロスジカミキリ幼虫とミヤマカミキリ幼虫の混在する木→ミヤマカミキリ幼虫のみが生息する木→枝折れや樹皮割れにより早まった枯れ死 という現象がおきていて、ミヤマカミキリも産卵木として選択しない、枯れたあるいは枯れる寸前の木が目立つようになって来た。このことから、ミヤマカミキリの寄生蜂であるウマノオバチは場所を限って見て行くと、現在のままの個体数は維持できないと思われる。

引き続き、ウマノオバチの産卵方法、寄主の探索方法、飛翔範囲などについて観察を続けて行きたい。

神奈川県産R D種の蝶類の調査研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 中村進一

〔研究内容〕

神奈川県内における蝶類のうち、R D種（レッドデータ種）に選定されている種について、神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の現状把握に努め、その衰亡の要因について調査する。これまでの研究で横浜市内における状況はほぼ把握できた（中村、2001、神奈川虫報、（133）：1-53；2003、神奈川虫報、（144）：1-14）ので、今後は横浜市以外の地域を中心に調査を進めたい。

なお、本研究の目的の1つであった神奈川県内のR D種の選定については、2006年に発行された「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」において、中村・高桑の連名で公表済みである。今後も、レッドデータブックの改訂を視野に入れて調査を進めたい。

つぎに、2008年前半にR D種の1種クロツバメシジミの生息地が環境悪化との情報を得、視察に向かった。唯一、生息が近年まで確認されている地でも、食草となるツメレンゲの衰退が目立ちこのままではクロツバメシジミの生息が危ぶまれるので、まずは食草保全をすることを思いついた。保全方法の一つにツメレンゲ自生地周囲の環境保全のため、雑木の枝払い、周辺の背丈の高い草取りを行うこととし、その許可を管理する土木事務所に許可申請を行った。結果、2008年9月9日に現地（ツメレンゲ生息地）で事務所関係者複数人と会い、目的と作業方法の説明をし、了解を得たので、10月26日作業協力者と私の2人で前出の作業をし、ツメレンゲの育成の作業を実施して助成をした。結果、ツメレンゲの株は大きく育ち、株数も増えて、2009年4月には、その自生地でクロツバメの姿が確認された。しかし、その後、経過は芳しくなく2009年夏以降から2010年には私自信は確認していない。ツメレンゲも除々に大きな株は減り、株も全体に少なくなってきた。それでも2012年には僅かな個体が確認されたが、発生時期に必ず確認される訳ではな

く、危機的な個体群によって継続されていると考えられ絶滅危惧ⅠA類のランクは変更できない。今後とも、その経過を継続的に観察しつつ、本種の確認に専念したいと思っている

つぎに、本県では山梨県との県境付近にのみ生息するキマダラモドキの生息環境が近年悪化（雑木、灌木の繁茂により、林内空間の消失）しているとの情報を得たので、その生息地の視察と環境整備を早急に計画して、まずは、生息確認をすることを目的としたい。上記以外の絶滅危惧ⅠA～ⅠB類、情報不足種のホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、ムモンアカシジミ、キマダラツバメシジミ、シルビアシジミ、ホシミスジ、オオミスジなどは近年、生息を確認する情報がないので、視察を実行し、聞き取り調査を含め、継続的な調査をして実施したい。

ガロアムシを中心とした地下間隙の食物網について

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 舘野 鴻

〔研究内容〕

ガロアムシは山地の沢筋の石や倒木下、落ち葉の下、堆積した礫の間隙、または洞窟など暗黒で高い湿度が維持されている空間に生息している。高温と乾燥には非常に弱い。肉食とされており、飼育下での餌はミールワームなど昆虫の幼虫をちぎって与えることが多い。非常に俊敏な上に行動圏が地表の落葉層下か地下の暗黒下なので、野外での行動の観察は難しく、ガロアムシの食性を野外で観察することは極めて困難であり未知の部分が多い。

1. 目的

ガロアムシに餌動物を与え好みや反応を観察し、餌動物の食性や生態を調べる事で間接的にガロアムシの野外での食性に関連した行動を推測していきたい。付随して、野外で見られた行動から推測できることや、ガロアムシを捕食する天敵についても調べ、ガロアムシを軸に地下間隙という環境の食物網を明らかにしたい。

2. 方法

ガロアムシの採集は地表堆積物や礫を鍬で掘り起こして行う。地下生物の採集時には、地下間隙断面の観察も行う。

現れる地下生物を採集し、これを飼育下のガロアムシに与える。ガロアムシはよく共食いをするため、飼育シャーレ1つにつき1個体を入れて飼育した。シャーレは直径68mm、高さ30mmの円筒形、透明プラスチック製のもので、5mmの厚さで石膏を流して底材とし、常に適度な湿気を与えた。

飼育は家庭用冷蔵庫の野菜室で行った。冷蔵庫内の温度は平均7℃であった。

餌動物は、大きめのものは現地で別容器に入れて持ち帰り、現地で採集が困難な微小のものは土壌ごと持ち帰

り、ツルグレン装置で餌動物を抽出した。餌動物も冷蔵庫内で保管した。

ガラスケースに礫を入れ、地下間隙を模した飼育容器でも平行に観察した。この中にはガロアムシ2個体、クガビル、ババヤスデ、タカチホヘビ、大型ムカデ類、ジュンサイオオナガゴミムシ、アシナガアリ、イイヅカミミズなどを入れて経過を観察した。

3. 結果

2014年5月、西丹沢小菅沢付近に於いてガロアムシを成虫♂1頭、若虫4頭採集し飼育を行った。

ガロアムシが食べたものは小型のミミズ、各種甲虫の幼虫、アブ類の幼虫、大型ムカデ類の幼体、ジムカデ、ハサミコムシ、ハネカクシの一種、ガロアムシであった。

食べなかったものは大型のケダニの一種、死んだミミズ、大型のミミズ、大型のムカデ、ゴミムシ類、ヤスデ類、死んだハエアブ類の幼虫、ツチカメムシ、クモ類、アリ、ヒメフナムシであった。

絶食させたガロアムシでは、冷蔵庫内で2ヶ月生存した。

冷蔵庫は屋外に置いてあったのだが、8月盛夏に故障、冷蔵庫中の生物類は一日のうちにすべて死滅してしまった。その後各所でガロアムシの採集を試みたが思うように採れず、観察が中断した。2015年3月、相模原市で採集を試み成虫♀1、若虫3頭を得ることができた。現在は新しい冷蔵庫を購入し、観察を継続中である。

餌動物に関しては、餌として与えているために現在詳しい同定ができていない。

ガラスの飼育容器では、ガロアムシは礫の間隙を俊敏に走り回り、天敵の可能性のある中型～大型ムカデやジュンサイオオナガゴミムシなどに会っても素早く逃げ、噛まれるようなことはなかった。しかし、ガロアムシ同士が会おうと共食いを行う事があった。タカチホヘビ、イイヅカミミズ、ババヤスデは飼育が難しく、数日で死んだ。

野外の観察は生息地の地下間隙環境を破壊しながらとなり、その断面を見る事しかできない。一気に崩さないと足の速いものは間隙の奥の方へ逃げてしまい、しかし一気に崩すと生息環境をつぶさに観察する事ができない。また、一度破壊してしまった地下間隙環境は、経験的に回復に一年以上はかかるように見える。そのため、安易に採集、観察を行えないという問題がある。

4. 考察

ここまでの観察では、ガロアムシは昆虫のウジ虫型の柔らかい幼虫や、動きの遅いハサミコムシを好んで食べていた。ガロアムシ自体もこれに当てはまる。また、長さはガロアムシよりはるかに長い体の細いジムカデもよく食べた。この食べ方は、まず胴体を素早く噛み切り、ジムカデの頭部に噛まれないようなのか少し距離を置き、動きが鈍って弱ったところを食べ始めた。ガロアムシの口器はそれほど大きくないが、この口器で効果的に致命傷を与えられるような生物が、結果的に餌とし

て適当なものになっている。食べなかった動物は、ガロアムシの口器では致命傷が与えられないようなものが多く、または俊敏であり逃亡が可能であったように見える。捕食されたハネカクシの一種は、体は硬いがガロアムシのひと噛みで胴体が噛み切れ動きが止まり喰われるに至った。噛みかかる動作は非常に俊敏で、ガロアムシ並みの素早さを持っていないと逃げる事はできないだろう。ハエアブ類の死んだ幼虫や死んだミミズは食べなかったが、新鮮なものを好むのであろうか。

ジムカデや昆虫の幼虫、小型のミミズなど捕食した動物の食べ残しは、アリやメクラチビゴミムシなどのゴミムシ類が食べていた。

野外生息地で得られた知見としては、ガロアムシの成虫や齢数の高いものほど地表浅くにおり、齢数が低く体長が小さいものほど地下深くで見られる傾向があった。これは間隙の大きさや、空間の乾燥に対する耐性によるのではないと思われる（成虫は若虫に比べ乾燥に強い）。

採集、観察を行ったこれまでの地下間隙の生物相は、礫間隙のない腐植土層や土壌相に比べて貧弱な印象である。絶食に耐えられる性質はこういうところにもあるのだろうか。

地下間隙にはイイツカミミズの通ったトンネルが無数にある。この坑道は粘土できれいに整形されたように整っている。クガビルもミミズを追いこのトンネルを通っているのではないだろうか。トンネルの周囲には所々糞がある。この糞にヒメミミズや甲虫類と思われる幼虫が多くいる。糞には菌類の繁殖も顕著で、トビムシやダニも見られる。坑道を歩くゴミムシも目撃した。大型のミミズのトンネルが地下間隙に住む生物にとって食性面でも空間面でも重要であるように見えることから、ここにも焦点を当ててみたい。微細なものも含め、個々の動物の同定や生態について、少しでも解析を進めたい。

ガロアムシの天敵について、過去に一度飼育下で観察したことがある。今後これを再検証しようと思う。

神奈川県をタイプロカリティとするタケ・ササ類の比較分類学的研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 支倉千賀子

〔研究内容〕

イネ科タケ亜科の植物は植栽起源のものも含め日本には13属95種7亜種60変種62品種（鈴木，1976）が生育するとされ、神奈川県内には19種が分布し、また、神奈川県を基準産地とする種は4種が記載されている（城川・矢崎，2001）。これらは広分布種を含め属間でも形態が類似しており現地での識別が難しい分類群となっている。

また、生育地から切り取られ部分となった標本ではさらに同定が難しく、本館が所蔵するタケ・ササ類の未同定標本は約800点におよぶ。

県内外のタケ・ササ類の標本および生育個体を比較することにより、形態のまとまりの認識やタイプ標本の確認を行い、県内と関連地域に生育するタケ・ササ類の種の実態を明らかにし、タケ・ササ類のわかりやすい同定検索キーの構築を進めることを本研究目的とした。

本年は神奈川県を基準産地とするヤマキタダケ *Arundinaria yamakitensis* Makino について、東京大学総合博物館准教 池田 博 博士を共著者とし植物研究雑誌に論文を投稿して受理された（2015.1）。その際に本館の画像標本データを使用した。

また、これまでに本館が所有するタケ亜科の未整理標本のうち約300点を同定整理し比較研究に供した。

本州中部の変形菌相の研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 矢野倫子

〔研究内容〕

本研究では、本州中部の特に採集記録が少ない石川県と静岡県に重点を置いて、変形菌相の調査を行い、標本と記録を残すことに努めている。平成26年春には白山と富士山の好雪性種発見に力を入れた。結果として富士山下部亜高山帯において5月から6月にかけて、今まで静岡県域では発見されていなかった好雪性種6種を確認し、富士山に於いては好雪種の発生は現時点では亜高山帯以上であることを考察した。また、日本新産のイガホネホコリ *Diderma subviridifuscum* を含む124種（原生粘菌を含む）を確認した。また、その他高山の針葉樹林に特徴的な種を多数確認している。この結果をまとめた論文は神奈川県立博物館研究報告（自然科学）44号に掲載された。この論文内容について、平成27年2月28日、日本変形菌研究会東京研究大会（於：国立科学博物館 上野）において口頭発表を行った。静岡県では、他に伊豆半島天城山付近での調査を行っており、富士山から伊豆半島の山地帯での変形菌相調査をさらに進めたい。

また神奈川県では平成25年から鎌倉市広町緑地での調査を行っている。公園化が進んでおり、道路の舗装工事、草地の刈込などによって変形菌を始め菌類の自然環境が変化しつつある。今年度はこの調査についてもまとめて報告したい。

平成26年度に行った調査は以下の通りである。

1. 石川県産変形菌調査：平成21年からの能登、加賀地方の調査に続き、小松地方において平成26年4月から10月にかけて、計4回調査を行った。
2. 富士山静岡県域変形菌調査：平成22年からの調査に続き、須走登山口、富士宮登山口などで平成26年5月から9月にかけて計6回調査を行った。
3. 静岡県天城山周辺国有林にて平成26年5月から9月にかけて計5回調査を行った。
4. 鎌倉市広町緑地にて平成26年5月から10月にかけて計6回調査を行った。

神奈川県における節足動物および両生・爬虫類腸内共生接合菌類相の解明

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 陶山 舞

〔研究内容〕

接合菌類は、陸上に進出した初期の菌群と考えられ、菌類の系統進化を考える上で重要な菌群であるが、その分類学的研究は遅れている。特に昆虫等の節足動物や両生・爬虫類の腸内に生息する生態群についてはその実態が十分に明らかにされていないため、まず種レベルでの分類学的整理が必要とされる。そこで神奈川県産の節足動物および両生・爬虫類腸内共生接合菌類相を解明することを目的とし、主に小田原市入生田の宮沢川周辺にて調査を行った。

まず節足動物腸内共生菌は水生昆虫の幼虫を採集・解剖し菌体を検出し、種同定を行った。宮沢川周辺ではハエ目アシマダラブユに *Harpera melusinae*, *Pennella angustispora* が付着することが知られる（佐藤・出川 2003, 佐藤・折原 2013）。今回同地点で主に、カワゲラ目オナシカワゲラ属幼虫、カゲロウ目フタスジモンカゲロウ幼虫について調査した。結果、オナシカワゲラ属幼虫より *Orphella* sp. が検出された。その分類形質となる胞子の形態的特徴が観察でき、以前に調査した記録とあわせて報告する予定である。また、フタスジモンカゲロウ幼虫より、現在は菌界から除外されている *Paramoebidium* sp. が認められた。また、相模川水系である寸沢嵐周辺でも調査を行った結果、ブユ属幼虫に菌体が認められたが胞子の形成が見られず同定を行うことは困難であった。今後、継続的に追加調査を行う必要がある。

次に、両生・爬虫類腸内共生接合菌は、両生・爬虫類を捕獲し得た糞を用いて調査を行った。その結果、入生田の有鱗目ニホントカゲ糞より *Basidiobolus ranarum* が得られた。この菌は両生・爬虫類の糞生菌として知られるが、入生田にも生息していることが確認された。

また、水生ではなく陸生の節足動物についてもあわせて調査を行った。節足動物を捕獲し得た糞を素寒天培地上に接種し菌の検出を試みた。入生田ではオオムカデ目に属す動物、直翅目コオロギ科幼虫を採集し、前者の糞より *Mortierella* sp. が得られた。これは神奈川県以外の地域のイシムカデ目に属す動物糞からも得られ、おそらく唇脚動物と関係があることが示唆される。また、小田原市久野では、直翅目・ハサミムシ目・ゴキブリ目に属す昆虫複数種、ゲジ目のオオゲジを採集した。その結果、カマドウマ科昆虫よりキクセラ目の未記載種が得られた。この菌は他地域のカマドウマ科昆虫からも得られ、日本に広く分布していることが考えられる。

神奈川県産ツキノワグマ頭骨の形態変異に関する研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 姉崎智子

〔研究内容〕

本研究は、神奈川県産ツキノワグマ頭骨の相対成長と形態変異を明らかにすることを目的とする。平成26年度は、神奈川県産のツキノワグマ頭骨3体より歯根のある小白歯を採取し、レプリカを作成した上で、セメント質年輪査定法により、ツキノワグマの年齢査定を実施した。その結果、KPM-NF1004421は6歳、KPM-NF1004486は1歳、KPM-NF1002706は9歳と査定された。頭蓋骨の計測点no.29（braincaseの幅）、no.3（頭蓋長）を比較したところ、3歳以上のオス、メスともに神奈川県産のクマの方がno.29が大きく、no.3が小さい傾向が認められた。標本数が少ないことから、積極的に評価をするのは現段階では難しいが、神奈川県産のツキノワグマの頭骨の方が群馬県産に比べて身近く、頭蓋の幅が広い可能性があり、今後、比較標本を整備し、検討を行ってきたい。

丹沢山地と伊豆半島の中新世の石灰岩より産出する化石群集から古環境を復元する

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 門田真人

〔研究内容〕

1. 調査研究

伊豆松崎町の中新世のサザエ類新種3種類について日本古生物学会誌Paleontological Research, vol. 18, (4月発刊号)に共著掲載された。南から来た伊豆半島の証拠としてこの3種の熱帯系種は多くの造礁サンゴ類とともに石灰岩中より共産した。同石灰岩の調査研究は継続中であり、更にサンゴ礁生物化石の産出が続いている。

2. 地学普及

県立ビジターセンター主催夏休み地学体験活動2件、県環境保全センター関連「夏休み親子探検隊」アオサンゴ探訪の開催、伊豆ジオパークガイド養成講座化石編講師、公立・私立小学校化石出前授業4件、地元公民館の地学行事1件、伊豆ジオ学び子供ツアー講師1件、秦野市自然観察員養成講座講師、伊豆松崎町立ジオビジターセンター開設準備作業と記念講演講師、伊東市ジオ7ビジターセンター開設準備に協力、仁科町ジオパーク一色枕状溶岩の整備と普及行事に協力、県立松崎高校出前授業並びに化石採集を担当、賀茂郡小学校理系教員夏の研修会講師を務め伊豆の大地の歴史を化石面から解説した。

3. 受賞報告

- 読売教育賞理科部門の団体の部優秀賞「門田先生となかま達」10年間にわたる丹沢山地の地学的価値を見つけ、紹介し、保全に取り組んできた約50人の仲間を代表して7月に読売新聞社から表彰を受けた。
- 神奈川県公園協会設立40周年記念賞奨励賞を受賞、

「丹沢化石研究会」を代表して受賞、丹沢の地学的遺産の保全。毎年1月4日（石の日）に30－40人の仲間と丹沢の谷で南から来た丹沢の証拠となる岩石・化石観察地の整備や、台風災害からの回復作業、ビクターセンサーでの普及特別活動のサポートが評価された。

山梨県富士河口湖町毛無山周辺に見られるザクロ石流紋岩岩体について

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2014年度（1年計画）

〔研究担当者〕 永幡寛三

〔研究内容〕

山梨県富士河口湖町毛無山周辺にザクロ石（almandine）を含む酸性火山岩が産することは古くから知られており、多くの研究がある（片田（1956）、戸川ほか（1996）、戸川ほか（1997）、松原ほか（2008）、田村ほか（2010））。しかし、これが岩体として分布することについては、片田（1956）が「河口湖から西湖に至る地域の石英ひん岩にザクロ石を含むものがある」と述べているものが公表されたものとしては唯一であると考えられる。

この地域のザクロ石酸性火山岩について再調査を行った結果、片田（1956）にない複数の箇所に新たな分布を確認した。これらは岩石学的特徴から三つのグループに分けることができる。本研究はこれら三つのグループの分布と岩石学的特徴をまとめたものである。

毛無山は御坂山地の東部に位置し、伊豆－小笠原孤・南部フォッサマグナ・中央構造線が密接に関係した地質形成史を考える上で重要な位置にある。山体下部は中新世中期西八代層群芦川累層の高萩玄武岩、山体上部は中

新世後期の西八代層群河口累層の十二ヶ岳火山礫凝灰岩層から成り、後にこれらに対して石英閃緑岩又は石英ひん岩が貫入した構造をなしている。

1. 分布と岩石学的特徴

毛無山周辺のザクロ石流紋岩は、毛無山東尾根、室沢川東側尾根、毛無山南尾根、および十二ヶ岳南尾根における合計25カ所の露頭として観察した。これらは岩石学的特徴から、Aグループ（ザクロ石を最大3 vol. % 含み、標高1,100m付近でWSW-ENE方向幅約2 kmにわたって観察される酸性火山岩）、Bグループ（ザクロ石を最大3 vol. %、岩片と火山ガラス状物質を含む土質状物質）、およびCグループ（ザクロ石を最大0.7 vol. %、角閃石を最大3 vol. %を含み、標高1,350m付近でWSW-ENE方向幅約3 kmにわたって観察される酸性火山岩）、の三つのグループに分けることができる。

また、各尾根の山腹面、およびこれら尾根に関する複数の沢筋には多数のザクロ石流紋岩転石が認められる。これらをグループ分けするといずれもその上部の各尾根から重力作用によって移動したものとして矛盾しないことを確認した。

2. 神奈川県立生命の星・地球博物館における2014年度の研究

A、及びCグループの代表的な薄片についてモードカウンターを用いた鉱物組成比の測定を行い、黒田・諏訪（1983）のチャートを参考にして見積もった値と照らし合わせたうえで、測定結果の確認と一部見直しを行った。また、併せて関連する文献の調査を行った。

3. 研究結果の報告

本研究は、日本地質学会地質学雑誌への投稿を進めている。

4.2. 研究成果（外部資金助成・共同研究等）

伊豆半島における海岸植物相の生態要素の解明

〔助成金の種類〕 平成26年度 新技術開発財団 第23回植物研究助成

〔研究期間〕 2014年度（単年計画）

〔研究組織〕 田中徳久（研究代表者）・勝山輝男（研究協力者）

〔研究内容〕

伊豆半島の海岸域のうち、ここでは伊豆半島東海岸の調査結果を報告する。調査対象は、海岸域の植物群落全体とするが、以下の報告では、森林群落（低木林を含む）や漁港の舗装の隙間などから得られた資料は除いた。

調査は、Braun-Blanquet（1964）ほかの植物社会学的手法により行い、調査の結果得られた164個の植生調査資料から、森林群落（低木林を含む）や漁港の舗装の隙間などの植分の調査資料を除いた144個の資料を使用し、表操作により、植物社会学的な植生単位を抽出した。また、出現種について、在来・帰化の別、本来の生育立

地などを解析した。

以下、植生単位の抽出と出現種の生態要素について、その詳細は解析段階であるが、田中（2014）および田中（2015）の内容に従い報告する。

1. 抽出された植生単位

調査した立地ごとに、抽出された植物社会学的な植生単位について報告する。

○海浜（砂浜・礫浜）：ハマヒルガオやコウボウシバ、ハマゴウなどが優占する植分の資料が得られ、ハマグルマーコウボウムギ群集とその先駆相あるいは退化相と考えられるコウボウシバーヒルガオ群落、チガヤ－ハマゴウ群集にまとめられた。

○岩場・海崖：海崖上の平坦地や岩隙からハマツメクサやハマエノコロ、タイトゴメなどがパッチ状に生育する植分の資料が得られ、ハマエノコロ－ハマツメクサ群集にまとめられた。この他、貧栄養な岩隙と多少富栄養な平坦地という両極端な場所からイワタイゲキ群集に、波

飛沫を受けるわずかに土壌が堆積した凹状地からイソヤマテンツキ群集に、岩壁からヒメオニヤブソテツ群集にまとめられた資料が得られた。

○海岸風衝地：ハチジョウススキーイソギク群集にまとめられた資料が得られた。わずかに裸地化した立地を含む草原からソナレセンブリを含む資料が得られ、ソナレセンブリ群落としてまとめられた。

○湿地：海岸における湿地環境は、塩生湿地が特徴的であるが、陸水で涵養される湿地も存在する。今回の調査では、ハンゲショウ群落、ヒトモトススキ群集、ガマ群落、ツルヨシ群集、アシカキ群落などにまとめられた資料が得られた。また、帰化植物が優占するものとして、メリケンガヤツリ群落とオランダガラシ群落が記録された。

○その他：ハマウドやラセイタソウ、カジイチゴなどの在来種を主体とする植分の資料が得られた一方、ナガエツルノゲイトウやアメリカキンゴジカなどの帰化植物を主体とする植分の資料が得られた。

2. 出現種の生態要素

本研究で用いた144個の資料には158分類群が出現した。出現した158分類群のうち、在来植物は117分類群、外来植物は41分類群で、帰化率は26.0%であった。

在来植物の本来の生育地は、海岸を主たる生育環境とする植物が54分類群、路傍や路上を主たる生育環境とする植物、マント群落を構成するつる植物がそれぞれ15分類群、淡水に涵養される湿性地を主たる生育環境とする植物が8分類群であった。湿生植物は、海岸に流入する水路や海崖下に沁みだす湧水などに涵養される立地に出現した。なお、帰化植物の中でもアメリカタカサブロウやメリケンガヤツリは湿生植物である。

海岸の植物群落に出現する在来植物において、路傍植物やマント植物が多いことは、帰化率の高さとともに、海岸の植物群落に人為的な影響が大きく及んでいることを示しているが、構成種の変遷も含め、さらに比較・検討が必要である。

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

[土地概要]		
	本館	連絡橋 EV 棟
所在地	小田原市入生田 499 番地	
敷地面積	22,460.90 m ²	153.60 m ²
地目	宅地	宅地
用途	無指定（一部住居地域）	住居地域
建ぺい率	70%（住居 60%）	60%
容積率	400%（住居 200%）	200%
現況	国道一号线と早川とはさま れ、交通の便、自然環境ともに 恵まれた位置	
[建物概要]		
	本館	連絡橋 EV 棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下 1 階地上 4 階建て	地上 2 階建て
建築面積	8,218.11 m ²	30.97 m ²
延床面積	19,020.14 m ² (地下駐車場 4,800.14 m ² 含む)	43.86 m ²
最高高さ	23.25 m	
[各階別面積]		
	面積	主要室
地下1階	5,852.14 m ²	駐車場・機械室等
1階	7,427.00 m ²	エントランスホール・SEISA ミュージア ムシアター・常設展示室・特別展示室・ 収蔵庫・講義室等
2階	2,166.00 m ²	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3階	3,017.00 m ²	常設展示室・ジャンボブック展示室・レ ストラン・実習実験室等
4階	506.00 m ²	機械室等
塔屋	52.00 m ²	
合計	19,020.14 m ²	
[用途別面積]（本館）		
エントランススペース		984.00 m ²
展示スペース		5,075.00 m ²
学習スペース		867.00 m ²
収蔵スペース		1,433.00 m ²
研究スペース		804.00 m ²
管理・その他		5,057.00 m ²
地下駐車場		4,800.14 m ²
合計		19,020.14 m ²

[建物仕上げ] 外部（本館）	
外部仕上げ	
屋根	(勾配屋根) カラーステンレス (陸屋根) アスファルト防水地下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル 及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ
[建物仕上げ] 内部（本館・主な箇所のみ）	
エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	PB下地ガラスクロスEP
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付けCL及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレートOP
[設計・施工]（本館）	
設計	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)丹青社
造成	中野設計工務(株)
施工監理	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務(株)
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降機	(株)日立製作所
展示	(株)丹青社
造成	(株)杉山組・(株)若林組・箱根建設(株)・(株)加藤組 (株)吉沢組・日本鋼管工事(株)・(株)秋山組
外構	土谷建設(株)・(有) 菊原建設
植栽	(株)加藤造園・(有) 深谷造園・栄立造園土木・緑栄造園 土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成4年10月10日～平成6年12月20日
展示工事	平成4年10月10日～平成7年 3月 1日
[設計・施工]（連絡橋 EV 棟）	
設計・施工 中野設計工務株式会社	
建築	内田建設(株)
電気	(有) 昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター(株)

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

[電気設備]		
受配電設備	受電電圧 3 相 3 線式	6.6kV 50Hz
電設備	変圧器容量	2,175kVA (乾式モールド形)
	進相コンデンサー	327kvar
	高圧母線	5 系統
	低圧幹線	98 系統
自家発電設備	原動機	ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm)
	発電機	ブラシなし交流発電機 300kVA Pf0.8 (1,500rpm)
	起動方式	直流電動機起動式
太陽光発電設備	出力電気方式	三相3線式 210V
	公称出力	7.5KW
	システム構成	系統連携型
蓄電池設備	種類	シール形ボケット式アルカリ電池
	公称電圧	103.2V (86 セル)
	容量	350Ah (5 時間率)
	用途	受配電機器操作用・非常灯用
電話設備	交換機	デジタル交換機
	局線容量	16 回線 (12 回線実装)
	内線容量	160 回線 (144 回線実装)
電気時計設備	親時計	水晶発振式 (出力 2 回線)
	子時計	
	アナログ式	29 台
	デジタル式	5 台
	ソーラー時計	1 台
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示	1 式
その他	身障者警報呼出表示装置・避雷針設備・インターホン設備・テレビ共聴設備	
[空調設備]		
空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式	
	中央式 各階ゾーンユニット方式+2 管式 FC ユニット併用方式	
	パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)	
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT	3 台
空調機等	ユニット型空調機	16 台
	ファンコイルユニット	50 台
	ビルマルチエアコン	38 台
	パッケージエアコン	7 台
換気設備	第 1 種及び第 3 種	給気ファン 7 台 排気ファン 43 台
自動制御設備	中央監視装置 1 式	
[衛生設備]		
受水槽	75 t	
雨水槽	300 t	
中水槽	28 t	
中水処理装置	5t/h 1 台	1 台
加圧給水ポンプユニット	540 ℓ /min	1 組 (上水用)
加圧給水ポンプユニット	1,470 ℓ /min	1 組 (中水用)
汚水ポンプ	300 ℓ /min	2 台
雑排水ポンプ	300 ℓ /min	2 台
雨水ポンプ	1,000 ℓ /min	6 台
雨水ポンプ	200 ℓ /min	2 台
湧水ポンプ	200 ℓ /min	2 台
ガス設備		
地下 1 階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温水機レストラン、ともしびショップ等に供給		

[昇降機設備]			
1 号機	乗用 (展望用車椅子仕様)	B1F, 1F, 2F, 3F 停止	
	13 人乗り 45 m/min (電動式)		
2 号機	乗用 (車椅子仕様)	B1F, 1F, 3F 停止	
	11 人乗り 60 m/min (油圧式)		
3 号機	乗用 (車椅子仕様)	1F, 3F 停止	
	11 人乗り 60 m/min (油圧式)		
4 号機	荷物用	1F, 2F, 3F 停止	
	3,000 kg 30 m/min (油圧式)		
連絡橋	乗用 (車椅子仕様)	1F, 2F 停止	
	11 人乗り 45 m/min (油圧式)		
エスカレーター	(1200 型・車椅子兼用)	1F ~ 3F 30 m/min (電動式)	
[防災設備]			
自動火災報知設備			
	受信機 P 型 1 級	70 回線	
	防災連動制御盤	40 回線	
	熱感知器・煙感知器 1 式		
消火設備			
	屋内消火栓 40 箇所		
	屋内消火ポンプユニット	140ℓ/min 1 台	
	屋外消火栓 6 箇所		
	屋外消火ポンプユニット	700ℓ/min 1 台	
	泡消火設備 (地下 1 階駐車場)		
	薬剤量	600ℓ	
	泡ヘッド	696 個	
	泡消化ポンプユニット	1,120ℓ/min 1 台	
	移動式粉末消火器 (駐車場他)		9 台
	連結散水設備 (地下 1 階部分) ヘッド数		12 個
	誘導灯設備 (避難口・通路・階段)		165 台
	ガス漏れ警報器 検知器	12 個	受信機 1 台
非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵)			
	電力増幅器	360W	2 台
	電力増幅器	240W	1 台
	スピーカー	232 個	
排煙設備			
	排煙機 (廊下系統)	15,800 m ³ /h	1 台
	排煙機 (一般系統)	38,000 m ³ /h	1 台
ITV 設備			
	本館監視用	固定カメラ	8 台
		可動カメラ	8 台
		モニターテレビ 17 型 4 台×2 箇所	
	連絡橋 EV 監視用	固定カメラ	3 台
モニターテレビ 14 型 3 台×2 箇所			
[その他の設備]			
自動扉設備			
	エントランスホール等の出入口に設置 8 台		
自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用)			
	東側前庭 8 系統・3 階テラス 11 系統		
カスケード設備 (人工滝)			
	間口 24m 高さ 3m 水量 2.5 m ³ /min 照明付き		

5.2.2. 研究設備

[大型標本製作室]			[冷凍乾燥室]		
品名	型番（メーカー）	数量	品名	型番（メーカー）	数量
ロケットリマー（岩石粉碎機）	(IWAMOTO)	1台	大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
ジョークラッシャー（岩石粉碎機）	2002-EX（吉田製作所）	1台	中型冷蔵庫	RS-5203（日立フリーザー）	1台
大型岩石カッター（自動送り）	SC-14（ニチカ）	2台	インキュベーター	PCI-301（AS ONE）	3台
中型岩石カッター	MC-442（マルトー）	1台	凍結乾燥機	RLE II（KYOWAC）	1台
小型岩石カッター	MC-100（マルトー）	1台	[試料分析室]		
旋盤	FS450A（TOYOAS）	1台	品名	型番（メーカー）	数量
超音波洗浄器	B-62（Brainson）	1台	蛍光 X 線分析装置	Primus II（リガク）	1式
ふるい震とう器	NVS-200（C.M.T.）	1台	試料固結装置（Briquetting Machine）	MP-35（島津製作所）	1台
岩石研磨回転台	RP-5（マルトー）	2台	走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV（日本電子）	1式
卓上帯のこ台	（PROXXON）	1台	金蒸着装置	JFC-1200（日本電子）	1台
遊星ボッド型ボールミル	LA-P04（伊藤製作所）	1台	臨界点乾燥装置	JCPD-5（日本電子）	1台
解剖台		1台	炭素蒸着装置	SC-701C（サンヨー）	1台
[標本製作室]			一眼レフデジタルカメラ（ボディ）	D70（ニコン）	1台
品名	型番（メーカー）	数量	デジタルプロジェクター	V-1100Z（ブラス）	1台
マイクロカッター	MC-201（マルトー）	1台	[写真室]		
自動メノウ乳鉢	（日本地科学社）	1台	品名	型番（メーカー）	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式	撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10（オリンパス）	1台	軟 X 線非破壊検査装置	CMB-2（ソフテックス）	1台
プレバップ（岩石薄片作成装置）	MG-300（マルトー）	1台	中判カメラ	Mamiya RB67（マミヤ）	1式
プラノポール（精密研磨台）	Planopol-V（Struers）	1台	カラー撮影用照明	HMI-575（broncolor）	2台
ディスコプラン（岩石切断研磨装置）	Discoplan-TS（Struers）	1式	マクロ撮影装置	（オリンパス）	1式
10バツ（岩石試料作成用真空装置）	Epovac（Struers）	1式	一眼レフカメラ	F70, F90（ニコン）	2台
真空装置	G-50S（真空機工）	1式	レンズ用デシケーター		2台
自動染色装置	DRS-601（サクラ精機）	1台	紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor（ニコン）	1台
ミクロトーム	HM340（カールツァイス）	1台	デジタル一眼レフカメラ	D1X（ニコン）	1式
パラフィン伸展器	PS-52（サクラ精機）	1台	フィルム用冷蔵庫	MR-18-H（三菱電機）	1台
パラフィン溶融機	（アルプ）	1台	暗室用具		1式
荷重計測器	FGS-50V-L（日本電産シンボ）	1式	[化石ラボ]		
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10（日本電産シンボ）	2台	品名	型番（メーカー）	数量
デジタルマイクロスコープ	VHX-900（キーエンス）	1台	コンプレッサー	（日立製作所）	1台
透過型/反射式微分干涉顕微鏡	BX50-33-DIC、BX51（オリンパス）	2台	サンドブラスター	CH-4000（WULSUG）	1台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD（オリンパス）	1台	エアスクライパー（小型削岩機）	CP9361 他（Chicago Pneumatic 他）	4台
実体顕微鏡	SZX12（オリンパス）	1台	デンティストドリル	（Sverital）	2台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	5台	実体顕微鏡（エプソン）	SMZ-2B（ニコン）	2台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12（オリンパス）	1台	集塵機	VF-5（AMANO）	2台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A（ニコン）	1式	[実習実験室]		
ツルグレン装置	B-1（伊原電子工業）	1台	品名	型番（メーカー）	数量
植物標本乾燥機	（入江製作所）	1台	実習・研究用生物顕微鏡	CHT（オリンパス）	15台
煙蒸器	（特許理化興業）	1台	偏光顕微鏡	LABOPHOTO 2-POL（ニコン）	7台
ドラフト	（ダルトン）	2台	実習用実体顕微鏡	SZ40（オリンパス）	24台
ビデオマイクロスコープ	VMS-70（SCALAR）	1台	透過型落射光顕微鏡	BX60F（オリンパス）	2台
[化学分析室]			ツルグレン装置		1台
品名	型番（メーカー）	数量	エアサンプラー	LV-100（横河電機）	1台
精密天秤	RC210P（Sartorius）	1台	[収蔵庫]		
化学天秤	Laboratory LC4200S（Sartorius）	1台	品名	型番（メーカー）	数量
免震台		2台	電気炉	MAX1200℃（石塚電気製作所）	1台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200（Advantec）	1台	電気炉	MAX1500℃（石塚電気製作所）	1台
ビードサンブラー	NT-2100（東京科学）	1式	ボルトスライダー（トランス）	S-260-20（200V）（Yamabishi Electoric）	1台
ピストンポンプ型高圧発生装置	A1 型（トライエン지니어リング）	1式	ボルトスライダー（トランス）	S-260-50（200V）（Yamabishi Electoric）	1台
マッフル炉	STR-11K（ISUZU 製作所）	1台	パワーコントローラー	（石塚電気製作所）	1式
乾燥機（Dry Oven）	ANS-111S（ISUZU 製作所）	1台	パワーコントローラー	MODEL-SU（チノ）	1式
超音波洗浄器	UT53N（SHARP）	1台	ロケットリマー（改）	A型IWAMOTO	1台
エアコンプレッサー	PA800S（日立製作所）	1台	実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	1台
電気泳動装置	Bio-Rad 他	1式	測微計測装置		1台
サブマリン型電気泳動装置	Mupid-exU（アドバンス）	1式	[学芸部]		
凍結乾燥機	VD-31 他（TAITEC 他）	1式	品名	型番（メーカー）	数量
限外濾過器	XX80（MILLIPORE）	1台	夜間暗視スコープ	M-994（Litton Electric Devices）	1式
HPLC 装置	PU-980 他（日本分光）	1式	テレメトリー受信機	RX900（TELEVILT）	1台
吸光光度計	MPR・4Ai（TOSOH）	1台	テレメトリー受信機	FI-290MkII（ヤエス）	2台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B（TAITEC）	1台	実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	2台
冷蔵庫	SMR-120YAG（SANYO）	1台	実体顕微鏡	SMZ-10A（ニコン）	2台
遠心分離機	CFS-300, CFA-12（IWAKI）	2台	実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	1台
マルチポイントスターラー	F-6A（TAITEC）	1台	実体顕微鏡	ファールフォト EX（ニコン）	1台
ディープフリーザー	BFH-110（ESPEC）	1台	[その他]		
オートクレーブ	LBS-245（トミー精工）	1台	品名	型番（メーカー）	数量
ポータブルクリーンベンチ	APC4 型（iuchi）	1台	水中撮影写真機材	（ニコン / アンティス）	1式
乾熱滅菌器	DS-450（iuchi）	1台	骨格標本作成槽		1式
サーマルサイクラー	TC-96GhA（日本ジェネティクス）	1台	大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
ドラフト	（ダルトン）	1台	携帯型 GPS	FG-0210（エンベックス）	3台
			大型体重計	TRU・TEST SR2000（フジヤ商会）	1式

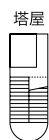
5.3. 面積表

[エントランススペース]			[収蔵スペース]		
室名		面積 (㎡)	室名		面積 (㎡)
エントランスホール		782	収蔵庫 1		1,260
	(救護室)	(15)	収蔵庫 2		77
	(幼児室)	(13)	液浸標本収蔵庫		96
	(ミュージアムショップ)	(26)	小計		1,433
	(ともしびショップ)	(35)			
	(ロッカー室)	(17)	[管理スペース]		
レストラン		202	室名		面積 (㎡)
小計		984	館長室		47
			第 1 会議室		42
			第 2 会議室		42
[展示スペース]			管理課事務室		91
室名		面積 (㎡)	企画情報部事務室		83
SEISA ミュージアムシアター		467	ボランティア・友の会事務局室		34
1 階総合展示室		2,348	学習指導員室		49
	(化石ラボラトリー)	(32)	司書室		39
3 階総合展示室		1,245	電話交換室		13
	(CPU ルーム)	(93)	更衣室		13
ジャンボブック展示室		581	警備員室		29
	(ジャンボブック編集室)	(45)	(簡易宿泊室)		(14)
特別展示室		434	湯沸室		11
	(準備室 1)	(74)	総合案内員室		24
	(準備室 2)	(44)	中央監視室		29
小計		5,075	機械室・電気室等		1,824
[学習スペース]			倉庫		119
室名		面積 (㎡)	トイレ		332
講義室		306	搬入口スペース		70
	(講師控室)	(16)	その他(廊下・階段等)		2,166
実習実験室		139	小計		5,057
ミュージアムライブラリー		302			
書庫		120	[地下駐車場]		
小計		867	室名		面積 (㎡)
[研究スペース]			地下駐車場		4,800.14
室名		面積 (㎡)	(清掃作業室)		(32)
学芸員室		246	(トイレ)		(59)
共同研究室		39	(機械室)		(34)
試料分析室		74	小計		4,800.14
化学分析室		44			
	(化学天秤室)	(5)	カッコ内の数字は内数		
クリーンルーム (1)		12			
クリーンルーム (2)		8	本館延床面積		19,020.14 (㎡)
標本製作室		173			
燻蒸室		11	連絡橋 EV 棟		43.86 (㎡)
乾燥室		9			
昆虫標本製作室		17			
冷凍乾燥室		39	総延床面積		19,064.00 (㎡)
大型標本製作室		72			
液浸標本製作室		13			
液浸標本準備室		13			
写真室		18			
暗室		16			
小計		804			

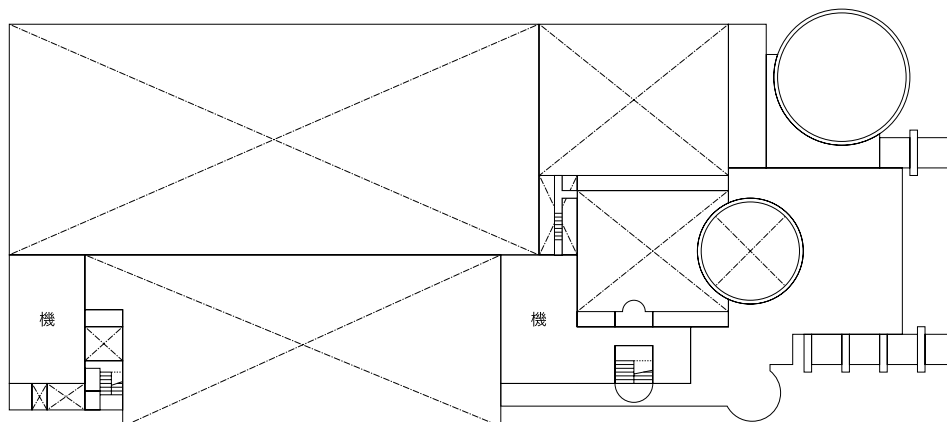
5.4. 平面図



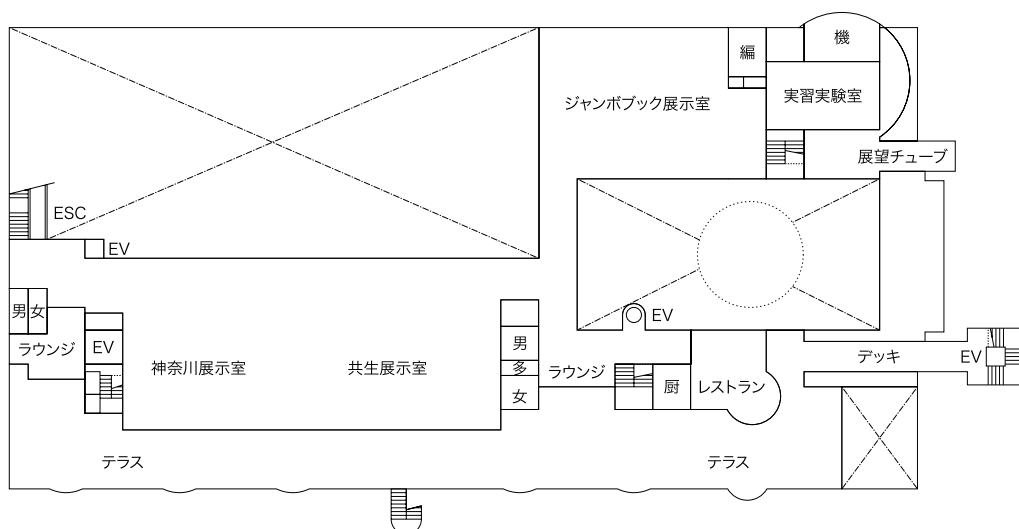
1:1,000 (図中の 1cm が 10m)



4F

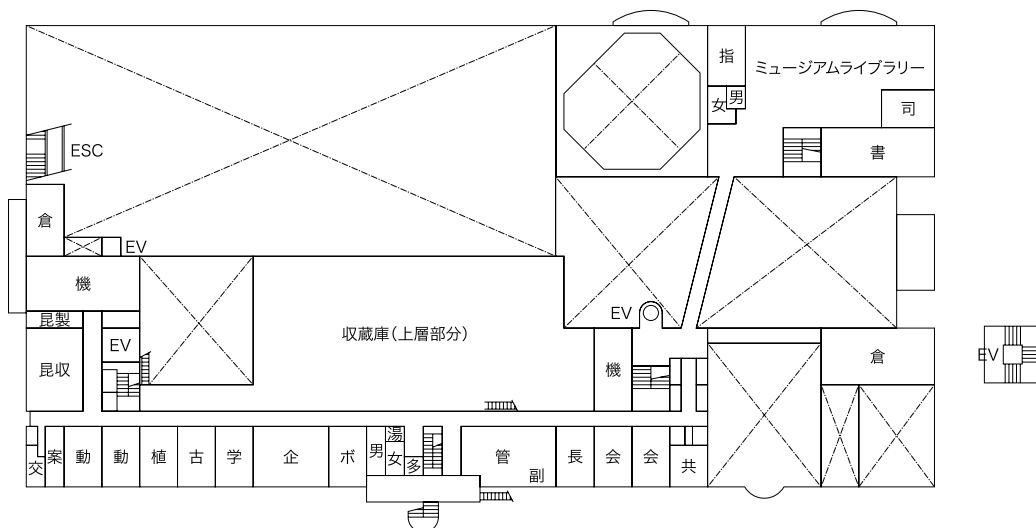


3F



2F

61,000 (mm)

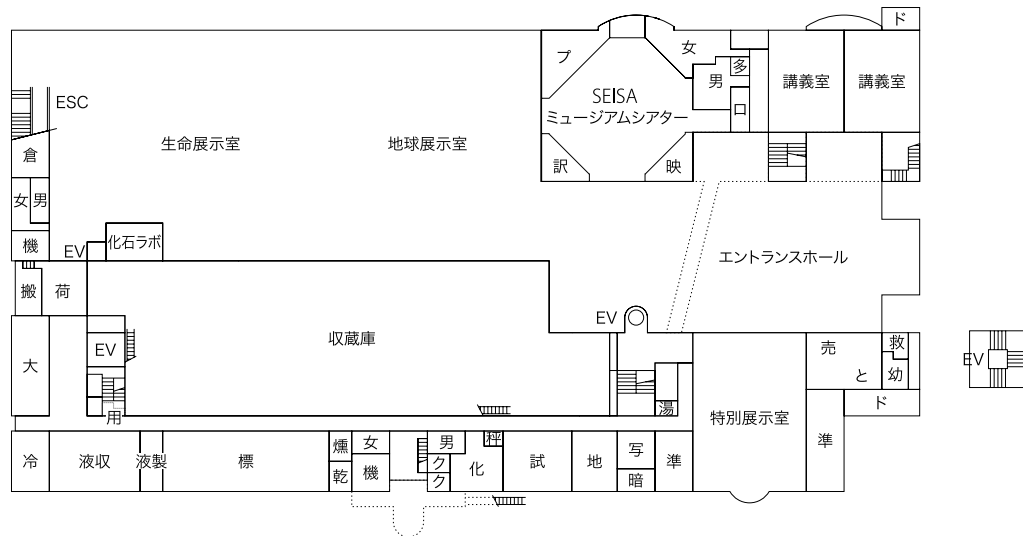


121,000 (mm)

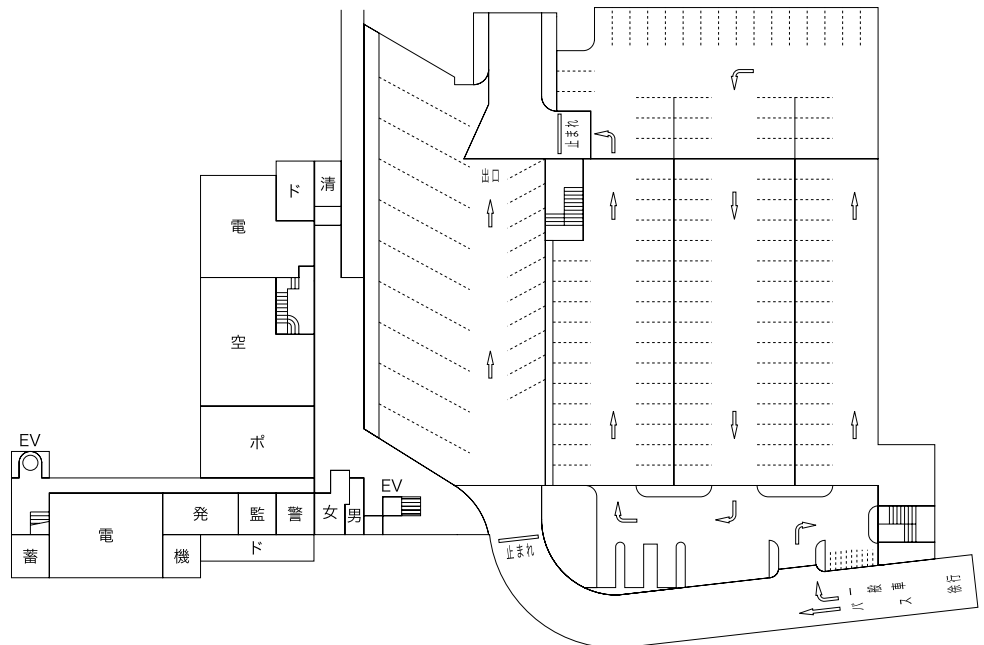


1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)

1F



BF



略字	フロア	室名
機	4 3 2 1 B	機械室
EV	3 2 1 B	エレベーター
男	3 2 1 B	男性トイレ
女	3 2 1 B	女性トイレ
ESC	3 2 1	エスカレーター
多	3 2 1	多目的トイレ
編	3	ジャンボブック編集室
厨	3	厨房
湯	2 1	給湯室
倉	2 1	倉庫
長	2	館長室
副	2	副館長
管	2	管理課
企	2	企画情報部室
学	2	学芸部長室
動	2	学芸部(動物)研究室
植	2	学芸部(植物)研究室
古	2	学芸部(古生物・博物館学)研究室
司	2	司書室
指	2	学習指導員室
案	2	総合案内員室
ボ	2	ボランティア・友の会事務局室
交	2	電話交換室

略字	フロア	室名
会	2	会議室
共	2	共同研究室
昆収	2	昆虫標本収蔵庫
書	2	書庫
昆製	2	昆虫標本製作室
ド	1 B	ドライエリア
地	1	学芸部(地球環境)研究室
売	1	ミュージアムショップ
と	1	ともしびショップ
救	1	救護室
幼	1	幼児室
ブ	1	プロジェクター室
訳	1	通訳室
映	1	映写室
ロ	1	ロッカー室
液収	1	液浸標本収蔵庫
搬	1	搬入口
荷	1	荷解室
大	1	大型標本製作室
標	1	標本製作室
液製	1	液浸標本製作室
冷	1	冷凍乾燥室
燻	1	燻蒸室

略字	フロア	室名
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	B	ポンプ室

ご利用案内

開館時間

9:00 ～ 16:30（入館は 16:00 までです。）

休館日

月曜日（祝日・振替休日にあたる場合は翌平日休館。また、夏季（7 月 19 日～ 8 月 31 日まで）は毎日開館します。）
館内設備点検の日（毎月の第 2 火曜日。ただし 1 月、2 月については毎火曜日）
年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

観覧料

下記表のとおりです。
このほかに、別途料金が必要な特別展を開催することがあります。

区分	個人	団体（20 人以上）
20 歳以上（学生を除く）	520 円	410 円
20 歳未満・学生	300 円	200 円
高校生・65 歳以上	100 円	
中学生以下	無料	

20 歳以上は平成 26 年 4 月 1 日より料金改正

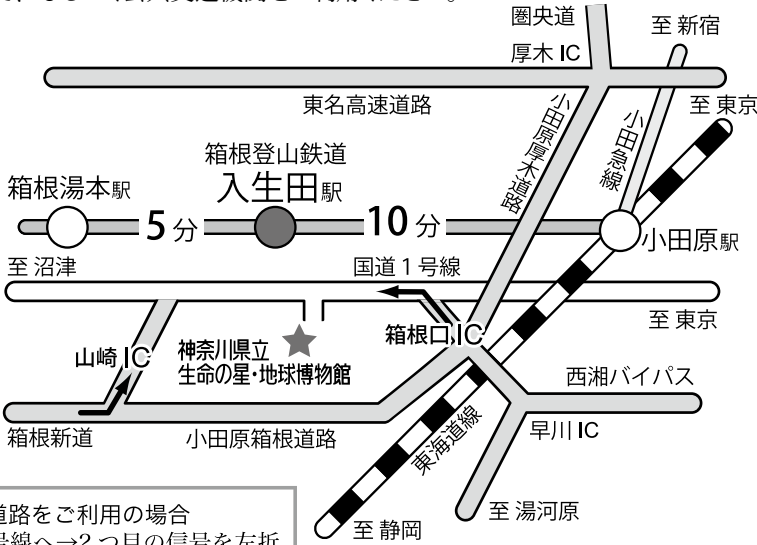
SEISAミュージアムシアター

定時間帯に、ハイビジョン映像番組 3 タイトルと観客参加型のインタラクティブクイズ映像を上映しています。

タイトル	通常期		春休み・夏休み・ゴールデンウィーク期間		
	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 3 回
生命の星・地球 奇跡の旅立ち	9:30 ～ 9:45	14:00 ～ 14:15	9:30 ～ 9:45	14:30 ～ 14:45	—
生命の星・地球 生命の輪舞	10:00 ～ 10:15	14:30 ～ 14:45	10:00 ～ 10:15	15:00 ～ 15:15	—
躍動する大地 花あふれる火の山 箱根	10:30 ～ 10:50	15:00 ～ 15:20	10:30 ～ 10:50	15:30 ～ 15:50	—
インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	11:30 ～ 11:50	13:00 ～ 13:20	11:30 ～ 11:50	12:30 ～ 12:50	13:30 ～ 13:50

交通

駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



西湘バイパス・小田原厚木道路をご利用の場合
箱根口インターで国道 1 号線へ→2 つ目の信号を左折
箱根新道をご利用の場合
山崎インターで国道 1 号線へ→3 つ目の信号を右折

神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第 20 号（2014 年度）

発行日	2015 年 11 月 20 日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 平田大二 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846 http://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	(株) あしがら印刷

編集担当 星野 進（管理課）・笠間友博（企画情報部）・山下浩之（学芸部）

Web版では8ページの「職員名簿」・42～49ページの「寄贈資料」について
氏名を一部省略しています